

祕

九	一	一	才
函	架	冊	類

交戰諸國戰後ノ兵制問題ノ概観

供覧



臨時軍事調査委員

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-6
	① 2151

大正十年四月一日陸軍省印刷

2152

(其一)

一 交戦國軍部ノ戰後ノ施設ニ關スル主張ハ或ハ政策、或ハ國家並社會ノ要求ニ掣肘ヲ受ケ其ノ貫徹ヲ見ルコト能ハスシテ此等要求ニ追隨シツアルカ如シ

我力帝國軍ハ建軍ノ主義及野戰軍ノ素質ニ對スル期待上「軍備縮小」「在營年ノ短縮」「服役年ノ延長」「軍需ノ削減」等ノ四點ヲ以テ同僚ノハ行

何國、以上各戶附片

要	（一）社會主義の見 力ノ道具ナルヲ以 守勢の戰爭ヲ目的 ナル佛國ノ國是上 當ナラス （二）軍事上ノ見地 以テモハ現制長期 營制ハ其ノ必要ナ ノミナス該制度 ルカ爲國民ハ準備 ナ輕條シ在營兵ヲ 重テ爲國民皆兵ヲ 義ヲ破壞スルヲ以 之ヲ廢止ス ト云フニヤ	戰	戰戰シヨウレハ兵ハ 略の戰爭ハ即惡トシテ 排除シタルモ守勢の 爭ハ其ノ必要ヲ認メ 危儀ニ當リテハ勞勩 級モ舉ケテ國難ニ列ス 寛裕アルヲ提言スル 戰後社會黨ノ意見ハ 大觀ニハ國際紛亂ノ ハ將來國際の戰爭ノ終 ナ期待シ得ヘキ事 リ是レ兩說ノ戰前ヨリ 後ニ互ル「戰爭觀」ノ ナリ	形而 育	兵卒力其ノ武器ヲ天性 出スル如ク使用シ得 ハ數箇月ヲ以テ足 兵營教育ヲ以テ戰場 ケル戰士ノ死生問題 決セム戰士ハ不可得 リ各戰場ノ危儀ニ當 ハ二重人格ヲ生スル テ意識ノ自由ナル戰 臨テ確實ノ死ニ面セ ルコトハ軍事教育ノ スル所ニヤ 此等ノ問題ハ一正 爲ニハ死ヲ辭セザル ヲ戰士ノ自覺、激昂 勇氣ニ依テノ解決 兵軍事教育ハ何等大 權威ヲ有セザルモノ	形而 育	上而	教	育
----------	--	----------	--	-----------------	---	-----------------	-----------	----------	----------

教育上ヨリ見タル兵役問題ノ梗概 (其二)

一般觀察

- 一 歐洲戰ニ現ハレタル粗兵ノ戰績及用途ニ鑑ミ益軍ノ精銳ヲ要求ス(左表參照)
- 二 科學ノ進歩ト共ニ物質上ノ威力向上セラレ既往ノ戰役ニ比シ兵數ノ價值重視セララルニ至レルモ軍ノ素質ハ數ノ不備ヲ補ヒ勝敗ノ運命カ必スシモ兵數ニ關セサルハ不磨ノ原則ニシテ頻次ノ會戰之ヲ立證ス
- 三 帝國ハ兵員資源ニ就テハ豐富ナルモ國軍ノ兵力ハ馬匹及軍需諸資源ノ爲著シク掣肘セラレ國防上所望ノ兵數ヲ舉クルコト困難ナル狀態ニ在リ從テ數ノ不足ヲ補フニ實力ヲ以テセムカ爲努メテ精兵主義ニ據ラサルヘカラス
- 四 平時ニ於ケル準備力這次戰ニ及ホセル影響ニ關シテハ戰役ノ經過ニ徴シ歷然タリ殊ニ歐洲戰ノ如キ曠日對峙戰ヒツツ兵ヲ練ルカ如キ漸久ノ戰況ハ帝國ノ國情上努メテ之ヲ避ケサルヘカラサルヲ以テ平時ヨリ練成セラレタル精銳ナル國軍ヲ以テ速ニ戰ニ決ヲ求メサルヘカラス
- 五 列國軍ノ戰時教育ト雖吾人ノ推想セル如ク短少ナルモノニアラサルノミナラス其ノ教育ハ平時ニ於テ企及スル能ハサル特長ヲ有シ而モ之カ目的トスル所ハ補備員トシテ焦眉ノ急ニ應セムトスルニアリ之ヲ在役間十數年ノ久シキニ互リ堅實ナル精神ト軍事能力ヲ徹底保持シ以テ野戰軍ノ其幹員タル者ヲ養成セムトスル平時教育トハ日ヲ同フシテ論スル能ハス
- 六 軍用技術ノ進歩、戰闘手段ノ改廢ハ形而上及形而下ニ於ケル軍隊ノ訓練ヲ繁多ナラシメ國民ノ思潮ハ日ニ軍部ノ要求ト疎隔セムトス軍隊教育ハ益其ノ内容ノ充實ヲ期セサルヘカラス
- 七 兵役問題決定ノ要素タルヘキ國軍練成ノ主義並教育上ノ觀察ニ關シテハ叙上ノ如クニシテ訓練上ノ重要素タルヘキ在營期間ヲ短縮セムトスルカ如キハ全ク軍事上ノ要求ト背馳セルモノト謂ハサルヘカラス

列國急造軍ノ編成及戰績時教育期						
國別	英	米	佛	伊	露	獨
急造軍編成ノ概況(附表第一、第二參照)	開戰當初内地ニ在リシ正規軍六師團ヲ佛、自戰場ニ送リタルニ過ズ戰後海外ニ在リシ正規軍ヲ招致シ或ハ本來内地守備ヲ目的トセル地方軍ヲ外征ニ使用シ一力大規模ナル新軍ヲ編成ニ著セルモ平時ニ於ケル不備殊ニ教育訓練缺乏ヲ爲容易ニ整備スルニ至ラス千九百十六年ニ入リ漸ク新軍三十師團ヲ編成テ完結シテ概ネ所期ノ兵力ヲ得タリ	參戰ノ前年制定セル五年計畫ノ軍備擴張案(正規軍十萬ナニ十萬ニ兵員十二萬四千二百增加)ヲ千九百十七年四月戰事參加ト共ニ直ニ實施スルコトセルノミナラズ戰時兵員制度ヲ採用シ百萬ノ軍隊ヲ編成セムトシ前年ニ於テ之ヲ徵集シ更ニ大統領ニ無制限ノ兵員徵集權ヲ附與シ其ノ兵力ヲ増加シ戰時間ニ於ケル召集員三百七十萬ニ達ス	開戰時ニ於ケル兵力ハ總計七十一師團ニシテ之ヲ平時ノ五十師團ニ比スルモ概ネ一倍中ニ過キ戰時兵力ノ擴張率兩倍強ニ比シ最終ク戰役間野戰部隊トシテ新設ナルモノノ開戰後一年間ニ步兵兩師團二十一、機步兵大隊八、同第二年度ニ於テ機步兵兩師團若千ニ過キ之ヲ既設戰時單位中ニ編入セリ	參戰ニ際シ三十八師團ヲ編成シ平時兵力二十五師團ニ對シ約一倍半ノ増加ナル戰時大國隊ヲ新設シ最大兵力ニ達セル時期ニ於テハ常備國隊ノ約三倍中ニ達シトセリ	開戰ニ際シ機步兵及新募兵ヲ以テ四十箇ノ機步兵團ヲ編成シ機步兵團又ハ野戰軍團ノ一部トシテ千九百十五年七月國民兵ヲ募集シテ機步兵團三十六又其ノ翌年二月迄ニハ同十箇ヲ編成ス	開戰前千九百十四年九月第一次機步兵團又翌年二月ニハ同四箇軍團ヲ編成ス 其ノ他補充隊ヲ改組シテ戰時部隊トシ或ハ機步兵團、國民部隊等ヲ増設セリ
急造軍ノ戰績	「ガリボリ」半島ニ於ケル英軍ノ作戰ノ失敗ハ其ノ不備制ヲ表明シ又新軍大部ノ編成完結後行ハレタル「ソム」會戰ハ砲擊戰能主義ニ傾キ攻擊戰力ノ不備ヲ窺フニ足ルヘシ戰事末期ニ於ケル獨軍數次ノ攻勢ニ對シ戰線破綻ノ因由スル所ヲ稽ヘ敵ノ弱點ニ乘セムトスル獨軍ノ作戰ニ想ヲ致ストキハ此ノ時期ニ於ケル訓練ノ程度モ亦推知スルニ難カラズ	參戰後ニ於ケル徵集員及之カ戰場ニ送致セラレタル數ハ甚多多數ニ上ルモ實際戰況ニ參照セバ極メテ少シ戰後約半減ニシテ千九百十七年十月ニ大降ヲ「ルネビー」ル「正面」ニ使用セルモ見事失敗ニ歸シ翌年一月中旬ニ至リ漸ク混亂ニ放散ナリ佛軍戰線ノ一部ヲ擔任セシメ爾後逐次其ノ兵力ヲ増加シテ英、佛軍ノ開放ナル正面ニ挿入セルモ戰事終局ノ時期ニ於テ尙十三師團ヲ算スルノミニシテ實戰ノ成果ニ就テモ見ルヘキモノナシ	編制上記ノ如クニシテ急造軍ノミノ戰績トシテ特ニ認ムヘキモノナシ	前年十一月間三互リ優勢ナル兵力ヲ以テスル「イソンソ」河時ノ攻勢ニ於テ局勢爭奪ノ外徹底的戰果ヲ齎ラサリシニ雖スルモ其ノ攻勢力ヲ察知シ得ヘク千九百十六年五月機軍「トレンチ」方面ニ對スル攻勢又千九百十七年晚秋「イソンソ」河時ノ會戰ニ於ケル敗戦ノ如キ其ノ素質ノ一斑ヲ知ルヘシ	急造軍ノ多數ヲ有スル露軍ノ戰力ハ東方戰場ニ於ケル一般ノ戰績ニテ證シテ餘アリト雖就中其ノ敗因ノ多クカ新募兵進ノ兵團ニ端サセラルハ注目ニ値スル所トス	機軍ノ素質力露軍ニ比スルモ尙遜色アルハ一般ノ戰果ニ鑑ミ否定スル能ハサル所ニシテ攻守兩勢共ニ獨軍幹部ノ指導及團隊ノ援助ニ依リ漸ク其ノ作戰ヲ補強セルノ感アリ
戰時教育	各兵科新兵教育期ヲ三箇月トシ後更ニ三箇月間教育シ合計六箇月ヲ教育完成期トセルモ實際ニ於テハ國內ニ於ケル九箇月ノ教育ヲ終了セサル部隊ハ戰線ニ出動セシメタルコトナリ新募軍力確定ノ編成終ルハ實ニ開戰後一年有半ナリ	新募兵ノ教育期ハ六箇月トセルモ實際ノ結果ニ就テ見ルカ如ク出征迄ニハ多大ノ日子ヲ費シ且佛國戰場到着後モ尙ク二箇月ノ戰地教育ヲ行ヒ次テ開放ナル正面ニ使用スル等參戰後其ノ大部ヲ訓練ノ爲ニ消費セルノ觀アリ	戰事初期ニ於テハ損耗ノ關係上補充兵ノ教育期ハ三、四箇月ニ過キサルモノアリシカ漸次之ヲ延長シテ最少限五箇月トシ殊ニ戰地教育ニ多大ノ力ヲ用ウルニ至リ其ノ長キハ七箇月ニ至レルモノアリ	補充ノ逼迫セル場合ニ於テハ二、三週間乃至八週間教育ノ後戰地ニ送レルモノアルモ情況ニテ許スニ至リ殊ニ滯陣ニ際シテハ六箇月以上ノ教育ヲ行ヒタルコト屬ナリ	開戰當初ニ於テハ八週間内外トセルモ其ノ不成熟ニ鑑ミ千九百十五年中期以後ニ於テハ六箇月教育ヲ受クルニアリサレハ戰地ニ送ラサルヲ常則トシ戰地ニ於テ更ニ八週間ノ教育ヲ施セリ	時期ニ依リ不定ナルモ内地補充隊ニ於テ約二箇月戰地補充隊ニ於テ一箇月計三箇月ヲ以テ基準トス

交戦諸國戰後ノ兵制問題ノ概観

目次

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題	一頁
緒言	一
第一章 總説	一
第二章 兵制改革ノ起因事項	二
第一節 要領	二
第二節 國際聯盟	三
第三節 財政及經濟	六
第四節 戰爭ノ犠牲者	二〇
第五節 勞働問題	二三
第三章 軍備	二八
第一節 要領	二八
第二節 佛國	二九
目次	

第三節 米國	四〇
第四節 英國	四六
第五節 伊國	五六
第四章 在營並服役年限	六四
第一節 要領	六四
第二節 佛國	六四
第三節 伊國	七八
第四節 米、英國並其ノ他ノ諸國	八三
第五章 服役年限問題	八七
第一節 要領	八七
第二節 佛國	八八
第三節 米國	九八
第四節 英國並其ノ他ノ諸國	一〇一
第六章 英、米兩國ノ徵兵問題	一〇二
第一節 要領	一〇二

第二節 米ノ國	一〇三
第三節 英國	一一五
第七章 佛國ノ民兵制度問題	一三三
第一節 要領	一三三
第二節 社會主義的見地ヨリ民兵制度ノ主張	一三四
第三節 軍事上ノ見地ヨリ民兵制度ノ主張	一四〇
第四節 社會主義的戰爭觀	一五五
第五節 法律案ノ要旨	一六二
結 言	一七一
第二編 教育上ヨリ觀察セル兵制問題	一八一
緒 言	一八一
第一章 歐洲戰ニ現ハレタル粗兵ノ價值	一八一
第一節 急造軍ノ戰績	一八二
第二節 急造軍ノ用途	一八八
第二章 精兵主義乎多兵主義乎	一九一

第一節 兩主義ノ意義	一九一
第二節 戰闘ノ勝敗ト國軍ノ兵數及素質	一九三
第三節 作戰ノ時期ト兩主義	一九七
第四節 帝國ノ國情ト兩主義	一九九
第三章 平時ニ於ケル國軍ノ練成	二〇一
第一節 平時ニ於ケル準備力道次戰ニ及ホセル影響	二〇一
第二節 戰爭準備ト國軍練成ノ目的	二〇六
第四章 平戰時ニ於ケル軍隊教育期	二〇八
第一節 列國軍ニ於ケル戰時教育期	二〇八
第二節 戰時教育ノ特長	二一〇
第三節 戰時教育ノ缺陷ト平時教育	二一一
第五章 在營期間ニ對スル教育上ノ觀察	二一二
第一節 軍事ノ進歩ト教育ノ困難	二一二
第二節 教育上ノ見地ヨリスル現役短縮問題	二一六
結 言	二二一

交戰諸國戰後ノ兵制問題ノ概觀

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

緒 言

大戰後ニ於ケル各國軍ノ兵制問題ヲ概觀スルニ彼ノ「獨佛戰」及「日露戰爭」後ハ交戰國共ニ精兵又ハ多兵主義ヲ以テ各國軍ノ諸施設ヲ實施シタルニ拘ラス這次ノ大戰ハ其ノ特異ノ事由ニ依リ以上ノモノトハ大ニ趣ヲ異ニスル諸問題ヲ擡頭セシメタリ即チ伊國ニ於ケル軍備縮小及在營年限ノ短縮實行ノ如キ或ハ佛國內ニ於ケル同問題ノ論議盛ナルカ如キ或ハ英、米兩國ノ徵兵制度ノ撤廢或ハ佛國內ニ於ケル民兵制度建議案ノ如キ是ナリ而シテ此等諸問題ヲ觀察スル爲ニハ廣ク各方面ニ互リ審查考究ヲ要スヘキモノナルモ材料ノ關係上主トシテ軍事の管見ヲ以テ觀察ヲ行ヒタリ尙歐米諸國ニ於ケル戰後ノ該問題ノ大勢ニ照シ我カ帝國軍ノ採ルヘキ途ニ就キテハ結言中ニ其ノ大綱ヲ所論セリ

第一章 總 說

本大戰カ交戰諸國ニ與ヘタル有形上ノ慘禍即チ巨額ノ戰費、産業ノ減衰及多數壯齡者ノ犠牲等ト無形上ノ影響即チ國民思想ノ變遷、勞働運動ノ赤化等トハ相關聯シテ戰後ノ兵制改革ニ當リ或ハ軍備問題或ハ

在營年限ノ短縮或ハ服役年限問題或ハ徵兵制度ノ撤廢等ノ諸問題ヲ擡頭セシムルニ至レリ而シテ各國ニ於ケル此等諸問題ノ解決及論議ノ成果並事實ニ徵セハ既往ニ於テ一國兵制ノ根基ト緊密不可離ノ關係ニアリト認メラレタル財政、國民教育等ノ基因事項ノ範圍ハ大戰後著シク擴充セラレ國家並社會政策ヲ深ク顧ミルコトナクシテハ兵制問題ヲ論議シ得サルコトナリ隨テ軍部ノ要求ト爾他方面ノ必要トハ往々ニシテ相扞格ヲ生スルニ至リタルハ蓋シ已ムヲ得サル所ニシテ戰後各國兵制問題ノ論議ニ當リ此ノ色彩ノ極メテ濃厚ナルモノアルヲ窺知セラル而シテ斯ノ如キ難局ノ救済策トシテハ各國ノ戰後ニ於ケル新國家樹立ノ爲ノ施政方針及政體並國民性等ニ依リ固ヨリ區々ナルモ之ヲ英國ニ於ケル徵兵制度ノ撤廢、米國ニ於ケル軍備縮小、佛國ニ於ケル在營年限ノ短縮問題等ニ徵セハ軍部ノ信條モ之ヲ貫徹セシムルコト能ハスシテ該國策ニ讓歩シツツアルヤノ感アリ是レ吾人カ將來此等諸國ノ兵制問題並我カ國ノモノヲ考究スルニ當リ忘ルヘカラサルノ一要點ナリト認ム

第二章 兵制改革ノ起因事項

第一節 要領

本大戰カ齎セル(一)巨額ノ戰費(二)長期ニ亙ル產業ノ減衰(三)生産並勞働力ノ根源タル多數壯齡者ノ犠牲等ハ相關聯シテ戰後ニ至ルモノ物價ノ狂騰ヲ續ケ延テ國民思想ノ變遷及勞働運動ノ赤化ヲ來シ或ハ國民ノ多數ハ納稅負擔ノ過重ニ苦ミ或ハ緊縮主義ノ國策ヲ樹立スルニアラスムハ國家ヲ破産ヨリ救匡シ得サル等要

スルニ戰後ニ於ケル新國家ノ興隆ヲ期スルコトハ今尙前途遼遠ナルモノト概觀セラル然ルニ斯ノ如キ戰後ノ大勢ニ對シ大戰ノ一產物タル國際聯盟ノ權威ハ尙之ヲ將來ニ囑望セサルヘカラサルノ現況ナルヲ以テ戰後ノ兵制問題ハ既往ニ比シ一段ト國家並社會政策ト緊密不可離ノ關係ニ立ツニ至リ茲ニ盛ナル論議ヲ見ルニ至レリ以下戰後ノ兵制改革問題ノ起因事項トモ認ムヘキ次記事項ニ關シ其ノ梗概ヲ說述セムトス

一 國際聯盟

二 財政及經濟

三 戰爭ノ犠牲者

四 勞働問題

第二節 國際聯盟

本大戰ノ一產物タル國際聯盟ノ權威ハ之ヲ概言セハ一ハ該聯盟ニ依リ世界列國ハ一團ト爲リ共同一致ノ力ニ依リ世界永遠ノ平和ヲ期待シ得ヘシト爲ス思想ト他ハ國際聯盟ナルモノハ本大戰ノ慘禍ニ戰慄シ遠ニ永久ノ平和ヲ熱望スルノ餘リ盲目的ニ亢奮セル時代ニ於ケル一產物ニ過キスシテ這次聯盟會議ノ成果ハ此ノ間ノ經緯ヲ窺知スルニ足ルヘク(國際聯盟會議ニ於ケル各委員ハ一國內ノ政治的諸要素ヲ洩レナク代表シタルモノナリ即チ政黨黨ト共ニ在野黨ト共ニ代表セラル國家主義者ト共ニ世界主義者カ共ニ同一ノ國家ヲ代表シ實際派ト共ニ理想派カ同)最近ニ於ケル一般國民ノ國際心理ハ戰後ニ於ケル前記國際的思想勃興ノ反動トシテ勁烈ナル戰前ノ國家主義ニ還元セムトスルノ形勢漸ク濃厚ナリト說論シ次記ノ事實問題ヲ提

國際聯盟ノ權威ニ關スル兩説

擧ス

露波問題、佛、白兩國ノ防禦同盟の軍事協定、「チエック、スロバキヤ」、南「スラブ」及「ルーマニヤ」間ノ小國聯合問題、英、佛兩國間ニ於ケル對外政策ノ確執（對獨、露波希臘問題等）、米國ノ國際聯盟ノ不參加、希臘前帝ノ復位問題

以上兩説ノ批判ハ別箇ノ研究ニ譲リ茲ニハ國際聯盟ノ權威ニ關スル見解ノ差異カ延テ一國ノ軍備縮小或ハ軍備ノ充實ヲ決定論議スルノ一事由ヲ形成スルモノナルコトヲ述ヘ戰後ニ於ケル各國軍備問題觀察上ノ一資料ニ供セムトス

「註」一 國際聯盟ニ對スル米國大統領ノ意見 「ハーチング」氏ハ國際聯盟ニ對シ反對ヲ表スル國內

一部人士ノ意見タル「國際聯盟規約第十條ハ國際平和ヲ無窮ニ保全スル如キ基礎ノ上ニ立タスシテ寧ロ聯盟國以外ノ國ヲ壓倒スル如キ恐れヘキ權力ノ主張タルモノト認ム隨テ本規約ニ依リ眞ニ國際間ノ正義ノ主張及平和ヲ保證セムトスルカ如キハ一ノ空論ナリ」ニ同意ヲ表シ次ノ如キ意見ヲ抱擁スルモノト傳ヘラル

國際聯盟規約ハ米國憲法ニ違反スルモノナルヲ以テ寧ロ「國際聯合」ノ組織ヲ得策ト認ム是レ本案ハ米國憲法ノ精神ニ合致シ永遠ノ平和ヲ期待シ得ルノ希望大ナレハナリ元來米國及米國人ノ有スル正義及博愛ノ觀念ハ必スシモ他國人ノ有スル觀念ト一致スルモノニハアラ

サルノミナラス世界各國民カ此等ニ關スル思想亦區々ナルヘキカ故ニ彼此ヲ同一視シテ事ヲ規定セムトスルハ愚ナルモノト謂ハサルヘカラス云々

二 國際聯盟ニ對スル濠洲聯邦總理大臣「ヒューズ」氏ノ意見 國際聯盟ハ人類ノ發明ニ係リ兵力ニ訴ヘスシテ道理ニ訴フルノ機關ニシテ侵略ノ豫防ニ對シ崇高ナル理想ヲ提唱シ各國ノ加盟ニ依リ世界永遠ノ平和ヲ期待スルモ尙未タ其ノ端緒ニシテ平和的精神ノ發達ニ俟タサルヘカラス各加盟國ハ相互ニ政治的獨立ヲ尊重シ其ノ侵犯ハ各國民ニ依リ戰爭行爲ト看做サルルコトハ國際聯盟ノ基本的主義ナリ然ルニ該聯盟ノ存スルニ拘ラス波蘭ハ最近自稱平和ノ使者タル過激派ヨリ蹂躪セラレタリト雖聯盟加入各國ハ兵力ヲ以テ之ヲ援助セサリシカ故ニ同國ハ獨力ニテ防禦シ辛ウシテ其ノ侵略ヲ免カルヲ得タル有様ナリ大陸國ニ接近スル波蘭ニ於テ既ニ然リ地理的隔離セル濠洲ニハ斯ル場合他國ノ援助ヲ期待シ得ヘキヤ而モ複雜ナル國際關係ニハ國際聯盟ノ仲裁ニ委スルヲ得サル諸問題多クアリ即チ海洋ノ自由、「モンロー」主義及白濠主義等はナリ是ニ於テカ我カ濠洲モ英、米兩國ト同様我カ存在ヲ脅威スルモノニ對シ獨立抵抗ノ準備ヲ爲ササルヘカラス云々

國際聯盟規約ハ國際法規ニシテ其ノ有效ヲ期待セハ十分ナル兵力ヲ必要トスヘキニ拘ラス未タ之ニ屬スル國際兵力ナシ國際兵力ハ聯盟各國應分ノ兵力ニ依リ組織セラルヘキモノニシテ

戰後ノ財政
政權ノハ
產物トシ
テ思想シ
テ物價ノ
騰貴及勞
働力ノ
減少ヲ
ヘリ

戰後ノ財政
政權ノハ
產物トシ
テ思想シ
テ物價ノ
騰貴及勞
働力ノ
減少ヲ
ヘリ

此ノ義務ヨリ論スルモ濠洲ハ相當ノ軍備ヲ爲ササルヘカラス云々

第三節 財政及經濟

本大戰ノ爲各國ノ支出セル戰費(千九百十八年末迄)ハ平時歳出ノ約三十箇年分ニ該當シ其ノ財源ハ戰前ニ比シ約七倍ノ紙幣、六倍ノ公債、二倍ノ租稅ヲ以テ捻出シタルモノト概言スルヲ得而シテ此等巨額ノ戰費ハ金融ノ逼迫、紙幣ノ濫發トナリ戰後ノ財政難ヲ惹起シ一方本戰争ノ特性上生シタル長期間ノ産業ノ減衰ト相俟テ茲ニ物價ノ狂騰ヲ激發セシメ國民思想ヲ險惡ニ陷レ延テ勞働運動ヲ惡化シ思想、勞働、社會問題ノ擡頭ヲ見ルニ至レリ以下財政、金融、産業方面ニ互リ一般の觀察ヲ行ハムトス

其一、財政

戰後財政ノ窘迫ハ伊國ヲ第一トシ佛國之ニ亞クト觀察スルモノアルモ畢竟各國共ニ戰後ノ財政問題ニハ苦楚ノ情況ニ在ルモノト判斷セラル例セハ巨額ノ戰費ハ其ノ利子ノミニテ戰前ノ歳出額ヲ超過スルカ如キ又歳入歳出ハ調節ヲ破リテ之カ收支ヲ整理スル爲戰後尙引續キ公債ノ發行及借入金並稅制ノ整理ヲ必要トシ伊國ハ新ニ増稅ヲ計畫シ佛國ハ租稅ノ整理及財產重稅ノ計畫ニ出テムトシ英國ハ新稅源ノ案出ニ焦慮スルカ如キ是ナリ之ヲ要スルニ近時一部ノ識者カ世界財政ハ戰後何等ノ進歩ト光明トヲ認メヌ却テ歩、一步萎靡ノ途上ニ在ルモノト聲明シ過般「ブラッセル」ニ開催セラレタル萬國財政會議ニ望ヲ置カムトスルノ傾向アルハ以テ戰後ニ於ケル財政難ノ證左ト認メ得ヘシ

其ノ戰費ハ七百十九億圓ノ巨額ニ達シ額面七百三十億圓ノ戰費ヲ負フニ至リ其ノ利子ノミニテモ戰前ノ通常歳出ノ二倍以上ニ該當スルカ如シ(平時ノ通常歳出ハ約二十億圓ナリ)而シテ千九百二十年豫算ニ於テハ前年度ノ歳入ノ意ノ如クナラサリシニ鑑ミ歳出ヲ一層節約シタル結果歳出約百五十億、歳入約百二十億圓トナリシモ此ノ歳入ノ不足ニ對スル彌縫策トシテハ依然トシテ短期公債及借入金ニ依ラサルヲ得サリキ而モ一方ニ於テ租稅ハ既ニ殆ト總テノ種類ヲ盡シ稅率ハ極度ニ高上セラレ所得稅ノ追加稅ハ三回増徴シタルノ外各種制定ノ稅ヲ數次ニ互リ増徴シタルヲ以テ今ヤ所得稅源トスル租稅ノ原則ヲ破リ他ノ方法ニ出ツルノ已ムナキニ至ラムトスルノ窮狀ニ在ルカ如シ近時國際聯盟會議ニ於テ發表セラレタル材料トシテ傳ヘラルモノニ依レハ「千九百十三年ニ於ケル國民所得ハ二十二億五千萬磅ニシテ其ノ中ヨリ政府ハ二億磅ノ租稅ヲ徵收シタルニ對シ今日ニ於テハ五十億磅餘ノ所得ヨリ十四億磅以上ノモノヲ徵收ス隨テ戰前國民ノ負擔シタル租稅額ニ比シ今日ニ於テハ18/100ノ増加ヲ來セリ」ト謂フ

昨年未歲相ハ下院ニ於テ本年度ノ豫算編成方針トシテ次ノ如ク聲明セリ之ニ依ルモ該國財政ノ近況ヲ窺知スルニ足ルヘシ

- 一 財政ノ逼迫狀態ニ鑑ミ一般方針トシテ此ノ上國民ノ負擔ヲ增加スヘキ新規ノ施設ヲ控ユルコト
- 二 戰時中特設セル軍需省及船舶省ハ本會計年度限り閉鎖スルコト

- 三 糧食省ハ成ルヘク速ニ廢止シ少クモ來年度ニ於テハ獨立ノ省ト爲ササルコト
- 四 近東又ハ中央亞細亞ニ駐在スル陸軍ヲ事情ノ許ス限リ速ニ撤退シ經費ノ節減ヲ計ルコト
- 五 海軍ニ關シテハ政府ハ英帝國ノ安全ト海上航通ノ確保ヲ得ルニ足ル勢力ヲ維持スルニ決定シ居ルカ新艦製造ハ先ツ以テ大戰ノ教訓ヲ遺憾ナク咀嚼研究シ今後ノ海戰ニ於ケル大艦ノ位置及必要ニ就キ十分ナル攻究ヲ遂ケタル上計畫ヲ立ツルヲ要スルヲ以テ國防委員會ヲシテ直ニ海戰術附近ノ發達ニ伴フ海軍力ノ問題ヲ審議セシメ而シテ其ノ報告提出セラルル迄ハ大艦製造案ハ議會ニ提出セサルコトニ決ス
- 六 空軍行政ニハ最大ノ經費節減ヲ行ヒ而シテ陸海軍ト關聯シ空軍ノ位置及任務ヲ審查スヘキコト以上ノ如キ苦楚ノ下ニ立案セラレタル一般豫算ハ之ヲ戰前(千九百十三年—十四年度)ノモノニ比スレハ實ニ五・三倍ニシテ其ノ關係次ノ如シ

戰 前

戰 後

一、九一五、五六〇、〇〇〇圓

一〇、二五八、一九二、〇〇〇圓

佛 國

佛 國

佛國ノ財政上ノ窮迫ハ英國ニ比シ更ニ甚シキモノナリ其ノ戰費ハ五百六十一億圓ノ巨額ヲ要シ其ノ戰債ハ四百七十億圓(國民一人ニ付約千圓國民所
得ノ一八分ニ該當スト云フ)ニ達シタルヲ以テ其ノ利子ノミニテモ戰前ノ通常歳出約五十億

法ヨリ稍超過スト千九百二十年年度ノ歳出總額ハ四百七十億法ナルヲ以テ戰前ノ通常歳出ニ比較セハ實ニ約十倍ニ該當ス歳入總額ハ獨逸ノ賠償金二百二十億法ヲ含ミ四百二十億法ト豫定シアリシモ該賠償金ヲ受入シ得サリシ爲三百億法ノ缺損トナリシト佛國ハ戰前四百億法ノ對外貸付ヲ有シタルモ其ノ大部分ハ露國ニ投資シアリタルコト及白耳義及希臘並「セルビア」、「モンテネグロ」等ニ對シ戰時中百二十億法ノ財政援助ヲ與ヘタルモ此等ハ其ノ元本ノ償還ハ勿論其ノ利子モ之ヲ得ルコト困難ナルノ情況トナレリ加之財政恢復ノ基礎トナルヘキ重要工業地ハ敵國ニ破壊セラレテ其ノ回復容易ナラヌ一面戰時中ノ戰費ノ一部ニ充用スル爲各種ノ増稅増率ヲ行ヒ公債ノ大部ハ佛蘭西銀行ノ紙幣増發ニ依ル一時的ノ借入金ニ依リタル等ノ關係ヨリ戰後ノ財政的苦痛ハ實ニ大ナルモノアリト謂フ

藏相「マルサール」氏カ財政及經濟上ノ救済策トシテ代議院ニ左ノ諸項ヲ提言シタルコトハ此ノ苦境ヲ裏書シタルモノト謂フヲ得ヘシ

- (一) 此ノ上外債ヲ起ササルコト
- (二) 尙巨額ノ内債ヲ發行スルノ外ナキコト
- (三) 不急ノ輸入ヲ嚴ニ制限スルコト
- (四) 國民生産及輸出ノ大獎勵ヲ行フコト
- (五) 租稅ノ整理及財産重稅ヲ企圖スルコト

因ニ佛國ノ千九百二十一年度ノ一般豫算ヲ戰前(千九百十三年度)ノモノニ比較スレハ約三・一倍ノ増加
ニシテ其ノ關係次ノ如シ

戰 前

一、七二九、九八五、八二三

戰 後

五、四二三、四七六、九二三

佛國全權公使カ「ブラッセル」國際財政會議ニ於テ説明シタルモノノ一節ニ依レハ佛國民ノ負擔シアル金
高ハ現今ニ至ルマテ何レノ國ニ於テ決定セラレタルモノヨリモ多額ニシテ國民所得ノ四〇%ヲ負擔スト
謂フ

近時佛國「マダン」紙上ニ發表セラレタルモノニ依レハ兵役短縮問題論議ノ一面ニハ財政上ノ問題ノ伏在
スルコトハ明瞭ニシテ試ニ所説ノ一節ヲ掲記セハ次ノ如シ

兵役短縮政策ニ關シテハ更ニ他ノ喫緊ナル財政上ノ理由アリ上下兩院ノ財政委員會ハ大藏大臣ニ向ヒ
經費ノ削減ヲ要求シ爲ニ三十億法ノ削減ヲ見ルコトナレリ然ルニ該委員會ハ尙之ニ満足セス次ノ如
キ經費節減法ヲ提議セリ即チ普通ノ經費ハ普通ノ税金ヲ以テ之ヲ仕拂ハサルヘカラス獨逸ノ納稅者ヨ
リモ二倍ノ税金ヲ納メ居レル佛國ノ納稅者ハ一層ノ高稅ヲ仕拂フ能ハス廢兵、寡婦、孤兒等ニ對スル
年金及荒廢地復舊ノ如キ臨時費ハ獨逸カ講和條約ヲ履行スルマテ國債ヲ以テ之ヲ仕拂フヘシ云々ト述
ヘ「佛國ハ人ト金ニ於テ甚シク貧寒トナリタル爲些少ナリト雖軍事ト財政當局ノ濫費ハ之ヲ許スコト

ヲ得ス」ト提議セリ

伊 國

伊 國

參戰以來伊國ノ財政ハ著シク膨脹シ歳入ハ遠ク歳出ニ伴ハスシテ國債ハ約百億利ノ巨額ニ達セムトス而
シテ戰後物價ノ騰貴益甚シト雖戰後ノ施設ハ歳出ノ縮小ヲ許ササルヲ以テ既ニ戰爭間ニ於テ稅法ヲ改正
シ千九百十八年度ニ於テハ戰前ニ比シ平均三倍ノ收入増加ヲ見タルモ未タ十分ナラスト爲シ千九百十九
年末新ニ増稅ノ方針ヲ立テ戰後ノ財政難ノ負擔ヲ現在ノ納稅者ノミノ負擔トセス爾後三十年間ニ亙リ時
々調査ノ結果ニ依リ將來ノ納稅者ニモ之ヲ負擔セシムルコトトシタルノ外更ニ國債ヲ募集スルノ苦境ニ
在リ

「ニッヂ」第二次内閣成立後三月二十二日下院ニ於テ首相ノ「經費節約ノ必要」並「財政方針」ニ就キ述ヘタ
ル演說ハ伊國ノ財政上ノ窘迫ヲ窺知スル爲一大資料ナリト認メ左ニ其ノ要旨ヲ記述セムトス

(一) 集團ノ利益、國家存在ノ爲總テノ出費ヲ制限セサルヘカラス現今ノ爲替ノ狀態ニ於テ生存及生
産ノ爲必要缺クヘカラサル以外ノ物品ヲ海外ヨリ購入スルハ罪惡ナル有ラユル費澤然リ出費増加ノ
各種ノ要求、活動ノ減少ハ滅亡ノ原因ナリ國民ハ眞相ヲ知悉スルヲ要ス「パン」ノ眞價ト其ノ賣價ト
ノ差ハ毎月四―五億利ニ達ス行政ノ費用ノミニテ戰前ノ總歳出ニ達ス官營ノ工業ハ悉ク大ナル缺損
ヲ生シツツアリ鐵道、郵便、電信、電話ノ爲生スル損耗ハ莫大ナリ今日多少ノ犧牲ヲ行フト明日敗

戰國ノ如キ悲況ニ陥ルトノ二途何レカヲ選擇スルヲ要ス生産政策若ハ消費政策ヲ行フニ從ヒ吾人ハ
向上シ若ハ零落ス歳入ト歳出トノ平衡ハ速ニ之ヲ得ルコト難シ然レトモ大ナル努力ヲ以テ數年間ニ
之ヲ回復セサルヘカラス(以上經費節約ニ關スル演說ノ一節)

(二) 吾人ハ戰爭ノ爲富裕トナリシモノニ特ニ大ナル納稅ヲ要求シ且全國民ニ犧牲ヲ要求シ以テ我カ經
濟上ノ信用ヲ増加セサルヘカラス議會ニ提出セル改正案中ニハ財産増加稅ヲ以テ戰爭富裕者ノ負擔
ヲ大ナラシメ財産額ニ從ヒ稅率ヲ遞加セル財産特別稅ヲ課シ僅少年限ニ之ヲ仕拂ハシメ且所得附加
稅率ヲ修正シテ更ニ歳入ノ増加ヲ圖リ又財産所得等ヲ確認スルノ方法ヲ改良シテ集團體ニ對スル
義務ヲ免ルルコトヲ防止シ收稅上ノ正義ヲ保證スルヲ要セリ
政府ハ外國ヨリ伊國ニ持來セル資本ニハ假令生産ノ目的ヲ有スルモノト雖財產稅ヲ課ササル方針ナ
リ蓋シ新資本ノ入國ヲ容易ナラシメムカ爲ナリ
歳出ヲ許シ得ヘキ範圍ニ減少スルニハ特ニ「バン」ノ價格問題ヲ解決シ陸海軍費ヲ減少シ國家行政及
政府ノ工業ニ要スル費用ヲ節約スルヲ要ス(以上財政方針ニ關スル演說ノ一節)

其二 金融並貨幣

交戰各國共ニ今次大戰ノ初期ニ於テ其ノ戰費支出ノ爲銀行ヨリ借入相亞テ莫大ノ公債ノ發行ニ依リ民間
ノ貯金ヲ吸收シタルヲ以テ第一ノ金融逼迫ヲ來シタルカ其ノ後戰爭ノ永續ニ伴ヒ所要ノ戰費ハ其ノ財源

正貨準備
紙幣減少
發及物價
ノ相騰等
シハ金融
ノ逼迫ヲ
來セリ

ヲ内外債ニ求ムルニ至リシカ軍需品並食糧品ノ爲海外仕拂ノ必要増加シタルノ一方正貨ハ中立國等ニ流
出シタル爲國內ノ正貨準備ノ薄減シタルニモ拘ラス紙幣増發ノ已ムナキニ至リタルコト並生産力ノ激減
等相關聯シテ物價一般ノ狂騰ヲ累スルニ至リ金融ノ逼迫ハ更ニ甚シキヲ加フルニ至レリ以下其ノ關係ノ
概要ヲ記述セムトス

紙幣流通高ノ變化

千九百十四年七月末

千九百十九年十二月末

増加割合

英

七六六百萬圓

四、二六四百萬圓

五倍五〇

佛

二、六七三

一四、五七二

五倍六〇

伊

六九二

四、一七〇

六倍〇四

正貨在高ト紙幣高(之ヲ百トス)トノ比率ノ變化

千九百十四年七月末

千九百十九年末

戰前ノ紙幣高ニ
對スル準備歩合

戰後ノ紙幣高ニ
對スル準備歩合

英

三八一百萬圓

一、一八八百萬圓

五〇

二二・九

佛

一、九〇六

一、四二〇

七二

九・六

伊

四八四

三二四

六九

七・五

其三 産業並貿易

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

鐵	九二
鑄鐵	八一
鋼鐵(鐵ヲ含ム)	六〇
毛織物	八〇
棉花	七〇
綿糸	五〇
麻苧織物	五〇
布巾類、衣服其ノ他	三〇

- (ハ) 勞力ノ一般的缺乏特ニ勞働者ノ多クハ技能劣下シテ戰前ノ能率ニ及ハサルコト
(ニ) 資本ノ缺乏ニ依リ「アルサス、ローレン」ノ鐵產地及「ザアル」ノ炭產地ニ對スル生産ノ實績十分ナ
ラス

英國

英國

英國ハ本大戰ノ實害極メテ徹々タリシト、其ノ人命ノ喪失モ佛國ニ比シ少數ナリシト一方英國ハ其ノ位置ト廣大ナル領土ニ依リ原料食品、正貨、販路等ノ融通恢復ハ容易ナル關係ニアルト特ニ休戰後間モナク公私節約、生産増加及増税ノ大方針ヲ確立シ之ニ依テ國費ノ削減、通貨ノ縮小、輸入ノ抑制、輸出ノ

伊國

伊國

獎勵、紙幣公債ノ整理、物價、爲替ノ調節等ヲ著々實行シ國內ニ於ケル激越ナル勞働運動ニ對スル機宜ノ折衝ニ依リ漸次秩序的ノ産業復興ノ途上ニアルカ如シ

伊國ノ産業ハ農業ヲ主トスルモ自國生産ノ糧食ヲ以テシテハ全國民ヲ養フニ足ラス又商工業ハ鐵ノ缺乏特ニ石炭ノ皆無ナルノ點ハ其ノ發達ヲ阻止スルコト少カラズ之カ爲本大戰ニ當リ專ラ消極的節約ヲ根本主義ト爲シ兩米ヨリ輸入セラレタル小麦ト伊國ニ豊富ナル雜穀、果實等ノ充用ヲ以テ解決シ工業力ノ不振ハ當局ノ銳意努力シタル工業動員ノ權威ヲ以テシ尙國軍ニ必要ナル兵器ヲ整備シ得タルハ實ニ開戰後二箇年ノ後ナリキ要スルニ伊國政府カ貧弱ナル産業ヲ以テ本大戰ヲ遂行シタルノ苦楚ハ之ヲ推知スルニ難カラサルヘシ而シテ戰後ノ産業ハ財政ノ窘迫並赤化セル勞働運動等ト相俟テ其ノ復興ハ前途尙遠達タルモノト觀察セラル首相「ニッヂ」氏並純社會黨領袖「トレブイヌ」氏ノ昨年三月下院ニ於テ行ヒタル演說ハ伊國ノ戰後ニ於ケル産業復興ノ趨向ヲ窺知シ得ヘキモノト認メ其ノ要旨ヲ左ニ記述セムトス

(イ) 首相「ニッヂ」氏演說ノ要旨

生産不足 節約ハ未タ十分ナラス生産ハ更ニ之ヨリ必要ナリ伊國ハ其ノ「パン」ヲ産セズ其ノ食料品ヲ産セズ其ノ他ノ主產品ノ大部亦國民ノ需要ニ十分ナラス現時吾人ハ戰前ニ比シ二倍ノ麥ヲ購入ス現今ノ爲替相場ヲ以テ今日ノ比例ニ永ク購入ヲ繼續シ得ヘキカ來年度ニ於テハ之ヲ二分ノ一以下ニ

減少セサルヘカラス石炭ハ戰前ニ比シ十五倍乃至二十倍ノ騰貴ナリ吾人ハ其ノ消費ヲ最少限ニ減少シ内地燃料(泥炭、褐炭)ヲ以テ之ニ代用セサルヘカラス如何ニ拙劣ナル改革ト雖現時ノ如キ同盟罷工及軋轢ナキヲ得ハ現況ニ比シ有利ナリ如何ナル形式ト雖活動力ヲ回避スルニ比シ有利ナリ彼ノ給料ノ増加ヲ要求スル者ハ國家ヲ害シ自己竝其ノ家族ヲ害スルモノナリ要スルニ伊國ハ其ノ國境ノ安全ヲ圖リシ後ハ第一ニ其ノ「パン」ヲ獲其ノ富力ヲ回復セサルヘカラス爾餘ノ言論ハ空想ニ過キス空想ハ零落ノ本ナリ

(口) 純社會黨領袖「トレブイス」氏演説ノ要旨

國ノ内狂物ト價ノ
國ノ外通商ト價ノ
上ノ運賃ト價ノ
保ノ險料ト價ノ
ハノ各國ノ不
買ノ易ヲ不
振ニ陷レ

貿易方面　交戦各國ハ戦局ノ擴大ト永續ノ爲メ軍需品並食料品ノ需要多大トナリシニモ拘ラス國內ニ於テハ生産及交通能力ノ激減並紙幣ノ濫發等ニ依リ物價ノ奔騰ヲ來シ一方國外ノ通商ハ危險及船舶ノ缺乏等ニ依リ運賃及保險料ノ暴騰ヲ來シタル等諸種ノ關係ニ依リ各國ノ貿易總額ハ戰前ニ比シ概シテ減少セリ而シテ輸入ノ増加ニ對シ輸出ハ減少セルヲ以テ輸入超過ヲ告ケ國際上ノ貸借關係ニ大ナル不利ヲ來セリ而シテ之ヲ挽回ハ各國ノ努力如何ニ關ス其ノ關係ノ概要次ノ如シ

英國

佛
國

千九百十三年	六四億法	四八億法	一六億法
千九百十八年	一九九	四一	一五八
千九百十九年	約 三〇〇	八七	二二三

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

一九

千九百二十年一月及二月ニ至リ開戦以來初メテノ出超ヲ見タリト喜ハレアルモ一面ニ於テハ資金ノ缺乏ニ依リ輸入著減カ原因ナラスヤノ疑アリ

伊國

伊國カ此ノ累積セル國際上ノ債務ニ對シ從來ノ二大財源タル移民送金並外客漫遊金ハ南米ノ恐慌及戰爭ノ爲著シク減少シタルモ唯戰費公債ノ大部ヲ英、佛ノ市場ニ仰キタルト自國ノ外國證券ヲ放賣スルコトニ依リ窮狀ヲ若干緩和スルヲ得タルモ紙幣ノ濫發ニ伴ヒ物價ノ騰貴ヲ招キタルノミナラス尙財政並民業上ノ資本ノ缺乏ニ處セム爲ニハ更ニ紙幣ヲ續發スルノ必要アルヲ以テ同國ノ產業並貿易ノ恢復ハ前途極メテ遼遠ナルヘシ

第四節 戦争ノ犠牲者

交戦各國方本大戰ノ爲其ノ生産並勞働力ノ根元タル多數ノ犧牲者ヲ生シタレコト竝此ノ國家ノ蒙リタル損害カ直接戰後ノ國家施設及國軍諸般ノ施設ニ重大ノ影響ヲ與フヘキコトニ關シテハ既ニ定論ノ存スル所ナリ

(戰死並不具疑義者ノ戰役末期ノ人口(之ヲ100トス)ニ對スル比率ハ佛國ハ71、佛國ト略人日同數ナル伊國ハ81、佛、伊兩國人口ニ比シ約三割多キ英國ハ伊國ト同シク81、佛國ト略人)

唯茲ヲ附言スヘキハ激増セリ戰爭ノ慘禍ト戰爭ノ性質ノ變遷即チ長期ニ亙ル國民戰爭ノ傾向ニ鑑ミ來ル

出產減少		實數		實數		實數	
實數	%	實數	%	實數	千分數	實數	千分數
計	12,250,000	614	61.4	6,300,000	19.57	1,000	100.0
伊	1,400,000	614	61.4	6,300,000	19.57	1,000	100.0
佛	1,500,000	449	44.9	1,400,000	44.0	1,000	100.0
英	850,000	455	45.5	800,000	48.0	1,000	100.0
奧	3,800,000	655	65.5	3,500,000	58.0	1,000	100.0
獨	3,600,000人	571	57.1	2,700,000	44.4	1,000	100.0

(1) 戰時中ニ於ケル人口減少ノ原因別(戰死者ヲ除ク)
 死亡増加(戰死者) (括弧内ヲ含ム)
 戰爭ニ依ル損害計

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

(ロ) 戦時中に於ける人口ノ變動

大正二年末人口				大正八年度人口				戦争ニ依ル損害				
獨	實數	千分數	實數	%	獨	實數	%	獨	實數	%	實數	
獨	六、四〇〇、〇〇〇	1,000	六、五〇〇、〇〇〇	972	獨	六、三〇〇、〇〇〇	93	獨	七、二〇〇、〇〇〇			
英	五、七〇〇、〇〇〇	1,300	四、九〇〇、〇〇〇	945	英	五、八〇〇、〇〇〇	110	英	五、五〇〇、〇〇〇			
佛	四、六〇〇、〇〇〇	1,000	四、五〇〇、〇〇〇	922	佛	一、五八〇、〇〇〇	40	佛	四、四〇〇、〇〇〇			
伊	三、五〇〇、〇〇〇	1,000	三、三〇〇、〇〇〇	995	伊	三、四〇〇、〇〇〇	83	伊	三、九〇〇、〇〇〇			

ノ要求ハ一轉シテ産業管理ノ全般ニ互ル積極的參與ノ要求トナリ其ノ色彩ノ漸次濃厚ナラムトスルモノアルヲ見ルニ至レリ以下其ノ動機ト認ムヘキモノニ關シ若干ノ觀察ヲ試ミムトス

休戰後各國家、彼等勞働者ノ戰役間ニ於ケル忠誠ニ酬ユル爲其ノ國軍ノ復員ニ於テ難澁繁多ナル個人復員(年級式ト個人復員トヲ配合ス)ヲ敢行シ國內ノ産業並交通復員ニ當リテハ解備後ノ失業ヲ防支スル爲ノ國家、社會ノ利害問題ヲ超越シテ各種ノ施設ヲ行ヒタルノミナラス失業救済、復員歸郷者ニ對スル特典ヲ設ケタル等彼等ニ對シ國家、社會トシテハ最善ノ途ヲ講シタルニモ拘ラス(註參照)經濟的組織ニ對スル信念ハ戰前ノモノニ比シ更ニ一步ヲ進ムルニ至リ其ノ勞働運動ハ合法的手段ヨリ直接行動ニ轉移シ伊太利ノ勞働者ノ金屬工組合工場ノ占領ニ始マリ勞働者自ラ工場ヲ賃借シ全産業ヲ社會主義的經營ノ下ニ置カムトスルノ傾向ヲ來シタル如キ或ハ英國勞働黨ノ特別委員カ「勞働及新社會的制規」ト題スル檄文ヲ以テ「産業ヲ民衆ノ手ニ支配スルコト」ヲ宣言シタルカ如キハ以テ一例ト爲スニ足ルヘシ而シテ此等思想ノ擡頭ヲ見ルニ至レル起因事項ト認ムヘキモノヲ舉クレハ次ノ如シ

勞働運動
赤化ノ起
因事項

(イ) 十八世紀末—十九世紀初頭ニ擡頭セル産業革命ハ資本主義的大量生産ノ隆興ヲ致シ産業經營ノ實權ハ所謂資本家ノ獨占ニ歸スルコトナルヤ直接富ノ生産ニ從フ勞働者ハ賃銀勞働制度採用ノ爲不安ナル弱者ノ境遇ニ陷レリ然ルニ彼等ハ這次大戰ニ於テ祖國ニ盡シタル偉績ヲ回顧シ自己等必スシモ無力ノ者ニアラサルコトヲ自覺スルニ至ルヤ勞働者偏重ノ思想ニ轉化シタルコト

(ロ) 交戰國カ戰期永續ノ兆ヲ認メ國家總動員ヲ實施シ所謂舉國一致國難ニ當ラムトシタル結果勞働者ヲ舉ケテ戰線若ハ軍需製作工場ニ送ラムトスルヤ「平和克復ノ曉」ニハ從來勞働者ノ受ケタル壓迫ト不安ヲ除キ平素ノ生活ニ餘裕ヲ與ヘ欲スル儘ニ新シキ社會制度ヲ確立シテ遺ルヘシ」トノ契約ヲ與ヘタルコト

(ハ) 本戰爭ヲ挑發セル動機ハ資本家ノ橫暴ナル慾望ニアルモノトナシ彼等カ從來民主政治ナリト信認シタルモノハ眞ノ民主的ノモノニアラスシテ國家ハ資本的國家ナリトノ信念ヲ抱懷スルニ至レルコト

(ニ) 財政ノ窮迫、産業ノ不振、金融ノ逼迫等ニ起因スル物價ノ狂騰

近時ニ至リ理想主義的思想ノ權威ニ關シ盛ニ提唱セラレ我カ國ノ社會問題ヲ說論スル人士中「近時社會問題解決上ノ基調ハ唯物主義ヨリ理想主義ヘノ變移即チ前世紀中世以後ノ經濟的正義殊ニ分配的正義確立ノ主義ハ近時生存權ノ保障ニ轉化シツツアルノ現象明瞭ナリ云々」或ハ「社會改造ノ根基ハ精神の改造カ一切ノ目的ニシテ本意義ヲ除外シテハ物質的改造ハ考フルコトヲ得ス物質的改造ハ精神の改造ノ爲ニ提起セラレタル問題ニシテ精神の改造ノ意義ヲ沒却セハ物質的改造ハ無意味ナリ云々」或ハ「今日ノ精神の改造ハ第十九世紀以前ノ夫レノ如ク(心)ノ一方ニ偏スルモノニアラス(物)ノ力ノ偉大ナルヲ認メツツ尙一切ノ社會事象ノ根本ニ(心)ヲ最終ノ要素トシテ認メサルヘカラス云々」トノ議論盛ト爲レリ

之ヲ要スルニ本大戰後著シク擡頭セル物質主義的思想ト近時喧傳セラルル理想主義的思想ノ二大潮流カ將來如何ナル方向ニ進ミ行クヘキヤ或ハ將來ニ於ケル兩者ノ權威如何ハ他日ノ研究ニ委シ將來此等ノ問題ハ一國ノ軍事施設ヲ考究スル者ノ深慮ヲ要スヘキ一要素ナルコトヲ茲ニ記述スルニ止メムトス

「註」本大戰ノ終局ヲ見ルヤ交戰諸國ハ戰後ニ於ケル勞働問題ノ再燃防止ヲ顧慮シ銳意彼等ノ復員後ニ於ケル失業ノ防止ヲ圖ルト共ニ一方ニ於テハ失業救済ニ關スル各種ノ施設ヲ實施セリ其ノ概要次ノ如シ

本大戰中、中止又ハ縮小セル平時の産業ノ復興ノ爲特ニ原料、燃料ノ供給ヲ圖リ交通機關ノ復舊改善ニ力ヲ用キ或ハ巨費ヲ投シテ新ニ土木等官公ノ事業ヲ起スコトニ依リ過剩勞力消化ノ途ヲ開キ或ハ勞働婦人ハ努メテ家庭ニ歸ルカ若ハ戰前ノ位置ニ復歸セシムルコトヲ圖リテ男子ノ爲ニ勞働位置ヲ解放セシメ或ハ軍需工業ノ急激ナル中止ヲ避ケ其ノ轉業ヲ迅速ナラシムルコトヲ圖リ或ハ復員歸郷者就職ノ便ヲ圖リ職業準備教育、就職仲介等ヲ十分ニシ且從前ノ位置ニ復歸スルヲ得ヘキ特典ヲ與ヘタル等當局者ハ彼等勞働者ノ失業ヲ防止スル爲各種ノ施設ヲ廻ラシ一方ニ於テハ復員除隊者中就職不能者ニ對シ失業救済ノ爲巨額ノ失業手當ヲ支給シ軍需工業ヨリ解僱セラレタル者ニ對スル支出額ノミニテモ佛國ハ約一億五千萬法、英國ハ一週千三百萬圓、伊國ニ於テハ一億「リラ」ヲ支出シタリト謂フ此ノ他復員歸郷者ニ對シテハ特ニ巨額ヲ吝マス除隊下士卒ニ對シ失

職手當ヲ供シ特ニ歸農兵士ニハ土地ヲ分與シ將校ニハ特別ノ經濟的補助ヲ加ヘ(英國)或ハ五千萬「リラ」ノ寄附金ヲ以テ失業者ヲ救恤シ(伊國)或ハ戰時貯金ノ交付、失業救済會ノ設立(佛國)等要スルニ四閱年ノ交戰ニ任シタル戰士ニ對シテハ國家、社會トシテ最善ノ途ヲ講セリ

二八

ル移關回慘基論軍
カニ係及禍ハ議備
如存ノ國ノ大ノ間
シス變際挽戰根頤

伊國ハ既ニ軍備ノ縮小ニ決シ佛國亦同主義ノ論議盛ナリシカ近時ニ及ヒ戰前兵力ト略同數ノ整備ヲ以テ大勢トスルニ至レリ米國ハ其ノ正規軍ヲ戰前制定ノ國防法律ニ依ル兵力ニ比シ稍増加シタルカ近時ニ至リ該法律制定前ノ兵數ニ縮小セムトスルノ趨勢ニ在ルカ如シ英國ハ其ノ地方軍ヲ改編セムトシアルコトハ一種ノ軍備擴張ト觀察スルヲ得之ヲ要スルニ此等交戰諸國カ其ノ軍備ヲ縮小スルト或ハ戰前兵力ノ保持ヲ企圖スルト將タ亦一部ノ擴張ニアルトヲ論セス共通ノ動機ト認ムベキモノハ(一)大戰慘禍ノ挽回(財政問題、産業復興等)(二)國際關係(對獨問題並國際聯盟ノ成立等)ニ歸シ得ルカ如シ試ニ英、佛、米、伊各國ニ於ケル軍事費(陸軍費)ト一般豫算トノ關係及國民一人ノ軍事費負擔額等ヲ表示スレハ次表ノ如シ

[illegible]

國名	年 度	國富	總 額	陸 軍			海 軍			國民所 分 額	國民所 分 額			兵 一 人 陸 軍 費	人 口	陸 軍 兵 額
				費 額	對 國 費	對 國 富	費 額	對 國 費	對 國 富		費 額	對 國 費	對 國 富			
英	千九百十一年	一四〇〇	一八二八	二七六	一・一	〇・〇〇一	四二八	三三三	〇・〇〇三	五〇五	三・七	〇・〇〇四	三三六	一四九	三・五	一八八、〇〇〇
	千九百十二年	一五〇	一九二五	二八〇	一・四	〇・〇〇一	四四三	三三・一	〇・〇〇二	五二四	三・八	〇・〇〇四	四〇八	一四四	三・五	一九〇、〇〇〇
	千九百十三年	一六〇	一九〇一	二八三	一・四	〇・〇〇一	四八八	三三・五	〇・〇〇三	五〇二	三・八	〇・〇〇四	四一五	一四四	三・五	一九〇、〇〇〇
	千九百十九年	一五五	一九五七	四七五	二・一	〇・〇〇三	五三三	九・四	〇・〇一一	六〇〇	三・三	〇・〇〇三	四四三	一四四	三・五	一九〇、〇〇〇
	千九百二十年	一五〇	一九四一	四六〇	二・三	〇・〇一〇	五三三	七・一	〇・〇〇五	六〇〇	三・三	〇・〇一〇	四四三	一四四	三・五	一九〇、〇〇〇
米	千九百十一年	一三三〇	一五二〇	一五二〇	一・三	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇	一三三、〇〇〇
	千九百十二年	一三三〇	一五二〇	一五二〇	一・三	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇	一三三、〇〇〇
	千九百十三年	一三三〇	一五二〇	一五二〇	一・三	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇	一三三、〇〇〇
	千九百十九年	一三三〇	一五二〇	一五二〇	一・三	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇	一三三、〇〇〇
	千九百二十年	一三三〇	一五二〇	一五二〇	一・三	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇〇〇	一三三〇	一・〇	〇・〇	一三三、〇〇〇
佛	千九百十一年	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一・一	〇・〇〇一	一四〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一四〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一四〇〇	一・〇	〇・〇	一四〇、〇〇〇
	千九百十二年	一五〇	一五〇	一五〇	一・一	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇	一五〇、〇〇〇
	千九百十三年	一六〇	一六〇	一六〇	一・一	〇・〇〇一	一六〇	一・〇	〇・〇〇一	一六〇	一・〇	〇・〇〇一	一六〇	一・〇	〇・〇	一六〇、〇〇〇
	千九百十九年	一五五	一五五	一五五	一・一	〇・〇〇一	一五五	一・〇	〇・〇〇一	一五五	一・〇	〇・〇〇一	一五五	一・〇	〇・〇	一五五、〇〇〇
	千九百二十年	一五〇	一五〇	一五〇	一・一	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇〇一	一五〇	一・〇	〇・〇	一五〇、〇〇〇
伊	千九百十一年	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一・一	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇	一〇〇、〇〇〇
	千九百十二年	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一・一	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇	一〇〇、〇〇〇
	千九百十三年	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一・一	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇	一〇〇、〇〇〇
	千九百十九年	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一・一	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇	一〇〇、〇〇〇
	千九百二十年	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一・一	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇〇一	一〇〇〇	一・〇	〇・〇	一〇〇、〇〇〇
備 考	算出要領 國富増加率ハ年百分ノ五トス 但シ戰費ハ之ヲ控除シ戰時、戰後ノ産業上ノ打撃及領土擴張等ニ基ク國富ノ増減ベ之ヲ計算外トセリ 陸軍兵額ハ英國政治年鑑ニ基キ若干推算ヲ加味セリ 外國貨幣換算率ハ戰前ハ總分比價、戰後ハ時價ニ據リタリ															

第二節 佛 國

軍備方針
ノ大勢ハ
戰前兵力
ノ保持ニ
シアルカ
如シ

(要旨) 軍備方針ニ關シテハ戰後縮小ノ議論盛ナリシカ近時高等軍事會議ヨリ議會ニ提出セル案及本年一月末首相「ブリアン」氏ノ下院ニ於ケル聲明ニ依レハ概シテ戰前ノ兵力ニ等シキモノヲ整備セムトスルカ如シ以下前記兩主張ノ根基ト認ムヘキモノヲ先ツ擧ケ次ニ各案ノ要旨ヲ述ヘムトス

第一 兵力問題

其一 強大ナル軍備保持論

佛國ニ於テ強大ナル軍備ノ必要ヲ主張スル者ノ論據ヲ擧クレバ次ノ如シ

強大ナル
軍備保持
論者ノ主
張事項

(一) 獨逸軍備ノ制限モ其ノ侵略的國民性ノ一變ヲ豫期スルコト能ハス(獨逸陸軍將官「セクト」ハ其ノ新年ノ挨拶トシテ述ヘ其ノ目的ハ單ニ獨逸ナル下士卒ヲ養成スルニ止マラス進テ有事ノ際ニハ悉ク國民ノ指揮者タリ得ルノ素質ヲ涵養セシムルニアルヲ以テ十二年ノ服役期間ハ決して長キニ過ギス云々)

(二) 軍備縮小ニ關スル「ヴェルサイユ」條約中完全ト認メ難キモノアリ隨テ之カ履行監視ノ爲強大ナル守備兵ヲ必要トス

獨逸政府ハ「スバー」議定書ニ基キ昨年十月一日ヲ以テ國防軍ヲ十五萬ニ、本年一月一日ヲ以テ更ニ十萬ニ縮小シタルコトヲ發表セルモ其ノ事實ノ正否ニ關シテハ聯合監督委員ニ於テ精査中ナルカ如ク又目下開催セラレタル佛、英、伊、白ノ首相會議ニ於テ獨逸ノ武裝解除ニ關シ審議中ナルカ英、佛間ノ意見ニ扞格アルカ如ク隨テ之カ一致ヲ見ルハ尙將來ニ屬スルコトナルヘシ以下最近ノ情報

ニ依リ獨逸ノ武裝解除實施ニ關スル聯合軍事會議ノ意見ノ一端ヲ記述セムトス(昨年十月中旬ノ情況)

(1) 「スバー」議定事項中ノ無制限期日ニ要求シタル事項即チ「地方自治部隊」「保安警察隊」ノ武裝解除、「義務服役制度」ノ撤廢、「長期服役制度」ノ新軍編成、「人民所有ノ兵器引渡」ニ關シテハ其ノ實施著シク遲滯シ「スバー」會議以來三箇月ノ今日尙其ノ成果ヲ認ムルニ至ラス特ニ「地方自治部隊」ノ武裝解除ノ如キハ未タ其ノ實施ニ著手シアラス又「ブローニユ」電書ニ要求セラル「地方自治部隊」及「保安警察隊」解散ノ件及兵器材料ノ輸出入ノ制限ノ如キハ全然固却セラレアル情況ナリ(本年一月末ノ巴黎最高會議ニ於テ佛國首相「ブリアン」氏ハ「保安警察隊、地方自治部隊」ノ存在ハ極メテ短時間ニ始テ全國民ヲ動員シ得ヘク且八箇月ノ製造準備ヲ爲サハ多數ノ國軍ヲ整備シ得ルモノナリト唱ヘテ此等部隊ノ武裝解除ヲ主張シ次ノ如ク語リセリ「獨逸ノ武裝解除ハ」其ノ一、二ヲ例示セハ次ノ如シ

(イ) 義務兵役制度ノ撤廢及長期服役制度ノ新軍編成ノ件ニ關シテハ本年八月二十一日之ニ關スル法令ヲ發布セルモ該法令上ニハ軍ノ總數及將校ノ數ヲ條約規定ノ如ク制限シアラス且從來ノ獨逸ノ兵役義務ノ撤廢セラレタルコトヲ明示セサルノミナラス新兵役十二箇年ヲ連續スルコトナク間斷的ニ服役シ得ル如ク之ヲ規定シ暗ニ豫備兵ノ得員増加ヲ企畫セムトスルカ如シ

(ロ) 地方自治部隊武裝解除ノ件ハ漸ク其ノ實施法ヲ規定セルモ同部隊解散ノ件ハ尙全然其ノ實施ニ著手シアラス

(ハ) 保安警察隊ノ武裝解除ハ最近漸ク之カ實施ニ著手シタルモ僅ニ火砲若干門ヲ引渡シタルノミ又同隊ノ撤廢ニ關スル布告ハ之ヲ定メタルモ監督委員ニ於テ其ノ不備ヲ指摘シ更ニ之ヲ獨逸全國ニ適用スル如ク要求セリ

(2) 獨逸政府ハ大正十年一月一日ヲ以テ其ノ軍隊ヲ所定ノ如ク削減シ現在員ハ九萬六千ニ過キスト稱スルモ目下之カ真相ヲ調査中ナリ又兵器ノ引渡、軍隊類似機關ノ解放等ニ關シ佛國政府ハ一月三日一ノ通牒ヲ發シ其ノ實行ヲ迫リシニ獨逸ハ直ニ反駁回答ヲ發表シ「其ノ力ト情況ノ許ス範圍ニ於テ條約ヲ忠實ニ實行シアルコト」ヲ述ヘタリ

(三) 佛國カ歐洲ニ於テ依然強國タル位置ヲ保持セムニハ強大ナル軍備ヲ要ス將來ノ國際關係ヲ豫想スルニ獨、奧、露等諸國ノ秘密同盟及對英、伊ノ國際變化ヲモ顧慮中ニ置カサルヘカラス

「註」 過般陸相「ル、フエブル」氏カ其ノ掛冠ニ際シ首相ニ提言シタルモノト稱セララルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 獨逸カ佛國ニ加ヘムトスル危機ハ未タ去リタルトハ認メ難シ
- 二 「ヴェルサイユ」條約ノ完全ナル履行ノ爲ニハ有力ナル陸軍ヲ必要トス
- 三 佛國ノ存立上必要ナル「ポーランド」、「チエツク」及「ルーマニア」諸國ニ對スル獨逸ノ危

三二
險ハ之ヲ顧慮中ニ置カサルヘカラス

其二 軍備縮小論

佛國ニ於テ軍備縮小論者ノ主張スル論據ヲ舉クレハ次ノ如シ

軍備縮小論者ノ主張事項

(一) 獨逸將來ニ對スル樂觀

佛國ハ最早獨逸ノ侵略的軍國主義全盛時代ニ於ケルカ如キ武力ヲ要セス唯將來ノ事變ニ應シ得ルヲ以テ縮小ノ限度ト爲スヲ適當トス

(二) 國際聯盟ノ成立

軍備決定ノ基礎ハ國際聯盟ノ規定ヲ遵守シタルモノナラサルヘカラス諸國民間ノ交誼進化シ來リタル今日強大ナル軍備ヲ要セス

(三) 産業復興ノ爲勢力ノ供給

(四) 財政及經濟上ノ恢復

高等軍事會議案

「註」(一) 對獨逸軍事條約ノ一節 陸軍總兵力ハ將校以下總員十萬人ト定メ之ニ依リ編成セラルヘキ編制ヲ指定シ裝備ヲ限定シテ兵器彈藥及材料ノ所要量ヲ示シタルノ外一方ニ於テハ一般義務制ノ徵兵制度ヲ廢止シテ志願兵制ニ移サシメ從來ノ服役區分ヲ廢止シテ十二箇年

ノ一服役年制ト爲シ病氣ニ依リ生スル缺員ノ補充率ヲ決定シタル等要スルニ軍事ノ機密

事項ヲ軍制上ヨリ奪フト共ニ一方在郷兵制ヲ許ササルコトニ依リ戰時兵力ノ擴張計畫ヲ廢棄セシメタル點ハ「チルジット」條約中ノ軍事條件ノ不備ニ依リ獨逸國軍ノ勃興ヲ見タルニ鑑ミ今茲ニ形骸ノミノ軍制ヲ強制シタルモノト觀察セラル

(二) 財政問題 獨逸ハ本大戰ノ爲ニ其ノ戰費、同盟國及中立國ニ對スル財政援助及復員費ノ爲實ニ八百五十六億圓ノ戰債ヲ以テ戰後ノ財政ニ移レリ而シテ戰前十三億圓ニ過キサリシ歳出ハ千九百十九年度豫算ニ於テハ尙十倍ニ該當スル百二十六億五千萬圓ニ達セリ加フルニ休戰條約ノ規定ニ依リテ戰時強奪金約三十三億四千萬圓ノ返還ヲ行フニ至レリ一方歳入ハ戰債ニ對スル利子仕拂ノ爲年額約四十五億圓ノ増稅ヲ加フルモ尙歳出ノ半ニ達セサル爲已ムヲ得ス其ノ不足ハ帝國銀行ヲシテ紙幣ヲ増發セシメ之ニ短期證券ヲ交付シテ借入使用スルノ情況ナルヲ以テ其ノ紙幣流通高ハ實ニ戰初ノ約十五倍ニ達シ宛然紙幣經濟ノ時代ヲ再現セリ而モ今後ハ多大ノ賠償金ノ仕拂ヲ要シ少クモ最近三年間ニハ約五百億馬克ヲ賠償セサルヘカラス然ルニ海外ノ領土及販路ヲ喪失シ國內資本及勢力ハ缺乏シ産業復興ノ爲必要ナル諸材料ハ不足シアル點ヨリ觀察スレハ獨逸ノ戰後財政ハ實ニ慘憺ナルモノト謂フヲ得ヘシ

最近「千九百二十年年度豫算」ニ關スル一調査ノ結果トシテ發表セラレタルモノニ依レ

ハ「公債又ハ借入金ヲ以テ支辨ヲ要スヘキ金額總計(七百五十五億馬克)ハ純歲出總計(千八百五十五億馬克)金額ノ70/100ノ割合ニシテ換言スレハ獨逸カ平和ノ恢復セル今日一箇年度内ニ於テ公債又ハ借入金ヲ以テ支辨スヘキ歲出ハ戰前五箇年度間ニ於ケル缺損總額ノ五割ニ達スヘシ云々」以上ノ一事ハ以テ獨逸國民ノ戰後ニ於ケル苛重ナル負擔ノ義務並當局ノ財政難上ノ苦衷ノ跡ヲ概觀スルニ足ルヘシ

第二 軍備問題ニ關スル各案ノ主張

一 強大ナル軍備保持案(其一) 本案ハ昨年末高等軍事會議ニ於テ審議ノ結果議會ニ提出シタルモノニシテ其ノ主張ノ詳細ニ關シテハ目下詳ナラサルモ「ライン」軍、小亞細亞派遣軍及有事ノ際ニ於ケル勳員集中ノ爲ノ援護部隊其ノ他國內ノ治安維持ニ要スル所要兵力トシテ戰前ノ平時兵力ト略同數ナル七十五萬乃至八十萬ヲ整備セムトス而シテ國內ノ大勢ハ本案ヲ採用セムトスル傾向ニ在リト謂フ

本案ノ提議スル所ニ依レハ前記兵力ハ次ノモノニ依リテ充足セムトスルモノニシテ千九百十九年中期發布セラレタル西部及熱帶亞非利加土人徵集ニ關スル大統領令(月報第五十七號參照)ニ依リ殖民地土人兵徵集ノ範圍ヲ擴張シ本國ノ兵員資源ノ一要素ニ爲サムトスルコト及給養ノ改善並二年以上現役ニ服務シタル者ニアラツレハ總テノ官公吏ニ採用セサル如ク條規ヲ改正シ以テ現在ノ長期服役志願兵ヲ増加セムトスルノ提議ハ注目ニ値スト認ム

軍備方針
ニ關スル
説相ノ演
説ノ要旨

佛本國ノ徵兵人員(在營年限ヲ一年半ト爲ス) 三十五萬乃至四十萬
現在二十萬人ノ殖民地土人兵ヲ三十萬ニ増加ス
現在五萬人ノ長期服役志願兵ヲ八萬乃至十萬ニ増加ス

二 強大ナル軍備保持案(其二) 本案ハ本年一月末首相「ブリアン」氏カ下院ニ於テ聲明シタル所ニシテ其ノ要旨左ノ如シ

「獨逸トノ平和條約ハ成立シタルモ獨逸カ軍備制限ヲ勵行セサル限りハ佛國ノ安泰ヲ保障スルカ如キ平和ハ未タ來ラス獨逸ノ軍備問題ハ佛國死活ノ問題ナリ勿論軍備ヲ必要ノ最少限度ニ減縮スルコトハ吾人ノ希望スル所ナルモ周圍ノ情況ハ尙十分ノ軍備ヲ維持スルノ要アルヲ見ル云々」

三 軍備縮小案 各案ノ提唱スル兵力ハ社會黨ノ二十萬人說ヲ最少限トシ下院軍事委員會ノ四十四萬五千說ヲ最大限ト爲ス而シテ各案中殖民地土人兵ノ徵集ニ關シ論議スル者尠キヲ遺憾トス以下各案ノ提唱スル事由ノ梗概ヲ記述セムトス

「ポール、デューメ」氏(上院議員)案

一 軍備ノ必要 氏ハ軍備ノ必要ヲ主張スル爲國際關係並戰後ニ於ケル佛國ノ世界的地位ニ關シ次ノ如ク觀察セリ

(1) 國際聯盟ノ確立ニ依リ恒久ノ平和ヲ期待スルコトハ尙將來ノ希望ニ屬ス而シテ今後若干年

間紛争ハ到ル處ニ存在スヘク此等ノ軋轢ト闘争トヲ止メ眞ノ平和ヲ來シ社會ノ改造ヲ行ヒ得ル爲ニハ尙將來幾多ノ星霜ヲ必要トス普魯西王朝ノ壞崩ニ依リ獨逸國民性ハ一變セリト思惟スル者アラハ這ハ適當ナル觀察ニアラス將來彼ハ機ヲ捉ヘテ再ヒ其ノ權勢慾ノ發揚ト有機的野蠻ノ行爲ニ出ツルコトナキヲ保シ難カルヘシ面シテ一朝中、東歐及亞細亞ニシテ更ニ獨逸ト相提携スルカ如キコトアラハ佛國ハ一大危險ニ脅威セラルルモノト覺悟セサルヘカラス

(2) 佛國ノ武力ハ佛國ノ生命ニシテ各國間ニ於ケル平和ノ基礎ナリ佛國ハ其ノ偉大ナル運命ヲ確保シ其ノ仁惠的任務ヲ世界ニ履行セムカ爲強大ナラサルヘカラス

二 軍備ノ縮小 氏ハ將來ノ獨逸ハ侵略的軍國主義ヲ發揮スルコトノ困難ナルヲ前提トシ戰前兵力ノ半數ニ軍備ヲ縮小スルコトヲ主張セリ而シテ氏カ其ノ兵力決定ヲ論スルニ當リ本大戰ノ賜タル巨多ノ既教育兵員ノ充用ニ關シ説述シタルノ點ハ看過スヘカラサル一事項ト認ム以下本論ノ要旨ヲ述ヘムトス

三 兵力ノ決定 獨逸ノ軍事機關ハ破碎セラレ將來我カ國ノ危險ハ著シク減少シタルヲ以テ最早獨逸ノ侵略的軍國主義全盛時代ニ於ケルカ如キ武力ハ其ノ要ナシ故ニ將來ニ於ケル事變ニ應シ得ルヲ以テ其ノ軍備縮小ノ限度ト爲スヲ適當トス一朝大ナル危險國境ニ發生セハ今次ノ戰爭ニ於テ勝

利ヲ得タル嘆賞スヘキ豫備兵ヲ召集スレハ可ナリ而シテ其ノ縮小ノ程度ハ戰前ノ平時兵力ノ約半數即チ三十五萬人トスルヲ適當トス其ノ理由ハ次ノ如シ

(イ) 「ライン」ノ守備

講和條約ノ實施後十五箇年間ニ互リ佛國ノ國境外ニ十萬以上ノ一軍ヲ必要トス蓋シ聯合國モ右地區内ニ守備軍隊ヲ駐屯セシムルモ畢竟高尚ナル精神的保證ニ過キスシテ眞ニ守備ノ重責ハ佛國軍之カ擔任ノ必要アルヲ以テナリ

(ロ) 亞弗利加及亞細亞

北部亞弗利加ハ全ク平定セス又開化セサルノミナラス其ノ領土ハ蠻地ニ隣接スルヲ以テ此ノ地ニ優勢ナル兵力ヲ要ス又地中海ニ瀕スル亞細亞ニハ吾人ノ爲スヘキ事業アルヲ以テ又軍隊ヲ常置スルノ必要アリ其ノ他平和ヲ脅威シ隣邦ヲ征服シ弱小民族ヲ勦滅セムトスルモノニ對シ願慮ヲ拂ハサルヘカラス以上ヲ願慮シ佛國軍ノ平時兵力ヲ次ノ如ク概定セムトス

内地

十七萬人(十七師團)

國境

六萬五千人(六師團)

北部亞弗利加

五萬五千人(五師團)

殖民地

二萬二千人

騎兵四師團 一萬三千人
軍團及師團中ニ屬セサル部隊 三萬五千人
合計 三十六萬人

「メートロ」中將案

將軍ハ「佛國ハ依然大陸軍國トシテ存在スヘシ然ラサレハ佛國ハ滅亡スルノミ」ハ權利ト正義トハ嚴然タル武力ノ存立ニ依リテノミ成立スルモノナリ」トシテ有力ナル國軍ノ整備ヲ主張スルト同時ニ一方ニ於テハ全國民ヲ舉ケテ戰後ノ經濟戰ニ參加スルノ必要ヲ提唱シ此等ノ兩要求ヲ調節シテ次ノ如ク平時兵力ヲ決定セリ

平時兵力ハ約四十萬ト爲シ現制徵兵令ニ依ル兵員約五十七萬ニ比シ約十七萬ヲ減少セムトスルノ考案ニシテ該四十萬人ハ十五萬ノ長期服役者ト二十二萬餘ノ徵兵人員ヲ以テ整備セムトスルモノナリ

「ド、ラクロア」將軍案

將軍ハ「ヴェルサイユ條約ノ實行及獨逸勢力ノ打破並其ノ新襲來ニ對スル國境ノ安寧維持ノ必要ヲ提唱シ常備兵力ハ下院軍事委員會ノ決議シタル約四十四萬五千人（二年在營制）案ニ同意セリ

「アンリー、バーテ」氏案

氏ハ國際聯盟ノ成立ヲ重大視シ且獨逸ノ將來ヲ樂觀シテ佛國ノ平時兵力ハ約二十萬ノ徵兵人員ト是等ヲ教育スヘキ一萬人ノ將校及六萬人ノ志願服役下士ヲ以テ十分ナリトスルモノナリ以下氏ノ所說ノ要點ヲ摘録セムトス

- 一 國際聯盟 兵力決定ノ根基ハ平和條約ノ條項ニ規定セラレタル「各國民ノ主要ナル目的ハ平和ノ維持ニ在ルヲ以テ各國ノ兵備ハ各國ノ地理的情況ヲ參酌シテ國民ノ安全ヲ保スルニ足ル最少限度ニ減スヘキモノトス」ノ條項ニ準據セサルヘカラス
- 二 獨逸ノ將來 平和條約ハ獨逸ノ定員ヲ十萬ト限定シタルカ若シ佛國ノ軍事條約實行監督委員ニシテ適材ノ士ヲ舉クルヲ得ハ平和條約ニ信任ヲ置クコトヲ得ヘク從テ將來大軍ノ攻撃ヲ恐ルルヲ要セサルヘシ

社會黨案

本案ハ戰前社會黨ノ領袖タリシ「ジャン、ジョウレ」氏ノ民兵制度建議案ノ精神ヲ繼承シ大戰ノ教訓トシテ若干ノ修飾ヲ加ヘ民兵制度ノ必要ヲ提議スルモノナルカ其ノ所說ニ依レハ戰後ニ於ケル國際關係ヲ樂觀シ一方産業復興ノ爲勢力ノ供給並財政ノ窘迫ヲ緩和回復スルノ必要上佛國軍ノ平時兵力ハ常置部隊ヲ除キ二十萬人ト爲スコトヲ提議シタルモノナリ以下本案ノ主義ト認ムヘキ事項ヲ舉ケムトス

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

米國正規
軍ノ兵力
ハ戰後四
ハ戰後四
ルカニ且
シタ

「要旨」

正規軍ノ兵力決定ニ關シテハ概ネ四次ノ變遷ヲ經タルモノト觀察セラル

第一次 四十八萬案

(復員開始直後當局ノ提出セルモノ)

第三節 米國

- 一 産業復興並財政難ノ挽回 財政上ノ負擔ヲ輕減シ又勢力ト技術トヲ回復スルコトハ焦眉ノ問題ニシテ此ノ兩者ナクムハ佛國産業ノ復興ハ頗ル困難ナリ故ニ成シ得ル限り最少限ノ人員ヲ以テ國境ノ安全ト平和條約實施確保ノ爲新陸軍ノ建設ハ佛國刻下ノ問題ナリ
- 二 國際關係 一國ノ軍事施設ハ諸國民間ニ於ケル友誼ノ進化、國際的政治ノ條件ヲ顧慮セサルヘカラス而シテ各國民間ノ交誼力其ノ國際的制裁力ノ創設ニ成功セサル現下ニ於テ全然軍備ヲ縮小スルコトハ不可ナルモ既ニ諸國民間ノ交誼進化シ來リ平和條約ヲ解釋シ且之カ實行ヲ考察シ得ヘキ道程ニアルヲ以テ強大ナル軍備ノ必要ナク獨軍ノ職業軍十萬—恐ラクハ二十萬人ニ對シ國境ヲ掩護スルニ足ルヘキ常備兵力ヲ以テ満足シ得ヘシ
- 三 長期服役志願者ノ減少 戰後ニ於ケル財政ノ窘迫ハ希望ノ物質の特典ヲ與フルノ困難ナルコトハ一方工業、商業ノ需要カ青年佛國人ニ新正面開拓ノ好機タル現下ノ趨勢ト相俟テ志願再役者ヲ得ルコト困難ナルヘシ是レ軍備減少ヲ主張スル一因ナリ

第二次 二十二萬五千案

(千九百十九年七月三十一日及八月四日開
院軍事委員會ヨリ議會ニ提出セルモノ)

第三次 十一萬案

(同右 參謀本部案)

第四次 十七萬五千案

(大統領ノ否認ヲ排シ最近兩院協議
會ニ於テ再ヒ決定シタルモノナリ)

以上如ク兵力ノ決定上數次ノ曲折經緯ノ存スル所以ノモノハ惟フニ(一)軍事當局者カ「戰後ノ國際關係ヲ顧慮スル時ハ二島國ノ聯合軍ヲ想定シ其ノ兵力ヲ二百二十二萬五千人ト想定シ本大戰ノ直前ニ於テ一等國ト戰爭スル場合ニ想定セル約百萬ノ兵力ヲ今ヤ三倍ニ増加スルノ必要アリ」トノ主張ト(二)高等政策ノ「軍備ハ其ノ必要ノ最少限ニ止メ國民ヲ舉ケテ戰後ノ經濟戰ニ其ノ全力ヲ傾注セシメムトスルコト」ノ相矛盾セル兩主張ニ歸シ得ヘキモノト認ム以下此等ノ經過ニ關シ其ノ概要ヲ述ヘムトス

第一 四十八萬案(第一次)

案四十八萬

本大戰ニ參加ノ爲勳員(編成)セラレタル諸部隊ハ法規上平和ノ成立ト共ニ千九百十七年四月一日以前ノ正規軍ノ外ハ悉ク復員セラルヘキヲ以テ新ニ常備軍ノ組織ヲ定メ國防上ノ缺陷ヲ防クノ必要ニ迫ラレ當局ハ千九百十九年一月十六日本案ヲ下院ニ提出セリ

然ルニ委員會ハ陸軍ノ組織ハ時勢ノ變化ニ從ヒ戰爭ノ教訓ヲ參酌シ十分研究ヲ遂ケタル後之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ之ヲ將來ニ讓ルコトトシ討議ヲ終了セリ是ニ於テ當局ハ更ニ現在兵員中ヨリ約五十萬ノ

モノヲ解除セサルコトナシ正規軍志願兵制度ノ復活ニ關スル法案ヲ提出シタルモ會期ノ關係上審議ヲ經スシテ閉會ト爲レリ

四二

第二 軍事委員會及參謀本部案

其一 軍事委員會案

本案ハ平和條約締結後二年間ニ對スル平時兵力ヲ國防法ノ規定セル約二十二萬五千人トナシ其ノ後ノ二年ニ對シテハ稍兵力ノ増加ヲ豫期シタルモノナルカ途ニ決定ヲ見ルニ至ラザリキ

「註」 千九百十五年五月「ルシタニヤ」事件以來米、獨國交ノ危機ヲ豫期スルヤ大統領ハ國防上必要ナル軍備擴張ニ關スル調査ヲ開始シ陸海軍大臣ノ提案竝上下兩院陸軍委員會案ニ關シ審議ヲ行ヒ遂ニ一ノ確定案即チ千九百十六年七月一日乃至千九百二十一年七月ノ五箇年間ノ繼續事業トシテ平時兵力ノ擴張ニ決シ千九百十六年六月三日國防法律トシテ之ヲ發布セリ

其二 參謀本部案

本案ハ三年服役ノ志願兵ヲ以テ約五十一萬ノ正規軍ヲ編成セムトスルモノニシテ要員不足ノ場合ニハ三箇月ノ必任義務教育終了者ヲ以テ充足セムトスルモノナルカ前案ト同シク決定ヲ見ルニ至ラザリキ

第三 陸軍ノ常備兵力令(三十萬)

本兵力ハ陸軍常備兵力令ヲ以テ決定シタルモノニシテ參謀本部案ニ對シテハ殆ト酌量ヲ加フルコトナク

「軍備ハ必要ノ最少限ニ止メ國民舉ケテ戰後ノ經濟戰ニ其ノ全力ヲ傾注スルコト」ヲ以テ主義トナシタルモノナリ

以下本案ノ内容ニ關シ若干記述セムトス

- 一 合衆國陸軍 正規軍、合衆國勤務ニ服シタル場合ノ護國軍(第一民兵)及編成豫備軍(我カ國ノ國民兵役ニ該當ス、此ノ他豫備將校團及豫備下士卒團ヲ含ム)ヨリ成ル
- 二 管區 軍政訓練及戰術上合衆國本國ヲ管區(各管區ハ少クモ護國軍又ハ編成豫備軍ノ一師團ヲ含有ス)ニ分テ大統領ハ之ヲ軍區又ハ管區ニ編成ス

三 平時兵力 下士卒最大定員ハ二十八萬人トス

四 兵卒ノ服務 志願ニ依リ一年及三年、再役ハ總テ三年トス

五 正規軍豫備ハ爾今之ヲ廢止ス(正規軍豫備制ハ千九百十六年六月國防法ニ依リ豫備四年ト決定セラレタルモノ)

六 下士卒豫備團 本團ノ目的ハ正規軍工兵、通信及經理ノ各團及兵器並衛生各部下士卒ノ豫備ヲ得ムトスルニアリ而シテ此ノ要員ハ所要ノ軍事教育ヲ受ケ且正規軍下士卒ト同様ノ資格ヲ有スル志願者ニ依リ編成シ服務期間ハ三年トス召集ニ對スル義務ハ豫備將校ニ同シ

七 豫備將校團 大統領ノ任命スル豫備將校ヲ以テ組織シ有事ノ際將校要員ヲ得ルヲ目的トス大統領ハ豫算ノ範圍内ニ於テ豫備將校ヲ教育召集シ得ルモ本人ノ同意ナクシテ一年十五日以上召集スルヲ

得ス

八 護國軍 其ノ服役ハ初役三年、再役ハ一年又ハ三年トシ戰時事變ノ際大統領ノ命ニ依リ合衆國ノ勤務ニ召集セラル

九 將校ノ補充並教育 少尉ハ士官學校卒業者、二十一歳—三十歳ニシテ二年以上服役セシ准士官及正規軍下士卒並二十歳—三十歳ノ豫備將校、護國軍將校及下士卒、豫備團將校及下士卒並陸軍卿ノ指定スル軍事學校卒業者ヲ以テ補充ス

一〇 豫備將校訓練隊ハ專門學校及大學ニ高等科ヲ、其ノ他ノ公私學校ニ普通科ヲ置キ每週少クモ三時間(毎年夏季ハ六週間以内ノ野營ヲ行フ)ヲ軍事訓練ニ充當ス而シテ教育用裝備ハ陸軍省ヨリ支給シ本人ニハ規定ノ手當ヲ給ス

高等科修業者ハ豫備將校ニ任命セラレ得

一一 准士官以下及市民ヨリノ志願者ヲ教育シ豫備將校及准士官、下士ニ任命スル目的ヲ以テ特別ノ學校及野營ヲ設ク

一二 毎年正規軍將校ノ百分ノ二以内ヲ學生トシテ大學、專門學校等ニ分遣ス

第四 十七萬五千人案

昨年末期ヨリ盛ニ論議ヲ見ルニ至レル陸軍軍備縮小論ハ近時ニ至リ現實セラルヘキ趨勢トナリタルカ如

十七萬五千人案
最近決
定セラレ
タルモ
トスル

シ即チ一上院議員ノ「正規軍ヲ二十二萬五千人ヨリ更ニ十七萬五千人ニ低減セムトスル案」提議ハ上下兩院ヲ通過シ兩院協議會ノ審議ニ附託セラレタルモノハ一旦大統領「ウイリソン」氏ノ否認スル所トナリシモ更ニ之ヲ排シテ最近再ヒ同兵力案ヲ該會ニ於テ一致通過セシメタルヲ以テナリ尙次期大統領「ハーディング」氏ハ同法案ニ賛意ヲ表シアルノミナラス進テ兵數ヲ更ニ十五萬人ニ低減スルノ意嚮アリト謂フ而シテ此等ノ大勢ヲ醸生スルニ至リタル動機ハ之ヲ詳ニ爲シ得サルモ過去ニ於ケル軍部ノ主張ト昨年末ニ於ケル陸軍卿並近時下院委員會ニ於テ「バーシング」將軍ノ次記聲明トニ徴セハ軍備ノ縮小ハ該當局ノ意圖外ニ屬シ這ハ寧ロ爾他ノ高等政策ノ爲支配セラルルニ至リタルモノト觀察セムトス近時傳フル所ニ依レハ米國經濟界ノ變動ハ棉花、小麥其ノ他一切ノ農產物ノ崩落ヲ來シ爲ニ合衆國全國ノ農會ハ此等不況ノ挽回策トシテ陸海軍豫算ヲ半減シ其ノ財源ヲ以テ一大金融會社ヲ組織シ全國ニ互ル穀物ノ輸出幫助並小麥在荷ノ買収ヲ爲サシムルノ救済運動ヲ提議シタリト謂フ果シテ事實トセハ米國近時ニ於ケル軍備縮小問題ノ經緯ヲ觀察セムトスル者ハ一顧ノ要アリト認ム

陸相ノ聲明 戰後ノ米國陸軍改正(陸軍常備令)ハ實ニ米國陸軍史上ニ一大紀元ヲ劃スルモノニシテ緩急ニ應シ直ニ軍隊ヲ編成シ得ヘキ模範的組織ナリ米國ノ物質勢力ト他國トノ關係ニ就キテハ傳統的平和ヲ目的ト爲シ來レル米國ハ攻勢ノ目的ヲ以テシテハ何等準備ノ要ナキモ這次大戰ノ實績ニ徴セハ財政並經濟的關係ノ複雜ナル現代ニ於テハ吾人ハ何時全力ヲ擧ケテ國防ノ爲奮闘ヲ要スヘキ場合ニ遭遇

スルヤモ計リ難シ千七百七十六年ヨリ千九百二十年ニ至ル百四十四年間ニ於テ世界中最平和ヲ愛スル米國ハ四年ニ一度ノ割合ヲ以テ國內又ハ外國ト交戦セリ即チ米國陸軍ハ四箇年中約三箇年以上ハ戦争又ハ或種ノ軍事行動ニ從事シタルノ關係ニアリ云々

「バーシング」將軍ノ聲明 將軍ハ下院軍事委員會ニ於テ説明シテ曰ク予ハ「ボラー」氏ノ決議案中米國大統領ヲシテ一般の軍備縮小問題審議ノ爲主要國會議ヲ召集セムトスルノ議ニハ賛成セリ然レトモ予ハ五大強國間ニ完全ナル軍備縮小協約ノ成立スルマテハ米國現在ノ軍備計畫ヲ續行セムコトヲ主張ス云々

第四節 英國

「要旨」 英國ノ軍備方針ハ昨年三月陸軍大臣ノ聲明シタル如ク財政上ノ掣肘ニ依リ從來本國直接ノ防禦ヲ目的トシタル地方軍ヲ改編スルノ外ハ概シテ戰前ノ施設ニ復歸シ徐ニ大戰ノ經驗ト新兵器ノ實驗トヲ加味シ所謂「科學的軍備」ヲ以テ將來ノ軍備ヲ決定セムトスルモノト觀察セラル以下陸相演説ノ要旨竝地方軍改編ノ概要ヲ舉ケ次ニ科學的軍備ニ關スル一將校ノ作業ヲ掲ケ以テ陸相ノ抱負ノ一端ヲ窺知スルノ資ニ供セムトス尙末尾ニ濠洲聯邦ノ軍備ニ關スル總理大臣「ヒュース」氏ノ演説ノ要旨ヲ附記シ同聯邦軍備ノ將來研究ニ供フル所アラムトス

第一 陸軍大臣説明ノ要旨

將來數年間ハ過渡期トシテ研究ヲ要スルノミナラス財政上ノ制限アルヲ以テ當分ノ内教導旅團數箇ヲ創

制シテ大戰ノ教訓ニ基キ戰術並各種新兵器ノ研究實驗ヲ重ネ其ノ結果ニ依リ陸軍將來ノ編制ヲ決定セムトス而シテ該決定ヲ見ル迄ハ略戰前ト同様次記ノ陸軍ヲ置クコトトス

- 一 正規軍ヲ戰前同様即チ步兵六師團、騎兵一師團及附屬部隊トス
- 二 地方軍ハ有事ノ際出征セシメ得ルヲトニ改正シ之ヲ步兵十四師團及騎兵並附屬部隊ニ編成ス
- 三 國家有事ノ際ニハ前記南軍ニハ最新兵器、武裝及十分ナル軍需品ヲ準備ス
- 四 正規軍特別豫備ノ制度ヲ復活シ正規軍ノ幹部ヲ附シ有事ノ際必要アラハ前項兵力ノ補充ニ用ウ

「註」 戰前ニ於ケル特別豫備ノ制度ハ次ノ如シ

特別豫備兵ハ年齡十七歲以上三十歲以下ノ志願者ヨリ採用シ年々若干日間召集訓練ヲ行ヒ戰時之ヲ以テ主トシテ正規軍ノ補充隊（本大戰ニハ七十九箇設置シタルモ要員トシテ特別豫備ヲ充用シタル兵數不詳）ヲ編成シ其ノ一部ヲ以テ我カ後備隊ニ相當スル特別豫備大隊（本大戰ニハ二十ヲ編成スルモノトス）ヲ編成スルモノトス

第二 地方軍ノ改編

- 一 任務 本戦争ノ結果最早外敵侵入ノ虞レ消滅シ英本國國防ハ安全トナリシヲ以テ從來地方軍ノ目的タリシ本國防禦ノ任ハ其ノ必要ナキニ至リタルカ故ニ地方軍ハ緩急ノ際議會ノ承認ヲ經テ海外勤務ニ服セシメラルヘキモノトス
- 二 編成ノ要旨 地方軍ハ獨立シテ活動シ得ルニ十分ナル機能ヲ附與セラル之ニ依リ地方軍十四師團ハ

各一團隊トシテ教育、編成及戰團機能ヲ實行シ海外出征ニ際シテハ各自補充隊ヲ存置シ補充並新設師團ノ編成ヲ司ラシム

地方軍、旅、師團長ハ概シテ地方軍ニ在リシ歷戰者中功績顯著ナル者ヲ選任シ其ノ他ノ幹部ハ正規軍少壯幹部ヲ充用ス

舊地方軍ノ騎兵五十五箇聯隊中十一、二箇聯隊ヲ以テ一師團ヲ、殘餘ヲ以テ野戰砲兵隊及「タンク」隊ヲ編成ス

三 兵力 戰時定員ヲ約三十四萬五千人ト定メ編成ノ初期ニ於テハ其ノ約六割ヲ募集ス

四 徵募、服役並教育 志願兵ハ年齡十八歳乃至三十八歳ニシテ體格強壯ナル者ヨリ之ヲ募集シ本戰役ニ關聯シ又ハ正規軍ニ於テ訓練ヲ受ケタル者ハ三年、其ノ他ハ四箇年間服務スルモノトス而シテ志願兵ハ全服役期間毎年十五日間兵營ニ召集セラレテ訓練ヲ受クルモノトス

第三 英國將來ノ軍備方案

「科學的
軍備」ニ
關スル意

「要旨」 本案ノ主義ハ之ヲ概言セハ這次大戰ニ於ケル精神、物質兩科學ノ軍事上至大ノ影響ヲ與ヘタルコトヲ教訓ト爲シ軍部ト非軍部人士ノ緊密ナル協力ノ下ニ將來益之カ研鑽考究ヲ重ネ以テ世界列強國ニ數歩ヲ先ニスルノ科學軍備ニ依リ英帝國ノ軍備ヲ決定セムトスルモノニシテ所論中(一)本大戰ノ一教訓タル産業動員機關(軍需本部)ニ國防大科學研究所並兵器工廠ヲ隸屬セシメ以テ陸、海軍並空軍ニ關スル首

腦機關ト對等ノ位置ニ新設セムトスルコト(二)陸軍省內ノ一局タル兵器局ニ徹底的改善ヲ加ヘ從來ノ本務ノ外研究、試驗並設計ヲ掌ル一課ヲ新設シ前記軍需本部ト相俟テ科學軍備ノ完璧ヲ期スルコト及「タンク」並牽引自動車制ノ新軍ヲ建設シ現下ノ二大缺陷ト認ムヘキ交通網ニ掣肘セラルル戰略上ノ拘束並戰術運動ノ緩慢ヲ艾除セムトスルモノナリ

其一 戰爭ト科學トノ關係

論者ハ近世科學ノ軍事應用ハ「交戰及統帥ノ要訣タル戰史ノ研究」ト相俟テ將來ニ於ケル軍備決定ノ重要要素ナルヘキヲ述ヘ精神、物質科學ノ軍事上ニ於ケル價值ニ關シ次ノ如ク說述セリ

一 精神科學

本科學ハ物質科學ノ基礎ニシテ人類萬般ノ進步ヲ促スモノナルカ之ヲ軍事上ノ見地ヲ以テセハ心理學ニ依リ幹部ハ部下ノ心ヲ洞察シテ我カ心ト爲シ我カ心ヲ移シテ部下ノ心タラシムルノ途ヲ習得シ得ヘシ尙之ヲ軍隊教育ニ資セムカ其ノ方法手段容易トナリ必スヤ其ノ效果ヲ倍スヘシ之ヲ要スルニ心理學ノ考究ハ統帥並教育上ニ重大ナル效果ヲ有スルモノナリ論理學ノ價值ハ彼ノ「ナポレオン」ノ統帥力數理的智識ニ負フモノ渺カラサリシカ如ク理知ノ養成ニ適シ倭僥ヲ極ムル戰團場裡ニ於テ幾多ノ妄想ヲ排シ事實ノ真相ヲ看破スヘキ修養ニハ裨益スル所多大ナリ

其ノ他生理學ハ體軀ノ活動ノ爲又教育學ハ思想ノ練磨ニ大ナル效驗ヲ期スルヲ得ヘシ

各一團隊トシテ教育、編成及戰團機能ヲ實行シ海外出征ニ際シテハ各自補充隊ヲ存置シ補充並新設師團ノ編成ヲ司ラシム

地方軍、旅、師團長ハ概シテ地方軍ニ在リシ歴戰者中功績顯著ナル者ヲ選任シ其ノ他ノ幹部ハ正規軍少壯幹部ヲ充用ス

舊地方軍ノ騎兵五十五箇聯隊中十一、二箇聯隊ヲ以テ一師團ヲ、殘餘ヲ以テ野戰砲兵隊及「タンク」隊ヲ編成ス

三 兵力 戰時定員ヲ約三十四萬五千人ト定メ編成ノ初期ニ於テハ其ノ約六割ヲ募集ス

四 徵募、服役並教育 志願兵ハ年齡十八歲乃至三十八歲ニシテ體格強壯ナル者ヨリ之ヲ募集シ本戰役ニ關聯シ又ハ正規軍ニ於テ訓練ヲ受ケタル者ハ三年、其ノ他ハ四箇年間服務スルモノトス而シテ志願兵ハ全服役期間毎年十五日間兵營ニ召集セラレテ訓練ヲ受クルモノトス

第三 英國將來ノ軍備方案

「科學的
軍備」ニ
關スル意

「要旨」 本案ノ主義ハ之ヲ概言セハ這次大戰ニ於ケル精神、物質兩科學ノ軍事上至大ノ影響ヲ與ヘタルロトヲ教訓ト爲シ軍部ト非軍部人士ノ緊密ナル協力ノ下ニ將來益之カ研鑽考究ヲ重ネ以テ世界列強國ニ數歩ヲ先ニスルノ科學軍備ニ依リ英帝國ノ軍備ヲ決定セムトスルモノニシテ所論中(一)本大戰ノ一教訓タル產業動員機關(軍需本部)ニ國防大科學研究所並兵器工廠ヲ隸屬セシメ以テ陸、海軍並空軍ニ關スル首

腦機關ト對等ノ位置ニ新設セムトスルコト(二)陸軍省內ノ一局タル兵器局ニ徹底的改善ヲ加ヘ從來ノ本務ノ外研究、試驗並設計ヲ掌ル一課ヲ新設シ前記軍需本部ト相俟テ科學軍備ノ完璧ヲ期スルコト及「タンク」並牽引自動車制ノ新軍ヲ建設シ現下ノ二大缺陷ト認ムヘキ交通網ニ掣肘セラルル戰略上ノ拘束並戰術運動ノ緩慢ヲ艾除セムトスルモノナリ

其一 戰爭ト科學トノ關係

論者ハ近世科學ノ軍事應用ハ「交戰及統帥ノ要訣タル戰史ノ研究」ト相俟テ將來ニ於ケル軍備決定ノ重要要素ナルヘキヲ述ヘ精神、物質科學ノ軍事上ニ於ケル價值ニ關シ次ノ如ク說述セリ

一 精神科學

本科學ハ物質科學ノ基礎ニシテ人類萬般ノ進歩ヲ促スモノナルカ之ヲ軍事上ノ見地ヲ以テセハ心理學ニ依リ幹部ハ部下ノ心ヲ洞察シテ我カ心ト爲シ我カ心ヲ移シテ部下ノ心タラシムルノ途ヲ習得シ得ヘシ尙之ヲ軍隊教育ニ資セムカ其ノ方法手段容易トナリ必スヤ其ノ效果ヲ倍スヘシ之ヲ要スルニ心理學ノ考究ハ統帥並教育上ニ重大ナル效果ヲ有スルモノナリ論理學ノ價值ハ彼ノ「ナポレオン」ノ統帥力數理的智識ニ負フモノ尠カラザリシカ如ク理知ノ養成ニ適シ倭寇ヲ極ムル戰團場裡ニ於テ幾多ノ妄想ヲ排シ事實ノ真相ヲ看破スヘキ修養ニハ裨益スル所多大ナリ

其ノ他生理學ハ體軀ノ活動ノ爲メ教育學ハ思想ノ練磨ニ大ナル效驗ヲ期スルヲ得ヘシ

二 物質科學

本科學ノ大戰間軍事上ニ及ホセル影響ハ之ヲ概言セハ「電氣」ノ「通信連絡即チ有、無線電信、光、音波ヲ以テスル敵砲兵陣地偵察及戰爭間實現ヲ見サリシモ獨軍ノ考案計畫セリト傳ヘラルル電波ヲ以テスル爆彈放下(操縦者ヲ乗セサル小型飛行機ニ依リ)等」ニ應用セラレタルカ如キ「化學」ニ依リ「放射武器即チ毒瓦斯、白煙」ノ發明ヲ見タルカ如キ「機械」ノ軍事的应用ニ依リ「タンク」ノ使用ヲ來シ瓦斯兵器ト相俟テ戰術ヲ根柢ヨリ改變セムトシタルカ如キ或ハ「工藝」ニ依リ前記各科學上ノ考案ヲ軍事的应用ニ具體化シタルカ如シ以上ノ實績ニ徴シ二十年後ノ將來ニ至ラハ遠戰兵器ハ電波ヲ以テスル爆彈投下ニ移リ近戰兵器ハ電氣、瓦斯ノ放射等トナルヘキ傾向ノ一端ヲ現出スルニ至リ一方「タンク」ノ發達ハ陸戰ヲ交通線ヨリ獨立セシメ且運動ト射撃トハ同時ニ行ハレ軍隊ノ行動ハ迅速機敏トナルヘシ以上ノ趨勢ニ鑑ミ將來ノ新軍ハ「タンク」制並牽引自動車制ヲ以テ編成シ現在軍制上ノ二大缺陷タル(一)交通網ニ制限セラルル戰略上ノ拘束(二)損害減少ノ必要上戰術運動ノ緩慢ヲ艾除セサルヘカラス

其二 新軍首腦部ノ編制

論者ハ二十年後ノ將來ニ至ラハ一段ト進ムヘキ科學ノ進歩ニ依リ一般の傾向トシテ陸海軍ノ區分撤廢並都市防禦ノ外作戰行動ハ一切空中ニ移ルヘキヲ見ルニ至ルモノトシテ新軍首腦部ノ編制ヲ次ノ如ク立案

シアルカ之ニ對シ吾人ハ參謀本部ノ擴張特ニ軍需本部並陸軍本部内ノ一局タル兵器局ノ大編成ノ提唱ハ以テ本論者ノ主張スル點並陸軍大臣ノ「徐ニ大戰ノ經驗並新兵器ノ實驗ヲ加味シ將來陸軍建設ノ基礎ヲ作ラムトス云々」ノ説明ノ主旨ヲ推察スルニ足ルモノト認メ之ヲ併記スルコトトセリ但シ本國防省ノ編制ニ關シテハ過般下院ノ一問題トナリシカ之ニ對シ現首相「ロイド、ジョージ」氏ハ實際問題トシテハ次記事由ニ依リ困難ナルコトヲ議會ニ於テ明言セリ

一 國防省案ハ理想ナルモ之カ大臣タルヘキ偉材ヲ求ムルコトハ難シ戰時内閣ハ「スマッツ」將軍ノ如キ偉材アリテ能ク陸海軍統一ニ成功シタルモ平時ノ今日實際問題トシテ如何ニ統一スヘキヤハ種々ナル困難ニ遭遇ス即チ三省合一シ一國防省ヲ設クル案ハ理想的ナルモ之カ大臣タルヘキ偉材ヲ求ムルコト難ク然ラスムハ陸、海、航空ノ三部中其ノ長ノ有能有力ナル者他ノ二部ヲ壓倒シ又ハ互ニ相排斥スルノ弊ニ陷ル危險アリ

二 國防省案ハ憲法違反ナリ

國防大臣タル陸、海軍大臣ヲ其ノ委員ト爲ス以上議會ニ對シ責任者ヲ缺クコトトナレハナリ

三 宏大ナル英帝國ノ國防ハ英國ノ獨リ能クシ得ル所ニアラスシテ帝國、屬領、各殖民地相聯合シテ負擔スヘキモノナリ

一 國防省



備考

- (一) 戰時軍事内閣ハ總理、外務、大藏、國防ノ四大臣ヲ以テ組織ス
- (二) 本案ハ國防費ノ重複使用ヲ減シ緩急事項ノ調節ヲ適切ナラシムルモノナリ而シテ國防豫算ハ軍需本部經理局ニ於テ取纏メ國防大臣ノ決裁ノ後内閣ニ送付スルキノトス

二 參謀本部

戰前ノ編制ハ(一)作戰課(二)參謀服務課(三)軍隊訓練課ノ三課ヲ置キ陸軍省ノ一局トシテ國防、用兵並教育ヲ管掌シタルカ本大戰間之ヲ擴張シ新ニ課報課並「タンク」軍課ヲ設置シ本部長ノ權限ヲ擴張シテ作戰ニ關シ政府ノ命令ヲ發スルノ責務ヲ有スルコトナレリ

本案ハ以上ノモノニ比シ大規模ノモノニシテ參謀總長ノ直屬機關トシテ參謀委員會(將校、外務省代表者、殖民地代表者ヨリ成ル)及國防學校長(陸、海軍航空團並戰史研究部長)ヲ有シ部内機關トシテハ新

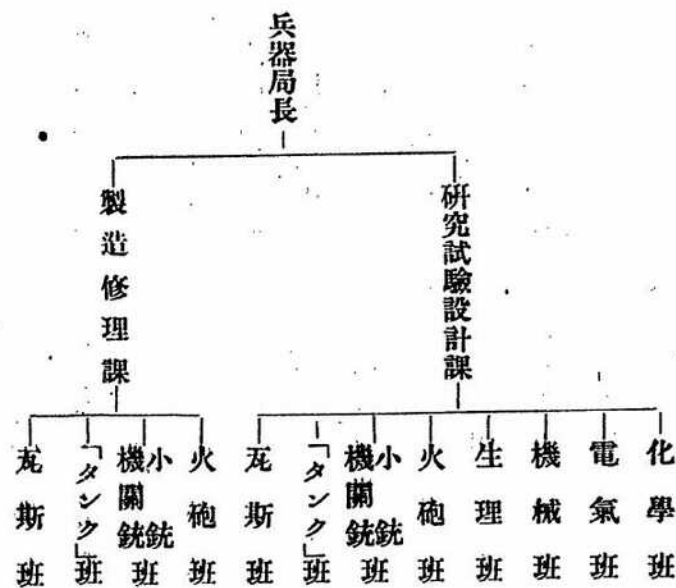
ニ(一)編制局、(二)動員局ヲ加ヘ從來ノ情報、作戰、教育ノ三局ト共ニ陸、海軍、航空部、殖民地部(動員局ハ特ニ總動員ヲ、教育局ハ國民教育ヲ掌ル)ノ業務ヲ管掌セシメトスルモノニシテ參謀總長ニハ政黨派ニ絕對ニ關係ナキ軍人ノ充用ヲ提唱セリ

三 軍需本部ノ編制

軍需本部新設ノ主旨ハ本大戰間新設セル產業動員上ノ機關タル軍需品省(海軍省所管ノ艦船、陸軍省所管ノ被服、藥品及農具ノ生産並補給ニ任ス)ニ則ラムトスルモノト觀察セラル而シテ本案者ハ大戰ノ一教訓トシテ國防大科學研究所ヲ新設シテ軍需本部ニ隸屬セシメ且兵器工廠ヲ之ニ屬シ一方陸軍本部内ノ大規模ノ兵器局ト連繫ヲ保持シ以テ國防省内ノ一部トシテ參謀本部、陸、海軍並航空本部ト對等ノ姿勢ニ置カムトスルモノニシテ原案者ノ國防省機關中ノ一異彩ト認ム

四 兵器局

從來ノ兵器局ハ陸軍省内ノ一局トシテ(一)砲兵課、(二)築城工事課、(三)兵營建築課ノ三課ニ分チ主トシテ砲兵材料、彈藥、築城等ヲ管掌セシメアルニ對シ本案ニ於テハ全ク面目ヲ一新シテ次ノ如ク編成セムトスルモノニシテ前記軍需本部ノ編制ト相俟テ論者ノ「科學ト軍事應用」ノ必要ヲ提唱スルノ一面ヲ窺知スルヲ得シ



備考

一 研究試験設計課ノ各編制ハ次ノ要領ニ依ル

理論研究部

班長 試験部

設計部

二 兵器局長ハ將校トシ課長以下ノ局員ハ軍人タルト否トヲ問ハス

第四 濠洲聯邦ノ軍備

濠洲聯邦
陸軍ノ軍
備方針

「要旨」 濠洲聯邦ハ戰後ノ軍備施設トシテ民兵軍ヲ戰前ノ約二倍ニ擴張シ且航空軍擴張ノ爲經費三、八五〇、〇〇〇磅ヲ計上スルヤ之カ説明ノ爲首相「ヒュース」氏ハ政治的獨立ト國民ノ自由トハ有力ナル國防ニ依リテ始テ之ヲ維持スルヲ得ヘキコトハ世界ノ現狀並歴史ノ實證スル所ナリト喝破シテ軍備ノ必要ヲ提唱シタル後(一)國際關係、(二)國際聯盟、(三)白濠主義及大英帝國ト濠洲ノ關係ノ四項ニ互リ軍備充實ノ必要ヲ提言セリ即チ露波戰ノ事實ヲ捉ヘテ軍備ノ必要ヲ述ヘ國際聯盟ノ權威如何ヲ知ルハ尙將來ニ屬ス且該規約上ノ義務履行ノ爲國際兵力建設ノ爲ニハ相當ノ軍備ヲ要スルコト、白濠主義ハ濠洲ノ死活問題タルト共ニ國際紛擾ヲ惹起シ易キモノナルカ故ニ背後ニ軍備アルヲ要スルコト(本洲ハ白人種防禦ノ前衛ニシテ地理的關係ニ於テハ全然孤立ナリ)濠洲ト英本國トノ關係ハ國際聯盟ノ如キ紙上ノ結合ニアラサルヲ以テ濠洲ノ存亡ハ英本國ノ興廢ニ關スルカ故ニ彼ノ「バナマ」運河ノ開鑿ト大戰ノ終局ニ依リ世界ノ外交並商業ノ中心カ太平洋上ニ移レル今日空然莫大ナル負擔ニ苦ム英本國ヲシテ更ニ太平洋上ノ全部ノ防備ヲ負擔セシムルコト能ハスト述ヘタル後「國際聯盟」一員並大英國ノ一領土トシテ將タ又其ノ地理的關係(太平洋ハ地球表面三分ノ一ヲ有シ南北水陸交通ノ世界商業ノ最大通路ニシテ同洋

上ノ諸島ハ航海、通商並諸政策上頗ル重要ナル地位ヲ占メ而シテ全然孤立ノ姿勢ニ在リ）上十分ナル防備就中太平洋上ノ防備ニ著手セサルヘカラス」ト結言セ

五六

「ヒュース」氏ノ提議セル兵力並豫算ハ概ネ次ノ如シ

民兵

千九百十三—十四年度

五四、〇五一

千九百二十一—二十一年度

一〇八、〇〇〇人

本職ノ軍人

千九百十三—十四年度

二、六二七人

千九百二十一—二十一年度

二、六〇三人

經費

千九百十三—十四年度

國防費全額 二、六四四、〇〇〇磅

千九百二十一—二十一年度

陸軍費 三、四二二、九六〇磅

伊國

第五節 伊國

軍備ヲ縮小シテ十人ト爲ス

「要旨」 千九百十九年十二月伊國ハ戰後ニ於ケル領土ノ擴張ニ伴ヒ軍備ヲ擴張スルノ要ヲ認メ從來ノ十二軍團ヲ十五軍團ト爲シ其ノ兵員並將校ノ總數ヲ千九百十年七月ノ法定平時兵力ニ比シ約一・三倍ニ擴張シタルモ昨年四月ニ至リ十七萬五千人ニ減少セリ本動機ハ戰後ノ財政難ニ起因シアルコトハ首相並陸

相ノ聲明ニ徴シ明白ナルカ吾人ハ更ニ該縮小ヲ見ルニ至リシ他ノ一事由トシテ戰後國內ニ著シク擡頭セラル勞働運動ノ赤化並國民思想ノ變遷ヲ舉クルコトハ左ノ事實ニ照シ必スシモ不條理ナル觀察ニアラサル

一

陸軍大臣ニ文官ノ任用 本任用ノ事由ニ關シ首相ノ聲明スル所次ノ如シ

陸軍省ノ指導ハ之ヲ文官ニ委スルヲ必要ト認ム民主主義各國ニ於ケルト同様國民ノ經濟及精神上

ニ大ナル關係ヲ有スル行政機關ノ一ハ之ヲ議員ノ直接勢力ノ下ニ置キ專門家ト相協力シ國家ト陸

軍トハ一致シテ事ニ當ラサルヘカラス

二 民主的革新事業トシテノ軍事施設ノ改正 陸軍大臣ハ其ノ上奏文中ニ（一）伊太利ハ革新的且民主的

諸事業ノ第一トシテ軍事ノ諸施設ヲ解決セムトス、（二）陸軍ハ國民ノ存在並利權ノ防護ニ必要ナル機

關トシテ國民生活ノ間ニ位置ヲ共ニセムコトヲ欲スルモノナリト報告シアリ

三 本大戰間ニ於ケル政爭問題

四 「ニツチ」内閣ノ社會政策

以下先ツ戰後ノ窘迫セル財政ト軍備縮小トノ關係、軍備方針ニ就キ首相並陸相ノ聲明ヲ掲ケ次ニ前記ノ政爭問題並社會政策ヲ舉ケテ勞働問題並國民思想ノ變遷ヲ窺フト同時ニ此等カ軍事諸般ノ施設上ニ及ボスヘキ關係ヲ考究スルノ資ニ供セムトス

財政ト軍備
ニ關スル
首相ノ演
説ノ要旨

第一 財政ト軍備トノ關係

五八

一 昨年三月二十二日首相ハ下院ニ於テ軍備ニ關シ「陸、海軍正規ノ編制ハ國家經濟ト新比隣諸國ノ狀態トヲ顧慮シ且戰爭ノ經驗ヲ參照シテ之ヲ決定セサルヘカラス」ト述ヘタル後戰後ノ財政難ノ挽回策トシテハ「歳出ノ制限」、「パンノ價格問題ノ解決」ト共ニ陸海軍費ヲ減少スルノ必要アルコトヲ主張シ陸軍軍備ノ縮小ニ關シ次ノ如ク説明セリ

陸軍大臣ハ成ルヘク速ニ陸軍編制改正案ヲ提出スヘシ該案ハ國家ノ新財政ノ要求、戰役ノ實驗、軍備制限ニ關スル國際協約ニ應ジ國家ノ負擔ヲ減少シ國家ト陸軍トノ新密度ヲ増加シ國民皆兵ノ實ヲ舉ケ陸軍ヲ以テ確乎タル國家防衛ノ具タラシムルモノナリ云々

二 伊國ノ軍備問題ハ財政ノ爲難ト受ケタルコトハ戰前一、二止マラサリシコトハ周知ノコトナルカ以下之ニ關シ若干ノ事實ヲ述ヘ同國ノ軍事施設考察上ノ資ト爲サントス

戰前ニ於
ケル軍備
ト財政間
ノ關係

伊國軍ノ平時兵力ハ千九百十年七月十七日法律ニ依リ規定セラレアルニモ拘ラス財政ノ關係ハ常ニ此ノ兵數ヲ保持スルコト能ハスシテ實際ノ兵力ハ法定兵力ノ約二割五分乃至三割五分ヲ減少セル豫算上ノ兵力ナリキ而シテ伊國軍ノ本大戰ニ參戰ノ前年三月ニ於ケル「サランドラ」新内閣ノ陸相問題ハ伊國軍備ト財政トノ關係ヲ觀察スルニ最適切ナル事例ト認ムルヲ以テ以下陸相選任問題ノ概要ヲ述ヘムトス

「サランドラ」新内閣ノ成立ニ當リ最初陸相ニ擬セラレタル「ポルロ」將軍ハ「リビヤ」州占領ノ爲増加セラ

レタル二萬五千人（從來ノ豫算ニ依リ決定セル兵）ハ不十分ナルヲ以テ少クモ七萬五千ヲ増加シ總兵額ヲ三十二萬五千人トシ經常豫算ニ八千萬法ノ増加並六億法ノ臨時費ノ支出ヲ主張シタルニ對シ首相及藏相ハ次記ノ理由ヲ以テ之ヲ拒絶セリ

（一）陸軍軍備ノ擴張ハ四隣列強ノ現狀ニ鑑ミ其ノ必要ヲ認ムルモ財政ノ狀態ハ「ポルロ」中將主張ノ如キ急劇ナル大擴張ヲ許サス

（二）伊國國防計畫ノ基礎ハ海軍ヲ攻勢的ニ、陸軍ヲ守勢的ニ使用スルニ在リ故ニ獨國及露國ヨリ脅威ヲ受ケツツアル佛、奧トハ狀態ヲ異ニスルヲ以テ兩國ノ兵力増加ヲ以テ直ニ伊國ニ適應スルノ要ナキノミナラス十分準備セル二十七萬五千人（從來ノ豫算上ノ兵力二十五萬人ニ新増加ノ二萬五千人ヲ通計シタル兵數ナリ）ノ伊國陸軍ハ平時國防ニ十分ナルノミナラス戰時ニ在リテモ國境築城ノ掩護ニ依リ容易ニ動員及集中ヲ行フヲ得ヘキヲ以テ現況ニ於テハ伊國ハ平時兵員ヲ二十七萬五千以上ニ増加スルノ必要ナシ云々

第二 軍備方針

軍備縮小
ニ關スル
陸軍大臣
ノ報告ノ
要旨

陸軍大臣ハ軍備方針ニ關シ昨年四月ノ上奏書中ニ「昨年十一月政府ハ軍ノ編制ヲシテ領土ノ擴張ニ適合スルモノタラシメ得ヘシト信セシモ此ノ數箇月ニ於テ財政一般狀態ニ對スル軍ノ現在ノ經費ヲ深ク調査スルニ戰前ノ比例ヲ決シテ超過セシメサルコト絶對的必要ナルノミナラス尙著シク此ノ比例以下タラ

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

五九

シムルノ要ヲ見ルニ至レリト報告シタル後其ノ編制ハ最少ノ經費ヲ以テ最大ノ效程ヲ發揮セシムルノ
考案ノ下ニ戰爭ノ經驗、軍事研究ノ進歩及國家ノ一般狀態等ヲ加味シテ之ヲ決定シタルコトヲ進言セリ
其ノ詳細ハ附表ノ如クナルカ試ニ一、二ノ改正要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 戰爭前ニ有シタル十二管區軍團ヲ各三師團ヨリ成ル十管區軍團ニ縮小ス
- 二 新國境ノ地勢ニ鑑ミ將來活動ノ範圍ニ制限ヲ受クヘキ騎兵ヲ縮小スルノ要ヲ認メ既設百五十中隊
ヲ四十八中隊ニ縮小ス
- 三 陸軍裁判所二十五箇ヲ約半數ニ又陸軍製造所ノミヲ以テ軍ノ需要ニ應セシムルノ舊原則ヲ捨テ廣
ク民間工業ニ依頼スルコトヲ圖リ以テ製造所ヲ縮小ス
- 四 戰前ノ繁駕砲兵聯隊三十九箇ヲ同二十七箇及機械牽引砲兵聯隊十五箇ニ改正ス
- 五 歩(獵)兵聯隊數ニハ變更ヲ加ヘサルモ第三大隊ハ單ニ幹部大隊ト爲シ勤務演習者ノ教育ヲ掌ル斯
ノ如クシテ訓練及動員ノ要求ト國家豫算ノ要求ヲ相調和ス

第三 政爭問題及社會政策ノ概觀

本大戰間
ニ於ケル
政爭問題

一 政爭問題 元來伊國ノ政黨ハ社會黨ヲ除クノ外ハ何レモ一定ノ主義政綱ヲ有セザルノミナラス各黨
員中ニハ主義並節制ノ觀念乏シク徒ニ權勢ヲ隨喜スル者尠カラズ唯社會黨ノ主力タル純社會黨ニハ名
士多キト黨ノ節制能ク行ハルヲ以テ其ノ行動ハ議院内ノ勢力微弱ナルニ比シ重要視セラレタルカ其

參戰間ニ
於ケル
社會黨
ノ行

ノ主義ナルモノハ周知ノ如ク最初ヨリ戰爭ニ反對シ爾後依然トシテ速ニ戰爭ヲ終熄セムコトニ努力セ
シノミナラス平和熱ヲ軍隊間ニ鼓吹セルカ如キ過激ナル一派アリシモ同黨首領ノ諸名士ノ所說穩健ニ
シテ此等ノ行動ヲ絶エス彈付スルヲ得タリ伊國ノ政黨斯ノ如クナルヲ以テ千九百十五年參戰後ヨリ休
戰ニ至ル間内閣ノ交迭スル三度而シテ其ノ交迭ノ動機ハ多ク今茲戰爭ヲ政權内爭ノ具ト爲シタルヤノ
觀アリ就中千九百十五年五月「サランドラ」内閣カ政權奪取ヲ策セル立憲黨ノ彈劾ニ對シ辭表ヲ提出シ
タルモ國王ノ却下ニ依リ留任シ茲ニ對奧宣戰トナリシ迄ノ幾多ノ曲折ハ國民ヲシテ次ノ如キ觀念ヲ生
セシムルニ至レリ

「此ノ政變間或ル一部ニ「戰爭ニアラスムハ革命タルヘシ」トノ聲起リ國王ノ決意如何ニ依リテハ勢
ノ激スル所王朝ニ危險ヲ及ホスニ至ルヘキヲ保シ難カラシメ現王朝ノ基礎薄弱ニシテ寒心スヘキモ
ノナリ云々」

越エテ一年對奧作戰失敗ハ各政黨ヲシテ戰爭政治ニ干與スルノ主張トナリ茲ニ「サランドラ」内閣ハ顛
覆シ六月中旬絶對ニ非戰論ヲ固執スル純社會黨其ノ他一部ノ者ヲ除キ「ボゼリ」氏ヲ首相トシ各政黨
ヲ網羅セル舉國一致内閣ヲ成立セリ爾後純社會黨カ或ハ議會ニ或ハ新聞、祕密出版等ニ於テ戰爭ノ罪
惡ヲ説キ「勝敗ナキ平和」ヲ結ハムゴトヲ主張スル者アルモ輿論ハ之ニ耳ヲ假サス國國一致戰意ヲ堅ク
シ絶對平和ノ獲得ニ努力スルニ至レリ千九百十七年中期ニ於ケル「カルソ」臺上ニ於ケル奧軍逆襲成功

シ從來政府ノ戰爭指導優柔ニ失スト爲ス者ハ外相ノ專斷ニ懷ヲタル者トニ依リ政府部内ノ不一致ヲ來シ此ノ間純社會黨ハ秘密出版ニ依リ全國自治團體ニ平和促進ノ目的ヲ以テ同盟罷業ヲ勸告シ「ジョリツチ」派並僧侶黨ノ平和促進運動ト相俟テ八月「トリノ」ノ暴動ヲ惹起セシメ一方軍隊ニ對スル平和論者ノ誘惑擾亂ハ戰意ヲ喪失セシムルニ至リシカ時恰モ伊軍未曾有ノ大敗ハ遂ニ政府ノ不信任ヲ議決シ十月三十日「オルランド」首相トシテ第三次内閣ヲ組織セリ一昨年六月ニ至リ同内閣ハ休戦後物資ノ缺乏ニ起因セル國民生活ノ不安並「ブユーメ」問題ノ解決難ニ基キテ倒レ新ニ「ニツチ」内閣ノ成立ヲ見ルニ至レリ而シテ十一月ノ總選舉ニ於テ中産階級及有權者中多數ノ棄權スルモノアリシトハ言ヘ過激思想ヲ有スル純社會黨並民主思想ヲ主義ト爲ス「カトリック」黨員ハ著シク其ノ勢力ヲ擴張スルニ至レリ

之ヲ要スルニ徒ニ政權ニ戀々トシテ時局問題ヲ政權内爭ノ具ニ供シ眞ノ國家統率者ヲ缺クニ至リタル結果ハ國論ヲ統一シテ舉國一致國難ニ殉スルノ國民精神ヲ麻痺セシムルニ至リタルコトハ一方食糧品ノ缺乏、物價ノ騰貴就中日常必需品ノ暴騰等ト相俟テ國民思想ヲ惡化シ建國ノ基礎薄弱ナル國家、國土ノ統一成テ眞ノ國民ヲ作ルヲ忽ニシタル國家ノ國家危機ニ際シ如何ナルモノナルカヲ吾人ニ戒示スルト共ニ斯ノ如キ國家力戰後ノ難局ニ當リ軍部當局ノ主張ト爾他一般ノ高等政策トヲ如何ニ將來調節シテ進ムヘキヤ換言セハ以上所述シタル事實カ國民思想ノ變遷並労働運動亦化ヲ醸生スルノ一動機トナ

リ隨テ此等ノ思想カ伊太利將來ノ軍事施設ニ影響ヲ及ホスヘキヤノ點ハ同國軍事ノ考究上看過スヘカラサル一要件ナリト認ム

「ニツチ」
内閣ノ社
會政策

二「ニツチ」内閣ノ社會政策 「ニツチ」内閣ハ戰後依然トシテ存續スル物價ノ騰貴就中日常生活價格ノ激増ハ一般國民ノ不平ヲ醸生シ労働運動ヲ惡化シテ各種ノ同盟罷工續出シ特ニ七月上旬發生セル「フロレンス」「ミラン」等ニ於ケル暴動並交通從業員ノ同盟罷工等ハ明ニ戰後ノ國民思想惡化ノ反映ト認め得ヘキヲ以テ銳意社會政策ヲ講スル所アリシカ試ニ一、二ノ事例ヲ舉ケ王室並當局ノ苦心ヲ考察スルノ資ニ供セムトス

(一) 歐洲強國ニ比シ無教育者ノ多キコトハ國家ノ損失大ナルニ鑑ミ無教育青年教育ニ關スル規定ヲ發布ス

(二) 千九百十九年八月勅令ヲ以テ食糧品ノ補給及分配ヲ監督シ糧食問題ノ調和ヲ圖ルト共ニ從來農業勸員並軍人救護會ノ規定ヲ以テ努力シタル農業發展、未開墾地ノ開拓並農民ノ職業配當ノ成果十分ナラサルニ鑑ミ九月勅令ヲ以テ新ニ未開拓地開拓ニ關スル規定ヲ公布シテ農產物ノ產出ヲ獎勵シ地主カ開墾ヲ怠レル場合之ヲ徵發シテ農業組合等ノ使用ニ供スルコトトセリ

(三) 詔勅ヲ以テ從來ノ王室費ノ五分ノ一強ヲ政府ノ收入ニ移シ節約ノ範ヲ示スト共ニ之ヲ軍人救護會ノ資源ニ供セリ

第四章 在營並服役年限

第一節 要領

伊國ハ在營年限ヲ二箇年ヨリ八箇月ニ短縮シ佛國內ニ於テモ在營短縮ノ論議盛ニシテ其ノ年限ハ多ク一箇年說ナリシカ近時ノ趨勢ニ依レハ一箇年半ニ歸著セムトスルカ如シ而シテ此等在營短縮ノ決定並論議ノ根基ハ伊國ニ在リテハ國民皆兵主義ノ徹底的實行ニアルモノト標榜シ佛國ノモノハ明ニ國家生産力ノ増進ニ存スルモノト認ム

以下此等問題ノ梗概ヲ記述セムトス

第二節 佛國

佛國ニ於ケル在營短縮問題ノ觀察上之ヲ顧慮中ニ置カサルヘカラス
以下各案ノ主張ニ關シ其ノ梗概ヲ記述セムトス

「要旨」 在營年限ノ短縮ハ戰後國家ノ新經營ノ爲採用セムトスルモノナルコト並輿論ハ之ヲ歡迎シアルコトハ推知シ得ヘキモ大戰ノ教訓上軍部力之ニ満足シテ主張スルモノニアラサルコトハ彼ノ陸相「ルフ・エーヴル」氏力在營二年制ヲ固執シ其ノ主張ノ容レラサルヲ見テ掛冠シタルコト及高等軍事會議力(一)青年體育ノ獎勵、(二)軍事豫備教育ノ普及、(三)長期志願服役者ノ増加等ノ條件ヲ附シテ在營年ノ短縮ヲ承認シタルコトニ徴セハ敢テ不條理ナル觀察トハ言ヒ難カルヘシ尙從來一年在營制ヲ論議シタル部外人士ハ提議ヲ見ルニ其ノ在營年短縮主張ノ交換條件トシテ前記軍事會議ノ要求シタル條件及各種ノ雜役並戰闘ニ關係ナキ諸勤務ニハ専ラ傭人ヲ使用シ一般義務兵ニ對スル教育時間ノ捻出ヲ提唱シタルコトハ同國

第一 一年半在營案

一 本案ハ高等軍事會議審議ノ結果議會ニ提出セラレタル新徵兵令案ノ規定スル所ニシテ在營年限ヲ一箇年半ト定メタルハ緊要ナル平時兵力ヲ維持スルノ要求ニ依リ定マリタルモノニシテ其ノ關係次ノ如シ

佛國ノ必要トスル平時兵力ハ七十五萬乃至八十萬ニシテ其ノ充實ハ(一)殖民地土人兵ノ徵集ニ依リ八萬乃至十萬、(二)長期服役志願者ノ八萬乃至十萬ト(三)本國ノ徵兵三十五萬乃至四十萬ヲ以テセムトスルモノナリ隨テ本國ノ前記徵兵人員ヲ充足スル爲ニハ各年ノ壯丁數ハ約二十五萬ナルカ故ニ一箇年半在營制ニ依リ三十七萬五千ヲ保有シ得ルト謂フニアリ

彼ノ陸軍卿「ルフ・エーヴル」氏ハ二年在營制ヲ必要トスル野戰將校中ノ大部ニ支持セラレ強硬ナル二年現役論者ナリシモ他開員全部ノ反對ト高等軍事會議モ條件附ヲ以テ一年半現役ヲ承認シタルカ爲途ニ辭職セルコトハ周知ノ事實ナリ

二 軍事會議ノ提出シタル條件トシテ目下傳ヘラルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

(イ) 青年體育ノ獎勵及軍事豫備教育ノ普及ヲ期スル爲之ヲ國家ノ施設ト爲スコト(未タ具體的案ハ

發表セラレス

(ロ) 長期志願服役者ヲ増加スル爲之ニ必要ナル獎勵金等相當ノ經費ヲ増加シ且總テノ官公吏ハ二年以上現役ニ服シタル者ニアラサレハ採用セストノ規定ヲ設クルコト(豫算案ハ未タ公表セラレス)

(ハ) 一年半現役制ハ千九百二十二年ヨリ實施スルヲ原則トスルモ(一)現在二十萬ノ殖民地土人兵ヲ三十萬人ニ増加スルコト、(二)現在五萬ノ長期服役志願兵ヲ八萬乃至十萬ニ増加スルコトノ條件ヲ満足ニ解決セラルルニアラサレハ其ノ實施ヲ延期スルコト

三 過般「マタン」紙ハ不人望ナル二年兵役ト題シ「政府力常ニ満足ヲ買ハムコトニ努ムル農民階級ノ間ニハ二年在營制ハ頗ル不人望ニシテ此ノ間ノ消息ニ關シテハ政界ノモノハ十分ニ看破シアルヲ以テ在營短縮問題ニ對スル政府當局間ノ意見衝突ハ別トナシ議會ニ現ハルヘキ反對論ニ注意ヲ要ス云々」ト記載セリ本觀察ニシテ正鵠ヲ得タルモノトセハ佛國力千八百七十二年ノ徵兵令ヲ制定シタル以降數次ノ改正ヲ實施スルニ至リタル動機ノ一トシテ政界ノ容喙ヲ指摘シタル「メートロ」中將「意見ト相俟テ將來ノ佛國軍軍事施設ヲ觀察スル者ノ一顧ヲ要スヘキ問題ナリト認ム

第二 一年在營案

「要旨」 本案主張ニ關スル各論議ノ要旨ヲ綜合觀察セハ一ハ精兵主義ヲ抱迄主張スルモ戰後ノ生産復興ノ爲勢力供給ノ必要ヲモ顧慮シ此ノ兩要求ヲ調節セムトスルモノ即チ在營短縮ノ交換條件トシテ各種ノ

特典ヲ以テ所望ノ長期志願服役兵ヲ得ムトスルモノト他ノ一ハ本大戰ノ教訓トシテ短期教育兵ノ價值ヲ推賞シ以テ在營ノ短縮ヲ主張スルモノトニ區別スルヲ得ヘシ前說ハ一將軍ノ專ヲ提議スルモノニシテ後說ハ主トシテ社會黨ノ提唱スル所ナリ以上ノ兩說ニ對シ純軍事上ノ見地ヨリ之ヲ批判セシムレハ其ノ主張ハ相當ノ理由ヲ存立スルモノト認メ得ヘク特ニ將軍ノ精兵主義ヲ提唱スルコトハ這次大戰間ニ於ケル佛國軍ノ偉績並聯合國軍ノ核心トシテノ實績ニ照シ條理アル主張ナリト認ム社會黨ノ提議ニシテ青年軍事豫備教育並一般體育ノ獎勵ニ依リ之ヲ徹底ノ實績ヲ擧ゲ得ヘキコトヲ確證ヲ掲ケ之ヲ前提トシテ在營ノ短縮ヲ主張スルモノトセハ前記將軍案ニ比シ其ノ優劣ノ點ハ一般的建軍ノ主義ヨリ大ニ論究ノ餘地ヲ存スヘキモ茲ニハ戰後ノ復興ヲ必須ノ政策トスヘキ佛國ノ現下並近キ將來ニ於ケル國勢ニ鑑ミ軍ニ一案トシテ之ヲ認メムトス

以下各案ノ要旨並所見ヲ記述セムトス

「メートロ」中將案

「要旨」 將軍ハ千九百十三年ノ徵兵令ハ佛國ヲ救ヒタルモノナリト所論ノ冒頭ニ於テ述ヘタル戰後モ依然トシテ精兵主義ヲ以テ建軍ノ根基ト爲スノ必要ヲ述ヘタル後一方ニ於テハ戰後ノ産業復興ノ爲勢力供給ハ刻下ノ急務ナルヲ以テ在營年限ノ短縮ハ避ケ得サルノ關係ニアルコト及現制徵兵令力全壯丁ニ對シ平等ニ在營三年ヲ要求スルハ適當ナラスト爲シ徵兵令ヲ改正ヲ主張セリ

以下將軍カ精兵主義ヲ標榜スルノ根基ト認ムヘキ點ノ要旨ヲ掲ケ次ニ改正セムトスル徵兵令ノ要旨ヲ述
ヘムトス

一 精兵主義ノ主張

「三年兵役徵兵令ハ佛國ヲ救ヒタリ」千九百十四年八月上旬ノ開戦ニ際シ佛軍第一回ノ勝戦タル「マ
ンジュエンヌ」ノ戦闘ヲ回想セム當時若シ二年兵役徵兵令ニ依ル定員僅少ニシテ（三年在營ノ新徵兵令ハ十月
「ローレン」州ノ我カ國境掩護部隊ノ）且教育不完全ナル國境掩護部隊ナリシナラムニハ此ノ部隊ハ恰モ木葉ノ
兵力ハ高足且ニ充足スルヲ得タリ）如ク席捲セラレ獨軍ハ我カ國境ノ破牆孔ヨリ「マルヌ」河ノ線ニ突進シ東方ニ對シ行ヘル我カ軍ノ集中
ヲ擾亂シ「ル、バロア」ヲ占領シ「マルヌ」河谷ヨリ巴里街道ヲ脅威セシナルヘク此ノ間獨軍ノ主力ハ之
ニ對シ十分ナル抵抗力ヲ有セサル白耳義ヲ横斷シ我カ高等統帥部ノ豫想ニ反シ北方ヨリ我カ國境ニ向
ヒ殺到シ「オアズ」河谷ヨリ巴里ヲ脅威セシナルヘシ即チ佛國ハ兩方面ヨリ同時ニ獨軍ノ侵略ヲ受クル
コトトナリ體ニ其ノ死命ヲ制セラレタルナラム何トナレハ斯ノ如キ情況ニ於テハ「マルヌ」ノ戰勝ヲ期
スルコトハ不可能ナリシヲ以テナリ

二 徵兵令ノ改正

本改正ヲ主張スルノ動機ハ既ニ述ヘタル如ク（一）現制徵兵令カ全壯丁ニ對シ平等ニ在營三年ヲ要求スル
コトノ不條理、（二）在營年ノ短縮ニ伴フ軍隊素質ノ低下ヲ防止スル爲長期志願服役兵制ノ採用トニ歸ス

徵兵令改
正案

ルヲ得ヘシ以下其ノ主張ノ梗概ヲ述ヘムトス

（一）平等服役制ノ不利 中産階級又ハ富豪ノ子弟ハ自己並家族ノ爲大ナル損害ナク三年間服役スル
コトヲ得其ノ不在ハ家族ノ爲苦痛悲哀トナルコト稀ナリ之ヲ家族ノ扶養者トシテ其ノ得タル勞銀
ヲ以テ一家糊口ノ資トスル多數勞働者及職工ト比較セハ如何彼等ノ召サレテ入營セル後ノ家族ノ
困窮ハ想像スルニ難カラス

「註」佛國新徵兵令中ニハ次ノ如ク家族扶養者ニ對スル手當ノ恩典ヲ規定シアリ

「家族ノ扶養者タル壯丁ノ入隊」ノ場合ハ本人在隊中毎日其ノ家族ニ一法二五ノ手當ヲ給
シ尙其ノ家族中ニ養育中ノ十六歳以下ノ小兒アルトキハ其ノ一名ニ宛テ毎日〇法五〇ヲ給ス
（二）長期服役者制度ノ必要 軍隊ノ中堅トナリ軍隊ノ傳說並軍人精神ヲ維持スル爲本制度ハ在營短
縮ノ交換條件トモ見ルヘキモノニシテ其ノ兵數ハ各年ノ一般徵兵人員二十二萬人ニ對シ約十五萬
人ヲ必要トス其ノ算定ノ基礎左ノ如シ

騎兵及騎砲兵

一五、〇〇〇

騎兵及騎砲兵ハ三年兵役ナラサルヘカラス而シテ飛行界ノ長足の進歩ハ開戦前ノ兵力五萬九
千ヲ約四分ノ一ニ減少スルモ大ナル弊害ナキモノト判斷スルヲ以テ長期服役志願者ヲ以テ充
用スヘキ兵數ハ一萬五千ト爲ス

航空兵

三、〇〇〇

七〇

操縦者、観測者及機械工卒ノミハ長期服役志願者トス

歩、野砲兵等ノ基幹人員並其ノ他ノ者 一、〇、〇〇〇

歩兵、野砲兵、工兵並各種勤務ニ於テ新募兵ノ助教タリ模範兵タルヘキ爲長期服役者ヲ充用ス其ノ人員ハ各兵科及各種勤務ニ屬スル一年次總人員(約二十二萬人)ノ半數十一萬人トス

殖民地志願者

五、〇〇〇

殖民地軍隊ノ下級幹部ノ大部ヲ補充シ且土人隊ノ教官及模範兵指導者トシテ白人ヨリ成ル基幹隊若干ヲ編成ス

計

一三三、〇〇〇

此ノ他各種工卒ノ如キ一年以上ノ在營ヲ必要トスル各種補助勤務ノ要員ヲ積算シ大約十五萬人ト爲ス

(三) 長期服役者制度ハ現制ニ比シ經費上必スシモ不利ナラス 長期志願服役者中下士タルニ必要ナル才幹ヲ有スル者ハ一乃至五年ヲ一期ト爲シ三十五歳迄再服役ヲ許可ス而シテ是等ノ志願者ハ軍人生活ニ趣味ヲ有スル者或ハ長期服役者ニ與フル恩典即チ日給トシテ最初三年ノ服役期間二十五仙、最後ノ二年ノ服役期間ハ五十仙ヲ給與シ退營賜金トシテ二千五百法ノ賜金ニ依リ所望ノ志願

者十五萬ヲ十八歳乃至二十一歳ノ壯丁中ヨリ求メ得ヘシ而シテ經費上ノ見地ヲ以テ本制度實施ニ伴フ所要ノ年額ハ現徴兵令ニ依リ貧困ナル召集者家族ニ仕拂フヘキ扶助料年額ニ比シ小額ノ經費ヲ以テ支辨シ得ルノ利益アリ其ノ算定ノ要領次ノ如シ

(イ) 手 當

日給 最初ノ三年間ハ二十五仙、最後ノ二年間ハ五十仙

退營賜金

二千五百法

(ロ) 經 費

退營賜金及給料所要年額ハ九千四百萬法ニシテ其ノ内譯次ノ如シ

退營賜金支給年額

七千五百萬法

長期服役志願者十五萬人ニ對シ二千五百法ノ退營賜金交付ノ爲(五箇年ニ互リ支出スヘキ

モノトス)所要經費ハ

$150,000 \times 2,500 = 375,000,000$ 法

此ノ制度固定後規則的ニ循環スルニ至ラハ毎年滿期除隊者ハ總人員ノ $\frac{1}{5}$ ナルヲ以テ所要年額ハ次ノ如シ

$375,000,000 \div 5 = 75,000,000$ 法

給料支給年額

千九百萬法

七二

長期服役者ニ支給スル日給ハ最初ノ三年間ハ二十五仙、最後ノ二年間ハ五十仙ナルヲ以テ此ノ給料年額ハ次ノ如シ

$$150,000 \times \frac{3}{5} \times 0.25 = 12,500 \text{ 法}$$

$$150,000 \times \frac{2}{5} \times 0.50 = 30,000 \text{ 法}$$

$$(22,500 + 30,000) \times 365 = 16,162,500 \text{ 法}$$

以上要スルニ退營賜金及給料所要年額九千四百萬法ハ之ヲ千九百十三年徵兵令ニ依ル扶助料年額一億法ニ比スレハ約六百萬法ヲ減少ス

(ハ) 服役間ノ特典

服役第二年以降一箇年ヲ加フル毎ニ一本ノ比ヲ以テ臂章ヲ増加シ軍刀又ハ統劍ニ特別ノ緒ヲ附シ服役第二年以降ハ十時間ノ業間外出ヲ許シ又整備セル特別ノ室ヲ與フ

「ポール、ヂューメ」氏案

「ポール、ヂューメ」氏案

「要旨」 本案ハ青年軍事豫備教育及一般體育ノ鍛鍊ヲ以テセハ在營期間ハ一年ニ短縮シ得ヘキコトヲ提唱スルモノニシテ斯ノ如キ在營短縮ニ伴フ利益トシテハ戰後ノ生産復興ニ努力ヲ供給シ得ルト謂フニテアリ但シ本案ニ於テモ長期志願服役制ヲ採用セムトスルノ主旨アルハ前記將軍ノ提議ニ類似スルモノアリ

ト觀察セラル以下説論ノ梗概ヲ述ヘムトス

一 一年在營制ノ主張 壯丁ニシテ入營前學校教育間及卒業後行進、競技、操銃、射撃等ニ依リ身體ヲ鍛鍊シ以テ兵役ノ準備ヲ爲サハ若干日ニテ完全ナル兵士トナリ得ヘキヲ以テ教育ト訓練ニ必要ナル最少期間ヲ一年ト爲シ斯ノ如クニシテハハ危險ナル青春期ニ於テ健實ナル部隊ト爲シ一方ニ於テハ國民ノ生産力ヲ節約シ戰後ノ産業復興ニ之ヲ供給スルコトヲ得ルノ利益アリ

二 常置部隊ノ種類並人員 本部隊ハ志願兵及再服役者並外人土人兵ヨリ成リ其ノ種類並人員左ノ如シ

志願及再役下士	三萬人
佛國駐屯殖民地部下士卒	二萬人
志願及再服役ノ佛國兵	五萬人
北部亞弗利加ノ外人及土人兵	五萬人
通計	十五萬人

以上ノ中志願及再役下士ハ精神的並金錢上ニ満足ナル待遇ヲ與フルニ於テハ其ノ徵集ヲ確保シ得ヘシ又常置部隊ノ第二要素タル志願及再役ノ佛蘭西兵ノ所望兵數ヲ得ムカ爲ニハ賞與、俸給、除隊後ノ任用保證等ノ便宜ヲ計ラサルヘカラス其ノ他殖民地軍隊ノ下士卒ハ冒險ト長途ノ旅行ヲ好ム我カ

國民性ニ依リ要員ヲ得ルコト容易ナルヘク尙士人兵ハ假令在營中ニ於ケル賞與ト俸給トヲ過重ナラシメサルモ除隊後相當ノ名譽ヲ保證セシムルコトニ依リ又外人兵ハ本大戰ニ好評ヲ博シ其ノ存在ヲ講和條約中ニ規定セラレタルヲ以テ彼等ノ所望ノ如ク將來我カ隊伍中ニ留マルヘシ

三 義務服役者 一箇年ノ義務的兵役ニ依リ徵集セラルル者ニシテ將來十五箇年間ハ二十歳ノ青年約二十萬人ヲ得ルコト困難ナラサルヘシ而シテ其ノ入隊ハ動員ヲ顧慮シ概ネ三次(三分ノ一ハ八月、其ノ他三分ノ二ハ十一月及二月ニ入營セシム)ニ入營セシム是レ軍隊ハ一年次ノ徵兵ニ依リ組織セララルヲ以テ是等ノ兵員カ戰闘兵トシテ使用シ得サル間ニ動員ノ必要ヲ生スル時ハ單ニ常置部隊ノミ動員シ得ルニ過キスシテ國境ノ掩護ハ不十分ナルヲ免レ得サルヲ以テナリ

「アンリー、バーテ」氏案

「アンリー、バーテ」氏案

「要旨」 本案ハ(一)地方職業ヲ顧慮シテ行フ選兵、(二)雜役及其ノ他ノ非戰闘勤務ニハ一般徵集兵ヲ充用セサルコト、(三)體育ノ獎勵ノ三件ヲ前提ト爲シ形而下ノ軍隊教育ハ各兵種ヲ通シ乃至十二箇月ヲ以テ目的ヲ達成シ得ヘク形而上教育即チ義務心、紀律、責任觀念等ハ之ヲ兵營生活ニ期待スルヲ得スト提論セリ以下氏ノ所論ノ要旨ヲ記述セムトス尙氏モ前述セル諸案ノ主張ト同シク長期服役者充用ノ必要ヲ認メタリ

一 教育所要日數 體育會ニ於テ行進、馳驅、飛越及土工等ノ練習ヲ行ヒ衷心ヨリ軍紀ヲ以テ動作シ

等輩ニ對シテハ自己ノ義務、責任、自覺等ヲ以テ應接スルコトヲ習得セハ未來ノ步兵ニ教ユヘキコトハ單ニ小銃、機關銃等ノ使用並武器ノ保存法ノミ又騎兵ニハ先天的ニ馬匹嗜好心ノ發達セル壯丁ヲ選定スレハ數箇月ヲ以テ完全ノ騎兵ト爲スコトヲ得ヘシ但シ新馬ノ調教ハ調馬卒隊ニ於テ實施セシムヘシ砲兵ハ砲手ト取者トノ分業教育ト爲シ兩者共ニ地方職業ヲ顧慮シテ選兵セハ步兵、騎兵ト同一ノ期間ニ於テ必要ノ教育ヲ終了セシメ得ヘシ工兵ノ教育亦然リトス

以上ノ如ク一般體育ニ依リ未來ノ軍人ニ體力並氣力ヲ與ヘ壯丁トシテ軍事教育ヲ受クル爲ノ資ニ供スルコトトセハ入營前特別ノ軍事豫備教育ヲ行フハ必要ナキコトナリ

二 雜役並非戰闘勤務ニハ一般徵集兵ヲ使用スヘカラス 斯ノ如キ業務ハ傭人又ハ再服役者ニ委任シ新兵教育ヲ障害セサルヲ要ス此ノ主義ハ千九百五年陸軍當局者ノ認メタル所ナルモ不幸ニシテ殆ト實施セラレサルモノナリ以上ノ如ク選兵ニ教育ニ當局若シ所要ノ改善ヲ加フルナラハ兵卒ノ軍事教育ハ兵種ノ如何ヲ論セス十乃至十二箇月ヲ以テ之ヲ實施スルヲ得ヘキモノナリ

第三 二年在營案

二年在營 本案ハ「ド、ラクロア」將軍カ專ラ經費問題ヲ根據ト爲シ主張スルモノナリ但シ將來有ラユル危險消滅スルニ至ラハ更ニ本主張ノ二年在營ハ之ヲ短縮シテ國民ノ負擔ヲ輕減スヘキ必要ヲ附記セリ以下説論ノ要

旨ヲ左ニ掲ケムトス

二年在營制ノ必要 一年次兵ハ専ラ教育及軍事準備ヲ施シ他ノ一年次兵若ハ一年次兵弱ノ人員ヤ諸勤務ヲ完全ニ行ヒ且國家ノ資源及戰爭ノ要素タル各種器械ノ保存、警備ニ緊要ナルヲ以テナリ而シテ往時計手、職工、軍部使用人又ハ作業者トシテ軍人以外ノ傭人ヲ使用シタルコトアルモ這ハ莫大ノ經費ヲ増加スルヲ以テ數年前之ヲ廢止シタリ以下自己ノ所論ト全然一致スル下院軍事委員會ノ報告中ニ記載セル千九百二十年五月ニ於ケル在營者ノ景況ヲ參考ノ爲次ニ記載セムトス

在營人員ノ景況 千九百二十年五月ノ在營者(千九百十八年兵ハ四月退營ス)ノ景況ハ次ノ如シ

區 分

人 員

佛國外ニ勤務スル者

八五、〇〇〇

(教育其ノ他各種作業者(勤務者)

一六五、〇〇〇

佛國內ニ勤務スル者(受罰又ハ病氣不在者)

二五、〇〇〇

新兵(一箇月半ノ教育ヲ經タル)

一七〇、〇〇〇

勤務者(十六萬五千)ノ内譯ハ次ノ如クニシテ其ノ兵數ハ概シテ初年兵(十七萬)ト同數ナリ

種 別

人 員

軍隊教育場、學校教育

二〇、〇〇〇

行政官、軍隊ノ用人、計手、書記、職工、電話手、

六二、〇〇〇

貯金、復員費、年金ノ決算及復員票調製所要人員

六、〇〇〇

要塞又ハ衛戍地勤務ニ定メラレタル者

左ノ諸隊ニ勤務スル者

六四、〇〇〇

各司司令部、砲工兵監部、衛生、徵兵、馬政、軍

事司法、航空運輸、自轉車勤務

回復地方大臣及工業復舊省(現時砲兵科ニ移ル)

一〇、〇〇〇

貯藏品決算ニ屬スル者

三、〇〇〇

外國勤務ニ從事スル者

一六五、〇〇〇

計

「註」千九百二十年兵ハ次ニ示ス如ク其ノ入營人員ハ約十七萬ニ過キス又志願兵服役者ハ現時減少ノ傾向アルヲ以テ當局ハ其ノ増進ニ關スル手段ヲ研究セリ

千九百二十年兵(千九百十八年検査ノ結果)

二〇〇、四九七

兵役ニ適スル者

八、六二八

計

二〇九、一二五

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

七七

七六

減耗數 各年次員入隊時ニ於ケル減耗率ニ應スル人員
十月乃至十一月ニ至ラサレハ入營セサル學生

計

一三、一二五
二五、〇〇〇
三八、一二五
一七一、〇〇〇

差引計

伊 國

第三節 伊 國

「要旨」 昨年四月徴兵令ヲ改正シ一般國民ニハ八箇月、特殊事情アル國民ニハ三箇月ノ在營制ト爲シ從來ノ兵役免除特典ノ制ヲ廢止シタリ而シテ本改正ノ事由ハ陸相ノ上奏ニ徴セハ國民皆兵主義ヲ發揚シ新時代ノ要求ニ合致セシメムトスルモノナリ尙陸相ハ「此等ノ改正ヲ以テ國民ノ與望ヲ擔フヘキ國軍ノ決定的制度ト爲スヲ欲セス」ト進言シ將來尙改正ヲ期スル抱負ヲ開陳セリ之ヲ要スルニ伊國ノ在營短縮ノ動機ハ國民皆兵主義ノ實行ヲ期セムトスルニ存スルハ前述ノ如クナルカ其ノ裏面ニハ曩ニ同國ノ軍備問題ヲ觀察スルニ當リ既述セル如ク戰後ニ於ケル生産復興及國民思想並勞動運動ノ變遷カ本改正ヲ促進スルニ至リタル一原因ト觀察セムトス以下徴兵令改正ノ要旨並關係條文ノ梗概ヲ掲ケ併セテ若干ノ所見ヲ述ヘムトス

第一 徴兵令改正ノ要點

新徴兵令
ノ要旨

改正事項中顯著ナルモノハ(一)現制兵役ニ適スル者ノ三種區分ヲ廢止シ一種ト爲シ現役二年ヲ八箇月ニ短

縮シタルコト、(二)從來兵役免除ノ特典ヲ與ヘ來レル者ハ悉ク之ヲ召集シ在營三箇月ノ服役ヲ行ハシムルコト、(三)壯丁ノ能力並地方的職業ノ種類ヲ顧慮シ強健ナラサル者ハ室内勤務等ニ又各兵科ニハ地方職業ヲ利用シ得ル如ク壯丁ヲ配賦スルコト、(四)勤務ニ基因セル傷疾、疾病、死亡者ノ實兄弟ヲ有スル壯丁ニハ短期在營ノ特典ヲ與ヘタルコト、(五)亦經濟上ノ見地ヨリ農、工、商業ノ經營ニ必要ナル者ニ對シテハ徵集延期ヲ許可シタルコト等ナリ

「註」 舊徴兵令ノ服役區分次ノ如シ

壯丁ニシテ兵役ニ適スル者ハ之ヲ分チ三種トス各種ノ服役年限左ノ如シ

種 類	現 役			無 期			歸 休			計
	第一種	第二種	第三種	第一種	第二種	第三種	第一種	第二種	第三種	
第一種	二年			六年			四年			七年
第二種		八					四			七
第三種			一						一	九
計										一九

第一、第二種ハ平時ニ於テ何等服役免除ノ特典ヲ受クヘキ資格ヲ有セサル者ヨリ成リ第三種ハ家事上ノ故障ニ依リ平時地方民兵以外ノ服役ヲ免除セラルル者ヨリ成ル而シテ第一種ト第二種ト異ル所

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

ハ前者ハ年々常備軍ノ新兵ニ充ツヘキ者ヨリ成リ後者ハ我カ國ノ補充兵ニ相應スルモノニシテ年々ノ徵募數ニ超過シタル者ヨリ成ルモノトス
但シ近年伊太利ニ於テハ兵役免除ノ特典多キカ爲徵兵検査ノ合格者ハ殆ト總テ之ヲ第一種ニ編入シテ徵集セサルヘカラサルカ故ニ第二種ニ屬スル兵員ハ極メテ僅少ナリト謂フ

第二 新徵兵令ノ要點

其一 座職勤務 次ノ者ハ陸軍ニ徵集セラルルモ特ニ座職勤務ニ就カシメラルルモノトス

一 現行徵兵令第五十八條ノ示ス條件ニ該當シ且年齢ノ關係上他ノ年級ニ延期スル能ハサル者

「註」(第五十八條ハ身體虛弱ナル者ニ對スル規定ナリ)

二 勅令ヲ以テ裁可セラルヘキ附表ヲ以テ特ニ規定セララルル軍事勤務ニ限り適任ナル體格ヲ備フル者

其二 在營年限短縮者(三箇月) 次ノ條件ノ一ニ該當スル壯丁ニ許可セラルルモノトス

一 年齢六十五歳ニ達シタル父或ハ現行徵兵令第七十二條第一ノ示ス條件ニ在ル父ノ獨子

「註」(第七十二條第一ハ老衰又ハ疾病若ハ傷疾等ニ因リ生業ニ就キ能ハサル狀態ニ在ル者ヲ示ス)

二 同棲ノ條件ニ依リ且他ニ十六歳以上ノ男子ヲ有セサル父ノ長男

三 寡婦ノ獨子

四 他ニ十六歳以上ノ子息ヲ有セサル寡婦ノ長男

五 年齢七十歳ニ達シ且男子ヲ有セサル祖父ノ獨孫

六 男子ヲ有セサル寡婦タル祖母ノ獨孫

七 孤兒中ノ最長兄ニシテ十六歳以上ノ兄弟ヲ有セサル者

八 孤兒タル姉妹カ未結婚或ハ寡婦ニシテ十六歳以上ノ子息ヲ有セサル者ノ唯一ノ兄弟

九 現行徵兵令第七十二條第一ニ示ス條件ニ該當スル一人ノ兄弟ヲ有シ而シテ他ノ兄弟ハ同條ノ示ス所ニ依リ家族中ニ存在セサルモノト認メラレタル孤兒ノ末弟

「註」(第七十二條第一項ハ本令第八條ニ於テ註證セリ同條ノ示ス所ニ依リ家族中ニ存在セサルモノト認メララルモノトハ失踪或ハ十三年以上ノ禁錮ニ在ルモノヲ謂フ)

一〇 尙次ノ條件ニ該當スル實兄弟ヲ有スル壯丁ニ對シ在營期限短縮ヲ行フ

(イ) 勤務ニ原因シタル負傷若ハ疾病ニ因リ死亡シタル者(入營中、召集解除中或ハ徵兵免除中)

(ロ) 勤務ニ原因シタル負傷ニ因リ癱疾トナリ恩給ヲ受ケアル者

本條ニ示ス規定ニ依ル入營期限短縮ハ壯丁ノ兄弟中兵役義務ニ服スル年級ニ屬シ現法令實施

前第二種ニ決定若ハ移轉セシメラレタル者ナキ場合ニ限リ之ヲ許可ス

其三 徵集延期 平時ニ於テ自己又ハ家族ノ爲農業、工業或ハ商業ノ經營ニ必要缺クヘカラサル者ニ對シテハ一年若ハ最大限二年ノ徵集延期ヲ許可シ得

第三 新徵兵令ニ對スル所見

戰前ノ徵兵令中ニ規定セラレアル廣義ノ家事故障ニ基ク服役免除ノ特典ノ如キハ唯露國ニ於テ之ニ類似スル特典制ヲ認ムル外往昔ノ徵兵令ハ兎ニ角大戰直前ノ列強ノ徵兵令中ニハ其ノ類ヲ見サルモノニシテ露國並伊國共ニ此ノ兵役免除特典ノ爲ニ素質優良ナル壯丁ヲ徵集シ得サリシ事實ニ徵スル時ハ今茲伊國カ徵兵令ヲ改正シテ本特典ヲ廢止シタルハ蓋シ當然ト謂ハサルヘカラス而シテ本改正ニ依リ是等特典者ハ短期在營スルコトニ規定セラレ依然トシテ一般國民ト差別的優遇ヲ與ヘムトスルコトハ一方ヨリ批判スレハ國民皆兵ノ主義ヲ形式竝内容ニ於テ發揮セルヲ認ムヘキト同時ニ所謂「平等」ノ主義ニ更ニ一步ヲ進メ國民ノ境遇ニ依リ差別ヲ設ケタルモノトシテ國民ノ一部ニハ憐ニ歡迎セラルル改正ト謂フヲ得ヘシ然レトモ斯ノ如キ特典制ハ當局ノ施設ニシテ至公至平ヲ期スル場合ニ於テモ往々茲ニ缺陷ヲ醸生シ遂ニ之ヲ廢止シ國民平等ニ同一ノ兵役義務ニ服セシムル制度ニ至ルヘキコトアルヲモ亦考慮中ニ置カサルヘカラス

佛國ノ千八百八十九年ノ徵兵令即チ二種ノ服役制ニシテ甲種三年現役、乙種一年現役（特典者家族扶

養者「寡孀ノ子息、孤兒ノ長兄、七十歳以上ノ老人ノ長子等ハ其ノ一例ナリ」ノ規定カ改正ヲ見ルニ至リシ動機ハ以テ參考トスルニ足ルヘシ以下其ノ大要ヲ述ヘムトス

一年現役ノ特典ヲ有スル此ノ徵兵令ハ新定ノ初ニ當リテハ眞ニ理想的ノモノトシテ看做サレタルカ政治家ハ其ノ選舉民中法文ノ解釋如何ニ依リ特典者タルヲ得ヘキコトヲ覺知シ其ノ子弟ヲシテ本恩典ニ浴セシメムトスル熱望ヲ抱懷スルコトヲ知ルヤ茲ニ特典制ノ弊害ヲ醸生シ政府當局者ト是等代議士間ニ於ケル數次妥協ノ結果生シタル特典者數ノ増加ハ遂ニ各年ノ徵集人員中三年服役者ト一年服役者ト殆ト同數ニ達スルノ状態トナリ茲ニ軍部ノ猛烈ナル抗議ニ依リ同徵兵令ハ廢止セラレ國民一般ニ二年現役ニ服務スヘキ本大戰直前ノ徵兵令ノ公布ヲ見タリ

之ヲ要スルニ伊國今同改制ノ二種ノ服役制ハ將來一種服役制ニ達スヘキ過渡期ノ制度タルニ過キサルヘキカ或ハ伊國徵兵令ノ特色トシテ恒久ニ之ヲ保持シ行クヘキヤ否ヤハ注目ニ値スト謂フヘシ

第四節 米、英國並其ノ他ノ諸國

英、米兩國ハ本大戰間採用セル徵兵制度ヲ戰後廢止シテ再ヒ志願兵制度ニ復歸シタルヲ以テ志願ニ依ル服役年ハ既述佛、伊兩國ノ徵兵制採用ノモノトハ其ノ趣ヲ異ニシアルハ明瞭ナルモ參考ノ爲以下若干之ヲ記述セムトス

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

米、英、兩國並其ノ他

「要旨」 過般制定セル陸軍常備兵力令ニ依リ現役志願ノ年限ハ一年及三年ノ二種ト爲シ再役ハ三年ト規定シタルカ翻テ米國軍ノ戰前ニ於ケル三箇年制時代ヨリ前記決定ニ達スル迄ニ於ケル該年限問題ヲ觀察セハ幾多ノ曲折ノ存スルモノアルヲ以テ以下該經過ノ概要ヲ述ヘムトス

一 正規軍ノ志願者タル資格ハ年齡十八歳以上三十五歳以下ノ男子ニシテ其ノ服役誓約期限ハ三箇年トス而シテ本年限ヲ誠實ニ勤務シタル者ニ限り更ニ再服役ヲ許可ス而シテ連續此ノ如ク再服役ヲ爲シテ前後ノ勤務年數三十箇年ニ達セハ之ヲ退役ニ編入ス

二 千九百十二年正規軍豫備條例ヲ發布シ現役四年(豫備三年)ト規定シタルモノナルカ翌年大臣ハ議會ニ對シ現役三年(豫備四年)ト爲シ在營一年後ハ本人ノ成績ニ依リ歸休ヲ許シ且豫備役ニ服スル者ニハ若干ノ手當ヲ附與スルコトノ改正ヲ勸告セリ

三 千九百十三年ニ至リ前記條例ノ規定セル四箇年ヲ三箇年(豫備三年)ニ尙在營一年乃至一箇年半ノ後勤務ノ成績ニ依リ豫備ニ編入スル如ク改正ヲ陸軍大臣ヨリ議會ニ勸告セリ

四 千九百十五年「ルシタニヤ」事件ニ興奮セル米國民ノ軍備擴張ヲ強請スルノ趨勢ヲ看破シ軍備擴張ニ決スルヤ陸軍大臣「ガリソン」氏ハ大統領ニ對シ擴張案ヲ提出セシカ該案中服役年限ニ關シテハ現在ノ現役四年(歸休三年)ヲ現役二年(歸休四年)ニ改正スルコトヲ以テセリ

五 千九百十六年六月國防法律ノ制定ヲ見ルヤ從來ノ現役四年(歸休三年制)ヲ現役三年(豫備四年)ニ改正シ訓練完備ノ者ニ限り一年現役ノ後豫備ニ入ルヲ得ルコトトセリ

六 本大戰ノ爲動員セル國軍ヲ復員スルニ當リ陸軍當局者力戰後ノ兵力決定案ヲ議會ニ提出セルコトハ曩ニ述ヘタル所ナルカ本案ハ志願服役年限ニ關シテハ三箇年ヲ提議シタリ其ノ後相亞テ米國陸軍兵力ノ永久方針案ヲ兩院軍事委員及參謀本部ヨリ提議セルモノニ依レハ依然トシテ三箇年服役ノ志願兵制ヲ主張セリ但シ同提議中一時喧傳セラレタル一般國民軍事豫備教育ノ教育日時ハ兩院軍事委員ハ六箇月、參謀本部ハ三箇月教育ヲ主張セリ而シテ過般制定セラレタル陸軍常備兵力令ニ依レハ志願服役年限ハ一年及三箇年ニ改正セラレタルコトハ曩ニ述ヘタル所ナリ之ヲ要スルニ米國軍ニ於ケル正規軍ノ志願服役年限問題ハ幾多ノ論議ヲ經タルモノナルカ之ヲ概言セハ其ノ當初ノ三箇年制ハ中途四箇年制ニ延長シ這次大戰前制定ノ國防法律ニ依リ更ニ三箇年ニ短縮セラレタルモノカ戰後ニ於ケル常備兵力令ニ依リ更ニ一箇年乃至三箇年ニ改正セラレタルモノナリ

戰後ニ於ケル志願服役年限ニ關シテハ地方軍ノモノハ陸相ノ聲明ニ依リ明瞭ナルモ正規軍ニ關シテハ不明ナルヲ以テ以下千九百十年時代ニ於ケル志願服役年限ニ關シ記述セムトス

一 千九百十年時代ノ正規軍ノ服役年 正規軍兵卒ノ服役ハ現役及豫備役ヲ通シ十二箇年服役ノ契約

ヲ爲スヘキモノニシテ本人ノ志願ニ依リ更ニ現役年限ヲ延長シテ最初服役ノ日ヨリ二十一年ニ至ル
間再服役ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ該年限ハ兵種ニ依リ同シカラスシテ其ノ梗概左ノ如シ

八六

兵種	現役年限	(豫備役年限)
線列步兵	七年	(五年)
近衛步兵	三年	(九年)
線列騎兵	七年	(五年)
近衛騎兵	八年	(四年)
騎砲兵	六年	(六年)
野戰砲兵	三年(戰者、砲手者ノミ)	(九年)
要塞砲兵	八年	(四年)
工兵(土工兵)	三年	(九年)
工兵(技術兵)	十二年	(一〇年)
輜重兵(戰者、其ノ他)	二年	(九年)

「註」是等志願者ノ年齡ハ十八歳以上二十五歳以下ノ規定ナリシカ這次大戰ニ當リ從來ノ志願
兵制度ヨリ一般徵兵制度ニ轉移セル最後ノ志願制ノ時期ニ於ケル「ダービ」卿ノ募兵法ヲ實施

シタル時ニハ年齡ハ十八歳ヨリ四十一歳迄ト爲シ其ノ應募合格者ハ之ヲ未婚、既婚者ニ區分
シ又各之ヲ年次ニ應シ二十三組トシ募兵ヲ實施セリ

二 戰後ニ於ケル地方軍ノ現役志願年限 戰前ニ於ケル服役年限ハ四箇年ナリシカ戰後陸相カ地方軍
協會ニ於テ述ヘタル所ニ依レハ該年限ハ依然四箇年制ニシテ唯正規軍ニ於テ訓練ヲ受ケタル者ハ三
年トセリ而シテ教育日數ハ戰前ハ應募ノ第一次ニ於テ兵科ニ應シ四十乃至四十五回ノ訓練ヲ施シ
次年度以後ハ毎年十日乃至十五日間ノ野營ニ召集訓練スルノ規定ナリシヲ將來ハ全服役年間毎年十
五日間召集訓練スルコトニ改正セムトスルカ如シ尙戰前ニハ志願者ノ資格中其ノ年齡ヲ十七歳以上
三十五歳以下ト規定シアリシヲ改正シテ十八歳乃至三十八歳ニ爲サムトスルカ如シ

勃、羅、塞、西等ノ諸國

戰後此等ノ諸國カ現役在營期(徵兵制タル志願兵)ヲ如何ニ改正スヘキヤニ關シテハ目下詳ナラサルヲ以テ
戰前ニ於ケルモノヲ附表中ニ收録セリ

第五章 服役年限問題

第一節 要領

全服役年ノ決定ニハ徵兵制度ヲ採用セル國ニ在リテハ一ハ國民ノ兵役義務ノ負擔ヲ努メテ輕減スルコト
ニ主義ヲ置クコトト一ニハ純軍事上ノ見地ヨリ各年ノ徵集人員ト相關聯シテ豫期ノ兵數ヲ整備シ得ルコ
トヲ要ス

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

八七

各國服役
年限問題
著眼點上ノ

トヲ目途ト爲シ決定セラルヘキモノナリ而シテ該全服役年限中在郷年限ヲ更ニ數級ニ區分スルノ根據ハ
主トシテ一國ノ建軍ノ主義トシテ如何ナル素質ノ野戰軍ヲ整備スヘキヤニ存スルモノト認ム以上ニ依リ
戰後ニ於ケル交戰國ノ全服役年限及其ノ服役區分ニ關スル説論並改正ニ關シ正鵠ナル觀察ヲ爲サムトセ
ハ(一)國情、(二)軍備方針、(三)建軍ノ主義等ヲ先ツ闡明セサルヘカラス然ルニ資料ノ關係ハ此等ノ各條項ノ
通觀ヲ許ササルヲ以テ茲ニハ軍事の管見ヲ以テ次記各項ノ事實並觀察ヲ記述スルニ止メムトス

一 佛國社會黨ノ提議セル各役種撤廢説

二 佛國內ニ於ケル服役年問題ノ論議

三 米國ニ於ケル志願服役年限問題ノ變遷

四 英國並爾他諸國ノ服役年限

第二節 佛 國

其一 社會黨ノ各役種撤廢説並所見

一 各役種撤廢説 本説ハ戰前社會黨ノ一領袖カ「新陸軍ノ建設」ト題シ之ヲ提議シタルモノナルカ戰後
社會黨ハ大戰ノ教訓トシテ次記各項ノ事實ヲ掲ケ「戰時ニ當リテハ現役、豫備等一切ノ差別ヲ撤廢シ
同質、同性ノモノト爲シ以テ國家カ一切ノ攻撃ニ對抗セシムヘキ防禦軍隊ヲ編成スヘシ」ト或ハ「二十
歳乃至四十一歳迄ノ二十年級ノ者ヲ以テ野戰軍ヲ、爾他ノ八年級ノ者ヲ以テ後備軍ヲ編成スヘシ」ト

提唱セリ

(一) 「マルス」ニ於テ侵入者ヲ阻止シ續テ之ヲ國境方向ニ驅逐シタル此ノ佛國存立ノ爲ニ盡セル戰闘
ニ於テ我カ現役軍中ノ多數優良者ハ戰歿セリ而シテ爾後四箇年間ハ戰闘ハ十八歳ノ若年次兵ト同
聯隊ニ混入セラレタル往々四十歳以上ニ達スル古年兵ニ依リ大部分支持セラレタリ是ヲ以テ見レ
ハ頗ル僅少ナル訓練ヲ施セル豫備兵ニ在リテモ其ノ體力、其ノ氣力ニ於テ共ニ現役兵ニ比シ少シ
モ遜色ナキコトヲ立證セリト謂フモ過言ニアラス云々

(二) 後備隊ヲ現役隊ノ如ク戰闘ニ從事セシメ父子同一聯隊ニ於テ戰闘シ又ハ後備兵ヲ現役隊ニ編入
セシメタルコトアルカ此等ノ實績ニ徴セハ各役種ノ區分ノ如キハ戰争ノ繼續ニ伴ヒ其ノ意味ナク
須臾ニシテ差異ヲ認メサルニ至レリ云々

二 所見 前記所説ハ「開戰動員時」ニ於テハ素質次等ナル者モ戰争ノ永續スルニ伴ヒ其ノ素質ヲ向上
スルニ至ルヘキコト」トシテハ吾人モ社會黨ノ提言ニ同意スルモノナリ然トモ本大戰力交綏ノ期ニ
入リタルカ爲動員時保有シタル各種素質ノ兵團カ恰モ一種兵團ナルノ觀アル前説ノ軍隊ハ必スシモ
開戰時ノ野戰軍ニ比シ優良ナリシトノ肯定ハ之ヲ與ヘ得サルヘシ (戰争ノ永續ニ伴フ兵員損耗數ノ增多並兵團擴
充於野戰部隊素質ノ低下ト他方ニ於テハ大等素質兵團ノ戰闘能率ノ果シテ然ラハ「速戰速決」ノ主義ヲ實行スル爲開
戰ノ初期ノ會戰ニハ國軍ノ最善ヲ盡ス爲其ノ野戰軍ニハ最精銳ヲ盡ス如ク平時ニ於ケル軍事諸施設ヲ

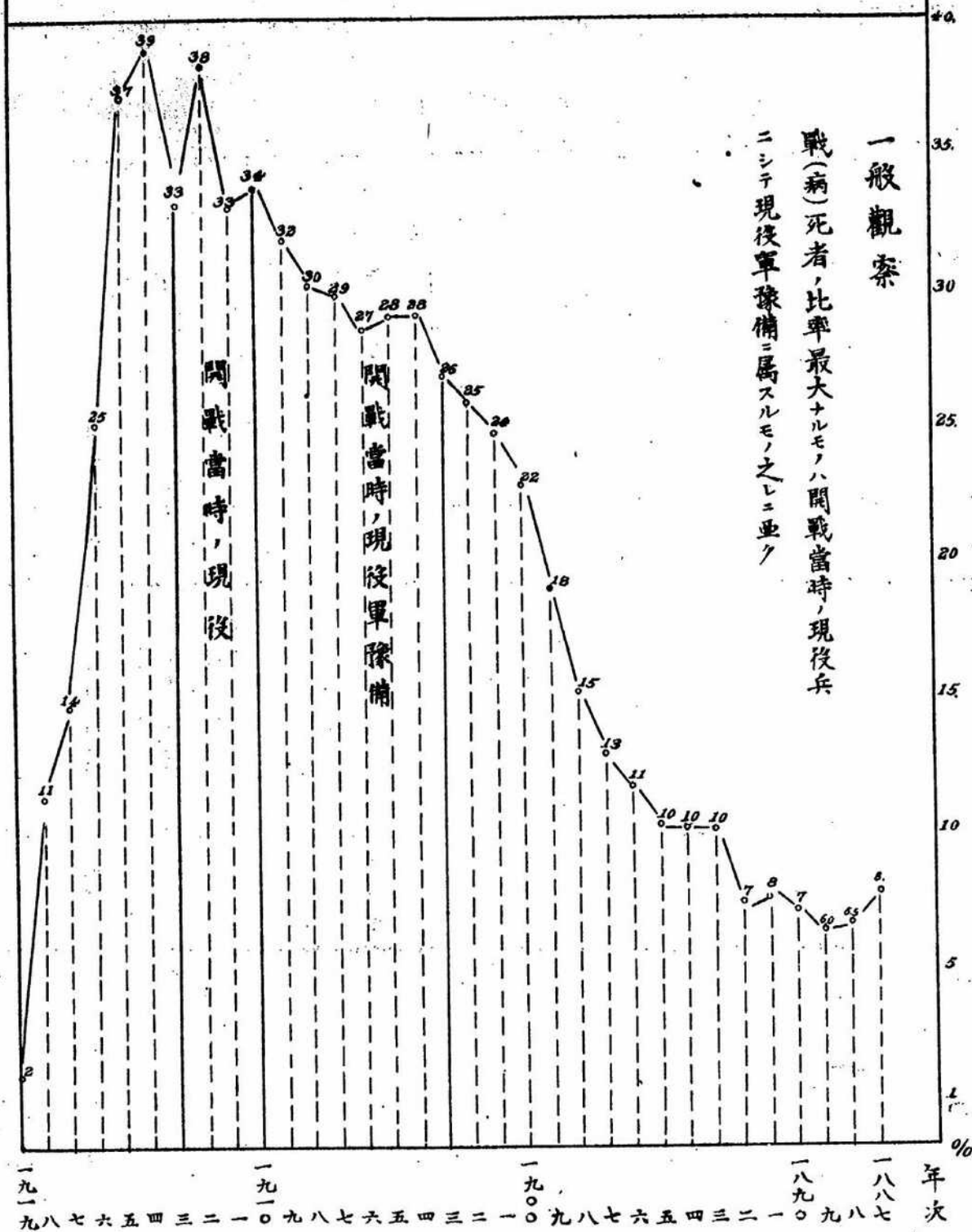
行フコト必要ニシテ一社會黨員カ其ノ各役種ノ撤廢ヲ前提トシテ戰後ノ施設ヲ提議スルニ拘ラス十九年級ノ在郷者(一年在營主張者ナリ)ニ對シ僅々二回(一回ハ三週間)ノ復習演習ヲ以テ満足シアルカ如キハ野戰軍ノ整備上樂觀ニ過クルモノトシテ吾人ハ同意スルヲ得サルナリ之ヲ現制ノ我カ國ノモノニ就テ考フルニ一方ニ於テハ各役種ヲ區別シ一方徵兵令中ニ「豫、後備兵ハ平時毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲之ヲ召集ス」トシテ彼等ノ徵集權ヲ保留シナカラ其ノ豫備役タルト後備役タルトニ依リ勤務演習召集ノ年次並日數ヲ特別ニ規定スル所以ナリ

今更ニ論究ニ一步ヲ進メ若シ豫、後備兵ニ對シ毎年努メテ長期ニ互リ一定ノ復習教育ヲ實施セハ(體質問題ハ別ト爲ス)某程度迄ハ其ノ戰闘能率ノ相接近スルコトヲ認メ得ルナラムモ斯ノ如キ實施ハ國民トシテノ負擔問題ハ假令別箇ノモノト爲スモ經費問題上先ツ實施不可能ト謂ハサルヘカラサルヲ以テ茲ニ野戰軍トシテ整備スヘキ兵力ヲ先ツ根基ト爲シ彼等在郷者ノ復習教育上ニ濃淡ヲ畫スコトノ已ムヲ得サルコトトナルヘシ

次ニ述ヘムトスルハ「今次四年間ノ戰爭ハ十八歳ノ若年次兵ト往々四十歳以上ニ達スル古年次兵ニ依リ大部支持セラレタリ」ト爲ス前記社會黨ノ提言ニ對スル意見ナリ吾人ノ調査ニ依レハ前者ハ教育中ニ於テ休戰トナリシモノナリ又休戰後ノ復員調査資料及千九百十九年八月調査(佛國下院議事録中世界戰ニ於ケル兵員損耗其ノ他ニ關スル統計ノ一節)ノ統計ニ依レハ戰場兵員中ニハ尠カラサル開戰

當時ノ現役並現役軍豫備ニ屬スル七年級ノ者ノ存在シタルコトハ事實ナリ(註參照)又各年次兵ノ損耗(各年次兵ノ總員(一〇〇)ト戰病死者並行衛不明者トノ比率)景況ハ次表ノ如クナルニ徴セハ社會黨ノ提唱セル新古年次ノ者ハ前述ノ精兵ヲ核心トシテ奮闘セルモノト觀察スルヲ條理アリト認ム

各年兵戰(病)死者、比率ノ概況



軍豫備ト戰後召集セラレテ短期教育ヲ受ケタル者トノ比率ハ甚シキ差異ナキモノト推究セラルヘシ(開戰後召集セラレタル古年級兵員ノ大部ハ後方勤務ニ服務シタルモノト觀察ス)

其二、佛國內ニ於ケル服役年問題ノ論議

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

〔註〕

一 復員調査資料及下院議事録ニ依リ調査スレハ休戦時ニ於ケル(一)開戦當時ノ現役兵、(二)同上ノ現役軍豫備ニ屬スル七年級ノ者ノ現存者ハ概ネ次記ノ如シ〔各該當年ノ補助勤務兵(軍勤務兵ノ約1/4ト概算ス)ヲ除ク〕

現役兵

四二〇、〇〇〇

現役軍豫備

七八〇、〇〇〇

計

一、二〇〇、〇〇〇

二 休戦當時ニ於ケル總兵力ヲ戰場兵員並後方兵員ニ區別スレハ前者約二百萬ニシテ後者ハ二百三十萬ナリ

三 前兩項ノ兵數ヲ綜合觀察セハ現役兵並現役軍豫備ニ屬スル者ハ其ノ素質ノ關係上大部ハ舉ケテ戰場兵員中ニ計上スルコトヲ得ヘク其ノ一部ノ者ハ戰地、内地補充隊教育ノ基幹兵及幹部ニ進級シタルモノト觀察セラル然ラハ大數觀察ニ於テ戰場兵員中前記現役兵並現役軍豫備ト戰後召集セラレテ短期教育ヲ受ケタル者トノ比率ハ甚シキ差異ナキモノト推究セラルヘシ(開戦後召集セラレタル古年級兵員ノ大部ハ後方勤務ニ服務シタルモノト觀察ス)

其二 佛國內ニ於ケル服役年問題ノ論議

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

高等軍事會議案ノ
三十年說
ハ近キ將
來ニ於テ
實現ヲ見
ルヘシ

「要旨」 戰後佛國內ニ於ケル社會黨ハ現制二十八箇年制ヲ又該黨以外ノ人士ハ三箇年短縮即チ二十五年制
主張ノ論議アリシカ最近ノ大勢ハ二箇年ノ延長即チ全服役年限ヲ三十箇年ト爲スニ決セムトスルカ如シ
而シテ此等主張ノ根基ト認ムヘキモノハ社會黨案ハ民兵制度ノ提議ニアルヲ以テ別箇ノ研究ニ委スルコ
トトナシ爾他人士ノ短縮ノ主張ハ概シテ這次大戰ノ開戰時ニ於テ動員セル總兵力ニ準スルノ國軍ヲ整備
セムトスルニアリ之ニ對シ服役年限案ノ主義トスル所ハ目下詳ナラサルモ國家總動員ノ場合ニ於ケル
國民動員上ノ要求ヲ顧慮セルモノト觀察セラル尙全服役年中ノ區分即チ野戰軍ニハ何年級ノ者ヲ充用ス
ヘキヤニ關シテハ或ハ十年或ハ十五年又ハ二十年說ヲ主張スル者アリ蓋シ此等ハ野戰軍ノ素質ニ對スル
期待及其ノ所望兵力ノ區々ナルニ起因スルモノナリ以下前記各案主張ノ梗概ヲ述ヘムトス

一 全服役年限問題

(イ) 短縮案(二十五年案)

「ポール、
デューメ」氏案
メ「氏案」

「ポール、デューメ」氏案 全服役期間ハ二十五箇年トシ現役一年、第一豫備九年、第二豫備十五年トス
之ヲ現制ニ比スレバ現役ニ於テ二箇年ノ短縮、第一豫備(現制ノ現役豫備)ニ於テ二箇年ノ短縮、第二豫
備(現制ノ後備並後備軍豫備)ニ於テ一箇年ノ増加即チ全服役期間ヲ通算シテ三箇年ヲ短縮スルモノナリ
而シテ氏ハ本服役年限ニ依リ野戰軍兵力及後方部隊共ニ本大戰勃發當時ノ兵數ニ近似スルモノ即チ野戰
軍約二百萬、後方兵力約二百萬總計約四百萬ノ整備ヲ提議セリ

「メー
トロ」中將
案

「メートロ」中將案 本案ハ一年在營後二箇年間ハ歸休ト爲シ現役軍豫備ハ現制十一箇年ニ比シ更ニ一箇
年ヲ延長シテ十二箇年制ト爲ス後備軍並後備軍豫備ハ現制ノ各七年ヲ前者ハ六年、後者ハ四年ト爲シ四
年ヲ短縮スルモノニシテ現役軍豫備ノ一箇年延長ト相俟テ全般ヲ通シ三箇年短縮ヲ主張スルモノナリ
以上ノ服役制度案ニ依リ野戰軍三百萬(現役並現役軍豫備ノ十五箇年ノ者ヲ以テ野戰軍ヲ編)、後方軍百六十八萬(後備軍及
備ノ十箇年級ノ者ヲ以テ編成スルモノニシテ其ノ計約四百萬ノ國軍ヲ整備セムコトヲ提議セリ
得員ハ前者ハ平均十八萬、後者ハ十五萬トセリ)

「アン
リ」氏案

「アンリ」氏案 本案ハ曩ニ述ヘタル如ク大戰ノ教訓トシテ各役種ノ撤廢ヲ主張スルモノニシ
テ「將來ノ戰爭ハ衛戍地勤務若ハ軍ノ後方地帯ノ守備部隊ニ充用スヘギ老年兵ノ外ハ擧ケテ戰場ニ立タ
シムルノ傾向ニアラヲ以テ現制ノ如ク現役軍、豫備軍、後備軍、國民軍等ノ種別ヲ定メ之ニ兵卒ヲ割リ
當ツル如キ必要ヲ認メス即チ國民ニシテ壯健ナル者若ハ補助勤務ニ適スル者ノ二十歳乃至四十一歳ノ者
ヲ網羅スル野戰軍ト四十一歳乃至四十八歳ノ者ヨリ成ル後備軍トヲ存スヘシ而シテ此ノ二種ノ軍ハ平時
ヨリ戰時編制ニ組織シ動員令一下直ニ編成ヲ完結シ得ル如ク整備スヘキモノナリ云々」ト述ヘ其ノ戰時
兵力ハ野戰軍百五十萬ヲ目途ト爲セリ

(ロ) 延長案(三十年案)

三十年服
役制說

本案ハ最近高等軍事會議審議ノ結果議會ニ提出セラレ大體ニ於テ可決ヲ見ルモノト觀察セラルモノナ
ルカ其ノ詳細ハ未タ明ナラサルモ年齡四十歳乃至五十歳ノ者ハ動員ニ當リ召集ヲ猶豫セラルルコトナク

各自ノ地方的職業ニ依リ國防上最適當ナル地位ニ充用セラレ戦線ニハ使用セサルコトセリ(是等ノ者ノ充用セラルル軍ヲ内地軍ト謂フ)之ヲ要スルニ本提案ハ年齢ヲ顧慮シ之ヲ國家總動員ノ要員(工業、農業、勤員等)ト爲スヘキモノニシテ這次大戰ノ教訓ニ基キタルモノト觀察セラル而シテ茲ニ一顧ヲ要スヘキコトハ社會黨ニ屬スル一員カ嘗テ(一)國家總動員計畫上戰用諸資材ノ製作ニ任ズヘキ工場ノ従業員ハ其ノ官私立製造所ノ何レニ屬スルトヲ問ハス戰時ニハ後備軍ニ徵集スルヲ本則トスヘキコト、(二)該工場ニ於ケル監督、工長、傭人若ハ職工ノ一ニ從事スル三十歳乃至四十一歳迄ノ者ニシテ各製造所ニ組織セラルヘキ雇員、職工混成委員並陸軍官憲ニ於テ不可充要員ト爲スヲ適當ト認メタル者ニハ召(徵)集ヲ行ハサルコト尙以上ノ規定ハ公共的勤務及各種行政部職員ニモ之ヲ適用ス但シ若年ノ官公吏ニハ適用セサル旨ヲ提議シタルコト是ナリ以上ノ兩案ヲ綜合觀察セハ佛國カ本大戰ノ一教訓トシテ新徵兵令中ニ國家總動員ノ要員ニ關スル規定ヲ新加スヘキハ之ヲ認メ得ルモ彼ノ大戰間兵員資源ノ衰損ニ會シ該資源ノ捻出及交代出征等ノ爲新法規ヲ定メ之カ實行ニ苦心セル佛國カ前述シタルガ如キ年齡本位ニ或ハ職業本位ニ新規定ノ主義ヲ置クヘキカ或ハ交代出征ヲ認ムルヤ否ヤ等ハ將來興味アル一問題ナリト認ム

二 服役區分問題

服役區分
ノ論議

本問題ハ主トシテ(一)野戰軍所望兵力特ニ其ノ素質ニ期待スルノ主義ニ於テ論者各其ノ主張ヲ異ニシアノルト、(二)前述高等軍事會議カ國家總動員要員トシテ四十歳乃至五十歳迄ノ者ヲ充用セムトスルカ如キ

關係ニ依リ全服役年限ヲ如何ニ區分スルヤニ關シ種々ノ提議ヲ生スルハ蓋シ當然ト謂ハサルヘカラス以下各案主張ノ要旨ヲ述ヘムトス

「ポール、デューメ」氏ハ現役一年、豫備九年計十年級ノ者ヲ以テ約二百萬ノ野戰軍ヲ編成シ(各年級ノ平均得員ヲ二十萬トス)動員ニ當リテハ三種ノ兵團即チ東方國境軍團ハ現役二師團、其ノ他ノモノハ現役一師團及豫備一師團トヲ以テ編成セムトスルモノナリ

「メートロ」中將案 本案ハ現役三年(二年在營)、現役軍豫備十二年計十五年級ノ者ヲ以テ各年ノ平均得員ヲ約二十萬トシ三百萬ノ野戰軍ヲ整備セムトスルモノナリ

「アンリ、バーテ」氏案 本案ハ二十年級ノ者ヲ以テ野戰軍百五十萬ヲ整備セムトスルモノナリ以上各案ヲ通觀スルニ「ポール、デューメ」氏ノ十年說ハ今次大戰ノ開戰動員ニ於テ其ノ野戰軍ハ十六年級ノ者ヲ充用シタルノ事實ニ徴セハ氏ノ在營年限ノ短縮(一年說)ノ主張隨テ一部素質ノ低下ヲ顧慮シ其ノ防支ノ一策トシテ六箇年ヲ短縮シタル壯齡ノ兵員ヲ以テ野戰軍ヲ編成セムトスルモノニアラサルヤ又「メートロ」中將ノ十五年說ハ其ノ野戰軍所望兵數ニ於テ前案トハ大ナル差異アルハ別箇ノ問題トシ素質上ノ觀察ヲ以テセハ將軍案ハ在營兵中ニ約 $\frac{65}{100}$ ニ達スル五箇年ノ長期志願服役者ヲ保有スルコトカ十年說ニ對シ十五年說ヲ主張スルノ一因ト觀察セムトス尙「バーテ」氏案ノ二十年說ハ既ニ述ヘタルカ如ク大戰ノ教訓トシテ各役種ノ撤廢ヲ高唱スルモノナルカ故ニ之ニ對スル所見ハ他日ノ研究ニ委セムトス

過般廢止
セラレタ
ル豫備役
制度ノ沿革

「要旨」 建國ノ歴史上積年ノ國是トシテ實行シ來レル超然政策ハ國際政策ノ變移ニ伴ヒ之ヲ放棄シテ世界政策ノ渦中ニ投スルノ大勢ヲ醸生スルニ至ルヤ從來ノ如キ兵役ノ區分上唯現役ト退役トノミアリテ豫備役制度ヲ備ヘサル軍事ノ施設ハ戰時ニ當リ強大ナル國軍ヲ整備シ得サルコトノ缺陷ヲ自覺スルニ至リ遂ニ千九百十一年ニ至リ參謀總長「ウット」將軍ノ豫備役制度創設ノ主張トナリ越エテ翌十二年該制度ノ新定ヲ見ルニ至レリ然ルニ其ノ後ノ實績ニ徴セハ成果甚タ不良ニシテ當局ノ豫望ニ達セサルコト甚タ遠ナリシヲ以テ當局ハ數次之カ改正ヲ主張シタルモ常ニ兩院ノ否決スル所トナリシカ這次大戰ノ勃發ニ會シ國防上ノ缺陷ヨリ生スル戰禍ニ目覺メタル國民ハ沸然トシテ軍備ノ擴張充實ヲ絶叫スルニ至リ茲ニ積年ノ懸案タリシ豫備役制改正問題ハ國防法律ヲ以テ改正セラルルコト爲レリ

然ルニ戰後ニ至リ兵制諸問題ノ論議ヲ見ルニ至ルヤ議會案ハ戰前ノ豫備役年限ヨリ一層長延ナル五年乃至十箇年制ヲ提唱スル所アリシモ政府ハ陸軍常備兵力令ノ新定ニ當リ遂ニ之ヲ廢止スルニ至レリ以上米國ニ於ケル豫備役制度ノ沿革ヲ概觀セハ大戰前當局カ多大ノ苦心ヲ拂ヒテ創定竝改正シタル該制度ヲ這次之ヲ廢止シ爲ニ大戰ノ一產物タル巨多ノ既教育兵員ヲ網羅シテ一大豫備軍ヲ建設セムトシタル議會案提議ノ消滅ヲ見ルニ至リシ動機ハ畢竟戰後ノ米國ノ至高政策カ大戰間占得セル經濟上ノ絶特ノ地位ヲ將來益増進セムカ爲ナリト觀察セラル以下豫備役制問題ノ經緯ニ關シ時期ヲ追フテ之ヲ記述セムト

豫備役制
ノ提議並其
ノ沿革

ス

一 參謀總長ノ提議(千九百十一年) 將軍ハ米國カ一等國ト戰端ヲ開クニ當リ第一期動員即チ義勇軍ノ召集以前ニ於テ少クモ四十五萬人ノ必要ヲ認ムルモ正規軍及第一民兵ハ其ノ數僅ニ二十萬人ニ過キサルヲ以テ宣戰布告ノ際二十五萬人ノ不足ヲ生ス此ノ不足ハ正規軍及第一民兵ノ現役ヲ終リテ豫備役ニ服シタル者ヲ以テ補填スルヲ有利トシ豫備役制度ノ採用ヲ主張シタルモ下院陸軍委員長ハ全ク相反シタル意見即チ現役年限ノ三箇年制ヲ更ニ五箇年ニ延長スルコトヲ提議セリ

二 正規軍豫備役制度ノ新定(千九百十二年) 「四箇年間現役ニ服シタル兵卒ハ三箇年間豫備役ニ服シ本人ノ希望ニ依リ更ニ四箇年間豫備服役ヲ延期スルコトヲ得而シテ豫備兵ハ平時ニ於テモ若干ノ手當ヲ支給セラレ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラルル時ハ召集間俸給及手當ノ支給ヲ受クルモノトス」ト規定シ斯ノ如クニシテ正規軍ハ戰時要員ヲ充足スルノ途開カレテ大ニ面目ヲ一新スルニ至レリ

三 正規軍豫備役制度ノ改正案(其一) 前記條例ヲ實施セル成果ニ依レハ其ノ成績甚タ不良ナリシヲ以テ陸軍大臣ハ該條例ノ改正ヲ認メ現役三年、豫備役四年ニ改正シ在營一年後ハ本人ノ成績ニ依リ歸休ヲ許シ且豫備役ニ服スル者ニハ若干ノ手當ヲ支給スルコトヲ議會ニ勸告セリ

四 正規軍豫備役制度ノ改正案(其二) 陸軍大臣ハ該條例實施後既ニ二箇年ヲ經過スルモ僅ニ十六人

ノ豫備役編入者ヲ有シタルノミニシテ全然失敗ニ終リタルコトヲ認メ該制度ハ之ヲ改メテ現役三年、豫備役三年ト爲シ在營一年乃至一年半以後ニ在リテハ勤務ノ成績ニ依リ之ヲ豫備ニ編入シ得ルコトノ改正ヲ議會ニ懲瀝セリ

五 護國軍ノ編成案 本案ハ彼ノ「ルシタニア」事件ニ興奮セル輿論ヲ機會トシ陸軍大臣ヨリ大統領ニ提出シタル軍備擴張案中ノ一案ニシテ正規軍ノ補足トシテ創設セムトスルモノニシテ一種ノ志願兵制度ニ依ル豫備軍ナリ而シテ大臣ノ提唱スル所ニ依レハ現在制度ニテハ十萬ニ充タサル常備正規軍ノ外ニハ平時大統領ノ令下ニ屬セスシテ各州知事ノ支配下ニ在ル不十分ナル民兵約十二萬及有事ノ際臨時募集スヘキ無訓練ノ義勇軍ヲ有スルニ止マリ宜戰第一次野戰軍ヲ戰時定員ニ擴張スルノ既教育ノ豫備軍ナルモノハ實體ヲ有セサルヲ以テ瑞典式ニ準シ四十萬ノ補充部隊ヲ編成スルノ必要アリ護國軍ハ十八歳以上二十八歳以下ノ志願者ヨリ成リ六箇年ヲ服役年限ト爲シ最初三箇年間ハ毎年二箇月間正規軍ニ加ハリ軍隊教育ヲ受ケ後チ三年間ハ歸休教育召集ヲ受クルコトナク唯戰時事變ノ際召集セラレテ正規軍ニ合シ野戰軍トナルモノトス但シ如何ナル場合ト雖海外領土ニ使用セララルコトナク米本國ノ防備ニ限ラレ平戰兩時共其ノ應召間ハ正規軍同様ノ俸給並手當ヲ受クルモノトス此ノ計畫ハ三箇年ニ完成スルノ豫定ニシテ一年度ノ募兵ハ十三萬三千人トス

六 國防法律 正規軍及國民軍(編成民兵ヲ國民軍ト改稱ス)共ニ現在ノ現役四年、豫備三年ヲ改正シ

現役三年、豫備四年ト爲シ訓練完備ノ者ニ限り一年現役ノ後チ豫備ニ編入スルコトヲ得セシムルコトト爲シ次記ノ者ヲ充用スルコトトセリ

イ 服役期限七箇年ノ内後ノ四箇年ノ豫備役ニ服シ在ル者

ロ 現役一箇年ノ後歸休ト爲リ正規軍豫備ニ轉入スル者

ハ 正規軍豫備ニ志願登錄スル者

「註」 民兵軍ハ從來州、政府ニノミ支配セラレ戰時大統領カ臨時召集シタル者ニ限り中央政府ニ統轄セララルルヲ廢止シ其ノ將卒ハ中央政府及各州政府兩者ニ對シ同様ノ服従ヲ爲スヘキモノトス

七 戰後ニ於ケル上下兩院軍事委員會案 本案ハ千九百十九年七月陸軍兵力ノ永久方針案トシテ提議シタルモノノ一部ニシテ其ノ要旨次ノ如シ

服役區分 左ノ者ヲ以テ豫備役ニ服セシム

千九百十七年四月六日—十八年十一月十一日間ニ於テ陸軍ニ服務セル者ハ五箇年間又一般軍事教育終了者(後說徵兵制度ノ部參照)並十八歳乃至二十歳ノ男子ニシテ本教育未了ノ者ハ十箇年間

第四節 英國並其ノ他ノ諸國

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

「要旨」 戦後ノ施設トシテ英國ハ何等戦前ノモノニ改正ヲ加ヘタルヲ聞カス又爾他諸國ノ戦後ノモノハ目下詳ナラザルヲ以テ以下戦前ノモノニ關シ梗概ヲ述ヘムトス

其二 英國

英國並爾他各國ノ服役年限

一 正規軍豫備 英國ニ於ケル正規軍ノ志願者ハ現役並豫備役ノ十二箇年間ヲ通シ服役ノ契約ヲ行フヘキモノトナシ現役ヲ完了セル在郷軍人ハ戦時若ハ事變ニ際シ國王ノ命令ニ依リ期限ヲ定ムルコトナク召集セラレ専ラ正規軍ノ充足要員トナル而シテ平時ニ於テハ毎年十二日間ノ勤務演習ニ召集シ此ノ間若干ノ豫備給ヲ給ス(戦前ニ於ケル總員ハ十四萬六千人ニ達セリト謂フ)

二 地方軍豫備 本豫備ニ服務スヘキ者ハ地方軍ノ服役ヲ終リタル者ニシテ動員ニ當リテハ地方軍定員ノ不足ヲ充實シ又ハ動員後ノ缺員ヲ補充スルモノトス但シ本制度ハ殆ト有名無實ノモノナリト謂フ

其二 西、白、希國等

曩ニ述ヘタル佛、伊、英、米及獨、埃、露國ヲ除キタル諸國ノ戦前ニ於ケル服役年限中最短ナルハ瑞典ノ十二年ニシテ最長ナルモノハ葡國及塞國ノ二十五箇年ナリ其ノ區分及爾他諸國ノ服役區分ハ附表ノ如シ

第六章 英、米兩國ノ徵兵問題

第一節 要 領

英國ノ徵兵制度ノ爲メ廢止セラル

這次大戰ニ當リ英、米兩國ハ共ニ歴大ナル國軍整備ノ必要ニ迫ラルルヤ建軍ノ方式トシテ積年傳統シ來レル志願兵制度ヲ廢止シ英國ハ參戰後ノ一年半ニ至リ第一次陸軍服役條例ヲ又第二次陸軍服役條例(一般徵兵令)ヲ相亞テ制定シ露獨單獨講和ノ爲更ニ國軍ノ擴張並保持ノ必要ニ迫ラルルヤ休戰年ノ四月更ニ徵兵法ヲ改正セリ又米國ハ參戰ト共ニ徵兵令ヲ制定シ休戰年ノ八月更ニ之ヲ改正シテ國軍ノ一大擴張ヲ行ヘリ之ヲ要スルニ斯ノ如クシテ制定セル徵兵令ハ兩國軍ノ整備上至大ノ貢獻ヲ呈シタルニモ拘ラス戰後ニ於ケル兩國ノ軍事施設ニ徵セハ英國ハ勞働者階級ノ意ヲ迎ヘムトスル政策ノ爲ニ又米國ハ舉國一致ヲ以テ戰後ノ經濟戰ニ參加セムトスル國策ノ爲ニ軍部ノ信條トスル徵兵制度ヲ存續スルコト能ハスシテ兩國共ニ戰前ノ志願兵制ニ依ル建軍ノ方式ニ復歸スルコトナレリ以下兩國ノ本問題ニ關スル經緯ニ就キ概説スル所アラムトス

第二節 米 國

米國ノ徵兵制度ノ沿革

「要旨」 米國カ本大戰ノ參加ニ臨ミ新ニ制定セル徵兵法ノ權威ニ依リ正規軍並國民軍動員ニ於テ彼ノ對墨動員時ノ如キ大ナル失態ヨリ免レ得タルノミナラス特ニ強大ナル徵兵國民軍ノ編成ニ成功シ戰前僅ニ十萬ノ常備軍ヨリ一躍三百五十有餘萬ノ歴大ナル國軍ノ整備ニ成功シタルコトハ周知ノ事實ナリ徵兵制度ノ米國軍建設ニ對スル偉績斯ノ如クナリシヲ以テ戰後ニ至リ兵制問題ノ論議ニ當リ彼ノ建軍ノ方式トシテ累年繼承シ來レル志願兵制度即チ祖國ノ爲至高ナル犠牲心ノ本能的發露ニ期待セムトスルノ

制度ハ危險ニシテ徵兵制度ノ優越ヲ認メ參謀本部ハ固ヨリ上下兩院軍事委員會ハ一般國民軍事訓練案ヲ議會ニ提議スルト共ニ大統領ノ徵兵權問題ヲ提唱セリ然ルニ昨年五月ニ至リ議會ハ「國民ノ全力ヲ舉ケテ經濟的方面ニ傾注セムトス」トノ政策ヲ標榜シ前述ノ兩提議ヲ否決スルニ至レリ以下「大統領ニ對スル徵兵權ノ附與」並國民一般軍事教育方案ノ主張ニ關シ其ノ梗概ヲ述ヘ以テ他日ノ同國兵制問題研究上ノ資ニ供セムトス

第一 大統領ノ徵兵權問題

一 大戰間ニ於ケル大統領ノ權限 米國カ千九百十七年五月即チ參戰ノ翌月從來ノ傳來的主張ヲ捨テテ第一次選拔徵兵法ヲ制定スルヤ徵兵權ヲ大統領ニ與ヘ(一年齡二十一歳乃至三十歳ノ市民タル男子及市民トナルヘキ意思ヲ表明シタル外國人ノ男子中ヨリ大統領ノ定ムル規定ヲ以テ所望ノ壯丁ヲ徵集スルコト、(二)正規軍及國民軍(中央政府ノ勤務ニ徵用セラレタル者)ノ充足要員ハ要スレハ大統領ニ於テ徵兵法ヲ適用シテ之ヲ充足スルコト、(三)第一次徵兵國民軍五十萬ノ整備後更ニ五十萬ノ國軍ヲ大統領ノ適當ト認ムル時機ニ於テ壯丁ヲ徵集シテ編成スルコト等ヲ規定シ續テ大統領ハ軍隊召集令ヲ發布シテ二十一歳乃至三十歳ハ米國市民ヲシテ徵兵登録ヲ實行セシメ一方徵集免除規則ヲ公布シ以テ第一次徵兵國民軍五十萬人ノ編成ヲ準備シ參戰後ノ三箇月ニ至リ第一回徵兵ヲ實施スルコトナレリ其ノ後戰局益交綏ノ域ニ進ミ聯合國ノ兵員資源ハ漸次衰滅ヲ加ヘ來リシヲ以テ獨、奧國軍ニ一大打擊ヲ加フル

過般否決
セラレタ
ル大統領
徵兵權ノ
沿革

爲ニハ聯合國中兵力増加ノ餘力ヲ有スル米國ニ於テ更ニ一大國軍ヲ建設スルノ必要ニ迫ラルルヤ米國ハ千九百十八年八月ニ至リ其ノ第一次徵兵法ヲ改正シ徵兵年限ヲ滿十八歳ヨリ四十五歳迄擴張シ其ノ徵集ノ時期並徵集者ノ年齡等ハ自由ニ大統領ノ裁量ヲ以テ決定スルコトナセリ之ヲ要スルニ本大戰間徵兵權ハ徵兵法制定ノ際ヨリ大統領ニ委ネ戰局ノ發展ニ伴フ國軍ノ擴張ニ迫ラルルヤ更ニ該權限ヲモ擴張シ斯ノ如クニシテ米國軍ハ戰前僅ニ十有餘萬ノ常備軍ヨリ一躍三百五十有餘萬ノ龐大ナル國軍ノ整備ニ成功シタルモノナリ

二 戰後ニ於ケル徵兵權問題 戰後兵制問題擡頭スルヤ上下兩院陸軍委員會及參謀本部ハ共ニ大統領ニ對シ徵兵權ヲ附與スヘキコトヲ提議シタルモ該兩案ハ共ニ否決セララルニ至レリ以下兩案ノ要旨並否決ヲ見ルニ至レル曲折ニ關シ若干述ヘムトス

議會案

(一) 議會案 戰時又ハ事變ノ際大統領ハ次記各項ノ者ヲ召集スルコトヲ得ルト共ニ各年一回ニ限り

市民タル全男子ニ登録ヲ要求スルヲ得

イ 本案ニ依ル豫備役者及其ノ他ノ十八歳乃至四十五歳ノ全男子(本案ニ依ル豫備役者トハ(一)本大戰間軍務ニ服務シタル者、(二)一般軍事教育終了者(後説)並十八歳乃至二十歳ノ男子ニシテ本教育ノ未了ノ者ヲ謂フ而シテ(一)ノ者ハ五箇年間、(二)ノ者ハ十年間豫備役ニ服務スルコトト規定シ其ノ教育ニ關シテハ最初ノ五箇年間ニ於テ一年三週間以内、全期間ニ於テ九週間以

内ノ教育召集ヲ受クルコトナシ實戰ニ從事シタル者ハ本人ノ同意ナクシテハ召集スルヲ得サルコトト定メタリ

ロ 編成民兵(護國軍或ハ國民軍ト稱スルモノ)

(二) 參謀本部案 宣戰ト共ニ千九百十七年五月十八日制定ノ臨時陸軍兵力擴張令(前述ノ第一次徵兵法)及千九百十八年八月三十一日制定ノ十八歲乃至四十五歲ノ男子徵兵令(前述ノ第二次徵兵法)ハ其ノ全效力ヲ生ス

三 徵兵權ノ否認 前述ノ兩案ハ「コムバース」氏ノ反對ニ依リ否決セラレタルヲ以テ徵兵令ハ「戰時議會ノ協賛ヲ待チ始テ實施シ得」ルコトナレリ以下「コムバース」氏反對ノ所論ヲ述ヘムトス氏ハ「大統領ハ議會ニ依リ戰時又ハ事變ト宣言セラレタル時徵兵令ヲ實施シ得ル如ク起案セラレタルモ「事變」ノ文字ハ適當ナラス例ヘハ同盟罷工ニ依リ一部ニ騷擾起リタル場合ニ於テモ大統領ハ徵兵令ヲ布キ得ヘク這ハ全然不條理ノモノナリト提議シ茲ニ全部ノ削除ヲ見ルニ至レリ

第二 徵兵制度問題

其一 徵兵制度採用前ノ情況

一 平時兵力ト法定兵力トノ關係 千九百十一年乃至十四年ノ四箇年間ニ於ケル米國軍正規軍平時兵力ハ完全ニ法定兵力(法律制定兵力ノ最大限定員ハ十萬人ニシテ此ノ範圍内ニ於テ大統領ハ臨時定員ヲ

決定ス)ニ達シタルコトナシ而シテ其ノ主原由ト認ムヘキモノハ(一)應募者ノ少キコト、(二)逃亡兵ノ多數ナルニ因ルカ如シ試ニ前述各年ニ於ケル法定兵力ト平時兵力トノ關係ヲ舉クレハ次ノ如シ

千九百十一年	約八千名ノ不足	(其ノ原因ハ應募者ノ少キト逃亡兵ノ多數ナルニアリ)
千九百十二年	約四千名ノ不足	(其ノ原因ハ應募者ノ素質不良ナルカ爲兵卒素質ノ選擇ヲ嚴重ニシタル結果ナリ)
千九百十三年	約一萬名ノ不足	(米艦日米關係逼迫シ開戦ノ風説盛ナルカ爲逃亡兵ノ増加シタルヲ因ル)
千九百十四年	約九千名ノ不足	

二 對墨動員ノ失敗 該動員ニ於テ徵募官ハ殆ト戸毎ニ勸誘ヲ努メ紐育州ニ於テハ徵募ノ爲一人ニ對シ約四十弗ノ經費ヲ費シタルモ應募者ノ景況甚タ不良ニシテ遂ニ動員下令後三箇月ヲ經ルモ正規軍及國民軍共ニ平時兵力ノ最少限スラ充足スルコトヲ得ザリキ

三 大戰參加時ノ動員ノ成果 這次大戰ニ參加セムトスルヤ大統領ノ鼓吹セル對戰爭觀念ハ中流社會以下ニハ徹底十分ナラスシテ青年ノ多クハ進テ服役ヲ志願スル者少ク爲ニ正規軍ノ僅々二十有餘萬ノ動員ヲ完結スル爲四箇月餘ヲ消費シ又國民軍ノ動員ハ之ヲ容易ナラシムル爲三次ニ區分實施シタルニモ拘ラス豫定ノ如ク動員ヲ完結スルコト能ハスシテ充足要員ノ一部ハ徵兵法ニ依リ徵集セル者ヲ以テ充足スルノ已ムヲ得サルニ至リキ

「註」國民軍(第一民兵)制度ニ對シ米國參謀總長カ大戰前嘗テ上院ニ於テ行ヒタル演說ハ同制度ノ

志願兵制
時代ニ於
ケル陸軍

徵兵制度
ノ沿革

參謀本部
案

真相ヲ窺知スル爲ニハ有力ナル一資料ト認メ其ノ要旨ヲ次ニ掲記セムトス

參謀本部ハ速ニ現民兵制度ノ廢棄セラレムコトヲ推獎ス何トナレハ如何ナル價ヲ拂フモ戰爭ヲ避クルニアラサル限り國防ハ遂ニ強制軍事教育ニ信頼セサルヘカラサル時期ニ到達シタレハナリ而シテ現民兵制度ハ奢侈無效且危險極マル制度ナルニ反シ強制軍事教育制度ハ民主的ニシテ有效且經濟的ナリ此ノ制度ヲ以テセハ比年ナラスシテ米國ヲ敵國ノ攻撃ニ對シ安全ナラシムルヲ得ヘシ

歐洲戰ノ經驗ニ依レハ軍事教育及軍紀ノ向上ハ從來ヨリモ一層其ノ必要ヲ認ム歐洲國民ハ之カ爲少クモ二箇年間軍旗ノ下ニ教育スルノ必要アルコトヲ確信セリ然ルニ我カ民兵軍力僅々九十二時間ノ訓練ヲ以テ戰時勤務ニ堪フルカ如キ兵卒ヲ練成セムコトハ全然不適當ナリト謂ハサルヘカラス

試ニ現民兵制度ノ缺點トモ認ムヘキコトヲ列舉スレハ次ノ如シ

- (一) 國境ニテ檢閲シタル民兵軍ノ下士卒ハ十二萬八千人ニシテ其ノ六十三%即チ八萬一千七百七十九人ハ未教育ノ民兵又ハ純然タル新募兵ニシテ國民軍ニ屬スル者ハ僅ニ三十七%ニ過キス

- (二) 各州ニテ召集セシ民兵ヲ國境ニ輸送シ政府直轄ノ勤務ニ移ス迄ニ生シタル減員ハ合計四

萬七千六百五十七人ニシテ其ノ減員ノ數著シキハ不應召ノ七千二百五十八人、體格不良ノ二萬三千七百二十一人トス

- (三) 民兵軍ノ缺員著大ナルノミナラス正規軍ノ缺員モ亦頗ル多シ徵募官ハ殆ト戸毎ニ勸誘ヲ努メタルモ豫期ノ數ヲ得ル能ハス今同平時定員ニ對シ二萬六千人ノ缺員アリ

- (四) 米墨國境ニ集中シタル國民軍ハ訓練アル軍隊ト交戦スル爲ニハ殆ト一年ノ強制教育ヲ必要トセリ幸ニ墨國軍ニ訓練ヲ缺キ且吾人ノ目的ハ單ニ國境保護ニ在リシヲ以テ一彈ヲモ發スルコトナク唯單ニ我カ軍隊ノ存在スルコトノミニテ目的ヲ達スルヲ得タルハ蓋シ僥倖ト謂フヘシ

其二 徵兵制度ノ採用

徵兵制度ノ採用

「要旨」 參戰ノ翌月制定セル徵兵法ノ權威ニ依リ七十萬弱ノ壯丁ヲ徵集シ五十萬ノ徵兵國民軍ノ編成並正規軍及國民軍ノ補充ニ充當シタルカ戰局益持久ノ姿勢ニ陷リ聯合各國ノ兵員資源ノ漸次衰滅ヲ來スヤ米國ハ新ニ二百萬ノ兵員ヲ徵集シ開戰助員時建設セル約二百萬ノ者ヲ合シ千九百十九年六月末迄ニ約八十師團ヲ佛國ノ戰場ニ派遣セムトシ第二次徵兵令ヲ公布シ銳意之カ實行中ニ於テ休戦トナレリ以下第一、第二次徵兵令ノ要旨ヲ掲ケ將來研究ノ資ニ供セムトス

- 一 第一次徵兵法 本法ハ其ノ名稱ニ於テハ徵兵法ナルモ内容ハ徵募ノ外編制(編成)及助員法ニ互レ

第一次徵兵法ノ大要

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

リ以下徵募ニ關シテノミ要旨ヲ記述セムトス

兵役義務 年齢二十一歳ヨリ三十歳迄ノ市民タル男子又ハ市民トナルヘキ意思ヲ表明シタル外國人
(敵國人ヲ除ク)ノ男子ノ内ヨリ大統領ノ定ムル規則ニ從ヒ之ヲ採用スルモノトス而シテ徵集セラレ
タル者ハ臨時除隊セシメラルル場合ノ外本大戰役ノ繼續間服務スルモノトス服役義務者ハ代人ヲ用
キ又ハ服役ヲ忌避スルコトヲ許サス又軍務ヲ免除スベキ事情ノ有無如何ニ拘ラス金錢其ノ他物品ノ
提供ニ依リ服役期間ノ終了ニ先チ軍務ヲ免セラルルコトナシ

徵兵免除 左記ノ者ハ本令ノ徵兵ヨリ除外ス

副大統領、中央政府、州、准州及首府管區ノ立法、行政、司法官吏

正規ノ資格ヲ有スル司教者……信教上戰爭ニ從事スルコトヲ禁スル宗派ニ屬スル者(戰鬥員
タルコトハ免除スルモ非戰鬥員ニ徵集セラルルコトハ免ルルヲ得ス)

徵集免除

一 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ免ジ又ハ除隊セシメ或ハ一部ノ軍務ニノミ徵集スルヲ得但シ徵集ノ免
除ハ其ノ事故ノ繼續スル間ニ限ルモノトス

(一)郡及町村吏員、(二)税關書記、(三)郵便業務ニ從事スル者、(四)武器庫、兵器廠及海軍工廠ニ於
ケル技手及職工、(五)中央政府ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ大統領ノ指定スル者、(六)水先案

内、(七)合衆國商船ニ於テ海上勤務ニ現在從業スル船員、(八)工業及農業ニ從事スル者ニシテ國
軍ノ能力維持及國民一般ノ利益上必要ト認ムル者、(九)家族扶養ノ爲缺クヘカラサル者、(十)健
康軍務ニ適セサル者

二 徵集免否ニ關スル爭議ヲ審査判決スル爲陸軍ニ關係サキ地方吏員又ハ居住民中ヨリ大統領ノ
任命スル地方委員ヲ置ク但シ大統領ノ判決スヘキ製造業(農業ヲ含ム)ニ從事スル者ニシテ戰役
間軍ノ能力維持及國民一般ノ利益ノ爲必要ト認ムヘキ者ヲ除ク

「註」 前記徵兵令公布ノ翌七月更ニ徵集免除規則ヲ制定シ兵役登録者ニ對スル徵集ノ決定、
身體検査及徵集免除手續ヲ定メタリ

二 徵集方法ノ改正 第一回徵兵トシテ六十八萬七千人ヲ徵集スルニ決シ壯丁全員ニ就キ抽籤ニ依リ
徵集順序ヲ定メ其ノ序列ニ從ヒ各種ノ事故者ヲ見込ミ徵兵人員ノ二倍即チ百三十七萬四千人ヲ各地
區ニ配當シ體格検査ヲ行ヒタルカ兵役免除要求者ハ體格検査應召者ノ約五割ノ多キヲ占メタル爲豫
定ノ人員ヲ得ル能ハス再三再四壯丁ヲ召集検査セサルヲ得サルニ至リ兵員徵集上非常ノ滯滞ヲ來タ
セリ本實績ニ鑑ミ前記壯丁ノ徵集方法ヲ改正シ壯丁ヲ五大別ニ分類シ其ノ順序ニ從ヒ之ヲ採用スル
コトトセリ但シ第五種ニ屬スル者ハ採用セサルモノトス其ノ徵集區分左ノ如シ

1711

一、獨身者ニシテ系累ナキ者
二、子女ヲ有スル結婚者(露夫)ニシテ平素家族扶養ノ義務ヲ怠ル者
三、妻ヨリ扶養ヲ受クル者
四、子女ヲ有スル露夫ニシテ家計維持ハ自己ノ勞働ニ依頼セサル者
五、其ノ他第一種及他種別ニ含マレサル者
六、未熟ナル勞働者

三 第二次徵兵法

正シ八月三十一日第二次徴兵法ヲ制定シタリ其ノ要點ヲ舉クレハ次ノ如シ

（第二方西長洋三仙ハ、諸年齒ハ二十一歳乃至三十歳ナリキ）

若ノ年齢ヲ自由ニ決スルコトヲ得

ラルル者ハ陸軍(海軍)ニ配屬セラル

規則ニ拘ラス將校ニ任命セラレ或ハ別ニ定ムル

土地、鑛山拂下法ノ關スル限リ滿二十一歳

4

「要旨」戦後兵制問題ノ論議ヲ見ルニ至ルヤ參謀本部ハ固ヨリ上下兩院軍事委員ハ「一般軍事教育」ノ形

必要ヲ主唱セルモ昨々中期ノ議會ハ「戰後ノ國

1111

策ハ舉國一意經濟の方面ニ傾注スルニアリ」ノ主張ノ下ニ該國民軍事教育案ハ否認セラレタリ以下前述ノ提案ノ要旨及陸軍卿ノ主張ヲ掲ケ將來ノ研究ニ資セムトス

一 議會案 米國民タル男子「アラスカ」及其ノ他ノ屬島ノ者ヲ除クハ十八歳乃至二十歳ノ間ニ於テ

六箇月間各自ノ希望ニ應シ陸、海軍又ハ海兵團ニ於テ軍事訓練ヲ受クルモノトス

正規軍志願者其ノ所要數ニ充タサル時ハ其ノ補充トシテ一箇年間正規軍ニ服役セシムルコトアルヘ

シ

「註」曩ニ述ヘタル對墨動員ノ失敗ニ鑑ミ一方米獨國交ノ危機緊迫スルヤ現制志願兵制度ニ満足

スルコトヲ得スシテ上院陸軍委員ハ國民ニ六箇月間ノ強制軍事教育方案ヲ議會ニ提出シタルモ

議決ヲ見ルニ至ラスシテ議會ハ滿期トナレリ

二 參謀本部案 十九歳ニ達シタル全男子ハ軍事教育ノ爲約三箇月間ノ召集ヲ受ク但シ平時ニ於テハ

前記教育終了後ハ本人ノ同意ナクシテ一切教育ノ爲召集ヲ受クルコトナシ

「註」參戰前陸軍大臣ハ假想敵國ヲ我カ日本ニ取リ兵力算定ノ基礎ヲ日英同盟軍ノ派遣シ得ヘキ

遠征軍兵力約二百七十五萬ト爲シ其ノ兵制ハ亞爾然丁共和國ノ兵制ニ採リタルモノトシテ次記

要旨ノモノヲ上院ニ提出セルモ議決ヲ見ルニ至ラザリキ

一 國防ノ負擔ヲ平均ニ國民ニ負ハシムルヲ趣旨トス

二 體格完全ナル總テノ男子市民ハ十九歳ニ達セハ軍隊ニ召集シ連續十一箇月ノ訓練ヲ加フ而シテ各年ノ適齡者ハ約五十萬人ト算定ス

國民軍事教育案ニ
對陸軍卿ノ提唱

三 國民軍事教育ノ必要ニ關スル陸相ノ提唱 陸軍卿ハ一般軍事教育案賛否ノ輿論盛トナルヤ該案ノ

必要ニ關シ次ノ如ク提唱シタリ

一 本案ハ國家の觀念ヲ一般國民ニ鼓吹シ得ルノ利アリ

二 國民共通ノ積弊トモ認メ得ヘキ協同精神ノ衰退ヲ醫スルコトヲ得

三 國民ノ常備軍ニ對スル信頼ヲ博スルヲ得

四 一般軍事教育ハ軍ニ國防上ノ見地ヨリノ要求ナルノミナラスシテ一般壯丁ノ保健ト產業界ニ能率増進ノ因ト爲スコトヲ得ヘシ故ニ本案ヲ以テ「米國ヲ軍國化シ恰モ同國民ヲ強制シテ兵役義務ヲ負ハシメムトスル軍國主義ト逕庭ナシ」ト批難スルハ不可ナリ云々

英國

第三節 英國

徵兵制度
採用ノ由

「要旨」建軍ノ方式トシテ志願兵制度ヲ傳承シ來レル英國陸軍ハ南阿戰爭ニ於テ本制度ノ缺陷ヲ自覺シ爾來國內ノ有識者ハ強制徵集法ノ必要ヲ提唱スルニ至レリ就中「ロバート」元帥ハ「現政府ノ編成セル陸軍ハ國防ノ遂行上不十分ナルヲ感ス」ト稱シ「兵制問題ハ政論ノ外ニ超越スヘキモノナリ」ト絶叫シ千九百十一年以降歐洲戰直前迄兵制ノ改革ヲ叫ビ徵兵制度ノ必要ヲ提議シタルニモ拘ラス政界及社會ト緊密

ナル關係アル本問題ハ海主陸從トスル國是ヲ有スル國民ノ強制兵役ニ對スル嫌忌ト相俟テ之カ解決ヲ見ルコトナクシテ這次ノ大戰トナレリ而シテ開戦後ニ於ケル志願應募ノ景況ヲ觀察スルニ開戦ノ當初異數ノ好況ヲ呈セル應募者モ戰期ノ永續ト共ニ漸次減少シ來リ彼ノ英國國民ノ誇トセル自主、自由ノ精神ノミニ委セムカ遂ニ所望ノ國軍擴張並之カ保持ノ困難ニ陷ルヘキト彼ノ「ダービー」募兵計畫ノ失敗ニ依リ自覺スルヤ永年ノ懸案タリシ徵兵問題ハ千九百十六年二月即チ開戦後ノ一年有半ニ及ビ第一次陸軍服役法トシテ制定セララルニ至レリ爾後數次ノ改變ヲ行ヒ以テ本大戰ヲ終了スルヲ得タリ、以上ノ如ク英國ノ徵兵制度ハ當局ノ多大ナル苦慮ト幾多ノ曲折ヲ經テ漸ク制定セラレタル本大戰ノ一產物ニシテ該制度カ英國陸軍ノ建設並之カ保持ニハ偉大ナル貢獻ヲ爲シタルニモ拘ラス本大戰ノ終局ヲ告クルヤ勞働黨ハ「徵兵制度ノ撤廢」ヲ政綱トシテ戰後ノ總選舉ニ臨ミ首相ハ勞働階級者ノ意ヲ迎ヘテ戰後ノ國內政策ヲ圓滑ニ處理セムトスル爲軍部ノ銳意徵兵制度存續ノ主張アリシニモ拘ラス遂ニ之ヲ廢止シ再ヒ戰前ノ志願兵制度ニ復歸スルコトナレリ以下次記各項ニ關シ其ノ梗概ヲ掲ケ以テ英國將來ノ兵制問題研究上ノ一資料ニ供セハトス

一 徵兵制度採用前ノ情況

二 徵兵制度採用ニ至レル經緯

三 徵兵制度ノ採用

四 總選舉ニ於ケル勞働黨ノ政綱

五 戰後ノ兵制改革意見

第一 徵兵制度採用前ノ情況

「要旨」 本大戰前ノ數年間ニ於ケル募兵ノ成績ハ正規軍ニ在リテハ概シテ法定ノ定員ヲ保持シ得タルモ地方軍ハ甚タ不良ニシテ之カ爲國內ノ人士中「ロバート」元帥ノ強制徵集法ノ提議ニ賛同スル者少カラサルノミナラス上院ノ一部ハ「中流以上ノ人士ヲ徵兵シ以テ率先國防ニ任セシムヘキ徵兵法案」ヲ議會ニ提出スルニ至リ又國民皆兵協會ノ代表者ハ首相ヲ訪ヒ「國防ハ黨派問題ニアラサルヲ主張セル「ロバート」元帥ノ所論ヲ緒言ト爲シ外敵ノ侵寇ニ對シ陸軍ノ現状ハ全然無價值ナルコトヲ」論述スルニ至レリ要スルニ戰前ニ於ケル募兵成績ノ不振ハ既述ノ如クナリシニモ拘ラス本大戰ノ勃發スルヤ朝野ノ人士ハ報國ノ赤誠ニ激セラレ志願應募者頗ル盛ニシテ開戦後ヨリ一年有半ニ至ル間陸相「キツチナー」元帥ノ計畫シタル強大ナル國軍(二百萬)ノ建設並其ノ保持ニ成功シ其ノ應募者ノ總數ハ全戰役ニ互リ國軍整備ノ爲當局ノ召集セル總數ノ約四割ニ達シタルカ如シ之ヲ米國軍カ其ノ開戦時ノ動員ニ於テ強制徵集法ヲ採用スルコトニ依リ國軍ノ動員ヲ完結シ得タリシ事實(國民軍充足要員ノ不足七(八)萬)ニ比較セハ大戰初期ニ於ケル英國人士ノ愛國ノ赤心ハ敬畏ノ値アリト謂ハサルヘカラス以下「ロバート」元帥ノ強制徵集法ノ提唱及開戦初期ニ於ケル新軍ノ建設ト志願應募トノ關係ニ就キ梗概ヲ述ヘムトス

「ロバート」元帥ノ強制徵集法ノ提議 大戰勃發前ノ三年タル千九百十一年ニ至リ列強權力ノ平衡ヲ破ラムトスル風雲暗慘タル歐洲大陸ノ形勢ニ刺戟セラレ兵制改革問題擡頭スルヤ「ロバート」元帥ハ「歐洲ニ於ケル戰略上ノ變遷ハ吾人ヲシテ現政府ノ編成セル陸軍カ英本國及海外領土ノ國防遂行ニ不十分ナルヲ感セシム」ノ主義ノ下ニ必任義務兵制度ノ創立ヲ議會ニ提議シ且新聞紙上ニ所見ヲ開陳シテ現行制度ニ筆誅ヲ加ヘタルカ彼ノ歐洲外交界ヲ攪亂セル「モロッコ」事件ノ發生ニ激セラレタル國民中ノヲ歡迎スル者尠カラサルノミナラス上院ハ大多數ヲ以テ元帥ノ提議ヲ可決シタルモ陸相「ホールデン」氏ハ「英國陸軍ノ現況ハ元帥ノ憂フルカ如キ事實ナシ」トシテ反駁ヲ試ムルニ至リ遂ニ元帥ノ提議スル所ハ實現ヲ見ルニ至ラザリキ爾後開戰ニ至ル約三年間元帥ハ依然トシテ議會ニ公會ニ或ハ新聞紙上ニ其ノ主張ヲ開陳シテ兵制改革ノ爲至大ノ奮闘ヲ試ミタルモ一ハ政府當局者カ其ノ不必要ヲ宣言シタルコト一ハ海主陸從ヲ國是トスル英國國民ノ強制兵役ニ對スル牢トシテ拔クヘカラサル嫌忌トハ英國社會ニ歷史的的革命ヲ來スヘキ此ノ種兵役法ノ改革ヲ斷行スルコト容易ナラザリシ爲元帥ノ奮闘モ其ノ效ナク志願兵制度ノ兵制ヲ以テ這次大戰ニ臨メル

「註」 政府ハ地方軍ノ應募者ノ不成績ニ鑑ミ千九百十七年ニハ前年度ノモノニ比シ十萬六千磅ノ増額ヲ行ヒ銳意該軍ノ充足ニ努メタルモ同年十月一日ニ於ケル總員ハ定員ニ對シ實ニ五萬人餘ノ缺員ナリキ越エテ翌年ニ於ケル成績ハ依然トシテ不振ノ狀態ニシテ同年十月一日調査ニ依レ

ハ實ニ六萬二千人ノ缺員ナリキ

新軍ノ建設
兵制ト志願
ノ關係

二 新軍ノ建設ト志願兵制ノ關係 開戰後ヨリ千九百十七年中期ニ互ル約三箇年間ニ互リ英國軍ノ徵集セル總員ハ約四百六十有餘萬(此ノ外平時兵力トシテ約六十六萬ノモノナリ)ニシテ之ヲ兵制上ノ見地ヨリ觀察スレハ開戰セル千九百十四年八月ヨリ千九百十六年一月「ダービー」募兵案ノ結果ニ依リ第一次陸軍服役令ヲ制定シテ不應募ノ未結婚男子ヲ徵集スルニ至リタル迄ニ於ケル約一年半ニ互リ志願兵制ヲ以テ徵集セル者ハ前記召集總兵員四百六十有餘萬中ノ約半數ニ該當セリ而シテ爾餘半數ノ者ハ前述第一次陸軍服役令ノ制定次テ第二次陸軍服役令ノ制定ニ依リ徵集セル者及十七年二月國民勞働局ノ新設ニ依リ國民動員ヲ實施シテ兵員資源ノ捻出ヲ圖リ同年七月頃迄ニ辛ウシテ捻出シ得タル三十七萬人ヲ合シ整備スルコトヲ得タルカ如シ要スルニ開戰後ノ三年間ニ整備シ得タル兵數ハ一箇年半ヲ費シテ其ノ半數ヲ志願兵制ニ依リ他ノ半數ハ同シク一年有半ヲ費シテ專ラ徵兵制ヲ以テ充實シ得タルモノト觀察セラル以下開戰初期ニ於ケル新軍ノ建設ト志願兵制ノ關係ヲ述ヘムトス

本大戰ノ參加ニ當リ「キツチナー」元帥ノ陸相ニ任命セララルヤ元帥ハ世俗ノ長期戰爭不可能說ヲ排シ三箇年繼續ヲ基礎トスル計畫ヲ以テ先ツ百萬ノ新募軍ノ募集ニ著手シタルカ其ノ後ノ情勢ハ此ノ百萬ノ新軍ヲ以テ交戰遂行ノ不十分ナルコト明瞭トナルヤ開戰年ノ末期更ニ百萬ノ新軍募集法案ヲ議決シ平時ニ有セル陸軍兵力六十六萬ト合シ約三百萬ノ國軍ノ建設ニ著手シタリ而シテ本計畫ニ對

スル應募者ノ景況ハ時日ノ經過ト共ニ對戰爭ノ感情冷却ト戰禍ノ目撃等ノ爲開戰當初ノ如キ異常ノ好況ヲ見ルコト難カリシモ政府並民間ノ勸誘激勵ト依リ十五年中迄ニハ概シテ所望ノ如ク二百有餘萬ノ新軍建設ニ成功シタルモノノ如シ其ノ後戰局ノ擴大ハ益兵力擴張ノ必要ヲ見ルニ至レルヲ以テ千九百十五年末期「ダービー」卿ノ募兵計畫ニ依リ約二十有餘萬ヲ徵集シタルカ該計畫ノ實績ニ徴セハ開戰後實行シ來リシ志願兵制度ヲ以テシテハ臨機國軍ノ要求スル兵員ヲ整備シ得サルコトヲ認メ茲ニ強制徵集法ノ創立ヲ見ルコトナレリ

第二 強制徵集法ヲ採用スルニ至レル経緯

「要旨」 戰局ノ進展ニ伴ヒ土耳其ノ參戰並「ガリポリ」半島ニ於ケル攻圍戰ノ失敗及聯合軍ノ對巴爾幹外交政策ノ失敗等ハ英國軍一段ノ擴張ヲ切要スルモノアルニ拘ラス志願應募ノ景況ハ漸次不良トナリシヲ以テ從來強制徵集ニ絶對的反對態度ヲ取リシ政客モ漸次其ノ論調ヲ變シ來リ特ニ「ロード、ジョーヂ」氏ハ急先鋒トナリテ兵制改革ヲ提唱セリ之ニ對シ自由黨員ノ多數ハ黨ノ根本主義上強制的兵制ヲ排除シ統一黨内ニ於テモ保守的觀念ト自負心ノ發動ニ依リ志願制ヲ以テ尙能ク其ノ目的ヲ達シ得ヘシト爲ス者アルカ爲一方此ノ至難ナル問題解決ノ機運漸ク熟スルニモ拘ラス其ノ實施ニハ一大難關ヲ控ユルノ大勢ヲ呈スルニ至リタルカ首相「アスキス」氏ハ志願募兵ニ關シ最後ノ努力ヲ試ムルニ決シ十月「ダービー」卿ヲ舉ケテ之ヲ實行シタルモ其ノ成果意ノ如クナラサリシノミナラス特ニ多數獨身者ノ應募セサリシコトハ

第一次強
制徵集
法ノ開
始ノ概
略

國民的不名譽ナリトシ是等獨身不應募者ヲ強制徵集スルニ決シ第一次陸軍服役法ヲ制定セリ以下「ダービー」募兵計畫並成果ニ關シ若干述ヘムトス

一 募兵計畫 國民登記法實施ノ結果十八歳以上四十一歳迄ノ兵役年齡者全部ニ對シ進テ志願應募ノ上體格検査ヲ受ケシメ應募合格者ハ之ヲ未婚、既婚者ニ區分シ又各之ヲ年次ニ應シ二十三組ニ分テ直接召集ノ必要ナキ者ハ歸郷シテ召集ノ令ヲ待タシメ令狀受領後二十四時間内ニ應召セシムトスルニアリ

「ダービー」
募兵計畫
並成果ノ
概略

二 募兵ノ成果 實績ニ徴セハ應募合格者ハ兵役年齡該當者總員ノ約半數ヲ占メ其ノ中既婚者ハ半數以上ニ達シタルニ對シ未婚者ニシテ國難ニ赴クノ氣概ナキノ徒輩實ニ百有餘萬ノ多數ナルゴトヲ發見シ茲ニ強制徵集法實施ノ創立ヲ見ルニ至レリ其ノ成績ニ關シ統計的觀察ヲ舉クレハ次ノ如シ

兵役年齡者(自十八歳至四十一歳)ニシテ兵役ニ服務シアラサル者

五百一萬四千四百四十一人

未婚者 二百七十七萬九千二百三十一人
既婚者 二百八十三萬二千二百一十人

前記人員ニ對シ募兵法實施ノ結果

應募合格者 二百四十萬四百十人

未婚者 九十四萬三千人
既婚者 百四十五萬七千四百十人

不應募者 二百十八萬二千七百七十八人

未婚者 百四十五萬九千二百三十一人
既婚者 百十五萬二千九百四十七人

以上ノ成績ニ就テ見ルトキハ應募者ノ數ハ不應募者ノ數ヨリ稍超過スルニ過キスシテ約半部ハ政府

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

カ最後ノ努力ヲ爲スモ尙軍役に從事スルヲ忌避スルモノトス又不應募者中未婚者ト既婚者トヲ對比
スルニ前者ノ百三萬ニ對シ後者ハ百十五萬ヲ算シ獨身者ノ不應募者ノ比例著シク大ナルヲ見ルヘシ
「註」國家總動員上ノ要員ナルカ爲軍部ニ徵集シ得サル者ヲ本募兵計畫ノ成果ニ依リ調査スレハ
次ノ如シ

應募合格者二百四十萬四百十人中七十六萬千八百七十五人ハ兵器製造其ノ他ノ軍事上ノ業務
ニ服シ募兵トシテ召集スルヲ得ス又不應募未婚者百二萬九千二百三十一人中各種ノ國家事業
ニ從事シアル者三十七萬八千七十一人ナリ此等ノ關係ヲ基礎ト爲シ「ダービー」募兵計畫實施
當時ニ於ケル總動員要員ハ兵役年齡者ニシテ兵役ニ服務シアラサル者約三割ヲ占ムルノ關係
ナリ其ノ計算ノ梗概次ノ如シ

應募合格者中徵集シ得サル者	七十六萬人 (應募合格者二百四十萬人ニ對シ)
不應募者並應募不合格者中徵集シ得サル者	八十萬人 (不應募者二百十八萬人及應募不合格者四十三萬人計二百六十一萬人ニ對シ)
徵集シ得サル者概計	百五十六萬人
「ダービー」募兵計畫上ノ兵役年齡者總人員	五百一萬人
兵役年齡者總人員(一〇〇)ト徵集シ得サル者トノ比率	$\frac{81}{100}$ (約三割)

第三、徵兵制度ノ採用

徵兵制度
採用ノ顚末

「要旨」米國カ參戰ノ翌月一舉徵兵令ヲ制定シタルニ對シ英國ニ於テハ數次ノ改變ヲ經テ漸進的ニ一般
徵兵令ヲ制定セリ即チ英國ハ參戰ノ第三年ノ初頭ニ至リ「ダービー」案募兵ノ實施ニ不應募ノ未婚男子
ニ對シ第一次陸軍服役令ヲ制定シ亞同年五月愛蘭ヲ除ク在英居住ノ英國臣民ニ對シ第二次陸軍服役條
例ヲ定メ更ニ休戰年ノ三月ニ至リ從來ノ兵役免除ノ範圍ヲ短縮シ且之ヲ愛蘭ニモ適用セムトシテ前記條
例ヲ改正セリ而シテ此等ノ徵兵令ハ國家總動員ヲ實行シタル後ニ於テ公布セラレタルモノナルカ故ニ其
ノ規定中純軍事上ノ要求ト國家總動員上ノ要求トヲ相調節シ以テ國內兵員資源ヲ運用スルニ苦慮ヲ拂ヒ
タルノ點ハ彼ノ米國ノ徵兵令ト共ニ吾人ノ將來大ニ教訓トスヘキモノアルヲ認メ以下各期ノ徵兵令ノ要
旨ヲ掲記セムトス

一 第一次陸軍服役條例 千九百十六年一月制定セル本條例ハ愛蘭ヲ除キ英、蘇格蘭及維耳斯ニ
ミ實施シタルモノナルカ本條例ニ依リ徵集シ得タル者ハ約八十萬人ニ達スルカ如シ以下本條例內容
ニ關シ若干説述セムトス

第一次陸
軍服役條例
ノ大要

- 一 滿十八歲以上四十一歲以下ノ未婚男子若ハ保育スヘキ小兒ヲ有セサル鰥夫ハ總テ兵役ニ服ス
ヘキ義務ヲ有ス但シ左ニ掲クル者ヲ除ク
- (イ) 兵役除外證ヲ有スル者
- (ロ) 宗教上ノ教職ニ在ル者

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

二 兵役除外ノ可否ヲ決定スル爲國民登記法ノ定メタル各地區毎ニ陸軍服役裁判所ヲ更ニ數地區ヲ合シ上申裁判所ヲ尙中央ニ一中央裁判所ヲ設ク

三 兵役除外證ノ交付ヲ受クヘキ者次ノ如シ

- (イ) 兵役ニ就カシムルヨリモ他ノ職務ニ從事セシムル方國家ノ爲有利ト認メラル者
- (ロ) 本人アルニアラサレハ其ノ家族自活ノ途ヲ失フト認メラル者
- (ハ) 體格兵役ニ適セサル者
- (ニ) 兵役ニ對シ根本的良心ノ疑慮ヲ有スルト認メラル者

四 政府各省ハ軍事參議院ト協議ノ後其ノ管轄下ニ在ル使用者ニ對シ兵役除外證ヲ交付スルヲ得

五 除外證ハ其ノ所有者若ハ軍事參議院カ特別ニ任命シタル検査官ノ申告ニ基キ發行者ニ於テ何時タリトモ之ヲ検査シ必要ト認ムルニ於テハ其ノ條件ヲ變更シ更ニ之ヲ沒收スルモノトス

六 兵役除外ハ絶對的條件附及一時的ノ三種ニ區分シ尙第三項ノ(二)該當者ニハ唯戰國勤務除外ノ證ヲ交付スルモノトス

七、八 罰則ニ關スル件(省略)

「註」 本條例ノ實施ニ依リ徵集セラルヘキ者ハ「ダービー」案不應募未婚者四十五萬五千八百

人(不應募未婚者六十五萬千餘人ニ對シ合格率七割ヲ算出シタルモノ)ナリ而シテ曩ニ「ダービー」案實施ノ結果應募入隊セル二十

一萬有餘ノ者及應募在郷ノ未婚者約三十四萬三千四百人計五十五萬有餘ノ者ト前述ノ本條

例ヲ以テ適用セラルル不應募未婚者ヲ合スレハ約百有餘萬ノ者ハ「ダービー」案實施ノ千九

百十五年末期ヨリ千九百十六年初頭ニ互リ徵集シ得ヘキ未婚者ノ總數ナリ而シテ該未婚者

ヲ徵集シ終ラハ次ノ兵員資源トシテハ應募並不應募ノ既婚者ニ仰カサルヘカラス而シテ本

徵集ノ爲ニハ新ニ法律ヲ制定スルノ必要アリ

第二次陸軍服役條例
例ノ大要

二 第二次陸軍服役條例(附第一條) 前述第一次陸軍服役條例ハ獨身者(滿十八歲以上滿四十一歲未滿

ノ者)ニ限リ適應セラルルモノナルカ戰況ノ推移ニ伴フ國軍擴張並之カ保持ノ必要ニ迫ラルルヤ到

底是等獨身男子ノ徵集ヲ以テシテハ軍國ノ要求ヲ充足シ得サルカ爲途ニ「ダービー」案應募ノ

既婚者ヲモ徵集スルコトナレリ然ルニ彼等ハ「多數ノ獨身者カ軍業ニ就職セルヲ權トシテ尙殘存

スルニ吾人ノミ急速ニ召集セラルルハ首相ノ實言ニ反ス」ト述ヘ「國家存亡ノ今日軍役ニ服スルハ須

ラク國民平等ナルヘシ「ダービー」應募者クミニ軍役ヲ強ヒ不應募者ヲ不問ニ附スルハ不公平ナリ」

ト絶叫スルニ至リ輿論亦喧囂ヲ極ムルニ至レリ一方政界ニ於テハ從來強制徵集ニ反對ヲ提唱シ來レ

ル統一黨及自由黨モ其ノ主張ヲ曲ケテ一般徵兵法案ヲ進提スルニ至リ軍備ヲ要求ト相俟テ茲ニ閣議

カ大部ヲシテ一般徵兵論ニ傾カシムルニ至リ由來溫和漸進主義ヲ標榜シ來レル内閣ヲシテ遂ニ五周

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

第二次陸軍服役法案ヲ下院ニ提出スルコトナリ爾後兩院ノ可決ニ依リ國王ノ批准ヲ經テ新定ヲ見ルコトナレリ而シテ本徵兵令ニ依リ徵集シタル人員ハ千九百十六年末期迄(約六、七箇月間)二百二十有餘萬ニ達シタルカ如シ該條例ノ要旨左ノ如シ

兵役義務、愛蘭住民ヲ除キタル大不列顛ニ常住スル英國臣民ニシテ滿十八歳乃至四十一歳ノ男子ハ兵役ニ服務スルノ義務ヲ有ス但シ滿十九歳ニ達セサル男子ニ對シテハ成シ得ル限リ外國勤務ニ從事セシメサルモノトス

兵役滿限者 正規軍及地方軍ニ服務セル者ニシテ其ノ服務期限滿了セムトスル者ハ本戰役間更ニ引續キ兵役ニ服スルモノトス但シ滿十二箇年以上服役セシ者ニシテ年齡四十一歳ニ達セル者ハ本人ノ希望ニ依リ免役セラルヘシ既ニ兵役滿限トナリテ退役セル者モ更ニ兵役ニ服スルモノトス(階級ハ從前ノ通りトス)

兵役免除者 次ノ各項ニ該當スル者ハ兵役ヲ免除セラル

- 一 海外領土ニ常住セル者ニシテ或特別ノ目的ヲ爲一時英國本土ニ來住セル者
- 二 各宗門ノ僧侶
- 三 身體ノ故障ニ依リ兵役ヲ免セラレタル者
- 四 兵役免除ノ證明書ヲ有スル者

千九百十五年八月十四日以後兵役ヲ志願シテ免除トナリシ者ハ千九百十六年九月一日ヲ以テ免除ノ效ヲ失フモノトス而シテ若シ軍事參議院ニ於テ更ニ身體検査ヲ行フノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ本人ニ對シ通告スル所アルヘシ

五 戰時敵國ノ捕虜トナリ若ハ敵地ニ拘留セラレタル者又ハ是等ノ者ニシテ解放或ハ交換セラレテ歸國セル者

六 地方審査所ハ次記ノ者ニ對シ兵役免除若ハ猶豫證明書ヲ與ヘ得ヘシ

- (一) 現在ノ職務ニ經驗ヲ有シ且引續キ該職ニ從事スルヲ國家ノ爲有益ト認メラレタル者

- (二) 經濟上又ハ職業上若ハ家事上ノ特別事情ニ依リ兵役ニ服務スルトキハ著シキ難境ニ陷ル者

- (三) 身體虛弱ナル者

- (四) 良心的反逆ニ依リ交戰任務ニ服シ得サル者

七 政府各省ハ其ノ省内要職ニ從事セル者ニ對シ兵役免除若ハ猶豫證明書ヲ附與スルヲ得但シ軍事參議院ノ協議ヲ經ルヲ要ス

八 良心的故障者ニ對スル免除ノ範圍ハ單ニ交戰任務ニノミ限ラルルモノトス

九 地方審査所ノ判決ハ控訴審査所ニ依リ控訴審査所ノ判決ハ中央審査所ニ依リ再審セラレ得

ルモノトス

新徴兵令
公布ノ動機

三 新徴兵令 前述セル第二次陸軍服役條例ニハ各種ノ除外例アルカ爲各官省ハ其ノ業務進捗ノ爲争
フテ兵役免除者ヲ作り陸軍省ト他省トノ間意思ノ疏通ヲ缺クニ至リタルト一方戦局ノ發展ニ伴ヒ軍
需品製造所ノ所要人員ノ増大及夥多ナル損耗補充ノ爲一般勞務力ト兵員資源トヲ統制按配スルノ必
要ニ迫ラレ千九百十六年九月壯丁配當局ヲ亞テ同年末期國民勞務役局ヲ開設シ該業務ヲ管掌スルコト
トナレリ千九百十七年七月迄ニ參謀總長ハ五十萬ノ兵員ヲ要請スルニ至リタルヲ以テ國民勞務役省ハ
(一)不合格者ノ再検査、(二)軍役志願者ノ年齢擴張ニ依リ兵員資源ノ推進、(三)鐵道従業員中一部不可充
要員ノ交代出征、(四)不可充要員タル鐵夫中ヨリ一部獨身者ノ交代出征、(五)農業者中一部ノ交代出征
等要スル不合格者ノ再検査、軍役志願者ノ年齢擴張及不可充要員一部ノ交代出征ノ手段ヲ以テ銳意
兵員資源ノ抽出ニ努力セルモ其ノ成果ニ依レバ前述五十萬ノ要請ニ對シ抽出シ得タルモノハ三十七
萬ニ過キサリキ以上ノ如ク兵員資源ハ漸次衰減シ來ルニ對シ戦局ノ發展ハ益國軍ヲ擴張保持スルノ
必要ニ切迫セリ即チ十七年末期露、獨ノ單獨講和ニ依リ獨國軍ハ露國方面ノモノヲ舉ゲテ西部戰場
ニ用ウルニ至リ十八年三月「ソナム」戰ニ於ケル失敗ハ速ニ兵力擴張ノ必要ヲ自覺シ四月ニ入り首相
ハ下院ニ於テ率直ニ戦局ノ一大危機ニ瀕セルヲ述ヘ痛切ニ國民ノ一致ヲ要望シ強敵ヲ擊破スル爲ニ

新徴兵令
ノ内容

ハ兵員徵募ノ已ムヲ得サルコトヲ訴ヘ茲ニ新徴兵令ノ制定ヲ見ルニ至レリ
之ヲ要スルニ第三次徴兵令ノ制定ヲ見ルニ至リタル動機ハ露、獨ノ單獨講和ニ因リ發シ第二次陸軍
服役條例中廣義ノ兵役免除ニ關スル規定ヲ縮小シ新ニ兵員資源ヲ抽出セムトスルニ歸依シ得ヘシ(當
時軍部ノ希望兵數ハ五十萬人ナリシト謂フ)以下本徴兵令ノ内容ニ關シ若干説述セムトス
兵役義務 年齢十八歳以上五十歳迄ノ英國男子ハ兵役ニ服スルノ義務アルコトト爲シ從來ノ徴兵
令ニ比シ四十一歳ヲ五十歳迄擴張シ且之ヲ愛蘭ニモ適用セムトスルニアリ尙國難ニ際シテハ政府
ハ兩院ノ協賛ヲ經タル後五十五歳迄ノ男子ヲ兵役ニ徵集スルコト但シ同年齡迄ノ醫師ハ直ニ兵役
ニ召集スルコトヲ得ヘキヲ規定セリ

兵役免除 疾病若ハ白痴ノ外兵役ヲ免除セス又兵役免除證ヲ有スル者ハ本戰役間義務勞役ニ服ス
ルコトヲ勵行スル旨規定セリ

以上ノ規定ヲ内容トスル本案徴兵令ハ其ノ當初ニ當リ從來兵役免除ノ特典ヲ有シタル職工等ハ其ノ
徵集ヲ免レムトシテ舉ケテ反對シタルヲ以テ國民服役大臣「グデス」氏ハ其ノ職工組合代表者ト妥協
的ニ解決ヲ試ミシモ失敗ニ終リシカ首相「ロイド、ジョージ」氏ハ戰況ノ不振ニ鑑ミ斷乎トシテ本徴
兵令ノ改正實行ヲ圖リタルハ前述ノ如シ尙此ノ徴兵令ハ愛蘭ニハ其ノ實施ヲ見ルコトナク本大戰ハ
休戦ト爲レリ

「註」國民勞務役局ノ新設 千九百十七年二月即チ參戰後約三年ニ至リ該局ヲ新設シタルノ動機ハ
曩ニ述ヘタル如ク一般勞務力ノ統制ヲ圖リ以テ兵員資源ヲ推進セムトシタルモノナルカ新設當
時ノ説明ニ隨ヘハ「全國民カ國家ノ爲軍國ニ最緊要ニシテ且各人ニ最適當ナル業務ニ服務セシ
ムルニ在リ」ト爲シ政府ハ志願制度ニ依リ英國内總テノ階級ノ男子ヲ網羅シ國家的緊要ナル職
業ニ從事セシメ以テ軍需品ノ製出ヲ遞減スルコトナク第一線兵力ヲ補充シ内國產食料品ノ増加
ヲ圖リ以テ戰爭ヲ遂行セムトシタルモノニシテ所謂國民動員ヲ實行シタルモノナリ

第四 總選舉ニ於ケル勞働黨ノ政綱

戰後ニ於ケル兵制問題ノ論議ニ當リ軍部ハ徵兵制度ノ存續ヲ銳意主張シタルニモ拘ラス首相ハ勞働者階
級ニ屬スル者ノ意ヲ迎ヘムカ爲該軍部ノ主張ヲ排シ徵兵制度ヲ撤廢シタルコトハ既ニ述ヘタル所ナルカ
遡テ休戰後執行セラレタル總選舉ニ際シ勞働黨カ政戰ノ爲舉ケタル政綱ハ此ノ間ノ消息ヲ窺知スルニ足
ルモノアリト認メ以下其ノ要旨ヲ茲ニ記載セムトス
總選舉ノ政戰ニ先チ首相「ロイド、ジョージ」氏ハ將來ノ政策トシテ(一)自由貿易主義ノ保持、(二)帝國領土
内ニ或形式ノ特惠ノ實行、(三)食料品課稅ノ廢止並外國品ノ廉賣ノ取締等ヲ標榜シタルカ統一黨ノ同意ス
ル所トナリシヲ以テ茲ニ聯合政綱トシテ(一)國際聯盟ノ創設、(二)歸鄉兵士ニ對スル土地ノ分配、(三)職工家
屋問題、(四)國民教育ノ振興、(五)產業貿易ノ振興等ヲ舉ケ以テ政戰ニ臨メリ以上ニ對シ勞働黨ハ過般ノ選

總選舉戰
ニ於ケル
勞働黨ノ
政綱
「徵兵制
度廢止」
ノ政綱

舉法改正ノ結果多數ノ勞働有權者ヲ得タルヲ以テ黨勢ヲ擴張シテ社會主義的政策ヲ實行セムトシ次ノ政
綱ヲ掲ケテ政戰シタリ

組織

- 一 國際勞働聯盟ヲ基礎トスル平和ノ確立並民族自決ノ上自由ヲ得タル國民ヲ基礎トスル國際聯盟ノ
- 二 徵兵制度ノ全廢、言論ノ自由保障
- 三 政府ノ費用ヲ以テ百萬ノ新住宅ノ建設
- 四 資本稅ノ賦課
- 五 鑛山、鐵道、船舶、電力等ノ國有

以上聯合政綱並勞働黨ノ政綱ヲ以テ開始セラレタル政戰ハ其ノ進展ニ伴ヒ大勢ハ前著ニ有利ナルヲ見ル
ヤ勞働黨ニ屬スル諸新聞紙ハ「自由議會、徵兵制度排斥、自由貿易ノ爲投票セヨ」ト切言シ言論界ノ緊張
ヲ見タルカ該選舉ハ政府黨ノ勝利ヲ以テ終了セリ

第五 戰後ノ兵制改革意見

「要旨」 本意見ハ英國ノ一將校ノ發表シタルモノニシテ其ノ論旨ハ南阿戰爭ニ於ケル志願兵制度ノ失敗
ヲ舉ゲ志願兵制ノ無形上ノ弊害ヲ指摘シタル後這次大戰間創定セル徵兵制度ノ權威ニ論究シ戰後之カ存
續ヲ主張シタルモノニシテ彼ノ英國元帥「ヘッグ」カ其ノ凱旋演說中ニ將來強大ナル民兵軍ヲ練成スルカ

兵制改革
ニ關スル
一將校ノ
意見

必要ヲ力説シタルニ對シ「タイムス」紙カ「將來英國陸軍ヲ如何ニ編成スヘキヤハ輕々ニ論斷シ得サルモ國民ト軍隊ト疎隔スレハスル程軍隊ノ危險性ヲ加フルコト疑ノ餘地ナシ」ヘーグ「元帥ノ民兵案ハ國民ト軍隊トヲ融合シ國民全體ヲ以テ國家ヲ防衛スルノ意味ニ於テ吾人ノ意ヲ得タリ云々」ト論評シタル一節ト相俟テ戰後ニ於ケル兵制選擇ノ一面ヲ窺知シ得ルモノト認ム以下其ノ要旨ヲ述ヘムトス

兵制改革意見 論者ハ先ツ南阿戰爭ニ於テ英國陸軍カ志願兵制度ナリシカ爲兵員ノ補充方策ニ至大ノ苦心ヲ拂ヒ辛ウシテ給料増加ノ手段ヲ以テ志願者ヲ徵募シ得タルノ實驗ヲ以テ何等改正ヲ加ヘサリシカ故ニ本大戰參與ノ當初ニ於テ獨軍ニ對シ甚タ惘然ナル狀態ヲ呈シタルコトヲ述ヘタル後志願兵制度ノ無形上ノ不利ニ論及シ該制度ハ一般國民ヲシテ軍隊ニ對シ全ク不關焉ノ態度ヲ採ルニ至ラシムルモノナルコトヲ述ヘ次ニ一般徵兵制ノ採用セラルルヤ從來軍隊ナルモノハ人民中ノ一部ヨリ徵募セラレ全ク職業軍隊ニ過キスト思惟セル觀念ヨリ覺醒シ軍隊ノ智識ヲ得ルニ至ルヤ兵士ノ社會上ノ地位ハ認メラレ軍隊ハ國民信望ノ的トナリ茲ニ全ク英國陸軍ハ英國國民ノ陸軍ナルコトヲ現實シタルコトヲ舉ケ徵兵制度ノ必要ヲ述ヘタリ其ノ他徵兵制度ハ自由ヲ尙フ國民性ニ不條理ナラサルコト並徵兵制度ヲ排斥セムトスル工業家ニ對シ次ノ如ク述ヘタリ

「一般國民兵役ハ眞ニ國家的編組ナリ國民元氣ノ最上利用法ナリ徵兵制度ハ軍隊ノ爲單ニ十分ナル人員ヲ供給スルノミナラス各人相互ノ安全ノ爲最適切ニ其ノ責務ヲ分ツヲ得ヘキ制度ナリ元來自由ヲ尙フ國

民ハ其ノ自由保持ノ爲ニハ自ラ努力セサルヘカラス徵兵制度ノ反對論者中「一般兵役ハ工業ノ進歩ヲ阻碍ス」ト是レ全ク誤解ナリ徵兵制度ハ公ノ手段ヲ以テ國家ノ安泰ヲ期スルモノナリ國家危殆ニ瀕スレハ工業モ亦停止セサルヘカラス從テ國家防護ノ爲適當ナル準備ヲ主張スルコトハ寧ロ彼等工業家ノ爲大ナル利益ナテスヤ工業ハ國家ノ一部ニシテ國家ノ安寧ヲ得テ始テ工業ノ安全ヲ期シ得ヘク國家ヨリ分離シテ其ノ繁榮ヲ計ルコトヲ得サルナリ」

第七章 佛國ノ民兵制度問題

第一節 要領

社會黨並其ノ一員タル「アンリ」バート「氏」ノ提議セル民兵制度案ハ社會主義並軍事の見地ヲ以テ主張シタルモノナルカ之ヲ概言セハ其ノ根本ノ主義ハ戰前「ジャン、ジョウレ」氏カ提唱セル「社會主義ト常備軍制度トハ兩立セス」ノ主義ヲ根基トシタルモノナリ即チ佛國革命當時ノ軍隊ノ傳說ヲ繼承シ「常備軍隊ナルモノハ抑壓權力ノ一道具ナリ」トノ思想上ニ基礎ヲ置キタルモノト觀察セラル隨テ該提唱中軍事方面ノモノハ「近代並將來ノ軍隊」ニ觸レアラサルヲ以テ所論正鵠ヲ得サルモ社會主義の見地ノ軍備、戰爭觀ハ以テ他山ノ石ト爲スヘキモノアリ特ニ「バート」氏ノ提唱セル產業動員上ノ要員整備計畫案ノ主義ハ一顧ノ要アルモノト認ム以上ノ説論ヲ綜合シ次記各項ヲ記述スルニ當リ社會黨ノ提説ハ簡ニ過キテ要ヲ得サルモノアルヲ以テ「ジョウレ」氏ノ説論ノ要旨ヲ以テ之ヲ補遺シ傍ラ一、二ノ客觀的所見ヲ附記セムトス

民兵制度
主ノ主張ハ
常備軍
道力ノ一
制度ト現
依リタル
ナリ

一 社會主義的見地ヨリ民兵制度ノ主張

二 軍事上ノ見地ヨリ民兵制度ノ主張

三 社會主義的戰爭觀

四 法律案ノ要旨

第二節 社會主義的見地ヨリ民兵制度ノ主張

「要旨」 社會黨案ハ戰後軍備縮小ハ當然ノ趨向ナリト述ヘタル後其ノ建軍方式トシテ志願兵制或ハ徵兵制ノ何レヲ選用スヘキヤニ論及シ前者ハ職業的軍隊ノ危險ヲ伴フヲ以テ採用スヘキモノニアラストナシ後者ハ若シ戰前ノ制度ニ復歸スルモノトセハ志願兵制採用ト同様ノ禍ヲ醸生スヘキモ民兵制度ヲ採用セハ此ノ危險ヲ免除シ得ルモノト認メ該制度ヲ主張シ「ジョウレ」氏ハ戰前「常備軍制度ハ社會主義ト兩立セズ」ト叫ビ又「アンリー」氏ハ「帝國主義ヲ廢棄シ民主政體ニ適合スル國防軍隊ヲ整備スルノ必要アリ」ト唱ヘ共ニ民兵制度ヲ提議セリ以下各主張ノ要旨ヲ列舉セムトス

其一 社會黨案

軍備縮小 平和ヲ準備スル國家ノ元首等カ獨國武裝ノ全部ノ解除及材料ノ完全ナル破壊ヲ願慮セザリシコトハ吾人ノ意見ヲ行フニ就キ不便極メテ大ナル所ニシテ終ニ獨國ヲシテ十萬恐ラクハ二十萬人ノ國軍編成ヲ許スニ至リタル關係上佛國ノ軍備ハ該兵力ニ對シ國境ノ安全ヲ期シ得ルノ程度ニ縮小スルヲ以テ

志願兵制
度ハ軍備
スルノ危險
スルヲ免除
スルヲ爲メ
兵制ノ採用
アルモノ
ナレトモ
此ノ危險
ハ採用セ
ハ此ノ危
常備軍制
度ト社會
主義トハ
一致セズ
軍備縮小
ノ必要

満足セサルヘカラス尙佛國ノ産業ハ勞力ト技術ナクムハ之カ復興ハ困難ナルヲ以テ此ノ見地ヨリシテモ亦最少限ニ軍備ヲ縮小スルノ必要アリ

建軍ノ方
式ハ徵兵
制トスル
可

建軍ノ方式 志願兵制ハ職業軍隊ト化シ其ノ危險ナルコトハ佛國ノ民主主義者カ歴史ノ政治的經驗ニ基キ絶エス提唱シタル所ナリ徵兵制度ハ本來攻撃的軍隊ヲ提供スルモノナルハ既往ノ歴史カ證明スル所ナルモ仔細ニ其ノ動機ヲ觀察セハ該制度ノ危險ハ爲政者ノ罪ニシテ制度其ノモノノ罪ニアラス換言セハ徵兵制度ニ伴フ危險ハ國家ノ政治的狀態ヨリ生シ來ルモノナリ但シ此ノ制度ヲ若シ戰前ノ通りニ應用セハ急速ナル亂暴ニ準備セラレタル軍ヲ構成スルニ終ルヘク之ニ反シ民兵制度ヲ採用シ服役期ヲ短縮シ軍事教育ヲ數期ニ分チ之ヲ各市民ノ國防ニ參與スヘキ全服役年限ニ配賦スルトキハ良好ナル防禦的國軍ヲ整備シ得ヘシ

徵兵制度
ノ危險ハ
爲政者ノ
罪ナリ

「註」 徵兵制度ノ危險ハ爲政者ノ罪ナリ治者ニシテ徵兵ヲ外交上ノ暴横及殘虐ナル企圖ニ使用セムト欲シ人民ハ無頓著ニシテ監督ヲ行ハス民主主義者又沈黙シ甚シキハ此ノ行爲ニ協力シテ「徵兵軍隊ハ專ラ國家ノ防備ニ充當セラルヘク隨テ侵略主義又ハ國內ノ資本階級權勢保持ノ爲之ヲ轉用スヘカラス」ト要求セサル時ハ茲ニ徵兵制度ハ危險ヲ伴フモノナリ吾人カ市民兵ヲシテ將校ト同シク市民權ノ行使ニ依リ國家ノ政治的、國民的活動ニ與ラシメムコトヲ要求スルノ意圖ハ實ニ茲ニ存スルモノトス云々

帝國主義
ノ放棄ハ
大戦ノ一
救済ナリ

帝國主義ノ絶對的觀念ハ大戦ノ教訓トシテ之ヲ廢止セサルヘカラス而シテ自由ニ生活セムコトヲ希フハ近代科學ノ進歩ヲ利用スヘキハ固ヨリ健全ナル體軀ト崇高ナル精神トヲ有スル人々ヲ以テ民主政體ニ適合スル國軍ヲ組織セサルヘカラス

其二「アンリ、バーテ」氏案

一三六

其三「ジャン、ジョウレ」氏案

第一 社會主義ト常備軍制度トハ兩立セス

軍隊ハ抑
壓權力ノ
一道具ニ
過キス

一 佛國革命以來ノ全佛國史ニ就キ軍隊ト「デモクラシー」トノ關係ヲ觀察スルニ軍隊ハ一ノ附屬物ニ過キスシテ如何ナル時機ニ於テモ主導勢力ヲ構成シタルコトナシ特ニ現制ニ及ヒ民衆ノ意思ノ活動ヲ甚シク束縛シ全ク軍隊ハ抑壓權力ノ手中ニ於ケル使用極メテ容易ナル一道具トナリ漸次一種ノ閉鎖官衙ヲ成形シ其ノ團隊の精神ハ軍國主義ニ發達スルニ至リ此ノ制度ヲ奉スル國民ハ其ノ力ト時トヲ全ク浪費シツツアルノ情況ナリ

二 戰爭ノ目的カ征伐掠奪ニ在ルカ或ハ野心若ハ貪慾上ヨリ打算セラレタルカ如キ不義ノ戰爭ニ於テ使用シ得ヘキ最適當ナル軍隊ハ實ニ現制ノ職業軍隊ナリ即チ彼等軍隊一國民ト沒交渉ナル軍隊一戰利品ノ獲得ニ依リ其ノ慢心ヲ満足セムトスル諸隊長ニ對シ盲目的ニシテ熱望のナル服従心ヲ捧クルノ軍隊一餌ヲ狙フ職業的軍隊ニシテ彼等ハ兵營中ニ集結セラレ在リテ手中ニ掌握セラレ國

人ト離隔セラレテ國人ノ有セサル狂暴ナル慾望ニ醉ヒ軍旗ノ色ニ魅セラレ喇叭若ハ軍笛ノ音響ニ耳ヲ惱マサレツツ平和ト正義ノ呵喚ニ聳ナルヘキモノナリ

不正義ノ
戰爭ニ好
ムハ軍事
ニ從事ス
ヘキ常備
軍ノ制度
ハ之ヲ廢
止セサル
ヘカラス

三 社會主義者カ常ニ極力排斥スル資本主義の政府カ資本家階級ノ利益ノミヲ圖リテ不正義ノ戰爭ヲ開始スルニモ拘ラス戰爭ノ負擔者ハ常ニ勞働階級ニシテ勇士ト謳歌セラレ血ト肉トヲ拂ヒテ名譽ナル憐ナル廢兵トナルノ危險アルヲ以テ社會黨ハ其ノ主義ニ依リ斯ノ如キ不正義ナル戰爭ハ今日「デモクラシー」ト勞働ノ世界ニ於テハ全ク無効不條理ニシテ且罪惡ナリト認メ革命的絶對行爲ヲ以テ眞面目ニ爲政者ヲ威嚇スルト同時ニ此等不正義ノ戰爭ニ喜テ從事スヘキ常備軍制度ノ廢止ヲ叫ハサルヘカラス

陸軍力ト
庶民階級
係者トノ
關係

第二 國防機關トシテノ陸軍力ハ「生産國民、勞働人民、賤民階級」ノ理想的ニシテ且熱中シタル勢力トノ緊密一致ニ存セサルヘカラス而シテ「プロレタリア」ハ喜テ斯ノ如キ新陸軍ノ建設ニ努力スルナラ

民衆軍隊
建設ノ必
要

一 現制ノ軍隊ハ半ハ國民的、半ハ職業的、半ハ「デモクラシー」的、半ハ寡頭政治的ナルヲ以テ機械的軍紀、暴逆或ハ死刑ノ威嚇ヲ以テスルニアラサレハ國防機關トシテノ權威ヲ有セサルカ故ニ斯ノ如キ制度ノ軍隊ハ之ヲ廢止シテ代フルニ勞働階級ノ權利ニ對シ又平和ヲ尊重スル眞正ノ國民的、民衆の軍隊ヲ建設セサルヘカラス

新陸軍ノ建設ニ當リ「プロレタリア」ハ民衆軍隊ノ機能ヲ確實ニスルト同時ニ軍事制度ノ中ニ於テ出來得ル限リ大部分ノ指揮權ヲ求メ且之ヲ行使スルコトニ依リ祖國ノ危機ニ際シテハ「プロレタリア」ノ莊美ナル目的、國際平和及國家ノ獨立保護ニ一層良好ナル成果ヲ舉クルコトニ努メ「プロレタリア」ノ勢力ノ増大及社會主義的行爲ノ正義ノ法則ヲ一般ニ示スヘシ斯ノ如キ努力ハ惟フニ「プロレタリア」ノ辭退スルヲ得サル所ナルヘシ何トナレハ彼等ニシテ此ノ新編成ニ參加セザラムカ一般兵役制度ヲ打破スルノミナラス社會的の爭鬭ニ際シ抑壓的の干涉ノ全權能竝恐ルヘキ兵力ノ使用權ハ全ク「ブルジョア」軍ノ掌中ニ歸スルコトナルヲ以テナリ然レトモ予ノ見地ヲ以テセハ「プロレタリア」ハ喜テ予ノ意見ヲ採用シ新陸軍ノ編成ニ努力スルコト確實ナリ何トナレハ勞働者及社會主義者ハ總テ國民ニ對シ兵役ヲ要求シ「ブルジョア」カ金錢ノ特權ニ依リテ負フヘキ重荷ヲ免ルルコトヲ許ササルト同様ニ勞働階級者ハ軍隊ヨリ奴隸ノ如ク排斥セラルルコトハ忍ビ難キ所ナルヲ以テナリ

彼等ハ政治的ニモ社會的ニモ龐大ナル軍事機關ノ掌握ヲ許ササルコト竝現制ノ軍隊ハ「ブルジョア」ノ財產ヲ膨大スルコトニノミ努ムル特權政府ノ軍隊ナルコトヲモ亦十分ニ自覺シアルヘキニモ拘ラス軍隊ニ入ラムコトヲ欲スル所以ノモノハ一ハ武器ヲ携帯スルコトカ假令「ブルジョア」政府ノ下ニ在リテモ勞働人民ノ爲ニ一ノ勢力ナルコトヲ知ルト共ニ一ハ彼等勞働人民及農民ニ依リ

軍隊内ニ誘透セシムル「プロレタリア」精神及社會主義的精神ヲ益軍隊内ニ培養シ之ニ對シテハ如何ナル手段、權力ニ依ルモ到底防止スルコトヲ得サルニ至ラシメ以テ勞働團體ノ權威ヲ認識セシメムトスル希望ヲ有スルカ爲ナリ

所見「ジョウレ」氏ハ「軍隊ハ一ノ道具ナリ」ト唱ヘ常備軍制度ノ危險ヲ論議セルコトハ吾人ヲシテ意外ノ感ヲ抱カシムルカ如キモ我カ帝國ノ政體(憲法)竝建軍ノ根基ト佛國ノ夫レトハ差異アルノ點ニ徴セハ吾人ハ敢テ氏ノ所説ヲ奇異ト爲スノ要ナキナリ而シテ該提説ハ英國ニ於ケル次ノ軍隊觀ノ史的觀察ニ依レハ著シク英國流ノ臭味ヲ帶ビアルカ如シ英國人ノ軍隊ニ對スル觀察ハ彼ノ「クロンウエル」時代ニ於テ國民ノ自由ナルモノカ絶エス戒嚴令施行ノ爲ニ束縛セラレ蹂躪セラレテ國民ハ軍隊ノ足下ニ俯伏シタルコトニ依リ遂ニ國民ノ軍隊觀ヲシテ「彼等ハ國民ノ意思ニ反對シテ使用セラレ得ヘキ國家的機械ナリ」トノ信念ヲ抱クニ至リ就中「マコレ」氏カ「政治上ノ自由ト常備軍トハ兩立シ難シ」ト提言スルニ至リ該信念ハ牢乎トシテ國民ノ心底ニ樹立セラルルニ至レリト謂フ以上ノ軍隊觀ニ對シ獨逸學者ノ唱フル所ハ全ク其ノ趣ヲ異ニセリ即チ「シャルンホルスト」ハ「常備軍隊ハ文化ノ根源ナリ」ト唱ヘ「トライチケ」ハ「兵役ヲ以テ國民ノ義務ト爲シ國民ノ物質的の勢力ノ綜合タル現制ノ軍隊ニ對シ外交上ノ一機關トノミ認メ系統的學說ニ於テ外交論ノ一章中從屬的位置ヲ與ヘタルハ舊國家學ノ缺陷ナリト」喝破シタル後軍隊ナルモノハ自己ノ意思ヲ挾ムコトナク國家元首ノ意思ニ絕對的服從ヲ行ヒ以テ其ノ意思ヲ遂行スルコトニ依

リ茲ニ始テ國民ノ政治的自由ヲ得ルモノナリト説論ヲ進メ『若シ軍隊ニシテ自己ノ意思ヲ有セハ政治的安全ハ一切烏有ニ歸セム軍隊カ討議ヲ爲シ黨派ニ分裂スルヨリ怖ルヘキ害毒ハアラス西班牙ノ運命ハ其ノ實例ナリ軍隊ハ常ニ自己ノ意思ヲ有シ或時ハ「カルロス」ニ黨シ或時ハ「イザベラ」ニ與ミセル軍隊ノ爲ニ西國ノ蒙リシ苦痛ハ如何ハカリシヤ斯ル政治的危難ヲ防クハ唯絶對的ニ嚴肅ナル軍紀アルノミ」ト述ヘタル後次ノ如ク結言セリ『君主政體ハ國民ノ多數ニ對シ國家統一ノ思想ヲ明白ニ表現スルヲ以テ最軍隊ヲ指揮スルニ適應ス而シテ現制ノ如キ我カ軍隊ヲ有スルハ獨逸國民ノ長所ナリ』要スルニ常備軍隊ニ對スル此等觀察上ノ區々タル所以ノモノハ畢竟各國ノ政體、國民性、軍隊ノ傳說等ノ相異レルコトニ歸著スヘク若シ吾人ノ立場ヨリ「ジョウレ」氏並英國流ノ軍隊觀ヲ批判セシメハ這一顧ノ價值ヲ有セサルモノト謂ハサルヘカラス

第三節 軍事上ノ見地ヨリ民兵制度ノ主張

軍事上現制度ニ關スル社會黨並「ジョウレ」氏案ノ批判ヲ綜合セハ長期在營制ハ軍事上其ノ必要ナキノミナラス却テ不自然、守舊、陰鬱ノ生存ヲ行ハシムルコトノ弊害ハ其ノ一ニシテ國民ノ豫備兵ニ對スル輕侮及在營兵ニ對スル過度ノ尊重ヲ醸生セシムルコトハ其ノ二ノ弊ナリト提唱シ全國國民ヲ以テ國民的自主ト平和ニ奉仕スル強大ナル民主的軍隊ヲ新設スル爲民兵制度ノ採用ヲ必要トセリ而シテ現役、豫備役兵ノ差別撤廢ハ戰前「ジョウレ」氏カ熱心ニ主張シタル所ナルカ今次社會黨ハ大戰ノ教訓ト

シテ氏ノ提唱ノ道理ナルコトヲ認メ「戰時ノ使用ニ於テハ現役、豫備役及後備役ノ新年級者間ニハ區別ヲ設クルコトナク同質同性タル防禦國軍建設ノ要アリ」ト提議セリ以下左記各項ニ關シ所説ノ要旨ヲ述ヘムトス

- 一 現制度ハ軍事上其ノ必要ヲ認メス
- 二 現制度ニ伴フ國民ノ豫備兵ニ對スル輕侮並在營兵過重ノ弊害

第一 現制度ハ軍事上其ノ必要ヲ認メス

社會黨案

一 社會黨案

現制度ハ軍事上其ノ必要ヲ認メス

吾人ハ民主主義者ニ對シ現制度ハ民主主義上悲ムヘキ又志氣ヲ頹廢セシムルモノナルコト及軍閥ノ構成ヲ來スヘキ危險アルコトヲ反復勸告セサルヘカラス何トナレハ本大戰ノ教訓ニ依レハ兵卒教育ハ八箇月ノ期間ヲ以テ十分ニシテ若シ將來青年ノ體育ニ關スル成果十分ニ發揮セラレ爲ニ體的並心的ノ兩方面共ニ満足ナル向上ヲ期シ得ルニ至ラハ吾人ハ該教育期ハ四箇月ヲ以テ正當ト思惟スルモノナリ

二 「ジョウレ」氏案

「ジョウレ」氏案

一 現制度ニ於テ長期在營制ノ必要ヲ認ムルハ誤レリ予ノ見地ヲ以テセハ現制二年在營制ヲ採用スルニ至リタル動機ハ兵卒ノ技術的並各個教育ニ關スル必要ヨリ出テタルモノニアラスシテ忌憚ナク言ハシムレハ舊思想即チ在營軍隊ノ職業軍隊ヲ以テ獨國ノ軍國主義ニ心酔シ餌ヲ窺フ軍隊ヲ保持セムトスル

形而下軍
隊教育ノ
數箇月ヲ
以テ十分
ナ

一四二
思想カ假令表面的ニハ敗退セルニモ拘ラス裏面ニ於テ殘存シ陰險ナル作用ヲ爲スニ依ルモノナリ何ト
カレハ軍事技術方面ノミノ觀察ヲ以テセハ「ラングロワ」將軍ノ自認スルカ如ク今日兵營ニ於テ濫費セ
ラルル莫大ナル時間中眞ニ重要ナルハ僅ニ基礎教育時代ト秋季演習ノ二時期ノミニシテ二箇年在營ヲ
強制セムトスルカ如キハ非常識ナル時ト力トノ浪費ナリト謂ハサルヘカラス
嘗テ「ラングロワ」氏カ現制二年在營期ヲ改正シ更ニ一箇年ノ延長ヲ主張シタル所以ノモノハ眞ニ效力
アル野外演習ノ爲十五日間ヲ得ムトシタル爲ナリ故ニ佛國ニ在リテハ兵營ナルモノハ一ノ壯丁學校ニ
過キスシテ兵士ヲ養成スルノ外他ニ目的ヲ有セストセハ兵士ヲ營内ニ留ムルコトハ多クモ數箇月ヲ越
スノ必要ナキト斷言シ得

以上ノ如キ主義ノ採用ニ依リ現制長期在營ノ兵營生活ニ伴フ公民生活ヨリノ長期ニ互ル離隔ノ弊及眞
ニ必要ナル軍事勤務以外ノ生活ノ爲浪費セラルル時間ヲ省略スルコトニ依リ不自然、守舊、陰鬱ナル
兵營生活ヲ短縮セシムルコトヲ得ヘシ以下形而下(上)ノ軍隊教育ニ關シ若干説述セムトス

形而下ノ軍隊教育 兵卒カ其ノ武器ヲ天性ニ出ツルカ如ク容易ニ使用シ得ルノ域ニ進マシムル爲ニハ
數箇月ヲ以テ目的ヲ達成シ得ルモノト認メ以下其ノ説明ヲ試ミムトス

「ボンナール」將軍曰ク「熱心事ニ從ヘハ兵卒カ列兵トシテ悉ク知ルヲ要スル事項ハ三箇月半ヲ以テ教
育シ得ヘキモ軍人ニ必須ナル反射的動作ハ未タ十分ニ習得セシメ得サルヲ以テ此ノ軍人ニ最必要ナル

形而上軍
隊教育ニ
依リ戰場
ニ於テ生
死ノ問題
ヲ解決ス
ルコトヲ
得

無意識動作トモ稱スヘキ結果ヲ凡百ノ動作中ニ得ル爲ニハ更ニ數箇月間ノ教育ヲ要ス」ト予ノ見解ヲ
以テセハ此ノ無意識動作ナル語ヲ文字通りニ解スルモ「ボンナール」將軍ノ言ニ從ヘハ三箇月ヲ以テ達
成セラルヘキ第一訓育ヲ強固ニスル爲ニハ二箇年ノ長日子ヲ必要トセサルハ明瞭ナルヘシ勿論熟達ニ
ハ幾多ノ程度アリ運動ヲ迅速容易ニ行ヒ得ル程度ヨリ純然タル機械的運動ニ至ル間等シク是レ熟達タ
ルヲ失ハス茲ニ考慮ヲ要スヘキハ彼等兵卒ニ反射運動タルニ過キサル程度迄ニ教育スルコトカ果シテ
必要ナルカ又兵卒ノ絶對的無意識動作ハ果シテ無限ノ變化ト戰闘ノ激動端皖スヘカラサル裡ニ在リテ
ハ多大ノ用ヲ爲スヤ否ニ在リ予ノ見地ニ依レハ兵卒カ其ノ武器ヲ天性ニ出ツルカ如ク容易ニ使用シ得
サルヘカラサルハ勿論ナルモ此ノ種ノ正確ナル熟達ハ能ク數箇月ヲ以テ容易ニ達成シ得ヘク更ニ之カ
熟達ヲ確實深大ナラシムル爲ニハ予ノ提出セル民兵制度ニ依リ壯丁學校終業後ニ於テ頗ル接近シタル
時日ヲ置キ教練及演習ノ爲若干日ノ犧牲ヲ國民ニ要求スルコトニ依リ其ノ目的ヲ達成シ得ヘキモノト
認ム而シテ茲ニ一言シ置カムコトハ該民兵制度ハ瑞西ノ民兵制度ニ類似スルモノニシテ該制度ノ實績
ハ之ヲ我カ佛國ノ現制ニ比シ遙ニ優秀ナルモノト信ス勿論予ノ使用セムト欲スル佛國ノ民兵制度ハ瑞
西ノ制度ヲ直ニ移サムトスルモノニアラスシテ我カ國情ニ適合セシメムトスルモノナリ
形而上ノ軍隊教育 戰場ノ慘憺タル光景ノ裡ニ在リテ彼等兵卒ヲシテ泰然自若從容トシテ死ニ就カシ
ムルノ氣概ヲ兵營生活ニ依リ求ムルコトハ不可能ナリト認ム其ノ理由次ノ如シ

「モラシ」ノ佛軍ノ革命戦争、「ナポレオン」戰ヨリ得タル教訓ニ對スル批評並近世ノ理論家カ「トラ
 ンスバール」戰若ハ日露戰ノ教訓ヲ反對ノ意味ヲ以テ解釋セル論說ニ依ルニ悉ク兵卒教育ニ於テハ
 無益ナル形式主義半可通ナル繁雜ヲ排スルニ一致スルヲ認ムルト同時ニ彼等ハ皆一種ノ機械的教
 育ニ依ルノミニテハ到底劍電彈雨ノ間絶エス戰士ノ胸裏ニ往來スル死生ノ問題ヲ解決スルコトノ不
 可能ナルヲ認メアリ此ノ意見ハ予ノ考案ト全然一致スルモノニシテ死生問題ヲ解決スル爲利用スヘ
 キハ實ニ戰士ノ覺醒セル才能、激昂シタル意氣ニシテ兵營ノ演習ニ於テ得ラレタル無意識動作ノ如
 キハ果シテ如何ノ效果ヲ提供スルヤ疑ハシキモノナリ凡ソ天性ノ限界ヲ越エテ鍛鍊セラレタル人類
 ニ在リテハ右ノ如キ危機ニ臨ミ一種ノ無意識的動作ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ其ノ意識的能力カ尙全
 然自由ニ働ク時ハ殆ト確實ナル死ニ對シ決然トシテ前進スルコトハ不可能ナラム然レトモ更ニ一歩
 ヲ進メ人類カ其ノ自己ヲ忘ルルノ時期ニ入ルヤ茲ニ新ナル一人ノ人物ヲ生シ此ノ人物ハ恐怖ト大膽
 ノ爲ニ顔色蒼白トナリ己レ自ラ俄然トシテ取リテ代レル魅セラレタル個體ニ對スルト同様ニ自己ニ
 對シ相關セサルニ至リ所謂無我無主ノ境遇ニ入ルモノナリ彼ノ熟達ヨリ出ツル反射ハ斯ノ如キ驚異
 スヘキ現象ヲ生セシムルニ足ラサルヘシ更ニ一面ヨリ觀察スル時ハ此ノ危機ニ於テ若シ舊個體ノ或
 ルモノカ尙新個體ニ對シ働クモノアリトセハ這ハ平時習得シタル機械的記憶ニハアラスシテ將校ノ
 與フル莊美ナル勇氣ノ模範ト危險既ニ切迫シ來ルモ泰然トシテ己レヲ持スルノ士、慨然トシテ他ノ

人士ト主義ノ爲ニ死セムコトヲ誓フコトニ依リ準備セララルル意思ト勇氣ノ神祕ナル保存ニ歸セサル
 ヘカラス重ネテ問ハム兵卒カ無意識的動作ノ裡ニ在リテ行動スルニ際シ平時ニ於ケル兵營ノ機械的
 馴養ハ果シテ如何ナル情ヲ呈スルヤ

所見

一「軍事教育ノ爲ニハ二(三)年在營制ヲ要セス」トノ說論中近代並將來ノ軍隊教育ニハ觸レアリト認
 マ難キ形而下教育論ノ不條理ハ既ニ述ヘタル所ナルカ「戰場ニ於ケル死生問題ハ各戰士ノ正義ノ爲
 ニハ死ヲ辭セサル覺醒並激昂シタル勇氣ニ依リテノミ解決スルコトヲ得ヘク兵營ノ機械的馴養ノ
 價值ハ頗ル疑ハシキモノナリ」トナシタル論述ハ不十分ナルモノアリト認ム以下之ヲ說述セムトス
 抑、人間ナルモノハ其ノ本能トシテ事ニ當リ考察力並感覺力ヲ惹起スルモノナルヲ以テ精神力ハ當
 然戰鬥力ニ重大ナル意義ヲ與フルモノトス之カ爲彼等ハ正義ノ爲ニ祖國ニ殉スルトノ精神的、道義
 的信念ヲ湧出セシムルコトニ依リ壯烈ナル奮闘ヲ期シ得ヘシ是レ吾人カ此ノ主旨ニ於テ氏ノ所論中
 前段ノモノニ同意ヲ表スル所以ナリ然レトモ氏カ戰士ノ戰場裡ニ於ケル心理狀態並戰鬥ナルモノ
 ノ實質ニ觸ルルコト深カラサルカ爲兵營教育ニ疑義ヲ存シタルノ點ハ左ノ事由ニ依リ全然不正當ノ
 觀察ナリト斷言セサルヘカラス

(一) 近代ノ心理學者ノ諸說ハ往昔ヨリ「人間ノ精神ハ其ノ身體トハ無關係ニシテ精神ハ身體ノ上

ニ位シ意思ハ不動ナリ」ト思考セラレタルハ誤リニシテ「人間ノ意思ハ不變的ニアラスシテ四圍ノ境遇ニ依リ動搖限リナキモノナリ隨テ境遇ニ變化ヲ生スルヤ精神生活要素ノ均勢ハ忽チ破レ其ノ結果同一人間中ニ新人格ノ人ヲ生シ二重人格トナルヘシ」ト説ヲ眞ナリトセリ而シテ「ジョウレー」氏モ亦此ノ定説ヲ認メアルニモ拘ラス二重人格ノ發現ヲ事由ト爲シ形而上軍隊教育ヲ否認スルノミナラス意識的能力ノ尙全然自由ニ働ク時ニ於テハ殆ト確實ナル死ニ對シ敢然前進スルコトノ不可能ナルヲ説論シタル吾人ノ全然同意シ難キ所ナリ何トナレハ(一)戰士萬人ノ心ヲ一團ト爲シ戰勝ノ目標ニ投射スルノ必要アル軍隊ニシテ慘憺タル戰場ノ光景ニ脅威セラルルヤ忽チ萬人ノ心ニ變移スルカ如キハ是レ眞ノ鳥合ノ軍隊ニシテ忽チ軍隊トシテノ權威ヲ喪失スヘキコト、(二)各自其ノ職責ノ命スル所生理的ノ生死ノ如キハ之ヲ一顧ノ値ナク身命ヲ君國ニ捧ケテ水火尙辭セサルノ精神ヲ必要トスルヲ以テナリ是レ吾人カ軍隊教育ニ於テ日夜勉勵軍人精神ヲ鼓鑄シ我カ國民カ祖先傳來砥礪シ來レル國民精神ヲ更ニ練磨シ以テ一段ト炳乎タル光輝ノ宣揚ニ努力スル所以ニシテ是レ形而上軍隊教育ノ不必要ヲ辯駁セムトスル其ノ一ナリ

(二) 氏ハ危險ノ目睫ニ迫ルノ時機ニ於ケル將校ノ莊美ナル勇氣ノ模範ニ對シ尊敬ヲ拂ヒタルコトハ全ク適當ナル意見ナリ然レトモ氏ニシテ若シ此ノ將校ノ活模範ニ依リテノミ危險ナル戰闘場裡ノ波瀾ヲ排除シ戰勝ヲ得ルモノト信セハ道ハ楯ノ一面ヲ見タル意見ニ過キスシテ氏ノ所謂將

校ノ奮闘ヲシテ意義アラシムル爲ニハ彈丸雨飛ノ間克ク身命ヲ君國ニ致シ一意上官ノ指揮ニ從フヘキ兵士ノ服從觀念ニ待タサルヘカラス而シテ此ノ服從タルヤ佛國人ノ所謂「肩上ニ鞭ノ影ヲ伴フコトニ依リテノミ生スル獨逸式服從」ニアラサルハ勿論千八百九十一年「ボッダム」ノ新兵ニ對スル「ウイルヘルム」三世ノ告諭「朕若シ爾等ニ向ヒ其ノ父母ニ發砲スルコトヲ命セシ時ハ不平ヲ洩スコトナク朕カ命ヲ遵守セサルヘカラス」ノ如キ無法ナル強制ニ依リ求メムトスル服從ニモアラスシテ(一)犧牲的觀念ニ發露シタル服從、(二)偉大高潔ナル將校ノ人格ニ對シ生スヘキ欽仰的服從、(三)將校ノ憐憫溫柔ノ洋々乎タル情操ニ對シ湧出スル感激的服從、(四)全將校戰死シ下士亦斃ルルノ危機ニ當リ自覺セル戰友ノ指揮ニ習慣的ニ犧牲的觀念ヲ以テ服從スルコト、(五)戰局紛戰ニ陷リ軍律モ規律モ要求シ得サルノ場合ニ當リ信賴スヘキ指揮者ヲ求メ之ニ服從シテ最後ノ忠誠ヲ盡サムトスル信賴的服從等ニ依リ茲ニ始テ戰勝ノ榮冠ヲ獲得シ得ヘシ是レ吾人カ兵營生活ノ薰化ニ依リ達セムトスル一大目的ニシテ形而上軍隊教育ノ不必要ヲ辯駁セムトスル其ノ二ナリ

二「兵營生活ナルモノハ公民生活ヨリ離隔シアルノミナラス不自然、陰鬱ノ生存ヲ遂ゲルモノナリ」トノ説論ニ對シ若干ノ意見ヲ述ヘムトス

(一) 在營生活ノ爲彼等カ隔世セラレ世事ニ迂遠トナルヘキコトハ否認セサルモ斯ノ如キ境遇ニ彼

等ヲ置キ之ヲ薰化德育スルコトニ依リ始テ眞ニ至純ノ心ヲ以テ全心的ニ君國ニ奉行スヘキ精銳無比ノ軍人ヲ得ヘシ

(二) 英國カ殆ト百年ヲ費シ得タル所ノ經濟的發展ヲ獨逸ハ僅ニ二十有五年ノ日子ヲ以テ達成シ軍國獨逸ノ外ニ所謂工業獨逸ナルモノヲ世界各國ニ認知セシムルニ至リタルカ此等獨逸工業發展ノ實際的原因トシテハ專門教育ノ優越ヲ認ムルト同時ニ軍隊教育ノ賜即チ訓練セラレタル規律的、秩序的及方法的習慣ヲ舉クルコトヲ得ヘシ工場ト兵營トハ相類似シアルヲ以テ後者ヨリ前者ヘノ生活上ノ轉移ハ極メテ容易ト爲シ兵營生活ノ工業發展上ニ及ボス影響ニ就キ獨逸人ハ重要視セリ大學教授「パロウ」氏ノ如キハ「獨逸ノ軍隊ヲ支配セル規律的精神ハ遂ニ我カ經濟的發展ヲ來スニ至レリ軍隊組織ハ我カ國ノ職工學校ト謂フヲ得ヘシ」ト斷言セリ

之ヲ要スルニ近代ノ工業ハ極メテ精密ナル分業ニ從事スル專門技術ヲ要求シ之ニ順應スル爲ニハ忍耐、精確、細心等ノ特性ヲ必要トシ此等ノ心理的要素ナルモノハ軍隊教育ノ無形の結果トシテ認メ得ヘキヲ以テ一面ヨリ觀察スレハ兵營生活ナルモノハ氏ノ所謂「陰鬱不自然」ナルモノ

ニハアラサルヘシ

二 現制勤務演習ハ弊害アリ

勤務演習

兵營生活ニ於テ現役者ニ對スル努力ト豫備役ノ者ニ要求セラルル努力ノ間ニハ國民カ豫備兵ヲ附屬物

トシテ目スルニ慣ルルニ至レル程懸隔アリ即チ公民ハ謂ヘラク「兵營勤務ニ二年間ヲ與ヘタルコトモ依リ確ニ國家ニ對スル義務ヲ終リタルモノニシテ其ノ殘餘ノ服役ハ無用ノ儀式ニシテ要求亦空虚ナルヘシ」ト一方將校ニ於テモ彼等ハ現役軍ニノミ魅セラレ豫備役兵ニ對シテハ熱情ヲ有セサルヲ以テ其ノ態度及習慣並思想ニ依リ以上述ヘタルカ如キ悲ムヘキ精神狀態ヲ國民中ニ鼓吹スルノ傾向アリ將校ノ思想既ニ斯ノ如クナルヲ以テ豫備兵ノ召集セラレテ兵營勤務ニ服スルヤ在營兵卒マテモ之ヲ目スルニ厄介者ヲ以テシ之ヲ待スルニ同室者ノ慣習ヲ素サムトスル押掛客ヲ以テス更ニ甚シキハ元來現役中ニ服務シタル二年ノ兵營生活ナルモノハ幾多ノ副業ニ費サレ且有ラユル種類ノ使役ノ舊慣中ニ捉ハレアルヲ以テ此ノ在營二年ノ全日子ヲ軍事教育ニ集中セラレサル缺陷アルヲ以テ此ノ勤務演習ニ於テコソ其ノ短日子ノ間ニハ非常ナル努力ヲ要求セラルヘキ筈ナルニモ拘ラス事實ハ全然反對ニシテ豫備兵ハ兵營生活ノ優長散慢ナル調子ニ同化セラルコト屢ナリトス斯ノ如キ兵營ニ於ケル時ノ浪費力途ニ勤務演習者ニ對シ不人氣ヲ惹起スルニ至レル所以ナリ以下少シク事實問題ニ觸レ其ノ真相ヲ明示セムトス

千八百八十九年法律ニ依レハ豫備兵ハ二回機動演習ニ參加シ各演習ハ四週間ナルヘキコトヲ規定セラレアルニモ拘ラス實施ハ此ノ規定ヲ距ルコト大ナリ即チ機動演習ニ參加スルハ歩、工兵ノ豫備兵ノミニシテ爾他ノ戰闘兵種ハ曾テ參加ヲ見タルコトナシ步兵ニ在リテモ豫備兵全部ヲ機動演習ニ參加セシムルコトナシ以上ノ關係ニ依リ豫備兵ノ多數ハ衛戍地ニ在リテ勤務スルコトナルナリ尙省令ヲ以テ

豫備兵ニ對スル輕侮並に在營過重ノ弊害ハ現制國民皆兵主義ヲシテ外形ニ於テハ備ハリアルモ内實ハ全ク之ニ反スルノ狀態ニ陷ラシメタリ即チ約百萬ノ古年級豫備兵ハ之ヲ準廢兵視シ第一線ニ使用セサルコト是ナリ予ノ見地ヲ以テセハ斯ノ如キ惡制ハ速ニ之ヲ廢止シ是等最良ノ防禦力約百萬ヲ祖國ノ爲ニ回復シ以テ平和ナル完全ノ「デモクラシー」ノ理想的法則ニ遵ヒ新陸軍ヲ建設シ豫備兵全部ヲ眞ノ大現役軍ノ域

機動演習ニ參加セサル豫備兵ハ變化アル土地ニ於ケル演習及野外勤務演習ニノミ參加セシムルノ規定アルニモ拘ラス是亦其ノ實施確實ナラス勤務演習者ニ對スル教育ハ以上ノ如キ狀態ナルヲ以テ召集ニ依リ舉ゲ得ヘキ效果ハ教育上ニ利用スル所アリト謂ハムヨリモ寧ロ兵營ノ内務ニ益スルコト遙ニ大ナリトス事實二年兵ノ退營時ヨリ新兵ノ入營時期迄ノ間ニ召集セラレタル豫備兵ノ如キハ手入ノ使役、衛兵勤務ニスラ使用セラルルコトアリトス斯ノ如クムハ應召ノ爲其ノ家族ヲ飢餓ヨリ免レシムルノ自信スラ有セサル彼等、自己ノ事業、利益及愛情ヲ棄テ必要ノ犧牲ヲ承諾シ甘シテ國防ニ利用セラルヘキ勞務ニ服スヘキコトヲ覺悟シ入隊セル彼等ニ對シ戰爭ノ目的ヲ以テスル軍事教育ヲ實行スルコトヲ爲サス兵營内ニ起居セシメ何等軍事ニ關係ナキ事務ニ使役セラルルヲ見ル時ハ彼等應召者ハ何等得ルコトナキヲ見テ落膽スルナラム

第二 現制度ニ伴フ國民ノ豫備兵ニ對スル輕侮並に在營過重ノ弊害

「ジャン、ジョウレ」氏案

ニ向上セシムルコトハ頗ル肝要ナリト認ム以下説論ノ要旨ヲ述ヘム

一 現制ハ外觀國民皆兵ノ狀態ニ在ルモ内實ハ全ク之ニ反ス

抑、佛國ニ於テ其ノ法律ヲ以テ總テノ公民ニ對シ必任義務の兵役ヲ平等ニ課シ除外ト免除トハ共ニ許ササル所ニシテ強壯男子全部ニ互リテ其ノ生存ノ最大部分ノ間此ノ兵役義務ニ服務ヲ強制スルモノナリ即チ各公民ハ皆二年間ノ兵營生活ヲ爲スヘク滿期退營後ハ勤務演習ニ召集セラルヘキモノトス斯ノ如クニシテ貧富ノ間ハ主タルト被傭人タルトヲ論セス智識ノ高低ニ論ナク皆同一ノ義務ニ服シ兵卒トシテ同一ノ生活、同一ノ負擔ヲ爲ササルヘカラサルナリ尙身體虛弱ナル者ト雖全然廢疾者ニアラサル限リハ補助勤務ニ服スヘキ規定ナリ

之ヲ要スルニ佛國公民ハ四十五歳迄ハ同一ノ法律ノ力ヲ以テ同一ノ期間、同一ノ危險ノ爲管理セララルモノニシテ斯ノ如クムハ現制ハ正ニ國民皆兵ニシテ首肯スヘキ平等ノ存スルモノナリ然レトモ這ハ唯外觀ニ過キサルヲ如何、何トナレハ我カ兵制ノ根柢ニハ頑冥去リ難キ一ノ偏見アリ即チ公民ノ全服役間ニ於テ現役兵ハ僅ニ二徵兵級ノミニシテ其ノ大部ハ後備軍ヲ不問ニ置クモ國軍ノ主力ハ實ニ豫備兵ナルニモ拘ラス國民ハ國民中兵營生活ヲ爲シツツアル部分ノミニ對シ信頼スルコトヲ得ヘシト爲ス考ヘ是ナリ

之ヲ例示セハ正確確實ナル國民皆兵制ニ在リテハ戰爭ノ爲ニ編成セラルル眞ノ現役軍ヲ成形スヘキ

道地上ノ見地ヨリノ
古年次兵
軍ニ充用
スルコト
ナリト爲
ハナリ

教育終了兵ニ對シ第二階級ノ名稱タル「豫備」ナル輕減ノ意義ヲ有スル稱呼ヲ與フルカ如キハ其ノ實
證ナラスヤ實際ニ就テ見ルモ我カ軍事組織ノ全體ヲ支配スルモノハ此ノ豫備兵ヲ劣弱視スル思想ニ
シテ此ノ思想ハ遂ニ豫備兵ヲシテ其ノ自尊心ヲ傷ケ遂ニ我カ防禦力ノ根柢マテヲ軟化スルノ大害ヲ
惹起スルモノナリ之ヲ動員計畫ニ就キテ見ルニ眞ノ活動任務及敵トノ衝突並之カ破砕ニ充用セラル
ル者ハ十一徵兵級中僅ニ五級即チ全體ノ半數ニモ達セスシテ二十八歳ヨリ三十四歳ニ互ル七徵兵級
ノ者ハ盡ク第一線軍ニ加ヘアラサルナリ斯ノ如クニシテ最後ノ七徵兵級ニ屬スル一百萬人ノ利用ヲ
斷念スルトハ何事ソヤ是レ彼等ノ眼中ニハ不知不識ノ間ニ在營軍ノミ獨リ眞ノ軍隊ナリトナシ豫備
兵ナル者ハ多數ノ現役兵ヲ以テ基幹人員トシテ之ニ配合サルルコトニ依テノミ僅少ノ値ヲ有スルモ
ノト信シアレハナリ斯ノ如クムハ國民皆兵ノ主義ハ何レニ求ムヘキヤ

二 道地上ノ見地ヨリ古年次兵ヲ國境ニ召集使用スルハ忍ビ難キト言フ者アルハ是レ大ナル誤ナリ
國民力自ラ防禦スルコトハ全國民ノ家族ノ自由、安寧等ヲ防禦スル所以ニシテ何人ト雖召集ニ應ス
ヘキモノナリ彼等カ國難ニ趨ク所以ノモノハ其ノ家族ニ背クモノニアラス彼等ハ父トシテ其ノ兒孫
ノ爲ニ自由ノ將來ヲ確保スル爲ニ奮闘スルモノナリ若シ公民ニシテ其ノ愛スル家族ト相離ルルノ苦
痛ヲ覺ユルモノトセハ此ノ苦痛タルヤ侵入者ヲ惡ムノ情ト化シ國家ノ防禦力ニ一層ノ猛威ヲ加フヘ
キモノナリ故ニ國家ハ眞ノ防禦ノ外何等ノ野望ナク其ノ政府ニシテ公明正義ヲ抱懷スルモノナラハ

古年次兵
ハ其ノ第一
線軍ニ充用
スルコト
ナリト爲
ハナリ

祖國ノ危機ニ際シテハ健全ナル國民全部ヲ召集シテ全國民ヲ戰場ニ使用シ得ルモノナリ斯ノ如クム
ハ是レ眞ノ國民皆兵ノ主義ヲ實行スルモノト謂フヘク之ニ反シ現制ノ如ク古年次ノ豫備兵全部ノ直
接使用ヲ斷念スルノ政府ハ其ノ禍心ヲ抱懷スルモノト推斷セラルルモ之ヲ辯駁スルコトヲ得サルヘ
シ

三 古年級ノ豫備兵ハ其ノ素質上之ヲ野戰軍ニ充用シ得スト言フ者アラハ是レ現制教育ノ缺陷ナリ
當局ハ最後ノ七徵兵級ノ豫備兵ハ身體虛弱ニシテ舉止緩漫トナリ隨テ是等ニ依テ編成セラルル軍ハ
其ノ運動鈍重ナルコトヲ主張スル者アラムモ二十五歳乃至三十三歳ハ人體ノ組織方サニ大ナル勞働
ニ最適應スル年齢ニシテ青年時代ノ輕捷ヲ殆ト全部保有シ抵抗カハ該時代ヨリモ大ナルヲ一般トセ
スヤ故ニ年齢ヨリ打算セル體質問題ヲ以テ古年級ノ豫備兵ヲ使用セストノ理由ハ成立セサルモノナ
リ又兵營生活ノ時代ヲ距ルコト遠キニ過タル者ハ兵卒トシテノ軍事動作ニ對スル習慣ヲ喪フヘシト
ハ軍事當局ノ責任者トシテハ主張シ能ハサルヘシ何トナレハ二年在營ト定期召集トヲ課スル現制度
ニ於テ四年ノ末ニハ殆ト効力ナキコト竝同制度カ三十歳ノ者ハ勿論二十七歳ノ者迄モ後備軍ノ老兵
ト伍スルノ外ナキ準廢兵ナリト認ムルトセハ是レ現時教育制度ナルモノハ實ニ僞軍事教育ノ無益ナ
ル重荷ヲ以テ初心ノ青年ヲ苦ムルモノナルト同時ニ兵營生活ヲ終リタル兵士ノ活動能力ヲ保持スル
コト極メテ過度ニ輕視スルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テナリ

各役種ノ
撤廢ハ大
ナリナリ

本案ハ各役種間ノ區別ヲ撤廢シ祖國ノ危機ニ當リテハ同質、同性ノ一大防禦軍ノ建設ヲ主張ス
戰時ノ使用ニ當リ現役、豫備及第一後備級ノ間ニハ何等ノ區別ヲ存在スヘカラサルコトハ本大戰ノ教訓
ニシテ吾人ハ當局ニシテ若シ開戰前民兵制度採用ヲ建議セル者ノ言ニ聽從シ豫備役全部ノ者ノ合理的使
用ヲ準備シアリタラムニハ佛國ハ「シャルロア」ノ大災厄ヲ蒙ル代リニ敵ノ攻撃ヲ挫キテ勝利ヲ制シ得タ
ルコトヲ斷言セムトス而シテ該國軍整備ノ主義ニ關シテハ戰前「ジョウレ」氏力熱心ニ提唱シタルコト
ヲ茲ニ一言セサルヘカラス

所見

所見「ジョウレ」氏ノ所謂「國民皆兵主義」ナルモノハ現役並豫備兵ハ舉ケテ同一ノ危險下ニ立タシム
ルコトニ依リ始テ該主義ノ名實共ニ相伴フモノナリト爲スモノニシテ吾人ノ國民皆兵觀念ノ一部分ヲ意
味スルカ如シ蓋シ吾人ノ觀念ハ氏ト異リ戰時召集セラレテ國內ニ勤務スル者モ或ハ戰地ノ後方地帶勤務
ニ服スル者モ其ノ報公ノ赤心ニ至リテハ決シテ戰線ニ於テ交戦ニ任スル者ニ比シ遜色ナク換言セハ兩者
ノ忠誠ニハ何等區別スヘキモノナキヲ認ムレバナリ而シテ國民皆兵主義ニ關スル氏ノ意見ノ適否ハ我カ
國ニ在リテハ佛國ト國情ヲ異ニシ國民思想上兩者間ニ差異アルヲ以テ茲ニ論議スルヲ避クルモ今次大戰
中佛國カ「ダルビエーズ」並「ムーリエ」法ヲ新定スルニ至リタル動機ハ不可充要員ヲ驅出、兵員ノ交代出
征等純軍事上ノ要求ノ外ニ佛國國民ノ思想ニハ「ジョウレ」氏ニ依リ發表セラレタル國民皆兵主義ノ存

在スルコトヲ顧慮中ニ置クヲ要ス

國民皆兵主義ノ名實ヲ徹底セシムル爲豫備兵全部ヲ第一線軍ニ充用スルコトノ主張ニ對シ今次ノ大戰劈
頭ノ動員ニ於テハ概シテ氏ノ提議ノ如ク實行セラレタルヤノ感アリ試ニ當時ニ於ケル國軍動員上其ノ關
係ノ概況ヲ舉クレハ次ノ如シ

佛國ノ野戰軍中ニハ現役師團五十三師團ノ外古年級ノ豫備兵ヲ主幹ト爲シ加フルニ現役兵並後備兵ノ
一部ヲ以テ編成シタル師團數ハ概ネ二十七師團ナリシカ如シ尙大戰ノ進捗ニ伴ヒ後備部隊ヲ野戰軍中
ニ加ヘ兵力ノ擴充ニ努メタルコトハ事實ナリ

第四節 社會主義的戰爭觀

「ジョウレ」氏
不正義ノ
戰爭ハ極
力之ヲ排
スルモ正
義ノ戰爭
ハ其ノ必
要アリ

「要旨」大戰前「ジョウレ」氏ハ「戰爭ハ守勢ニアラサレハ罪惡ナリ」ト爲シ侵略的戰爭ヲ極力辯難シタ
ルモ守勢的ノ戰爭ハ其ノ必要ヲ認メ祖國ノ危機ニ臨ミテハ國難ニ殉スルコトヲ嫌忌スヘキ非愛國のナル
勞働者階級ハ存在セサルコトヲ主張シ彼ノ國際主義ニ對シテ該主義ハ權威ニ依リ平和ヲ期待セムニハ先
ツ堅實ナル國家ノ條件ヲ第一義トセサルヘカラスト説論シ強大ナル民主的防禦軍整備ノ必要ヲ提唱セリ
然ルニ戰後社會黨ノ主張スル所ヲ窺フニ彼等ノ提議セル軍備ハ過渡期ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルカ爲ニシ
テ將來ハ國際聯盟條約ノ權威ニ依リ萬國等シク永久ノ平和ヲ樂ムノ時代ヲ現出スヘキヲ信仰シ戰爭否認
説ヲ理想トスル傾向ノ顯著ナル如ク觀察セラル以上ハ本大戰前後ニ於ケル社會主義者ノ對戰爭觀ノ變遷

「シヨウ」氏ノ戦争観
戦争ハ守
勢ニテハ
サレハ即
悪ナリ

不正義ノ
戦争ニ對
シテハ對
迄反對ス

守勢ノ正
義ハ戦争
ニテハ國
一ニテハ
祖國ヲ護
衛スルハ
當然ナリ

ナリト觀察セラル以下「シヨウ」氏並社會黨ノ戦争観ノ梗概ヲ述ヘムトス

「シヨウ」氏ノ戦争観

一五六

一 戦争ハ守勢ニアラサレハ罪惡ナリ吾人ハ侵略的戦争ハ飽迄之ヲ拒絶ス
爲政者ハ國家ノ利益ナル口實ノ下ニ貪慾倨傲ノ方策ヲ藏スルコトナク眞ニ公明正大ノ正義ヲ主旨トシ
平和ノ繼續ニ關シ對手國ニ覺醒ヲ求メタルニモ拘ラス敵國ノ不正殘虐ナル攻撃ニ對シ或ハ容認スヘカ
ラサル企圖ニ對シ自ラ防支セシテ一ノ階級ニ依リ宣言セラレ其ノ目的ニシテ若シ征服掠奪ニ在ルカ
或ハ野心若ハ貪慾上ヨリ打算セラレタルモノナル時ハ國民ノ協賛ヲ得ルコト困難ナルノミナラス愛國
心ト雖之ヲ強制スルコト能ハサルヘシ何トナレハ近時滔々タル社會運動ニ依リ經濟組織ハ勿論社會萬
般ノ制度ニ對シ勞働者ハ其ノ解放ヲ要求シ軍隊ハ勿論祖國迄モ彼等ノ所有ノ如ク逐次變形セシメ
ムコトニ腐心セル彼等ヲ驅リテ異邦ノ同胞ニ對シ干戈ヲ執ラシメムトスルカ如キハ舊式ノ服從、舊式
ノ軍紀トシテ彼等ハ拒絶スヘキヲ以テナリ又社會黨ハ其ノ主義ニ依リ斯ノ如キ不正義ノ戦争ハ今日ノ
「デモクラシー」ト勞働ノ世界ニ於テハ全ク無効不條理ニシテ且罪惡ナリト認メ革命的絶對行爲ヲ以テ
眞面目ニ爲政者ヲ威嚇セムトス

二 守勢ノ正義ノ戦争ニハ舉國一致シテ侵寇者ヲ擊滅シ以テ祖國ノ自由ト保全トヲ期ス

「戦争ハ守勢ニアラサレハ罪惡ナリ」ト認ムル國家力敵ニ攻撃セラレ祖國將サニ危機ニ瀕セムトスル場
合ニ於テハ國難ニ殉スルコトヲ避クルカ如キ非愛國のナル勞働者階級ハ存在セサルコトヲ斷言セムト

ス祖國カ「ブルジョア」的、資本家の形式ナルヲ以テ之ヲ呪咀スルカ如キ卑劣ナル「プロレタリア」ハ一
人モナク彼等ハ驅逐シテ祖國ノ難ニ赴クヘキモノナルコトヲ明言スヘシ何トナレハ國家即チ永續ト統
一ノ良心ヲ有スル歴史の國隊ノ存スル所ハ國內ノ何レノ部分タルトモ祖國ノ自由ト保全トニ對
スル侵害ハ總テ文化ニ對スル凌辱ナルヲ以テナリ何トナレハ祖國ナルモノハ潤澤シタル思想ニテ
「プロレタリア」ノ存在ノ爲邦家ノ放棄及國民の奴隸ノ主義ニ賛同スル者ハアヲサルヲ以テナリ「プロ
レタリア」ニ對シテ一部ノ人士カ彼等ハ「頭ニ鐵甲ヲ頂ケル暴兵若ハ佛國ハ「ブルジョア」ノ暴兵ノ下
ニ生活ヲ送ルモ何等差別ナキト考フヘシ」又ハ「プロレタリア」ハ資本家ノ奴隸ナルヲ以テ侵略征服ニ
依リ屈辱ノ加重ヲ蒙ルコトナキモノナリ」ト思考スルカ如キハ大ナル誤ニシテ「プロレタリア」ハ侵略
者ノ羈絆ト資本家ノ羈絆ト相結ハムカ爲ニ來ルコトニ對シ抵抗ヲ試ミサルカ如キコトヲアラハ永久續テ
舉カムト試ムルモ不可能ナルコトヲ自覺シタルヲ以テナリ

三 國際主義ニ依リ平和ヲ期待セムトセハ先ツ堅實ナル國家主義ノ發達ヨリ出發セサルヘカラス
吾人カ我カ國家ヲ助闢、禍心ヲ藏スル爲政者等ヨリ救出カムコトヲ努ムルハ是レ單ニ國際主義及世界
的「プロレタリア」ニ奉仕スルカミニハアヲスシテ實ニ我カ國家其ノモノニ奉仕セムカ爲ナリ國際主義
及國家ハ將來極メテ緊密ナル關係ニ立ツコトトナルヘシ吾人ハ國民ノ獨立並其ノ最高ノ保障ヲ得ルニ
ハ國際主義ニ待ツヘキモノナルヲ認ムルト同時ニ該主義ヲシテ權威アラシムル爲ニハ一ニ各獨立セ

第一編 制度上ヨリ觀察セラル民衆問題

一五七

諸國民ノ該國家ニ對スル信念崇愛ノ精神ヨリ發セサルヘカラサルモノト認ム以上要スルニ國際主義ト國家主義トハ殆ト別箇ノモノニハアラシテ兩者極メテ緊密ナル狀態ニ於テ存立シ又愛國主義ト國際主義モ殆ト前者ト同一ノ關係ヲ以テ律シ得ヘキモノト信セラル

社會黨ノ戰爭觀

社會黨ノ戰爭觀

戰後ノ軍備案ハ一軍ニ應セムトスルニ過キ

戰後永遠ノ平和ヲ期待スル爲對獨講和ノ諸條件ヲ審議決定スルニ當リ聯合國諸政府カ獨國武裝ノ全部解除及戰用諸材料ノ完全ナル破壊ヲ考慮セサリシハ甚タ遺憾ナル措置タリシコトヲ提唱シタル後該黨ノ提案タル軍備兵力ノ決定ハ「現下ノ國際聯盟規約ノ權威未タ十分ナラサルヲ以テ國際的友誼ノ一時的又ハ部分的ノ失敗ヨリ生スル形勢ニ適應セシメムトスルモノニシテ換言セハ一ノ過渡案ナリ」ト述ヘ最後ニ次ノ如ク結言セリ

「吾人ヲシテ遠慮ナク言ハシムレハ吾人ハ社會主義カ一層接近セラレ齊シク平和ノ歡樂ニ浴シ得ルニ至リ人類ヲシテ和樂セル諸國民ノ友情ノ裡ニ人ノ勞働ト歡樂トヲ組織スルヲ得ルノ時期ノ到來セムコトヲ切望スルモノナリ」

所見

所見 戰爭觀トシテ「戰爭ノ否認」及「前兩說ノ中ヲ折シテ戰爭ヲ程度上ヨリ是認セムトスルモノ」ノ三說存在シ各其ノ主張ヲ高唱シテ已マサルハ既往並現在ノ事實ニシテ將來モ亦然ルヘシ試ニ立論ノ一、二ヲ舉クレハ

戰爭是認論

(一) 人生ハ戰ヒナリ徹頭徹尾戰爭ナリ

國家ハ外ナル侵略征服ノ戰ト内ナル魂ノ戰トヲ結テ之ヲ統一スルモノニシテ人生一貫ノ傾向、目的、精神ヲ具體的ニセルモノナリ生クルトハ戰フコトヲ意味シ戰フコトハ戰勝ヲ目的ト爲ス而シテ此ノ目的遂行ニ努力スル所以モハ戰勝ニ依リ眞善美ノ永遠ノ價值ヲ保有セムカ爲ニシテ要スルニ戰爭ハ道德的精神ノ發露ナリ

(二) 戰爭ハ興隆スル國家ト衰滅ニ近ツカムトスル國家トヲ統制シ以テ世界ノ秩序ヲ保持スルカ爲必要ナリ若シ戰爭ナカリセハ次等民族ノ不正當ナル跋扈ノ存在或ハ優良民族ノ勢力ヲ抑壓壓制スルカ如キ不正ヲ生スヘク戰爭ニ依テノ此ノ不正ヲ除去スルコトヲ得

(三) 歴史ヲ知ル者ハ人間カ戰爭ヲ世界ヨリ廢絶スルハ實ニ人間天性ノ切斷ナルコトヲ了解シ得ヘク自由ノ爲ニ自ラ犧牲タラムトスル覺悟ヲ有スル戰爭ノ能力ナシニ何ノ自由カ之レアラム

戰爭否認論

(一) 戰爭是認論者ハ或ハ人類ノ進化ノ爲ニト言ヒ或ハ主義ノ爲ニト言ヒ或ハ利權ノ爲ニト言ヒ或ハ自衛ノ爲ニ戰フト言フ然レトモ吾人ハ其ノ何レノ說ニ依ルモ戰爭ハ罪惡ニシテ之ヲ利用セザレハ人文ノ進化ヲ見難シトノ論旨ハ不徹底ナリ

(二) 古聖賢ノ說示セル所一トシテ皆人間本位ナラサルハガシ文化ニ奉仕スル人類程尊嚴ナルモノハ

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

アラス故ニ人類ノ最高理想ヨリ考フル時ハ戦争ハ其ノ目的ノ何タルヲ論セス人類ノ生命ヲ殺害スルモノナルヲ以テ吾人ハ「戦争トハ罪惡ノ代名詞ナリ」ト言フモ不可ナキト認ム

抑、戦争ニ對スル科學的研究ハ

第一 戦争ノ根本的批判（戦争ハ本來人生社會ノ全體ニ於テ根本ニ必要ナリヤ將タ不必要ナリヤ嘉尙スヘキ事象ナリヤ將タ厭忌回避スヘキ事象ノ問題ナルヤ）

第二 戦争ノ方法（戦争ニ於テ捷利ヲ得ルノ術策ノ講究ヲ言フ尙戦争ナルモノハ他ク迄不必要厭忌回避スヘキモノトシテ適正ナル斷案ヲ得ルノ曉ニハ之カ回避ノ策ヲモ學理上十分ニ講究セサルヘカラス）

等ノ範圍ニ及フノ要アリ而シテ戦争ノ根本的批判ノ爲ニハ「宗教」、「個人倫理」、「經濟」、「社會學」、「國家學」等ノ各方面ヨリ考察セラルヘキモノナルカ哲學、倫理、法理並經濟、教育、政治上等ノ方面ヨリセルモノハ考察上多少ノ資ニ供得ヘキコト固ヨリナルモ寧ロ社會、國家學上ヨリスルノ研究カ最適實ナルカ如シ尙研究ノ方法トシテハ從來幾多ノ學者カ試ミタルカ如ク（一）戦争ノ起因、（二）戦争ノ效果、（三）戦争防止策ノ批判、（四）將來ノ戦争等ノ諸問題ヲ捉ヘ之ニ對シ從來吾人ノ散見スル非科學的、宗教的、詩歌的、常識的、哲學的等ノ態度ヲ避ケ専ラ科學的方法ニ出ツルコト最必要ナリ之ヲ要スルニ徹底的ノ戦争觀ハ軍事諸般ノ施設考究ニ當リ最肝要ナルコトト認ムルモ本研究ニハ軍事智識ノ外特ニ各科學ノ專門智識ヲ必須トスヘキヲ以テ這ハ將來ノ研究ニ委シ茲ニハ單ニ戦争存立ノ要否ニ關シ軍事常識上ノ一片ノ意見ヲ掲ケ「ジヨウレ」氏並社會黨ノ戦争觀ヲ考察スルノ起點ニ供セムトス

國家ハ其ノ正當ナル名譽、權利、利益ニ係ル主張ノ爲ニハ他迄貫徹ヲ期スルコト必要ニシテ之カ爲到底平和的解決ヲ期待シ得スムハ遂ニ已ムヲ得ス戦争ヲ行ハサルヘカラス若シ國家ノ安危存亡ニ關スル場合ニ於テ戦争ヲ避クルコトアラハ這ハ國家トシテ却テ不正ノ措置ニ立チタルモノト謂フヲ得之ヲ要スルニ不正義ノ戦争ナルモノヲ否認スヘキコトハ勿論ナルモ苟モ國家ノ存在ニ缺クヘカラスル戦争ハ絶對ニ其ノ必要アリ彼ノ生理的ノ生死ノ如キハ正義ノ國策遂行ノ前ニハ何等ノ價值ナキモノト謂ハサルヘカラス

此ノ見地ヲ以テ「ジヨウレ」氏カ「祖國ナルモノハ個盡シタル思想ニアラス祖國ノ自由ト保全ニ對スル侵害ハ總テ文化ニ對スル凌辱ナリ」ト喝破シ「プロレタリア」ハ資本家ノ奴隸ナルヲ以テ侵略征服ニ依リ屈辱ノ加重ヲ蒙ルコトナキモノナリ」又ハ「獨逸ノ暴兵若ハ佛國ノ「ブルジョア」ノ暴兵ノ下ニ生活ヲ遂ルモ何等差別ナキト考フヘシ」ト思考スルカ如キハ大ナル誤カリト論シ正義ノ戦争ニハ「プロレタリア」ハ專ラ祖國ノ爲ニ闘フヘキコトヲ揚言セルノ點ハ其ノ主義ニ於テ吾人ノ意ヲ得タルモノト認ム若シ夫レ社會黨カ提唱セル國際聯盟ノ權威ニ依リ戦争ヲ永遠ニ防支シ得ヘキコトヲ期待ニ對シテハ遠キ將來ハ知ラズ近キ未來ニ於テハ之カ現實ノ困難ナルコトヲ認ムルモノナリ

法律案ノ
要旨

第五節 法律案ノ要旨

社會黨ノ提議セル本案中國家總動員上ノ要員即チ不可充要員並準不可充要員ニ關スル規定ハ本大戰ノ一教訓トシテ將來吾人ノ研究資料タルヘキモノト認ムルモ其ノ他一般ノ規定ハ彼等社會主義者カ軍事施設ニ關シ如何ナル觀念ヲ抱懷シアルヤヲ窺フノ資ト爲シ得ルニ過キス而シテ後者ニ關スル社會黨ノ提議ハ意義明確ヲ缺クモノアルヲ以テ以下專ラ「シヨウレ」民案ヲ掲ケ該案中ニ關係事項ヲ記載スルニ止メムトス

第一 法律案ノ要旨

本法律ニ依リ編成セラルヘキ軍ハ敵ノ攻撃ニ對シ國家ノ獨立及領土ヲ保護スヘキ唯一ノ任務ヲ有スルモノトス戰爭ハ明ニ守勢ニアラサレハ罪惡ナリ而シテ國家ノ政府カ其ノ相衝突スル外國政府ニ對シ仲裁裁判ニ依リテ衝突ヲ調停セムコトヲ提議スルニアラサレハ戰爭ハ明確ニ守勢タルコト能ハサルナリ若シ以上ノ提議ヲ行フコトナク開戰ニ任シタル政府ハ佛國及人類ニ對スル反逆者、祖國及人道ノ公敵ト認メ此ノ行爲ヲ協賛シタル議會ハ不忠ノ犯罪ヲ犯セルモノトシテ權利ヲ取消サルヘシ市民ハ此ノ政府ヲ壞倒シ完全ニ國家獨立ノ保護ヲ確保シツツ仲裁裁判ニ附スヘキ宣言ヲ以テ對敵行爲ヲ豫防或ハ停止シ善良ナル信用ニ値スル政府ヲ以テ之ニ代フヘキ憲法的及國民的義務ヲ有スルモノトス以下建軍ノ事項ニ關シ述ヘムトス

「註」(一)内ハ社會黨ノ提案トス

- (一) 兵役ノ義務 總テ身體強健ナル市民男子ハ二十歳ヨリ四十五歳マテ國防ニ協力スヘキモノナリ二十歳ヨリ三十四歳マテテ現役軍トシ三十五歳ヨリ四十歳マテテ豫備トシ四十歳ヨリ四十五歳マテテ後備トス(二十歳ヨリ二十八歳迄ハ現役軍トシ二十歳ヨリ三十八歳迄ハ現役軍豫備トス)
- (二) 徵募 徵募ハ現地ニ於テ行ハル即チ市民ハ其ノ居住スル領土ノ部分ニ應當スル基本的群ノ諸單位ニ配當セラル然レトモ騎、砲、工兵ノ爲ニハ徵募地帯ヲ一層擴張スルヲ得但シ師團ノ限界ハ之ヲ超ユルコトヲ許サス

(三) 動員

- (イ) 新募兵學校ニ於テ教育ヲ終了シタル者ハ地方單位部隊ニ配當セラレ此等諸單位ヲ合シテ現役軍師團ヲ編成ス
- 新募兵ヨリ成ル教育團ハ編成部隊ヲモ常設の部隊ヲモ構成セス
- (ロ) 豫備部隊ハ現役軍ニ屬シ在リタル三十四歳ヨリ四十歳マテノ男子ヲ以テ又後備部隊ハ豫備部隊ニ屬シタル四十歳ヨリ四十五歳ノ男子ヲ以テ編成セラル
- (ハ) 現役軍ノ幹部中將校ノ爲三分ノ一ハ職業的將校ヲ以テ、其ノ他ハ在郷將校下士ヲ充用ス豫、後備役部隊ノ幹部ハ舊現役軍將校及豫、後備軍ニ於テ進級シタル下士ヲ充用ス

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

(ニ) 東方地方ノ諸縣ニ於テ其ノ管内ノ鐵道、自動車等ノ交通網ノ構成ニ際シテハ即時動員ニ依リ一般集中ノ掩護ニ任スル該地方市民全部ノ集中ヲ容易ナラシムルコトニ注意ヲ要ス

(ホ) 各兵卒ハ軍用被服ヲ其ノ住宅ニ保有シ特ニ東方地方ノ諸縣ニ在リテハ兵器ヲモ格納シアルモノトス

(四) 補充

(イ) 將校 將校補充ノ爲ニハ三箇ノ資源アリ一ハ地方大學校ニ於テ教育ヲ受ケタル常置將校ニシテ將校現員ノ約三分ノ一或ハ四分ノ一ヲ占ムヘシ次ニハ平素市民生活ヲ營ミ召集時期ニノミ軍隊ノ指揮ニ當ル市民將校ニシテ二種類アリ其ノ一ハ將校學校ノ入學試験ニ參加シ將校免狀ヲ得タル將校學校ノ卒業生ニシテ卒業後下士ニ任官シ少クモ二箇年下士トシテ實務ニ服シタル後將校ニ進級セラルルモノトス市民將校中他ノ一種ニ屬スルモノハ下士ニシテ多年ノ經驗ニ依リ軍事上貴重ノ經驗ヲ有スル者ニシテ純然タル試験競争等ハ之ヲ行フコトナク將校ニ進級セシメラルモノトス

將校ノ補充ハ上述ノ如キ系統ニ依リ行ハルルモノナルカ勞働階級ヨリ將校ニ出身セシムル爲勞働組合、相互組合、協同組合等ノ勞働者團體ハ將校養成ノ目的ヲ以テ勞働相互及協同組合員ノ兒子ニシテ將來將校タルノ資格ヲ有スルモノト認メタル者ニ對シテハ之ヲ試験シタル後研究費ノ補助

ヲ行フコトヲ得斯ノ如クシテ養成セラルヘキ青年ト勞働階級ヨリ編成セラルル常備兵力トノ間ニハ有形無形ノ關係ヲ保持スルコトヲ得セシメ彼等青年力其ノ位置次第ニ昇ルニ隨ヒ賤民階級ノ大家族ヲ離レサルノ感情ヲ持スルノ利アリ

(召集若ハ志願セル兵卒ハ服役二箇月後本人ノ請求若ハ命令ヲ以テ補足將校タル爲競争試験ヲ受クルコトヲ得ヘシ若シ採用セラレタルトキハ右ノ兵卒ハ現役ノ殘餘四箇月中一箇月間ハ普通條件ニ於ケル下士トシテ二箇月間ハ學校ニ於テ最後ノ一箇月間ハ見習士官トシテ過スヘキモノトス現役滿期後彼等ハ動員ノ需用ニ從ヒ陸軍大臣ノ規定ニ依リ補足將校ニ任セラレ)

(ロ) 下士 下士ノ補充資源ニニアリ一ハ常任下士ニシテ下士學校ニ於テ一箇年間修業スルモノニシテ他ノ一ハ地方下士即チ公民生活ヲ營ム範圍内ニ於テ軍務ニ執掌スルモノニシテ兵卒中將來下士ニ任官セシムルノ資格アリト認メタル者(團隊長、諸階級ノ代表者及一般投票ヲ以テ選舉セラレタル委員階級ノ上級官之ヲ行フ)ヲ約三箇月間下士學校ニ派遣シ成績ノ順位ニ依リ下士ニ任命スルモノナリ此ノ制度ハ多數ノ下士志願者ヲ得ルヘシ何トナレハ第一ノ利益ハ演習ハ彼等公民的活動ノ行ハルル地方ナルヲ以テ軍務ノ爲公民生活ヲ妨害セラルコトナシ第二ノ利益ハ十五年間勤務シタル曉ニハ官吏トシテ就職ノ際特典ヲ附與セラルコト是ナリ第三ニハ中、少尉ニ進級シ得ルコト並退役手當ヲ交付セラルル等ノ利益アルヲ以テナリ

(五) 進級 進級ハ團隊長、諸階級ノ代表者及一般投票ヲ以テ選舉セラレタル改益會議派遣員ニ於テ之ヲ管掌ス而シテ進級ハ一部ハ停年、一部ハ拔擢ニ依ルヲ本則トス

(六) 教育

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

甲 一般教育

(イ) 現役軍ノ教育ハ之ヲ分チテ三期トス即チ少年及青年ノ準備教育、新募兵教育及定期召集是ナリ

(ロ) 準備教育 十歳ヨリ二十歳マテノ少、青年ニ對シ施スモノニシテ本教育ノ目的ハ軍事豫備教育ニアラスシテ體操、遊戲、行軍、射撃教練ヲ以テ健康ヲ保持増進シ體育ノ發達向上ヲ主眼トス而シテ本體育ノ實施ヲ確實ナラシムル爲別ニ賞罰ノ方法ヲ規定ス

(ハ) 學校教育 二十一歳ニ達シタル青年ハ六箇月間最近ノ衛戍地新募兵學校ニ於テ歩、騎、砲兵中隊ノ演習ヲ習得スルモノトス而シテ此ノ義務ハ一回若ハ二回ニ服務スルコトヲ得ヘキモ一箇年以内ニ之ヲ終了セサルヘカラス召集ノ期日ハ屋外教練及變化アル地形ニ於テ演習ヲ實施シ得ル如ク選定スヘキモノトス(最初ノ三箇月間ハ居住地ノ近傍ニ於テ教育ヲ受ケ殘餘ノ五箇月間ハ國境又ハ「ライオン」地方ニ於テ戰時編制ヲ以テ部隊内ノ訓練ヲ受クルモノトス)

(ニ) 勤務演習 現役十三年間ハ教練及機動演習ノ爲八回召集セラルヘシ此等ノ教練ハ交互ニ小部隊ノ機動演習、大部隊ノ機動演習タルヘシ前者ハ現住地若ハ狹キ範圍内ノ地區ニ於テ十日間、後者ハ一層大ナル地區ニ於テ又ハ教育野營地ニ於テ二十一日間ニ互リ行ハルモノトス而シテ該演習ノ爲ニハ同一單位部隊ニ屬スル者ハ總テ同時ニ召集セラルヘキモノナリ尙各地方ノ壯丁ハ最初ノ三箇月教育ヲ終了シタル後東方國境ニ設ケラレタル教育野營地内ニ其ノ教育補足ノ爲召集セラルルコトアルヘシ(現役滿期後十四日間召集セラル大演習ニ從事スルカ又ハ野營地内ニ於テ教育ヲ受クルモノトス)

乙 將校教育

(イ) 將來ノ將校タルヘキ者ハ市民ノ全體一有ラユル狀態ト總テノ階級ノ相混同スル國民軍ニ依リ現ハサル「デモクラシー」ト交渉スルヲ要スヘキモノナルヲ以テ現制教育制度ノ缺陷即チ軍事專門學校ノ貴族的ニシテ又修道院的ナル制度ハ之ヲ廢止セサルヘカラス此等ノ學校ニ於テ教師ハ全ク一ノ長官タリ彼等ハ教ユルニアラスシテ號令スルナリ或ハ軍日其ノ物カ一ノ號令ナリト言フヲ得ヘク教官ト其ノ部下トノ間ニハ思想ノ覺醒ヲ促ス唯一ノモノタル親昵隔意ナキ交誼ノ存スルヲ認メ難キハ現制學校教育ノ通弊ニシテ此ノ結果ハ眞ニ民主的ナル軍隊ノ爲激刺タル「デモクラシー」ノ自由ナル精神ヲ養成スルニ適セサルト一方ニハ彼等ハ學校ニ於テ受クル智識作業ニマテ機械的軍紀ノ型ヲ受クヘキ爲遂ニ此ノ軍紀ノ爲思想ノ習慣ニ關シ彼等ノ全生涯ヲ煩ハスノ效果トナルモノナリ尙茲ニ顧慮ヲ要スヘキハ軍事科學ハ人類智識組織ノ重要ナル一部分タルコト是ナリ而シテ專門ノ學術ハ科學全體及有ラユル人類ノ活動トノ關係ヲ明ニ爲スコトハ頗ル必要ナルヲ認メ來レルハ現代ノ傾向ニシテ之カ爲既往ノ如ク高等教育ハ最早閉鎖シタル區劃、侵入シ難キ專門ニ依リ區別セラルルコトナク舊時閉鎖セラレタル分科大學ノ間ニ進路ヲ開クニ至リシニ就キテ見ルモ此ノ間ノ消息ヲ窺知シ得ヘシ以上ノ

理由ニ依リ佛國ノ主要ナル大學ニ對シ各七、八十名ノ軍事學生ヲ收容スルコトヲ爲サシメ其ノ修業時期ハ壯丁學校ニ於テ課スヘキ六箇月ヲ加ヘテ四箇年トス而シテ彼等ハ大學校ニ於テ高等數學、史學、哲學ノ學生ト同様ナル批判的精神、獨立セル好奇心ノ涵養發達ニ資セシメ一方ニ於テハ兵營又ハ射擊場ニ於テ演習ヲ實施セシメ斯ノ如クシテ未來ノ將校タルヘキ者ハ軍事專門教育ト文學及科學ノ普通教育ヲ併セ修メシメ以テ其ノ資格ヲ養成スヘキモノナリ

(ロ) 市民將校ノ教育ハ大學所在ノ地方毎ニ將校學校ヲ設ケ該校ノ所在地ヲ大學ト同フシ以テ市民幹部ノ將校候補者ヲシテ常備軍ノ幹部ト相親ミ机ヲ列ヘテ研究スルヲ得セシメ此ノ教育期間ハ半年乃至一箇年トス

(ハ) 將校ハ競争試験ニ依リ陸軍大學ニ入學ヲ許サルヘシ同大學生ハ高等階級獲得ノ爲著シキ利益ヲ有シ又參謀職務ニ服スヘキ準備ヲ與フルモノナリ之カ爲各地方大學ニ於テ順次ニ其ノ講座ヲ設クルモノトス

第二 不可充要員ニ對スル規定案

社會黨ノ本規定案ハ意義十分盡サレアラサルノ感アルヲ以テ社會黨ノ一員タル「アンリー、バーテ」氏ノ提議ノ要旨ヲ綜合シテ記述セムトス

要旨 「要旨」 本大戰ノ勃發ニ當リ佛國ノ實行シタル絕對軍事的動員ノ軍部ハ固ヨリ爾他方面ニモ及ホシタル

一大失敗ニ鑑ミ次記各項ノ整備計畫ヲ必要ト認ム

- 一 戰爭間國民ノ經濟的生活安定ノ計畫隨テ今次大戰間「ダルビエス」法ノ新定ヲ以テ隠レタル不可充要員ノ驅出ヲ實行シタルカ如キ拙策ハ將來之ヲ行ハサル如ク周密ナル計畫ヲ要ス
 - 二 動員、作戰並補給用ノ戰爭諸資材ノ需要總額ヲ算定シ各製造計畫ヲ周密ニシ所要ノ職員、職工等ノ整備計畫ヲ必要トス
 - 三 不可充要員ノ認定許容ハ最少限度ニ行フヘシ
- 以上ノ主義ニ依リ以下不充要員ノ規定ニ關シ若干ノ提議ヲ爲サムトス

社會黨案

社會黨案

- 一 動員ノ場合ニ在リテハ如何ナル職務、職業ニ從事シ在ル者ト雖所屬適齡級ノ義務ヲ免除セス唯代議士ノミハ其ノ職務施行中ニ限り召集ヲ免除セラル
- 二 本法律所定ノ職務並職業ノ主任者ニシテ最少限六箇月以上之ニ從事シ在ル者ニ限り動員ニ當リ即時應召スルノ義務ヲ有セス
- 三 平時工場、製造場、石炭採掘等ニ從事シ在ル者ニシテ其ノ技術優良ナルカ爲軍部ノ需要ニ必要ト認ムル者ハ陸軍大臣ノ定ムル期限内ノミ其ノ配屬團隊ニ應召スルコトヲ許サルヘシ

「アンリー、バーテ」氏案

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

一 官、私立製造所ノ従業員ハ戰時後備軍ニ徵集スルヲ原則トス然レトモ例外トシテ技師、職工トシテ製造所ニ存在スルコトヲ必要ト認メラル者ハ之ヲ該所ニ殘置スルコトヲ得之カ爲各製造所ニ組織シアル雇員、職工混成委員ノ意見ニ從ヒ陸軍官憲之ヲ許可スルモノトス但シ該例外者ハ三十歳ヨリ四十一歳迄ノ者ニ及ホスヘキモ三十歳以下ノ者ニハ之ヲ適用セス

二 前項ノ規定ハ公共的勤務及各種ノ行政部職員ニ適用ス然レトモ若干ノ官公吏ニハ之ヲ適用セス

第一 戰後ニ於ケル兵制問題ノ論議並實行ニ徴セハ歐米諸國ニ於ケル該問題ノ大勢ハ次ノ如ク結言スルヲ得ルカ如シ

軍部ノ認メテ信條ト爲ス戰後ノ施設ニ關スル主張ハ或ハ政策或ハ國家並社會ノ要求等ノ爲之ヲ貫徹セシムルコト能ハスシテ此等ノ要求ニ追隨シツアルノ感アリ

「説明」一國國軍ノ兵制ハ國情、人馬並戰用諸資材、財力、國際關係、國家ノ政策等ト緊密不可離ノ關係ニアルコトハ本大戰ノ前後ヲ通シ原則的事實ト認ムルモ戰後ニ於ケル各國兵制問題ノ論議並實行ニ徴セハ前述兵制樹立ノ關係諸要素ノ範圍ハ更ニ之ヲ政界並社會ノ趨勢ニマテ擴張セラルヘキハ勿論既ニ戰前ニ於テ此ノ色彩ヲ帶ヒタル國ニ在リテハ戰後其ノ色彩ノ極メテ濃厚トナリタルノ感アリ以下之カ實證ヲ列舉セムトス

(一) 軍備問題 伊國ハ戰後ノ財政難ト裏面ニ伏在シアルト觀察シ得ヘキ戰後一般國民思想ノ變遷就中勞働運動ノ赤化等ニ依リ既ニ軍備ノ縮小ヲ實施シ米國ハ大統領「ウィルソン」氏ノ否決ヲ排除シテ再度軍備ノ縮小ヲ議決シ近ク其ノ實現ヲ見ムトスルノ大勢ニ在リ

(二) 在營年限問題 伊國ハ民主的事業ノ第一義トシテ在營ノ短縮ヲ斷行シ佛國ハ在營二年制ヲ

固守シテ掛冠シタル前陸相ノ主張ヲ最後ト爲シ大勢ハ一箇年半制ノ實施ニ歸結スルカ如シ

(三) 服役年限問題 佛國ハ全服役年ヲ三十箇年ニ延長シ最後ノ十年級ノ者ヲ以テ内地軍ヲ編成シ戰線ニハ決シテ之ヲ用キス專ラ國家總動員上ノ要員ニ充當セムトスルカ如シ

(四) 徵兵制度問題 英、米兩國ハ這次大戰間至大ノ貢獻ヲ爲シタル徵兵制度ニ對シ英國ノ軍部ハ戰後之カ存續ヲ主張シ米國ハ一般國民軍事訓練案ノ形式ヲ以テ強制徵集ノ實果ヲ舉ケムトシタルモ前者ハ首相カ勞働階級者ノ意ヲ迎ヘムトスル政策ノ爲ニ後者ハ舉國戰後ノ經濟戰參加ノ爲共ニ廢止否決セラレタリ

我カ帝國ノ兵制問題ニ關スル意見

第二 歐米諸國ニ於ケル兵制問題即チ軍備、在營及服役年限ニ關スル大勢ニ對シ我カ帝國軍ハ其ノ建軍ノ主義及野戰軍ノ素質ニ對スル期待上ヨリシテ次ノ如ク之ヲ結言スルヲ得

軍備ノ縮小竝在營年限ノ短縮ハ軍部トシテ之ヲ認容スルヲ得ヌ又戰時得員增多ノ主旨ヲ以テスル服役年限ノ延長ハ(一)勤務演習ノ增多ニ伴フ國民ノ兵役義務負擔增加ノ不利、(二)社會上ニ於ケル彼等ノ地位ハ家庭ニ於テ漸次繁雜ヲ加フヘキ一家ノ家長タルコト、(三)獨逸ニ於ケル老年級兵力革命宣傳ノ媒介者タリシコト等ニ依リ同意スルヲ得ヌ

說明

一 軍備問題

軍備問題

軍備ノ縮小ハ之ヲ認容スルヲ得ヌ

「說明」

(一) 壯丁ノ社會的地位ハ其ノ大部ノ者ハ中產階級以下ニ屬スルヲ以テ軍部トシテハ軍備ヲ縮小スルコトニ依リ彼等ノ責務ヲ輕減シ以テ國家ノ至高政策ニ協調ヲ求メムトスルハ固ヨリ希望スル所ナリ隨テ國家カ戰後擡頭セル各種ノ問題ニ對シ既ニ實行シ又ハ研究中ニ屬スル諸種ノ社會政策ト相俟テ軍部カ國家並社會ノ安幸ヲ期スル爲努力シタルコトハ既往ニ於テ其ノ實例ヲ有シ將來ニ於テモ亦當局ノ念慮セラルル所ナルヘシ然レトモ事苟モ國軍ノ興廢ニ係ルカ如キ提案ニ對シテハ敢然之ヲ辯駁シテ其ノ事由ヲ說述シ以テ他迄軍部ノ主張ノ貫徹ヲ期セサルヘカラス是レ吾人ノ責務ナリ以下軍備ノ縮小ヲ議スルカ如キハ目下其ノ時機ニアラサルノ事由ヲ述ヘムトス但シ軍事機密ニ互ル事項ハ茲ニ掲記スルヲ得サルヲ以テ說述中會得ノ困難ナルモノアルヘキヲ豫メ諒知セラレタシ

一國野戰軍ノ目標兵力ハ大戰ノ教訓ニ依リ該野戰軍兵力ノ約一・五倍ノ後方兵力ト國家總動員ノ要員トシテ既教育兵員中在郷者ノ約一・五割以上ノ者トヲ保有スル場合ニ於テ概ネ所望ノ如ク之ヲ整備シ得ルコトナレリ故ニ帝國カ其ノ開戰ニ臨ミ動員スヘキ所望ノ野戰軍兵數ノ整備ハ此ノ大勢ニ順應シテ計畫セラレサルヘカラス然ル時ハ我カ國軍ノ現況ハ彼ノ交戰諸國カ戰後巨多ノ既教育兵員資源ヲ保有シ且一方國家總動員ノ試練ヲ經由シタル者トハ趣ヲ異ニシアルヲ以テ軍備ヲ縮小スルモ

國防計畫上些ノ蹉跌ナキヲ期シ得ルノ時代ニハ未タ到達シアラサルモノト認ム是レ軍備縮小案ヲ否認スル所以ナリ若シ本主張ニ對シ更ニ一步ヲ進メ在營短縮ノ交換問題ヲ擧ケ各年徵集人員ノ増加ヲ提唱スル者アラハ這ハ大戰ノ教訓、我カ國軍整備ノ境遇上特ニ精兵主義ヲ以テ建軍ノ根基ト爲スノ必要ニ對シ背馳スルモノナルヲ以テ同意スルヲ得サルナリ

(二) 帝國ノ國防問題ニ對シ國際聯盟ヲ前提ト爲シ之ヲ論議スル者アラハ遠キ將來ハ別問題ト爲シ刻下竝近キ將來ニ於テハ吾人ハ飽迄「國家ノ上ニ國家ナク國家ノ下ニ國家ナシ」ノ主義ヲ確守シ帝國ノ國是遂行上ノ國防兵力ノ整備ヲ主張セムトスルモノナリ米國カ戰後ノ軍備問題ヲ解決セムトシタル其ノ根基ハ當局カ「本大戰ノ直前ニ於テ一等國ト戰爭スル場合ニ想定シタル約百萬ノ兵力ハ戰後ノ國際關係ヲ顧慮シニ島國ノ聯合軍ヲ想定シ其ノ兵力ヲ約三倍ニ増加スルノ必要アリ」ト認メシ點ハ之ヲ顧慮中ニ加ヘサルヘカラス

在營年限問題

二 在營年限問題

一 大戰ノ教示竝帝國軍ノ境遇ハ將來益精兵主義ノ發揮ヲ切要トス

「説明」 大戰ニ現ハレタル戰闘ノ技術化ハ既往ノモノニ一新ヲ加ヘ軍隊指揮ヲ困難ナラシメタルト同時ニ戰闘性質ノ鞏強化ハ士卒各自ノ技能ノ向上竝充盈セル精神力ヲ要求スルコト一層切ナリ尙彼等ノ獨斷ヲ要スル場合ハ著シク增多セリ之ニ鑑ミ將來ノ軍隊教育ハ既往竝現在ノモノニ比シ形

而下教育ハ益繁多ヲ加ヘ形而上ノ化育ハ此等形而下教育ノ進歩ニ對シ常ニ數歩ヲ先ニスルノ覺悟ヲ必要トス尙近時一般國民思想ノ變遷ハ益形而上教育ヲ困難ナラシムルモノト思惟セサルヘカラス之ヲ要スルニ本大戰ノ實績ハ將來愈軍ノ精銳ノ必要ヲ教示スルモノナリ竊テ帝國ノ人馬竝戰用諸資材ノ現況ハ國軍所望ノ整備ヲ掣肘スルモノアルカ爲ニ將來兵數上優越ナル敵ニ對峙セムトスルニハ數ノ不足ハ之ヲ補フニ質ヲ以テセサルヘカラス換言セハ我カ國軍ハ精兵主義ヲ以テ建軍ノ根基トスルノ必要アリ

二 我カ國ノ在營問題ハ現下二年在營制ヲ如何ニ利用スヘキヤニ存シ在營年ノ短縮ヲ圖ルハ目下其ノ時期ニアラザルナリ

「説明」

(一) 大戰ノ實績ハ將來一段ト國軍ノ精銳ヲ要スヘキコトヲ教示シ特ニ帝國軍ハ其ノ境遇上爾他國軍ニ比シ一層ノ精兵主義ヲ以テ建軍ノ根基トセサルヘカラサルニ對シ野戰軍素質ノ現況ハ更ニ一段ノ向上ヲ要スヘキモノアルヲ以テ在營間ノ教育ニ於テハ大戰ノ教示ニ隨ヒ形而下竝形而上ノ教育ヲ刷新シ現制二年在營ヲ以テ養ハル兵員ノ素質ニ比シ更ニ一段ト優秀ナル者ヲ教育スルコトヲ期シ以テ彼等現役兵力其ノ全服役年ノ末期ニ近キ役種トナリタル曉ニ至ルモ尙野戰軍ノ要員トシテ開戰劈頭ヨリ十分ナル戰闘能率ヲ保有シ得ル如ク其ノ在營時代ニ於テ徹底的ニ教

育シ置クコト頗ル肝要ナリ

一七六

以上ノ期待ニ對シ吾人ハ現制在營年ノ延長ヲ切望スル所ナルモ四圍ノ關係ハ之カ實現至難ナルヲ以テ現制二年在營制ノ範圍ニ於テ所望ノ精兵ヲ養フ爲制度中改正スヘキモノアラハ之ヲ審議シ一方教育ノ刷新ニ依リ以テ歩一步豫期ノ成果ヲ舉クルコトニ銳意努力セサルヘカラス

(二) 在營年限ノ短縮ヲ提唱スルニ當リ軍部外ノ人士中往々這次大戰間ニ於ケル短期教育兵ノ價値ヲ偏重觀察シテ之ヲ引用スル者アルモ這ハ適當ト認メ難シ例セハ英、米ノ各新軍力實際戰闘ニ參與スルノ能力ヲ具備スルニ至リタルハ共ニ一年有半ノ教育日子ヲ經タルノ後ニシテ而モ之ヲ概言セハ精銳ナル佛國軍ニ伍シ戰線ニ立チ得タルモノト大觀シ得ヘク尙其ノ戰績ニ關シテハ既ニ定論ノ存スル所ナリ佛國軍ニ在リテモ少カラサル短期教育兵ノ參戰シタルハ事實ナルモ一面ニ於テハ核心兵タルヘキ開戰當時ノ現役兵並現役軍豫備ノ新年級ニ屬シタル者ノ少カラサル現存ヲモ認メサルヘカラス

之ヲ要スルニ本大戰間或ハ絶大ナル損耗ノ補充或ハ新軍ノ編成ノ要求ニ迫ラレ開戰後日ナラスシテ短期教育兵ヲ充用シタルモ其ノ成果ノ不十分ナルヲ覺知シ補充機關ノ擴張ト國民動員ノ施設ノ整備等ニ依リ補充資源ノ增多ヲ圖リ銳意從前ノ教育日子ヲ延長シ兵員ノ戰闘能率ノ向上ニ努メタルコト及是等兵員ハ其ノ參戰ニ當リ開戰時ノ優良素質ノ兵員ノ教導援助ノ下ニ相當ノ戰

果ヲ收メタルモノト觀察スルヲ正鵠ナリト認ム

服役年限問題

三 服役年限問題

服役年限延長ノ主張トシテハ(一)各年ノ徵集人員ノ減少及在營年ノ短縮ヲ實施シ國民ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ圖リ之カ爲生スル戰時得員ノ不足ハ服役年限ノ延長ヲ以テ得員ノ捻出ヲ行ハムトス、(二)一般的戰時得員ノ増加策ヲ提唱ス前者ハ現下國軍ノ素質ニ徴シ又後者ハ次記ノ事由ニ依リ共ニ同意スルコトヲ得ス

一 服役年ノ延長ハ勤務演習ノ必要ヲ伸フヘキヲ以テ國民ノ兵役義務ノ負擔ヲ増加スルノ不利アリ

二 全服役年限ヲ二十五箇年ニ延長スル時ハ戰時ニ於テ家庭上煩雜ヲ加フル家長タル者ヲ軍部ニ徵集スルコトトナルヘク這ハ社會上大ニ顧慮スヘキ問題ニシテ寧ロ我カ國ハ未教育資源極メテ豊富ナルカ故ニ之ヲ運用スルヲ以テ得策ト認ム

三 獨逸陸軍部内ニ革命的思想宣傳ノ有力ナル仲介者ノ一ハ老年兵ナリシト觀察スル者アリ

「説明」

一 彼ノ佛國社會黨カ本大戰ノ一教訓トシテ各役種ノ撤廢即チ豫、後備役ニ屬スル者モ其ノ戰闘能力上概シテ差異ナキコトノ主張ニハ同意シ得サルヲ以テ服役年限延長ノ主張ニハ得員問題ニ一步ヲ進メ素質ノ向上ヲ期スルコト換言セハ勤務演習ノ問題ヲ加味シタルモノナラサルヘカラス然ルニ某說ノ如ク服役年ヲ二十五箇年ニ延長スルモノトセハ其ノ結果最古年次ノ者

第一編 制度上ヨリ觀察セル兵制問題

一七七

ハ演習召集最後ノ時期ヨリ離隔スルコト十有餘年ナルヲ以テ是等ノ者ニ對シ勤務演習ヲ實行スルモノトセハ一旦兵役ニ入りタル者ハ其ノ人生ノ大半ヲ本義務ニ盡スノ結果トナルヘシ

二 前項ノ如ク服役年限ヲ延長シテ人生ノ大部ヲ兵役義務ニ盡サシムルコトハ國家ノ危機ニ當リテハ固ヨリ之ヲ要求シ國民亦奮テ國難ニ赴クヘキハ些ノ疑ヲ容レサル所ナリト雖社會上ヨリ彼等ノ地位ヲ觀察セハ家庭ニ於テ漸次其ノ繁雜ヲ加フルニ至ルヘキ家長ナルヲ以テ彼等ヲ軍部ニ徵集スルコトハ獨リ彼等個人ノ問題ニ止マラスシテ子兒ノ教養隨テ一般國民ノ風儀思想ニ至大ノ影響アルヲ否認シ得サルト同時ニ將來戰爭ノ性質カ長期戰ノ傾向アルニ於テ此ノ弊害ハ一層増大スルコトヲモ亦認メサルヘカラス此ノ見地ヲ以テセハ未教育資源ノ極メテ豐富ナル我カ國ニ於テハ斯ノ如キ不利ヲ忍テ本案ヲ主張スルコトハ適當ト謂ヒ難シ

三 獨逸ノ一參謀將校カ獨逸軍隊ト革命ト題シ次ノ事實ヲ告白セルハ以テ鑑戒トセサルヘカラス

「陸軍ニ革命思想ヲ普及スルハ海軍ニ比シ一層ノ難事ニシテ極端ナル革命主義者カ有力ナル宣傳ニ努メシモ更ニ大ナル進展ヲ見ス然ルニ彼レ革命者ハ十八歲級ノ者及老年兵ニ對シテ大ニ乘スヘキ罅隙ヲ發見セリ蓋シ若年者ハ戰爭開始當時僅ニ十四歲ナリシニ拘ラス巨多ノ收入ト一方彼等カ早ク家庭及學校教育ヨリ離レタル爲風儀並精神上ノ惡化トハ相俟テ戰

時ノ惡氣分ニ感染シ自衛心——正當ナル判斷力等ヲ缺クニ至リ茲ニ革命誘致ノ具ト化シタルヲ以テナリ又老年兵ハ内地ニ於ケル生活ト戰場ニ於ケル犧牲トノ間多大ノ矛盾ノ存在セルニ對シ不満足ナル感情ヲ醸生シ茲ニ革命的思想ヲ養成スルニ適スルモノトナレリ云々」

近時往々部外ノ人士ニシテ服役年限問題ヲ論議スル者アルモ元來全服役年限ノ決定ニハ一國民ノ兵役義務ノ負擔ヲ努メテ輕減スルコトニ主義ヲ置クコトト一ニハ純軍事上ノ見地ヨリ各年ノ徵集人員ト相關聯シテ豫期ノ兵數ヲ整備シ得ルコトヲ目途ト爲シ更ニ全服役年限中在郷年限ヲ數級ニ區分スルノ根據ハ一國ノ建軍ノ主義トシテ如何ナル素質ノ野戰軍ヲ整備スヘキヤニ存セサルヘカラス隨テ服役年問題ノ論議ニ當リ國民ノ負擔輕減ヲ理由ト爲シ全服役年ノ短縮ヲ主張シ或ハ彼此國民ノ體質ヲ較量シテ長短ヲ說論スルコトハ一般論トシテハ條理アルモノト認メ得ヘキモ一國ノ國防兵力並建軍ノ主義ニ觸レサルモノハ徹底的ノ主張トハ謂ヒ得サルモノトス

[illegible]

第一章 歐洲戰ニ現ハレタル粗兵ノ價值

育ノ特質、新募軍ノ編成並戰爭準備力這次戰ニ及ホセル影響等ニ想ヲ致ササルモノ多シ從テ茲ニハ此等ノ關係ヲ闡明シ邦國ニ於ケル建軍ノ本旨ニ鑑ミ國情上採用スヘキ軍隊練成ノ主義方針ニ關シ主トシテ教育上ノ見地ヨリスル觀察ヲ揭ケ以テ在營期間ニ對スル基礎的研究ノ資料タラシメムトス

第一章 歐洲戰ニ現ハレタル粗兵ノ價值

這次戰爭ハ列國軍共ニ豫測セサル戰期ノ推移ニ伴ヒ損耗補填ノ爲絶大ナル兵員ヲ必要トセシノミナラス戰況上兵數ノ優越ヲ競フニ至レル結果兵員資源ノ許ス限リ厯大ナル國軍ヲ擁セムトシ平時兵力ニ對スル

第二編 教育上ヨリ觀察セル兵制問題

緒言

戰後ニ於ケル列強兵役問題ノ趨勢ニ促サレ二年在營制實施ノ今日ニ於テ更ニ之ヲ短縮シ若干兵種ニ在リテハ一年現役ヲ以テ用兵上ノ目的ヲ達成スルヲ得ヘシト爲スノ論議一部識者ノ間ニ唱道セラル其ノ由來スル所ハ軍隊教育ニ對スル觀察ノ相異ニ端ヲ發シ且戰時教育期ノ極メテ短少ナリシコト並列強軍力戰役間異數ノ兵力擴張ヲ爲シ殊ニ英、米ノ如キ平時軍備ヲ閑却セル國軍力新軍ニ依リテ戰闘ノ要求ヲ充足セルヲ見テ戰時教育ニ過大ノ期待ヲ爲シ國民ノ負擔ヲ輕減シテ軍事上ノ希望ヲ滿タサムトスルニ在ルヘキモ其ノ半面ニ於テ速成軍戰績ノ劣惡ナリシコト、平戰時ニ於ケル教育ノ差異殊ニ這次戰役間ニ於ケル教育ノ特質、新募軍ノ編成並戰爭準備力這次戰ニ及ホセル影響等ニ想ヲ致ササルモノ多シ從テ茲ニハ此等ノ關係ヲ闡明シ邦國ニ於ケル建軍ノ本旨ニ鑑ミ國情上採用スヘキ軍隊練成ノ主義方針ニ關シ主トシテ教育上ノ見地ヨリスル觀察ヲ掲ケ以テ在營期間ニ對スル基礎的研究ノ資料タラシメムトス

第一章 歐洲戰ニ現ハレタル粗兵ノ價值

這次戰爭ハ列國軍共ニ豫測セサル戰期ノ推移ニ伴ヒ損耗補填ノ爲絶大ナル兵員ヲ必要トセシノミナラス戰況上兵數ノ優越ヲ競フニ至レル結果兵員資源ノ許ス限リ厯大ナル國軍ヲ擁セムトシ平時兵力ニ對スル

比率ノ如キ甚シキハ二十數倍ノ多キニ達セリ而シテ是等補充員及軍ノ増設ニ要スル兵員ハ主トシテ未熟育兵員資源ノ開拓ニ俟タサルヘカラサリシヲ以テ列國軍ニ於ケル戰時速成者ハ莫大ナル數ニ上レリ就中其ノ著シキモノハ英、米ニシテ國軍ノ大部ヲ舉ケテ參戰後倥偬ノ間ニ新募演練セラレタルモノナリ斯ノ如クニシテ戰爭ノ末期ニ於テハ其ノ戰闘ハ主トシテ急造軍ニ依リテ遂行セラレタリト謂フモ過言ニアラサルノ状態ト爲レルモ翻テ其ノ戰績ニ想到スル時ハ平時ヨリ實施スヘキ國軍ノ整備及訓練上鑑戒ト爲スヘキモノ尠カラス列國軍ニ於ケル急造軍編成ノ概況ハ附表第一ノ如シ

第一節 急造軍ノ戰績

一 英 軍

千九百十五年四月下旬ヨリ「ガリポリ」半島ニ於テ實施セラレタル聯合軍ノ作戰ハ英國ノ第一次新軍ヲ主體トシテ行ハレタル最初ノ試ニシテ懸軍萬里十五師團ノ貔貅ト數十萬噸ノ艦艦ヲ驅テ約一歲ノ日子ヲ費シテ強行セルモ多大ノ生靈ヲ半島ノ地ニ埋メテ(英軍ノ死傷十一萬、喪失艦船約二十隻)槍烈ナル戰史ノ一葉ヲ飾レル外殆ト得ル所ナクシテ終局ヲ告ケ新募軍戰闘力ノ不備及節制ナキ軍隊ノ缺陷ヲ暴露シ軍事界覺醒ノ機運ヲ促進セルニ過キス斯ノ如クシテ益新軍ノ練成ニ日ヲ重ネ千九百十六年初期ニ至リ豫定計畫タル三十六師團大部ノ編成ヲ完結シ同年六月末ヨリ「ヴェルダン」ニ對スル獨軍攻撃力ノ緩和ヲ主目的トシ佛軍ト相俟テ「ソンム」地方ニ攻撃ヲ實施セルモ過度ニ物質的威力ニ信賴シ砲擊萬能主義ニ傾キ敵陣地

ヲ平坦化セシメタル後ニアラサレハ步兵攻撃ヲ不可能ナリトスルカ如キ戰闘法ニ據レル爲獨軍ノ戰線十吉米内外ヲ後退セシメタルニ過キスシテ何等戰路上ノ要機ヲ占ムルニ至ラサリシハ四箇月半ノ努力ト六十萬ノ犧牲ニ對シテハ其ノ成果ノ餘リニ寡少ナルニ驚カサルヲ得ス

千九百十八年春期ニ於ケル獨軍ノ攻勢時ニ於テハ新募ノ英軍モ多年ノ實戰的訓練ヲ經テ其ノ戰闘力ハ往日ノ比ニアラサルノミナラス露國崩壊後獨軍カ西方戰場ニ於テ掉尾ノ勇躍ヲ試ムヘキハ一般ノ期待セル所ニシテ只管兵力ヲ整備シ壘ヲ堅メ防備ニ汲々タリシト雖三月下旬一度「ピカルデー」方面ニ於テ獨軍第一次ノ攻勢ニ遭フヤ頃日ノ恃賴モ空シク一週日ヲ出テスシテ數線ノ陣地帶悉ク突破セララルルニ至レリ而モ此ノ攻勢カ主トシテ英軍ノ正面ニ於テ實施セラレタルハ特ニ注目ニ値スル所ニシテ佛軍ノ増援ニ依リ辛ウシテ其ノ戰果ヲ擅ニスルヲ得サラシメタリ越エテ四月中旬「フランダー」ニ於テ英軍正面ニ實施セラレタル獨軍第二次攻勢ニ對シ英軍ハ險難ナル地ノ利ニ據リ約十師團ヲ全滅シテモ尙其ノ守備ヲ全ウスルヲ得ス更ニ「エース」方面ニ施行セラレタル獨軍第三次攻勢ニ際シテモ其ノ右翼方面ニ在リシ英軍ノ不警戒カ聯合軍敗退ノ一因ヲ爲セル等數次ノ攻勢ニ於テ戰線破綻ノ因由スル所ヲ稽ヘ敵ノ弱點ニ乘セムトスル獨軍ノ作戰ニ想ヲ致ス時ハ戰爭末期ニ於ケル英軍ノ戰闘力モ亦其ノ一斑ヲ推知スルニ難カラス

二 米 軍

平時軍備ノ閑却セラレタル米國ノ本戰役ニ於ケル龐大ナル兵力擴張計畫ハ殆ト無ヨリ有ヲ生スルノ勢ヲ

以テ著々其ノ緒ニ就キシモ新軍ノ編成及演練ノ爲多大ノ日子ヲ要シ參戰後一年有半未タ豫定ノ計畫ヲ完結スルニ至ラスシテ干戈ヲ戢ムルニ至リ可惜好機ヲ逸シテ戰場ニ於ケル實績ノ未タ見ルヘキモノ尠カリシハ同軍ノ爲洵ニ惜ム所ニシテ參戰後約半歲ヲ經千九百十七年十月始テ其ノ二大隊ヲ「ハネビル」方面佛第八軍ノ正面ニ使用シ局地攻撃ヲ行ハシメタルモ其ノ結果ハ見事失敗ニ歸シ却テ獨軍ヲシテ米軍ニ關スル情報ヲ獲得セシメタルニ過キス是ニ於テ益其ノ練訓ノ必要ナルヲ認メ戰線ノ後方ニ於テ佛軍幹部指導ノ下ニ教育ヲ續行シ翌千九百十八年一月中旬ニ至リ漸ク混成一旅團ヲ佛第一軍司令官ノ指揮ニ屬シ戰線ノ一部ヲ負擔セシムルニ至レリ爾後逐次其ノ兵力ヲ増加シ小兵團毎ニ之ヲ各方面英、佛軍ノ間ニ挿入シテ開散ナル正面ヲ分擔セシメタルモ其ノ戰線ニ在ルモノハ六月上旬ニ於テ「ローレン」地方ニ三師團、「モンナジエ」附近英軍正面ニ一師團、「シャトーチエリ」附近ニ二師團合計七師團ニシテ八月中旬聯合軍追擊戰闘ノ時期ニ於テモ十三師團内外ニ達セルニ過キス

茲ニ本戰役間米軍主力ヲ以テ實施セラレタル最大ノ攻撃ニシテ彼等カ唯一ノ緯績トセルモノハ「サン、ミエール」附近ニ於ケル戰闘ナルモ既ニ獨軍ニ於テ主張スル如ク此ノ附近陣地ノ撤退ハ一般ノ形勢上豫定ノ行動ナリシモノノ如ク爾來獨立任務ヲ危險トシテ之ヲ避ケシメタル米軍ニ對シ特ニ此ノ攻撃ヲ擔任セシメタル所以ノモノヨリ察スルモ其ノ表面上ノ成果ニ過度ニ信賴スル能ハサルヘシ

三 伊 軍

伊軍ノ攻撃力ハ參戰後前後十二回、概ネ二倍以上ノ兵力ヲ以テ實施セル「イソソング」河畔ノ攻勢ニ於テ局地爭奪ノ外何等ノ徹底の戰果ヲ齎ラサリシニ徴スルモ明ナリ之ニ反シ千九百十六年五月塙軍ノ「トレンチノ」方面ニ對スル攻勢ハ其ノ地形ノ極メテ峻峻ナルニ拘ラス之ヲ突破シテ將ニ「グエネチヤ」平地ヲ一瞬ノ中ニ收メ伊軍ノ危機ヲ醸成スルニ至レリ

千九百十七年秋季ニ於ケル「イソソング」河畔ノ戰闘ハ參戰後二年有半ニ於ケル多大ノ損耗ト兵力上異數ノ擴張ニ依リ戰時速成者ヲ主體トスル兵團ニ依リテ遂行セラレタルモノニシテ此ノ正面ニ於ケル伊軍兵力ハ四十三師團ニ達シ攻者タル獨、塙軍ノ三十八師團ニ比シ寧ロ優勢ヲ占ムルニ拘ラス一度其ノ攻撃ニ遭フヤ周章爲ス所ヲ識ラス參戰以來十餘回ノ會戰ヲ重ネテ獲得セル地步ヲ一朝ニシテ放棄シ一週日ヲ出テスシテ「タリアメント」河ノ線ニ擊退セラレ次テ「ピアーズ」河畔ニ退却シ辛ウシテ其ノ守備ヲ全ウスルヲ得タリ斯クシテ會戰二週日獨、塙軍ノ得タル捕虜二十五萬(伊軍總兵力ノ三分ノ一)、鹵獲火炮二千三百門ニ達セリト謂フカ如キヲ以テ見ル時ハ其ノ防禦力モ亦察スルニ難カラス

斯ノ如ク伊軍カ素質不良ニシテ急造軍多キ塙軍ニ對シテスラ遜色ヲ示セルハ一ニハ兩軍ノ歷史的關係ニ由來スルモノトス

四 露 軍

戰時急造軍ノ多數ヲ有スル露軍ノ戰闘力ハ東方戰場ニ於ケル一般ノ戰績之ヲ證シテ餘アリト雖就中其ノ

敗因ノ多クカ新募粗造ノ兵團ニ端ヲ發セルハ注目ニ値スル所ニシテ千九百十四年十二月「ロッツ」會戰ニ於ケル西伯利第五軍團、千九百十五年二月第二回東普會戰ニ於ケル豫備第三師團、同年五月「ガリシヤ」方面「ドナエック」河畔ノ守備ニ於ケル國民旅團ノ如キ其ノ著シキモノナリ又攻撃ニ當リテハ素質劣等ナル獨軍兵團ニ對シ數倍ノ優勢ヲ以テシテ尙且失敗ニ終レルコト多ク千九百十六年六月露ノ第十二軍（主トシテ新募軍ヲ以テ編成セラル）カ「リガ」南方ノ攻撃ニ於テ主攻撃正面ニハ約十倍ノ優勢ヲ占メ其ノ半數ノ死傷ヲ拂テ毫モ得ル所ナカリシカ如キハ攻撃力ノ一端ヲ窺フニ足ルヘシ

五 獨軍

獨軍カ最初ニ編成セル豫備六軍團ノ内四軍團ハ千九百十四年十月上旬「フランダー」附近ノ會戰ニ使用セラレ其ノ攻撃精神ノ旺盛ニシテ反復十五回ノ突撃ヲ敢行セルカ如キ部隊ヲ見タリト雖未熟ナル戰闘兵ハ現今火器ノ威力ニ對シ徒ニ其ノ慘害ノ大ナルヲ驚駭セシムルニ止マレリ
即チ此等兵團ノ兵卒中四分ノ三ハ志願兵ニシテ後備軍及國民軍等ニ屬スル一部ノ古年次兵ヲ除キテハ悉ク各種階級ニ屬スル未教育青年ヨリ成リ大學教育ヲ受ケタル者モ多カリシカ故ニ軍隊ノ多數ハ志氣上ニ於テハ極メテ優秀ナリシト雖而モ其ノ熱心ト獻身ノ精神ハ未タ以テ軍事教育ノ缺陷ヲ償フニ足ラザリキ其ノ後千九百十五年初更ニ編成セラレタル第二次豫備軍ニ至リテハ志氣上ニ於テモ既ニ著シク劣色アリ敵火ノ下ニ在リテモ密集隊形ヲ以テスルニアラサレハ攻撃動作ヲ行フ能ハサルカ如キ狀態ナリト謂フ

斯ノ如ク其ノ素質劣惡ナリシト雖露軍ニ對シテハ尙優勝ノ地位ヲ占ムルヲ得タリ即チ「フランダー」會戰ニ參與セル豫備軍ト同時ニ編成セラレタル一軍團ハ同年十一月「ロッツ」附近ノ會戰ニ於テ偉功ヲ奏シ或ハ第二次ノ豫備軍ヲ主體トスル第八、第十軍カ千九百十五年二月東普「マジュール」地方ニ於テ略同兵力ノ露軍ニ對シ殲滅的打撃ヲ與フルヲ得タルカ如キハ其ノ一例トス然レトモ此等ハ志氣上ノ交感及統帥等ニ關スルコト多ク直ニ兵卒各個ノ戰闘力ヲ推定スル能ハサルヤ勿論ナリ

六 塙軍

戰時ニ於ケル兵力ノ擴張率及損耗ノ多大ナル塙軍ノ素質カ露軍ニ比シテスラ尙遜色アルハ一般ノ戰果ニ鑑ミ否定スル能ハサル所ニシテ攻守兩勢共ニ獨軍幹部ノ指導及團隊ノ援助ニ依リ漸ク其ノ作戰ヲ糊塗セルノ感アリ即チ戰時「ガリシヤ」ニ於ケル露、塙第一會戰ノ失敗ハ志氣上爾後ノ作戰ニ影響スル所至大ニシテ越エテ千九百十六年六月ニハ更ニ東部「ガリシヤ」ニ於テ兵力上懸隔ナキ露軍ノ爲ニ戰線ヲ突破セラレテ捕虜二十數萬ヲ出シ爾他正面獨軍ノ赴援ニ依リ辛ウシテ其ノ戰勢ヲ保持シ翌年七月ニハ三度「ガリシヤ」ニ於テ革命後軍紀全ク弛廢セル露軍ニ對シテモ守備ヲ全ウスル能ハス更ニ獨軍ヲ煩ハスニ至レルカ如キハ共ニ塙軍ノ價值ヲ知ルニ足ルヘシ

七 列國軍ノ戰績ニ關スル一般の觀察

以上列國軍ノ戰績ニ關シテハ其ノ國民性、民族消長ノ史的關係、緒戰ノ交感等無形の因子ヲ包藏シ或ハ兵

卒トシテノ價值ヨリモ寧ロ統帥及幹部ノ優劣ニ歸スルモノアリ又等シク急造軍ト稱スルモ戰前不完全ナル教育ヲ受ケ或ハ素質劣等ナル既教育者ヲ基幹トスルモノ若ハ戰時速成者ヲ以テスルアリ編制上適確ニ之ヲ區分スルコト困難ニシテ而モ對抗軍ノ素質ハ千變萬化ナルヲ以テ教育程度ト戰鬪能力トノ關係ヲ具體的ニ秤量スルコト至難ナリト雖一般のニ之ヲ觀察シテ急造軍ノ價值カ爾他野戰軍ニ比シ著シク遜色アルハ掩フヘカラサル事實ニシテ攻防ニ於ケル弱點ヲ形成シ戰線破綻ノ因ヲ爲シ延テ戰場ノ運命ヲ左右スルニ至レルコト枚舉ニ遑アラヌ之ヲ國軍ノ全般ニ就テ觀ル時ハ戰時ニ於ケル擴張率及損耗大ニシテ新募軍ノ多數ヲ包擁スルニ從ヒ益其ノ價值ヲ低下スルハ附表第二ニ依ルモ概ネ之ヲ推知シ得ヘシ又軍隊ノ素質低下スルニ從ヒ損耗殊ニ俘虜數ヲ増大シ戰鬪ノ爲ノ犧牲ノ大ナルニ比シ戰果ノ之ニ伴ハサルハ「フランダール」ノ會戰ニ於ケル獨逸軍團ノ戰鬪、「ガリポリ」平島ニ於ケル英軍ノ上陸作戰、露第十二軍ノ「リガ」南方攻擊戰等之ヲ證シテ餘アリ

第二節 急造軍ノ用途

急造軍ノ用途ハ其ノ價值ヲ判定スル爲ノ重要ナル資料ナリ列國軍ニ於ケル用所ハ戰爭ノ時期、總兵力ト急造軍ノ多寡及戰況等ニ依リ區々ナルモ概ネ左ノ範圍ヲ出テサルモノノ如シ勿論戰時速成者ノ大部ハ補充資源トシテ使用セラレ既教育兵ヲ骨幹トスル野戰軍ノ框内ニ鍛鍊セラレツツ逐次之ニ代リテ其ノ主力ヲ占ムルニ至レルモ茲ニハ特ニ新募兵ヲ主體トシテ編成セラレタル團隊ニ就キ述フルモノトス

一 補助勤務若ハ作業兵トシテ使用ス

素質最劣等ナルモノニシテ列國軍共ニ國民部隊ヲ以テ主トシテ之ニ充テタリ然レトモ是等ハ寧ロ戰鬪兵トシテノ範圍ヲ脱セルモノトス

二 後方連絡ノ掩護、内地、殖民地及占領地ノ守備或ハ要塞ノ守兵トシテ使用ス

露軍カ後方連絡線掩護及内地守備ノ爲國民部隊ヲ使用シ佛軍カ内地及殖民地ノ守備ニ後備師團ヲ充テ獨逸軍カ國民部隊ヲ以テ占領地ノ守備勤務ニ服セシメタルカ如キ是ナリ又要塞守兵トシテハ佛軍ハ後備師團ヲ、埃軍ハ國民旅團ヲ使用セリ

三 第二線列部隊トシテ使用ス

佛軍ニ在アリテハ後備及國民部隊ヲ、獨逸軍ニ在リテハ後備及補充部隊ヲ又伊軍ニ在リテハ遊動民兵ヲ第二線列ニ充當セリ

而シテ獨逸軍ニ於テハ第二線列軍隊ハ戰爭初期ニ於テハ單ニ補助的任務ニ供セラレタルモ後ニハ要スレハ之ヲ第一線ニ注入スルニ至リ其ノ獨立戰鬪力ヲ向上セリ

四 野戰軍ノ一部トシテ其ノ戰略單位内ニ編合シテ使用ス

露軍カ第二次豫備師團ヲ野戰軍團中ニ加ヘ又埃軍カ國防師團ヲ野戰軍團ノ第三師團トセルカ如キ即チ是ナリ佛軍ニ於テモ新設兵團ハ努メテ之ヲ獨立シテ編成セサル方針ニ據レルモノノ如シ

斯ノ如キ場合ニ於テハ此等ノ部隊ハ主トシテ豫備隊等トシテ使用セラルルモ野戰軍一般ノ素質ヲ著シク低下スルニ至ルハ露、埃軍ノ戰績ニ見ルモ明ナリ

五 獨立シテ之ヲ使用シ野戰ニ於ケル次等ノ任務ヲ負擔セシム

獨軍ハ素質劣等ナル露軍ニ對スル爲主トシテ次等兵團ヲ用キ西方戰場ニ於テモ支作戰方面タル「アルザス」、「ロートリゲン」方面ニ後備及補充旅團ヲ使用セリ又開戰當初白耳義風靡後「アンドワープ」要塞ニ對シテハ豫備師團、後備旅團、海兵師團等ヲシテ攻圍セシメタルカ如キ埃軍カ國民師團ヲ堅固ナル伊國國境守備ニ充當シ或ハ露軍カ野戰軍トシテ成績極メテ不良ナリシ國民旅團ヲ依然高加索方面ノ作戰ニ任セシメタルカ如キハ主作戰方面ニ於テ精銳ヲ期セムトスル自然ノ結果ニシテ列國軍共ニ戰爭中期以後精兵ヲ銷磨スルニ從ヒ益此ノ傾向ヲ生セリ要スルニ素質劣等ナル兵團ハ攻撃殊ニ運動戰ニハ適セサルモ物質的威力ヲ發揚スル守勢作戰ニ於テハ比較的大ナル抵抗力ヲ發揮シ得ルモノトス

六 一般ノ野戰軍トシテ使用ス

急造軍ヲ戰略單位トシテ一般野戰軍ノ間ニ伍シテ使用スルコトハ列國軍共ニ努メテ之ヲ避ケタルモ兵力ノ不足ト一般素質ノ低下ハ此ノ種部隊ト雖主作戰場外ニ超然タラシムル能ハサルニ至レリ然レトモ是等ノ團隊カ戰線ノ弱點ヲ形成シ其ノ破綻ノ因ヲ爲セルコトハ前項ニ縷述セル所ニシテ用兵上

至大ナル考慮ヲ要ス即チ之ヲ配置スルニ當リテハ攻防ノ要點ヲ避ケ其ノ正面ヲ制限シ縱長區分ヲ大ナラシメテ戰況ノ變化ニ備ヘ或ハ之カ核心トシテ要衝ニ堅鐵兵團ヲ加フル等仔細ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス

之ヲ要スルニ急造軍ノ用途ハ一般野戰軍ニ比シ著シク制限セラルルノミナラス主トシテ次等任務ニ供セラレ已ムヲ得スシテ之ヲ決戰場裡ニ使用スル場合ニ於テモ作戰並用兵上掣肘ヲ受クルコト大ニシテ眞ニ戰闘ノ獨立ヲ期スルコト困難ナリ

第二章 精兵主義乎多兵主義乎

第一節 兩主義ノ意義

凡ソ兵力ノ要素ハ兵數、素質及裝備ニシテ此等三者ノ間ニハ緊密ナル關係ヲ有シ何レカ其ノ一ニ缺陷ヲ有スル時ハ十分ナル戰闘力ヲ發揮スル能ハサルヤ論ナキ所ナルモ之ヲ相對的ニ觀察シテ相互ノ價值ヲ比較衡量スル場合ニ於テ所謂精兵主義或ハ多兵主義ヲ生ス（編制、裝備ニ關スルコトハ本問題ト直接關係ナキヲ以テ暫ク之ヲ不問ニ附スルコトトス）

從テ此等兩主義ノ歸著スル所ハ數及質ノ何レニ重點ヲ置クヘキヤニ存ス而シテ數字ニ關スル問題ハ一目瞭然タリト雖質ニ關シテハ之カ素因タル國民性、國軍ノ建制、國民教育及軍隊ニ於ケル訓練等其ノ程度ヲ捕捉スルコト難ク適確ニ之ヲ數上ノ價值ト比較對照スルコト困難ニシテ古來論議ノ岐ルル所タリ依テ

茲ニハ國軍素質ニ關スル爾他ノ因子ニ論及スルコトヲ避ケ單ニ軍隊教育上ノ見地ヨリ觀察セムトス
要スルニ國民ノ負擔ヲ努メテ輕減シ經濟的ニ國防ヲ律スル爲何レノ主義ニ據ルヘキヤ換言スレハ一定ノ
國費ヲ以テ軍ヲ維持スル上ニ於テ何レヲ有利トスルヤカ問題ノ生スル所ニシテ兩主義ハ相背馳セル要求
ヲ有シ數ノ多キヲ望ム時ハ素質ヲ低下スルニ反シ教育期ヲ延長シテ精銳ナル國軍ヲ養成セムトスル時ハ
其ノ人員ヲ減少スルニ至ルハ已ムヲ得サル所トス從テ兩者ハ相對的ニ立論シテ始テ意義アルモノニシテ
之ヲ箇々ニ觀察スル時ハ精兵主義ニ反スルモノハ粗兵、多兵主義ニ反スルモノハ寡兵ニシテ國防上精兵、
且多兵ヲ要望スルハ勿論ノコトトス

尙茲ニ研究ヲ要スルハ戰時編制ト平時編制トノ關係ニシテ兩者ノ懸隔大ナルニ從ヒ野戰軍ヲ充實スル爲
在郷者其ノ他素質劣等分子ノ多數ヲ包含セサルヘカヲサルニ至ルヲ以テ假令平時部隊トシテハ精練ナル
モ戰時ニ於ケル國軍全般ノ上ヨリ見ル時ハ之ヲ精兵主義ト謂フヘカラス極論スレハ傭兵制度ノ國軍ノ如
キ平時部隊トシテハ多年教育ニ依リ練熟ノ域ニ達スヘキモ既教育ノ在郷兵ヲ得ルコト困難ニシテ而モ平
時ヨリ戰時要員ヲ願慮シ大兵ヲ常備スルコトハ到底負擔ニ堪ヘサルヲ以テ這次戰ニ於ケル英、米軍ノ如ク
野戰軍ハ主トシテ戰時ノ速成ニ俟タルヘカヲサルニ至リ最非精兵主義ト目セサルヘカラス故ニ單ニ平
時ニ於ケル教育期ノミナラス平時ニ於ケル既教育人員ヲ以テ戰時ノ要求ヲ充足シ得ル程度ヲモ願慮セサ
ルヘカラス唯兵員各個ノ能力ノ向上ニ依リ數字上ノ不足ヲ補ヒ得ルヲ以テ國防上同一ノ目的ニ對シ準備

スヘキ兵力ニ差異アルハ當然ナリ

第二節 戰闘ノ勝敗ト國軍ノ兵數及素質

國軍ノ素質カ會戰ニ及ボス成果ニ就テハ第一章ニ於テ列國軍ノ戰績ニ徴シ縷述スル所ナルモ軍ノ勝敗ハ
軍隊教育ノ外國民ノ資質並其ノ教育、戰爭目的殊ニ之ニ對スル一般ノ觀念、對抗軍トノ歴史的關係等ニ
依リ左右セラルルコト大ニシテ例ヘハ這次戰役間獨軍ハ露軍ニ對シ半數以下ニシテ加フルニ多數ノ次等
兵團ヲ充當シ而モ多クノ會戰ニ於テ劣勢ヲ以テ露ノ大軍ヲ破リ志氣上既ニ彼ヲ呑ムノ概アリ之ニ反シ埃
軍ハ開戰劈頭「ガリシヤ」ノ敗戦以來數次ノ會戰ニ於テ露軍ニ比シ遜色ヲ示シ獨軍ノ指導及直接援助ニ依
リ辛ウシテ其ノ戰勢ヲ保持シ埃國各軍ニハ獨軍兵團ヲ見サルモノナク其ノ主動的作戰ハ概ネ獨軍ニ依リ
テ遂行セラレタリ而モ斯ノ如ク埃軍カ伊埃戰場ニ於テハ概ネ半數ノ兵力ヲ以テ伊軍ニ對抗シ「イソジソ」
河畔ノ角逐モ伊軍ノ努力遂ニ空シク千九百十七年晩秋ノ敗退ヲ見ルニ至リ埃軍司令官ノ訓示中ニ「伊國
軍隊ニ對シ吾人ノ祖先ハ未タ曾テ敗北セス吾人ハ一兵ノ存スル迄克ク現陣地ヲ維持シテ祖國ノ名ヲ辱カ
シムル勿レ」トアルカ如キ當ニ味フヘキコトトス而シテ此等ノ關係ハ列國軍ニ於テ情況ヲ異ニシ對抗能
力ノ判定ニ困難ナルヲ以テ茲ニハ戰例ニ徴シ大數觀察ヲ下スニ過キス
科學ノ進歩ト共ニ物質上ノ威力向上セラレ素質ノ不備ヲ補フニ器械力ヲ以テスルコト容易トナリ既往ノ
戰役ニ比シ兵力上ノ一因子トシテ兵數ノ價值重視セラルルニ至レルハ辭ム能ハサル所トス殊ニ陣地戰ニ

於テハ其ノ現象最顯著ニシテ戰期ノ漸久ト共ニ平時ヨリ訓練セル精兵稀有トナリ對抗軍ノ間ニ素質ノ懸隔ナキニ至ルヤ攻者ノ條件トシテ兵數ノ絕對優勢ヲ必要トスルニ至リ千九百十五年「アルトア」「シヤンバーニユ」會戰、千九百十六年「ソナム」會戰ノ如キ攻者タル英、佛軍ハ三乃至四倍ノ優勢ヲ以テシテ尙所期ノ戰果ヲ收ムルヲ得ヌ又千九百十八年ニ於ケル獨軍數次ノ攻撃ノ如キモ攻者ハ概ネ二倍以上ノ兵力ヲ充當セリ爾他ノ戰場ニ於ケル主要會戰ニ在リテモ寡兵ヲ以テ攻勢ニ起テルハ素質上ノ優劣著シキカ若ハ統帥其ノ宜シキヲ得タル場合ニ限レリ斯ノ如キ既往ニ比シ兵數ノ價值向上スルニ至レリト雖「フアルケンフアイン」カ其ノ著「最高統帥」ニ於テ「決戰ニ際シ過剩兵力ヲ得ルコト不可能ナリト」古語ハ依然トシテ眞理タルヲ失ハサルハ確實ナルカ如ク數字上ノ優勢ノミカ必スシモ決戰ヲ有利ニ終結セサルハ又確實ナリ」ト言ヘル如ク勝敗ノ數カ必スシモ兵力ニ關セサルハ不磨ノ原則ニシテ以下述フルカ如キ頻次ノ戰例モ亦之ヲ證シテ餘アリ

開戰當初東普ニ於ケル露、獨兩軍ノ間ニ於ケル第一回ノ會戰ニ於テ元來戰略的持久ノ目的ヲ有スル獨軍ハ約三倍ノ優勢ヲ有セル露軍ニ對シ內戰ニ於テ積極的作戰ヲ遂行シ其ノ一軍ニ殲滅的打撃ヲ與フルヲ得タリ其ノ他千九百十四年十月波蘭ニ於ケル獨軍第一回ノ攻勢、同年十一月ニ於ケル第二回ノ攻勢（「ロツ」附近ノ會戰）及翌千九百十五年一月末ヨリ三月ニ互ル第三回ノ攻勢ハ勿論爾後幾多ノ會戰ニ於テ其ノ總兵力ヲ比スレハ攻者タル獨軍反テ防者タル露軍ヨリ寡少ナリシニ拘ラス克ク赫々タル戰捷ヲ收ムルヲ得タリ

以上ハ劣勢軍ヲ以テ數字上優勢ナル軍ヲ擊破セル例ナルモ之ニ反シ兵力ノ懸隔著シキモノアルニ拘ラス優勢軍ノ攻撃不成功ノ場合モ尠カラス千九百十五年「ガリポリ」半島ニ於ケル英軍ノ土軍ニ對スル作戰、千九百十六年春夏ニ於テ實施セラレタル露軍ノ「リガ」、「ドヴィンスク」間及東部「ガリジャ」ノ攻勢ノ如キ又伊軍カ「イソソソ」河畔ニ於テ前後十餘回ニ互リ概ネ二倍以上ノ兵力ヲ以テ遂行セル攻撃力徹底的戰果ヲ見スシテ終レルカ如キハ其ノ著シキモノナリ勿論此ノ間ニハ統帥ノ巧拙、國軍ノ志氣、裝備等ノ交感至大ニシテ獨軍ノ東方戰場ニ於ケル放膽ニシテ電光石火的作戰カ「ヒンデンブルグ」、「マッケンゼン」等驍將ノ統率ニ負フ所多ク到底之ヲ無爲ナル露軍ノ指揮ニ對比スルコト能ハス開戰初頭東普ニ於ケル會戰ノ如キ之ヲ歷證スルモノアリ一會戰ニ於ケル參與兵數ノ如キモ總數ニ於テハ差異アルモ之カ運用ニ依リ決戰場裡ニ所望ノ兵力ヲ集メ寡ヲ以テ衆ヲ制スルノ結果ヲ招徠セルモノナキニアラス例ヘハ千九百十六年三月露軍北方面軍ノ攻勢ニ方リテハ露軍ノ五百八十八大隊ニ對シ獨軍ハ百五十八大隊ニシテ三倍半ノ優勢ヲ占メアルニ拘ラス眞ニ第一線ニ使用シテ攻撃ニ參與セルハ僅ニ五十大隊ヲ超エサリト謂フカ如キ用兵上ノ過失尠カラスト雖一面ヨリ觀察スレハ作戰ノ要求ニ應スル如ク機動力ヲ遺憾ナク發揮シ克ク指揮官ノ意圖ヲ充足スルカ如キハ精練ナル軍隊ニ於テ始テ之ヲ期待シ得ルモノニシテ叙上ノ戰例ノ如キモ兵數ト素質トノ關係ニ就キ其ノ一斑ヲ示スモノト謂ハサルヘカラス

其ノ他各方面ノ戰場及戰役間各時期ニ於テ對抗兩軍ノ配備ヲ至細ニ觀察スル時ハ兵數ト素質トノ問題ニ關スル機微ヲ窺フヲ得ヘシ即チ西方戰場ニ於テ獨軍カ陣地ニ據リテ英軍ニ對スルヤ千九百十四、十五年ニ於テハ約三分ノ一ノ兵力ヲ充ツルニ過キサリシカ自軍素質ノ雜駁粗惡トナレルニ反シ英軍戰闘力ノ逐次充實シ來ルヤ對峙兵力ヲ増加シ千九百十六年末ニ於テハ英、白軍七十師團ニ對シ獨軍ハ約五十師團ヲ配置スルニ至リ千九百十七年八月ニハ英、白軍七十師團ニ對シ獨軍ハ六十師團ヲ充當セリ

一方獨、佛軍ノ間ニ於テハ指揮官トシテノ技能ハ暫ク之ヲ措キ軍隊ノ素質上殆ト逕庭ヲ認メサルヲ以テ佛軍ニ對シテハ常ニ相當ノ兵力ヲ割キ獨軍カ攻勢ニ於テ劣勢ノ兵力ヲ以テ佛軍ヲ擊破セルノ例ヲ見サルノミナラス守勢作戰ニ際シテモ英軍正面ニ比シ對抗兵力ニ懸隔アルヲ認ムルヲ得ヘシ例ヘバ千九百十五年三月ニ於テハ佛軍約九十師團ノ正面ニ獨軍ハ八十師團ノ兵力ヲ配置シ千九百十六年末ニ於テハ佛軍約九十五師團ノ正面ニ對シ七十五師團ヲ又千九百十七年八月ニ於テハ佛軍百三十師團ノ正面ニ九十師團ヲ充テタルカ如キ其ノ一般ヲ觀察スルヲ得ヘシ

又伊、埃軍ノ間ニ於テハ埃軍ハ伊軍ニ對シ約半數ノ師團ヲ以テ足レリトスルモノノ如ク伊軍參戰當時ニハ其ノ三十八師團ニ對シ埃軍ハ十九師團ヲ充テ千九百十七年八月ニ於テモ伊軍七十二師團ニ對シ埃軍ハ三十八師團ヲ以テセリ但シ埃軍ノ師團ハ伊軍ニ比シ其ノ編制大ナルヲ以テ實際兵力ノ懸隔ハ斯ノ如ク大ナラサルヘシ之ヲ既往ノ戰例ニ徵スルモ亦兵數ノ多寡カ戰場ノ運命ヲ左右スル唯一ノ素因ニアラサルヲ

知ルヘク今寡兵ヲ以テ衆敵ヲ擊破セル著明ナル數例ヲ掲クレハ左ノ如シ

會戰名	交戰年	勝者兵數	敗者兵數
「ロイテン」	千七百五十九年	普 四三、〇〇〇軍	埃 七二、〇〇〇軍
「ド레스デン」	千八百十三年	奈 九六、〇〇〇軍	埃、露、普 二〇〇、〇〇〇軍
「マースラツール」	千八百七十年	獨 六三、〇〇〇軍	佛 一一三、五〇〇軍
遼陽	明治三十七年	日 一三四、五〇〇軍	露 二二四、六〇〇軍
沙河	同 三十八年	日 一二〇、八〇〇軍	露 二二一、六〇〇軍
奉天	同 年	日 二五〇、〇〇〇軍	露 三二〇、〇〇〇軍

第三節 作戰ノ時期ト兩主義

前項ノ戰例ニ依リ觀察スル時ハ素質類似ノ軍隊ニ於テハ兵數ハ戰闘ノ決ヲ支配スル重要素タリト雖軍ノ精銳ハ之カ運用ト相俟テ克ク數ノ不足ヲ補ヒ得ルヲ知ルヘシ平時ノ準備トシテハ精練ニシテ而モ動員及爾後ノ補充要員ヲ顧慮シ其ノ數ノ益多キハ希望スル所ナルモ之カ程度ニハ自ラ限リアリ殊ニ這次戰ニ於ケル如キ異數ノ兵力擴張及長期戰ニ要スル多大ノ兵員ヲ悉ク平時ヨリ練成シ置クコトハ不可能事ニ屬スルヲ以テ最少限ノ要求トシテハ動員及爾後戰時教育者ノ使用ニ堪フルニ至ル間ノ補充ヲ目途トシテ平時兵力及在郷既教育者數ヲ定メサルヘカラス

從テ平時ヨリ訓練セル兵卒ハ主トシテ開戦初期ノ用ニ供セララルモノニシテ其ノ迅速ニシテ機動ヲ要スル作戰ノ性質ヨリスルモ亦緒戰ノ交感ノ至大ナルコトヨリ稽フルモ最軍ノ精銳ヲ要望スヘク全戰役ノ運命ハ概ネ此ノ間ニトセラルト謂フモ過言ニアラス這次戰役ニ於ケル獨軍勝敗ノ數ハ平時計畫ニ全ク蹉跌ヲ來セル「マルヌ」會戰ニ於テ既ニ決セラレタリト觀察スル者アルカ如キモ故ナキニアラス獨軍カ兵力ノ準備ニ於テ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メ尙一撃ヲ如フルノ餘裕ヲ存セハ意外ノ結果ヲ齎シ曠久對峙ノ戰況モ之ヲ惹起スルニ由ナク電光石火的ニ全戰役ハ平時ヨリ準備セル兵力ヲ以テ解決セラレ戰時ニ於ケル兵力ノ整備モ其ノ機會ヲ捕捉スル能ハサリシヤモ知ルヘカラス

緒戰ニ於ケル勝敗カ全戰役間ヲ通シ志氣上拭フヘカラサル感及アルハ不易ノ原則ニシテ今次戰爭ニ在リテモ東普第一會戰ニ於テ露西北軍ノ「タンネンベルヒ」及「アルヒ」河畔ノ敗戰ハ著シク露軍上下ノ志氣ヲ沮喪セシメ爾來優勢ナル兵力ヲ擁シテ守勢作戰ニ甘ンシ放膽ナル獨軍ノ統帥ニ翻弄セララルニ至レリ之ニ反シ露西南軍ハ開戦初頭東部「ガリシヤ」ニ於テ獨軍ヲ擊破シタル結果爾後獨軍ニ對シテハ比較的大膽ナル作戰ヲ實施シ其ノ戰鬪亦概ネ有利ニ進捗セシムルヲ得タルモ獨軍ハ常ニ消極的作戰ニ出テ獨軍ノ進退ニ追隨シ其ノ將校ノ指導及其ノ部隊ノ參加ニ依リ對露作戰ヲ糊塗スルニ至レリ斯ノ如クニシテ主トシテ平時ヨリ準備セル兵力ヲ以テスル第一期ノ作戰ヲ終リ遂ニ戰鬪ノ決ヲ見ル能ハスシテ戰況交綏シ第二期ノ作戰ニ入ルヤ軍ハ其ノ精兵ノ多數ヲ失ヒ期間ノ延長スルト共ニ其ノ大部ハ戰

時速成者ヲ以テ補填セララルニ至ル從テ此ノ時期ニ於テハ對抗兩軍間ノ素質ニ大ナル懸隔ナキニ至リ兵數ノ優勢カ戰鬪上緊要ナル條件タルト共ニ戰爭規模ハ漸次擴大シ損耗ハ益々加スルヲ以テ兵員ノ多數ヲ擁セザルヘカラス自ラ多兵主義ニ傾クニ至ル這次戰ニ於テ列國軍カ戰爭時期ノ進ムト共ニ兵數ノ大ヲ競ヒ兵員資源ヲ竭シテ對抗軍ヲ凌駕セムコトヲ企圖セル又此ノ間ノ消息ヲ傳フルモノト謂フヘク英、米ニ於ケル新募軍モ兵員資源ノ枯渴セル同盟軍ニ對シテハ聯合側ニ於ケル多大ノ潛勢力トシテ貢獻スル所歟カヲサリシハ言ヲ俟タサル所ナリ

之ヲ要スルニ精兵ニシテ多兵ハ最希望スル所ナルハ勿論ナルモ通常此ノ要求ヲ充スコト困難ナルヲ以テ第一期戰ノ爲ニハ努メテ精兵ヲ準備シ國軍平時訓練ノ精華ヲ發揚シテ典廢ヲ一舉ニ賸スヘク不幸ニシテ第二期戰ニ入ルヤ素質ノ良否ハ深ク問フ能ハス戰時教育ニ於テハ軍ノ精練モ亦望ミ難キヲ以テ數ノ優越ヲ以テ敵ヲ制スルコトニ腐心セサルヘカラスナルニ至ル

第四節 帝國ノ國情ト兩主義

以上ハ既往ノ戰例及作戰上ノ見地ヨリスル研究ナルモ之ヲ帝國ノ國情ニ鑑ムルニ單ニ兵員資源ニ就テ見ル時ハ歐洲戰ニ於テ交戰列強カ四年間ノ召集總員平均總人口ノ一七%戰役末期ニ於ケル戰場兵員同四・四%ノ例ヲ以テセハ概ネ同期間ノ戰爭ニ對シ優ニ三百萬ノ戰場兵員ヲ保持シ得ヘク國防上ノ要求ニ對シテハ十分ニシテ所謂多兵主義ヲモ滿タヌヲ得ヘシト雖爾他ノ資源殊ニ馬匹ハ之ニ比シ著シク不足ヲ感シ

滿蒙ノ馬匹ヲ最有利ニ利用シ得ヘキ場合ニ於テモ長期ノ戰爭ヲ繼續スル爲ニハ所望ノ兵力ヲ擧クルコト困難ナルヘク軍需品ニ就テハ我カ國ノ現狀ヲ列強ノ工業力ト其ノ戰場兵員ニ對比シ兵器資源ノ骨幹タル鐵工業力及被服資源ノ骨幹タル羊毛及棉花工業力ニ就テ觀察スル時ハ自給自足ヲ以テ長期ノ戰爭ニ堪ヘムトスルニハ將來ニ於ケル此等諸工業長足ノ進歩ヲ胸算スルモ意ノ如ク國防上ノ要求ヲ充足スル能ハサルヲ知ルヘシ

要スルニ兵員資源ニ於テハ豊富ナルモ國軍ノ兵力ハ馬匹及軍需品資源ノ爲著シク掣肘セラレ國防上所望ノ兵數ヲ擧クルハ極メテ困難ナル狀態ニ在リ從テ數ノ不足ヲ補フニ實力ヲ以テセムカ爲努メテ精兵主義ニ據ルヘキヲ何人モ首肯スル所ナルヘク殊ニ自給自足ノ見地ヨリスル資源補給上長期戰爭カ帝國ノ國情ニ對シ最不利ナルハ明ナルヲ以テ開戰初期ニ於テ軍ノ精銳ヲ擧ケ機先ヲ制シテ一舉ニ勝敗ノ決ヲ求ムルヲ緊要トス國軍ノ爲豫想戰場及彼我ノ集中狀態等ヲ考察スル時ハ益此ノ感ヲ深クスヘク我カ作戰ノ危機ハ實ニ茲ニ存スルモノト謂フヘシ

總テ稽フルニ熱スル易ク醒ムルニ速ナル國民性ヨリスルモ將タ又攻撃ニ巧ニシテ守勢ニ適セサル軍ノ性質ヨリ推スモ一氣呵成速戰速決ノ主義ニ據ラサルヘカラサルハ這回ノ戰爭ニ比スレハ甚タ短期ニシテ其ノ規模及國力疲弊ノ程度ニ於テ霄壤ノ差アル日露戰爭末期ニ於ケル國內ノ情勢ヲ回顧スル時ハ思半ニ過クルモノアルヘシ

第三章 平時ニ於ケル國軍ノ練成

第一節 平時ニ於ケル準備力這次戰ニ及ホセル影響

開戰前ニ於ケル戰備力這次戰ニ及ホセル偉蹟ニ關シテハ茲ニ絮說セサル所ナルモ戰爭初期ヨリスル獨軍ノ作戰一頭地ヲ拔キ聯合側ヲシテ迎接ニ迫ナカラシメタル所以ノモノハ實ニ平時ニ於ケル練成ノ賜ニシテ此ノ點ニ關シ「ローリンググホーフエン」大將カ其ノ著ニ於テ「我カ軍カ此ノ國家興廢ノ因テ岐ルヘキ危急ノ秋ニ當リテ克ク其ノ能力ヲ發揮シ新ナル問題ニ遭遇シテ克ク之ニ打ち勝チ民力ノ極度ニ發揚セラレタルニ拘ラス放逸不堅實ナル民兵軍ノ如キニ墮落スルコトナカリシハ實ニ是レ百年ニ亙ル長キ努力ノ然ラシメタル所ナリ斯ノ如キハ平時ニ於ケル訓練ノ不十分ナル國民軍ニ之ヲ望ムモ到底得ヘカラス我カ軍ニシテ若シ平時ニ於ケル訓練ノ徹底セサリシモノナラムニハ數年ニ亙リテ進撃シツツアル敵ニ對抗シ終ニハ機會アル毎ニ攻勢ヲ採テ當ルヘカラサル突撃ヲ敢行シ羅馬尼ノ國境山脈及「アルペン」山脈ヲ越エテ勝利ノ旗ヲ樹立スルカ如キハ得テ望ムヘカラサリシ所ナルヘシ」トシテ大ニ平時ニ於ケル訓練ノ價值ヲ推稱セリ固ヨリ同盟軍得意時代ノ放言ナリト雖其ノ戰敗ノ因由スル所自ラ他ニ存シ戰場ニ於ケル實績ノ贊嘆スヘキモノアルハ爭ハレサルコトトス

聯合側ニ於テハ佛軍ハ專ラ精兵主義ヲ採用シ戰前一旦短縮セル在營教育期ヲ殊更ニ延長シ兵員資源ノ不足ヲ補フニ内容ノ充實ヲ以テスルノ主義ヲ採用シ開戰後ニ於テモ平時兵力ニ對スル軍隊ノ擴張率列國軍

中最少ニシテ克ク聯合軍ノ中堅ト爲リ英、米軍ヲシテ戰闘力充實ノ餘裕ヲ存セシムルヲ得タリ唯其ノ統帥ニ於テハ獨軍ニ一籌ヲ輸シ偉大ナル戰闘成績ヲ收ムル能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ平時陸上ニ於ケル軍備ヲ閑却セル英國ハ開戰當初内地ニ在リシ正規軍六師團ヲ佛、白戰場ニ送り爾後戰爭第一年ニ於テハ之ニ海外殖民地ニ在リシ正規軍ノ一部約二師團ヲ招還シテ戰線ニ注入シ纔ニ參戰ノ名ヲ辱カシムルニ過キタリシカ同年末ヨリ戰況漸ク交綏シ長期戰ニ入ルト共ニ海外ニ在リシ正規軍ヲ悉ク招致セルハ勿論本來内地守備ヲ目的トセル地方軍ヲ補備教育ノ後外征ニ使用シ一方大規模ナル新軍ノ編成ニ著手シ千九百十五年中期ニ於テハ既ニ新軍ノ十五師團ヲ戰地ニ送り同年末ニ於テハ其ノ數約二十師團ニ達セシト雖國軍異數ノ擴張ト之ニ對スル準備殊ニ教育幹部缺乏ノ爲其ノ編成難ハ勿論内容極メテ不整備ニシテ十分戰闘ノ用ニ堪ヘサリシモ千九百十六年ニ入り諸般ノ兵備漸ク其ノ緒ニ就キ加フルニ徵兵法ノ確立スルアリ同年三月ニ於テハ新軍三十師團ノ編成ヲ完結シ概ネ所期ノ兵力ヲ舉クルヲ得タリ是ニ於テ之ヲ戰線ニ注入シ從來佛軍ノ占據セシ一部ノ前線ヲ負擔セルモ而モ同年夏ノ交ニ至ルモ尙訓練ノ結果不十分ニシテ作戰ヲ禦肘セラルルコトノ大ナリシハ軍司令官「ヘーグ」元帥カ千九百十六年十二月二十三日ヲ以テ陸軍省ニ提出セル左記ノ報告ニ見ルモ明ナリ即チ「聯合軍ハ千九百十六年ノ夏季ニ於テ攻撃ヲ敢行スヘキ協定ヲ爲シタリ初夏ノ經過セサル内ニ軍ヲ送ルノ必要アリシモ予ハ一般ノ情勢ニ鑑ミテ予ノ攻撃ヲ成ルヘク延期セムコトヲ希望シタリ固ヨリ英軍ノ兵力ハ著シク増大シ彈藥亦絶エス増加シタリト雖予カ部下

ノ將卒ニ至リテハ完全ナル訓練ヲ經サル者最多數ヲ占メタルカ故ニ攻撃ヲ延期スルコト長ケレハ隨テ其ノ效果モ著大ナルヲ得タリシナルヘシ然ルニ獨軍ハ「ヴェルダン」攻撃ノ爲ニ熾ニ兵力ノ増加ヲ圖リツツアリタルカ故ニ該要塞竝埃軍ノ突撃ヲ受クルノ虞アリシ伊國戰線ニ於テハ機ヲ逸セシテ攻撃ヲ行フニアラサレハ甚シキ壓迫ヲ受クルニ至ルヘキコト火ヲ賭ルヨリモ明ナリシナリ」トテ「ソナム」會戰ノ不本意ナリシヲ説キ戰果ノ不十分ナリシヲ辯明セリ要スルニ戰時新ニ編成セル兵團カ其ノ實力ヲ發揮スルニ至レルハ開戰後一年半ニシテ此ノ間ノ作戰ハ全ク佛軍ノ掩護下ニ於テ弱小ナル常備軍ニ依リ糊塗セラレタルニ過キス

戰爭準備ニ於テ最不備ナリシ米國ハ風雲漸ク彼ニ急ヲ告グルニ至ルヤ參戰ノ前年即チ千九百十六年六月軍備擴張案ヲ發布シ五年計畫ヲ以テ正規軍兵力平時十萬ヲ一躍二十萬ニ、民兵軍十二萬ヲ四十二萬ニ増加スルコトニ定メタルカ千九百十七年四月戰爭參加ト共ニ既定ノ計畫期ヲ短縮シ其ノ全部ヲ直ニ實施セルノミナラス新ニ徵兵制度ヲ採用シ二十二歳乃至三十歳ノ壯丁ヲ採リテ百萬ノ軍隊ヲ編成セムトシ同年九月ヨリ十月ニ互ル間及千九百十八年四月ヨリ五月ニ互リ二次ニ徵集シ更ニ大統領ニ無制限ノ兵員徵集權ヲ附與シ益其ノ兵力ヲ増加シ戰役間ニ於ケル召集總員三百七十萬ニ達セルモ新募兵ノ訓練ニハ多大ノ日子ヲ要シ本國野營地ニ於テ約六箇月間基礎教育ヲ行フノ外佛國戰場ニ到着後同軍將校指導ノ下ニ戰線ノ後方ニ於テ約二箇月間ノ訓練ヲ施シタル後先ツ閑散ナル地區ノ守備ニ任セシメ戰場ノ光景ニ親昵セシ

ムルト共ニ戰闘訓練ヲ完成シ尋テ英、佛軍ニ伍シテ周到ナル準備ノ下ニ一部戰線ヲ擔任シテ陣地ノ攻防ニ任セシメ更ニ適當ノ時機ニ於テ之ヲ閑靜ナル正面ニ於テ休養セシムルカ如キ方法ヲ採用セル爲參戰後一年有半軍隊ノ練成ニ其ノ大部ヲ消費シ出征軍兵力參戰後半年ニシテ十八萬、一年後ニ於テ五十萬ニ過キス而モ實際戰闘ニ參與セルハ第一章ニ於テ述フルカ如ク極メテ微々タルモノニシテ殆ト其ノ戰績ノ見ルヘキモノナカリシカ如キハ米軍ノ數字上ニ於ケル兵力ノ整備ヲ見テ平時ニ於ケル軍備ヲ輕視セムトスル者ノ三思ヲ要スルコトトス

伊軍モ參戰ニ至ル迄戰亂ノ渦外ニ在リテ約一年間只管兵備ノ充實ニ努メタルモ劣弱ナル塙軍ニ對シ數次ノ攻勢殆ト失敗ニ歸シ遂ニ千九百十七年晩秋ニ於ケル致命的敗北ニ依リ纔ニ餘喘ヲ止ムルニ過キサリシハ戰前ニ於ケル軍備及訓練上ノ缺陷ヲ暴露セルモノト謂ハサルヘカラス

開戰ニ際シ露軍ハ豫備兵及新募兵ヲ以テ四十箇ノ豫備師團ヲ編成セルモ其ノ素質極メテ不良ニシテ多クハ後方守備又ハ野戰軍團ノ第三師團トシテ之ヲ用キタルニ過キス爾後野戰軍兵力ノ不足ヲ感スルト共ニ第二次ノ擴張ヲ企テタルモ兵器材料不整備ニシテ且之カ製造力ニ乏シク容易ニ其ノ目的ヲ達スル能ハス千九百十五年七月國民兵ヲ基幹トシテ第二次豫備師團三十六箇ヲ新設シ次テ千九百十六年二月ニ至リ其ノ數ヲ五十師團ニ達セシムルコトヲ得タルモ訓練及裝備不全ナル此等兵團ノ價值ニ關シテハ幾多ノ戰例之ヲ證シテ餘アリ

其ノ他塙軍ニ在リテモ野戰師團ノ約半數ニ近キ國防師團ハ平時極メテ少數ノ定員ヲ有スル基幹隊ニ過キサリシヲ以テ獨立シテ之ヲ使用スル能ハス野戰軍團ノ一部ニ編入シテ使用シ軍全般ノ戰闘力ヲ低下セシメタルコト大ナルハ著明ナル事實ナリ

交戰列強ニ於ケル速成軍及素質劣等ナル軍隊ノ戰績及用途ニ關シテハ第一章ニ於テ叙述セル所ニシテ此等ノ軍隊カ戰闘上弱點ヲ形成シ戰場ノ運命ヲ支配セルコト大ナルハ多言ヲ要セス就中英、米軍ノ平時ニ於ケル軍備ニシテ一層整頓シアリタラムニハ斯ノ如キ漸久ノ戰況ヲ實現セスシテ其ノ決ヲ見タルヘキハ推想スルニ難カラサル所ナリ

獨軍ノ如キ比較的完備セル國軍ヲ以テスルモ尙開戰劈頭西方戰場ノ作戰ニ於テ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メ一舉ニ豫定ノ企畫ヲ遂行スルヲ得セシメサリシコトニ關シ「ローリンググホーフエン」大將ヲシテ「我カ平時ノ準備ニシテ更ニ廣大ニ行ハレ殊ニ戰前ニ於テ兵後義務者ヲ悉ク實際ニ入隊セシムルノ方策ニ出テタルニ於テハ戰爭ハ一層容易ニ行ハレ難戰苦闘ノ期間ハ著シク短縮セラレタルヤモ知ルヘカラス」ト嗟嘆セシメタルカ如キヲ以テ見ルモ一國ノ戰備ハ彌カ上ニモ間然スル所ナキヲ期セサルヘカラス而シテ之カ爲ノ負擔ハ難テ之ニ幾倍シ又ハ全ク收拾スヘカラサル絶大ナル犧牲ヲ未然ニ贖フノ所以タルヲ知ラサルヘカラス

歐洲戰ニ於テハ其ノ特異ナル戰況ノ爲開戰後軍隊ヲ練成スルノ餘裕ヲ有シ新募未熟ノ兵ト雖長期ノ戰爭

間逐次戦闘力ヲ充實シ來レト一方ニ於テハ塹壕ニ蟄伏シテ器械力ノ發揚ニ腐心シ軍隊ノ戰闘能力上ニ於ケル缺陷ヲ暴露スルコト尠カリシト雖機動ヲ要スル運動戰ニハ到底堪フル能ハスシテ英軍ノ如キ攻撃力ニ於テ極メテ乏シキノミナラス陣地外ノ戰闘ニ於テハ其ノ價值ノ極メテ微々タリシハ頻次ノ會戰ニ徴シ否定スル能ハサル所ニシテ單ニ歐洲戰ノ實驗ヲ以テ平時ニ於ケル戰備及國軍ノ教育ヲ云爲スルカ如キハ深ク戒メサルヘカラス

第二節 戰爭準備ト國軍練成ト目的

緒戰ノ交感ノ至大ナルコト及國軍作戰ノ方針ニ鑑ミ開戰初期ニ於テ努メテ軍ノ能率ヲ發揮スベキハ前章所述ノ如クニシテ戰爭ノ運命ハ概ネ此ノ時期ニ於テ決セラルヘク而モ此ノ間ノ使用ニ供シ得ルモノハ一ニ平時ヨリ訓練セラレタル兵員ニシテ其ノ機動ヲ必要トスル作戰ノ性質ヨリ稽フルモ特ニ精練ナル軍隊ヲ希望セサルヲ得ス平時軍隊教育ニ期待スル所亦茲ニ存セサルヘカラス之ヲ歐洲戰爭中期以後ニ於テ辛ウシテ戰闘ノ用ニ供スルヲ以テ目途セル戰時教育ヲ以テ律スル能ハサルヤ勿論ナリ

而シテ其ノ準備スベキ兵員ニ關シテハ國軍ノ豫想スル第一期ノ作戰ヲ遺憾ナク遂行シ戰時新ニ養成セラレ若ハ素質劣等ノ兵團ニシテ補備教育ヲ經テ使用スヘキ者カ戰線勤務ニ堪フルニ至ル期間ノ所要數ヲ充タスヲ以テ最少限トセサルヘカラス

開戰後新ニ編成セラレタル軍力戰闘ノ用ニ適スルニ至ルニハ多大ノ日子ヲ要スルモノニシテ英國新軍第

一、第二、第三軍ハ九箇月教育後出征セシモ同軍カ概ネ所望ノ兵力ヲ擁シ新軍ヲ戰線ニ注入シテ戰闘力ヲ充實スルヲ得タルハ既述ノ如ク開戰後一年半ニシテ米軍カ等シク參戰後一年有半殆ト爲ス所ナク其ノ實力ヲ將來ノ疑問ニ附シテ戰爭ノ終焉ヲ告ケタルカ如キヲ以テ見ルモ其ノ一般ヲ推スヲ得ヘシ唯補充兵トシテ既編成軍ノ一部ニ注入セラルヘキ者ハ古參兵ニ伍シ之カ誘掖ノ下ニ其ノ勤務ニ服シ且技能ヲ向上スルニ至ルヘキヲ以テ新編成軍ニ於ケルカ如キ長期ヲ要セス列強軍ノ例ヲ以テスルトキハ概ネ六箇月ヲ以テ足ルカ如シ從テ平時ノ準備トシテハ開戰後尠クモ一年間ハ特ニ準備セルモノノ外兵團ノ新設ハ不可能ナルモノトシテ國防上ノ要求ヲ充足スル如ク兵員ヲ教養スヘク又動員部隊ニ對スル補充員ハ開戰後尠クモ半年間ノ戰爭ニ堪フル如ク既教育兵ヲ控置セサルヘカラス但シ此ノ補充員ニハ比較的素質劣等ノ者ヲモ充當スルヲ得ヘシ

尙新軍編成ノ爲ニハ之カ基幹トシテ精練ナル軍隊ヲ要ス英、米軍カ兵團ノ新設上最困難ヲ感セルハ之カ幹部及基幹ト爲ルヘキ兵員ノ闕如ニ在リ獨軍ニ於テモ開戰初期ノ實驗ニ徴シ新募兵ノミヲ以テスル兵團ノ新設ヲ中止シ編制改正其ノ他ニ依リ是等ノ兵卒ハ既編制ノ軍隊ニ編入シ或ハ多數ノ基幹員ヲ配屬シテ之カ核心タラシムルコトトセリ

之ヲ要スルニ平時ニ於テ練成セラレタル兵員ハ戰爭ノ運命ヲ賭スヘキ開戰當初ニ於ケル重要ニシテ而モ困難ナル作戰ニ使用セラレ或ハ戰時新ニ増設スヘキ兵團ノ核心ト爲ルヘキモノニシテ戰期ノ進ムニ從ヒ

損耗相踵キ軍隊ノ大部ハ戰時速成者ヲ以テ充填セラルルニ至ルヤ是等平時ヨリスル精兵ハ實ニ全軍ノ骨幹ト爲ルモノニシテ斯ノ如キ場合ニ於ケル國軍價值ノ準繩タリ戰役間各時期ニ於ケル既教育兵ト戰場兵員ノ比率ハ附表第二ノ如ク獨軍カ平時兵力ニ對スル戰時ノ擴張率及爾後ノ損耗ニ於テ必スシモ列強ニ劣ラサルニ拘ラス而モ其ノ戰闘力ヲ低下スルコト比較的尠カナリシハ幹部ノ優越ハ別トシテ平時ニ於テ養成セラレタル精兵ニ俟ツ所大ナリト謂ハサルヘカラス

「ベルンハルヂ」カ嘗テ備忘錄ニ書シテ曰ク「武裝セル國民ハ普魯西軍ヲ成形ス常備軍ハ單リ之ノミナラス更ニ大ナル意義ヲ有ス即チ常備軍ハ一朝軍ヲ戰場ニ送ルノ要アル場合ニ於テ國ノ武裝セル青年ヲ混入スヘキ確固ニシテ準備整ヘル幹部ナリ(中略)此ノ事ハ之ヲ想起スルコト眞ニ必要ナルヘシ蓋シ吾人ハ全ク不確實ニシテ組織ナキ民衆或ハ時ニ當リ機ニ臨ミテ一時教練セラレタル人々ヲ以テ直ニ軍ヲ編成シ得ヘシト暴論スル者アルヲ見ルコト稀ナラサレハナリ」ト吾人ノ平時ニ於ケル國軍練成ノ主義モ茲ニ存セサルヘカラス

第四章 平戰時ニ於ケル軍隊教育期

第一節 列國軍ニ於ケル戰時教育期

戰役間ニ於ケル列國軍ノ教育期ハ其ノ時ノ情況ニ依リ極メテ區々ニシテ戰爭初期ニ於テハ豫期セサル軍隊ノ擴張ト絶大ナル損耗ノ爲補充逼迫シ教育上ノ實績等ニハ深ク考慮スルコトナク之ヲ戰線ニ注入セサ

ルヘカラスナルニ至リ露獨軍ノ如キ内地教育トシテハ八週間内外ニ過キサルモノアリ殊ニ露軍ノ如キ二、三週間教育ノ後戰線ニ注入セルモノアリト雖此等ハ要員ノ關係上已ムヲ得サルニ出ラシモノニシテ其ノ成績ニ關シテハ茲ニ絮説ヲ要セサル所ナリ

爾後一般ニ此ノ教育期ハ延長セラレ戰役ノ中期ニ於テハ列國軍共ニ概ネ三乃至五箇月ヲ以テ標準トセルモ尙之ヲ以テ満足スル能ハス戰況交綏シ情況ノ許スニ至リ益此ノ期間ヲ延長シ殊ニ戰地教育ニ多大ノ力ヲ用ウルニ至レリ即チ佛軍ニ在リテハ陸軍大臣カ議會ニ於テ説明セル所ニ依ルモ戰時新兵ノ教育ハ最少限五箇月トシ加フルニ戰地ニ於テ長キハ七箇月ニ至ル教育ヲ施セルモノアリ

英軍ニ在リテハ各兵科新兵教育期ヲ三箇月トシ後更ニ三箇月間教育シ合計六箇月ヲ教育完成期トセルモ實際ニ於テハ國內ニ於ケル九箇月ノ教育ヲ終了セサル部隊ハ之ヲ戰線ニ出場セシメタルコトナカリキ米軍ニ於テハ新募兵ノ教育期ハ六箇月トセルモ實際ノ結果ニ於テ見ルカ如ク出征迄ニハ更ニ多大ノ日子ヲ要シ且佛國戰場到着後モ在苐日ヲ曠クシ戰役間ノ大部ヲ訓練ノ爲ニ消費セルノ觀アルコト既述ノ如シ

獨軍ニ在リテモ開戰初期ニ於ケル短期教育兵ノ不成績ニ鑑ミ千九百十五年中期以後ニ於テハ六箇月ノ教育ヲ受クルニアラサレハ戰地ニ送ラサルヲ常則トシ戰地ニ於テ更ニ八週間ノ實戰的訓練ヲ施スコトトセリ

此等ノ例ニ徴スル時ハ戰時教育期ト雖單純ニ吾人ノ考察セル如ク短期ノモノニアラス某時期ニ於テ其ノ至短ナルモノアルハ補充ノ關係上已ムヲ得サルニ出テシモノニシテ之ヲ以テ戰時教育ノ一般ヲ律シ能ハサルヲ知ルヘシ

獨軍將校カ戰時ノ教育ニ關シ述懐シテ曰ク「戰役ノ經驗ハ教育期間ノ短縮ハ大ナル不利ヲ來シ軍隊ノ戰鬪能力ヲ危クスルコトヲ訓ヘタルヲ以テ教育不十分ナル兵卒ヲ使用スルヨリハ寧ロ補充員ノ戰鬪部隊ヘノ加入ヲ暫ク見合ス方有利ナリ獨逸ノ敵カ屢此ノ原則ニ從ハサリシ所以ノモノハ彼等カ短少ナル教育期ヲ以テ十分ナリト認メタルニアラスシテ情況ノ危急ト損害ノ太ナリシ爲已ムヲ得ス教育進捗ノ程度ヲ顧ミルノ邊ナク補充ヲ實施セサルヘカラサルニ原因スルモノトス」ト稍牽強附會ノ感ナキニアラスト雖一面ノ眞情ヲ穿テルモノト謂フヘシ

第二節 戰時教育ノ特長

平戰時ノ教育期ヲ比較考究スルニ當リ考慮ヲ要スルハ戰時教育ノ特異トスル點ナリ
國ヲ舉ゲテ戰爭ノ雰圍氣中ニ於テ實施セラルル戰時教育ハ被教育者ノ意氣及心理ニ於テ既ニ平時企及スル能ハサルモノアリ其ノ教育ノ目的トスル所ハ彷彿トシテ夢寐ノ間ニ通ヒ今日ノ訓練ハ直ニ明日ノ戰場ニ於テ實證セラルルヲ以テ其ノ教育ハ多大ノ希望ト熱心ヲ以テ從事セラルヘキハ人情ノ然ラシムル所ナリ

尙教育上ニ於テハ直後ノ必要ヲ考慮シ現ニ採用セラレアル兵器ト戰鬪法ニ就キ最實際的ニ教育シ得ルヲ以テ平時教育ニ比シ期間ヲ短縮シテ而モ實用上ノ效果ヲ收ムルコト多ク殊ニ歷戰ノ教官ト戰役間ノ教訓ヲ利用シ或ハ戰地ニ於テ戰場ノ地形及實況ニ應スル演練ヲ施シ得ルカ如キハ俱ニ戰時教育ノ特長ト謂ハサルヘカラス

第三節 戰時教育ノ缺陷ト平時教育

戰時教育ハ其ノ性質上當坐ニ於ケル戰況ニ適應セシムルコトヲ主トシ教育課目モ自ラ限定セララルルニ至ルハ已ムヲ得サル所ニシテ這次戰ニ於テハ一般ノ戰況上陣地戰ニ對スル訓練ニ全力ヲ傾注シ該戰鬪ニ於テハ概ネ其ノ用ニ適スルニ至レリト雖運動戰ニ對スル戰鬪力ノ極メテ闕如セルハ頻次ノ會戰ノ歷證スル所ニシテ殊ニ聯合軍カ會戰ノ成果ヲ收ムル能ハサリシ主因ハ機動性ノ缺陷ニ存シ假令一陣地ヲ突破スルモ陣地外ノ戰鬪ニ慣熟セサル爲可惜好機ヲ逸スルニ至レルモノ多シ就中戰爭末期ニ於ケル追擊戰鬪ノ如キ全ク獨軍ノ隨意退却ニ委シ遠ク其ノ主力ノ踪跡ヲ失シ甚シキハ一日僅ニ數吉米ノ前進ヲ敢テセルニ過キサルモノアリ之ヲ開戰初期ニ於ケル獨軍ノ果敢ナル追擊戰鬪ニ比スル時ハ霄壤ノ感ナクムハアラス殊ニ此ノ弊害ハ英、米ニ於ケル粗造ノ軍隊ニ於テ甚シク英軍ノ如キ幾多ノ會戰ヲ重ネタルニ拘ラス戰鬪上十分自信ヲ有スルハ陣地ニ於ケル守勢ニ過キス攻勢作戰ニ於テ徹底的成功ノ例ヲ見ス奈破翁カ嘗テ「新軍ヲ率キテハ恐ラク堅固ナル陣地ヲ占領シ得ムモ勝利ヲ以テ一戰役ヲ終結スルモト困難ナリ」トノ言ハ

尙箴ヲ爲セルモノト謂フヘシ

之ヲ要スルニ戰時教育ハ極メテ偏頗ニシテ焦眉ノ急ニ應スルヲ目途トシテ實施セララルモノニシテ在役
間十數年ノ久シキニ互リ堅實ナル精神ト軍事能力ヲ一般的ニ徹底保持セシメトスル平時教育トハ日ヲ
同フシテ論スル能ハス殊ニ戰時教育ハ前項ニ於テ述フルカ如ク有利ノ情況ノ下ニ實施セラレ其ノ教育終
了者ハ補充員トシテ既設兵團ノ一部ヲ成形シ或ハ既設教育兵ヲ核心トスル軍隊ノ編組内ニ入り古參兵卒ノ
間ニ伍シ長期ノ戰役間絶エス練成ヲ重ネ戰場馳驅ノ間自ラ其ノ技能ヲ向上シテ眞ニ戰闘ノ用ニ適スルニ
至ルモノニシテ數箇月ノ速成教育ノ如キハ單ニ其ノ素地ヲ作ルニ過キサルヲ考慮セサルヘカラス

第五章 在營期間ニ對スル教育上ノ觀察

第一節 軍事ノ進歩ト教育ノ困難

輓近ニ於ケル軍事ノ進歩ハ形而上及形而下ニ於ケル軍隊ノ訓練ヲ著シク困難ナラシメタルハ冗言ヲ要セ
サル所ナルモ局外者ノ間ニハ往々ニシテ之カ觀察ヲ誤レルモノアルヲ以テ左ニ其ノ一斑ヲ掲ケ參考ニ供
セムトス

這次戰ノ結果戰闘手段ニ最改變ヲ促セルハ技術ノ進歩殊ニ火器ノ威力ノ増大ニシテ戰闘ノ勝敗ヲ決スル
爲物質上ノ威力ヲ發揚スルコト從來ニ比シ一層緊要トナリ各兵種ノ戰闘兵器ハ益多種多樣ニシテ精巧ヲ
極メ之カ取扱ノ練熟ヲ要スルコト昔日ノ比ニアラス步兵ノ如ク使用兵器ノ最單純ナルモノト雖火力ノ重

點ハ漸次機關銃ニ移ラムトシ之カ要員ノ養成及取扱ノ普及ハ步兵教育上重キヲ爲スニ至レルノミナラス
歩兵砲、手榴彈等ノ用途モ擴大セラレ或ハ築城能力ノ向上ヲ要スルニ至レル等其ノ教育ハ愈煩多ニシテ
一般教育ノ外更ニ各種ノ特業教育ヲ必要トスルニ至リ特業手ノ人員モ多數ニ上リ之カ養成ニハ相當ノ時
日ヲ要スルヲ以テ短キ在營期ヲ以テシテハ此等諸教育ノ目的ヲ達成スルコト益困難トナレリ

其ノ他騎兵ニ在リテハ裝備ヲ改善シテ獨立戰闘力ヲ増大シ乘馬戰ノ外徒步戰ニ對スル演練ニ力ヲ用キサ
ルヘカラサルカ如キ、砲兵ノ各種材料ノ進歩、迫撃砲、高射砲等ノ採用、觀測法ノ變化及射法上精巧ヲ
要スルコト、工兵トシテ任スヘキ作業ノ規模及強度ノ増進、技術ノ進歩、輜重兵トシテ後方勤務ノ膨大、
輸送軍需品及運搬材料ノ繁多等各兵種ノ教育ヲ複雜ナラシメタルノミナラス一般ニ兵科相互ノ間ニ於ケ
ル連絡ノ緊密ナラサルヘカラサルコト及通信器材ノ進歩ニ伴ヒ連絡技術ノ練熟普及ヲ要スルコト、航空
機ノ發達ニ伴ヒ之ニ對スル諸教育ノ新ニ加ハレルコト、毒瓦斯、火焰放射等特種新兵器ノ現出等枚舉ニ
遑アラス

尙戰闘上ニ於テハ火器ノ效力ヲ有利ニ發揚シ且敵火ノ威力ヲ減殺スル爲隊形ノ疎開、築城ノ分散ヲ必要
トスルニ至リ戰闘單位ハ小隊以下ニ低下シ兵卒各個ノ獨斷行動ノ範圍擴大セラレ絶エス上官ノ監視下ニ
在ル能ハサルヲ以テ無形上ニ於ケル求心的結合カノ旺盛ナルニアラスムハ忽チ指揮官ノ手裡ヲ脱逸シ協
同動作ノ實ヲ舉クル能ハサルニ至ルヘシ殊ニ戰闘ノ性質極メテ勉強トナリ衝突後彼我ノ戰闘群ハ錯綜混

滑シ所謂紛戰ノ状態ヲ呈シ「一騎撃チ」ノ形トナルニ於テハ其ノ勝敗ハ一ニ兵卒各個ノ自覺ト之ニ胚胎スル勇猛ナル志氣ニ恃頼スルノ外ナシ

之ヲ要スルニ科學ノ進步ハ著シク戰闘ヲ技術化セシメ戰術ノ變遷ト相俟テ形態上ニ於ケル教育ヲ多端ナラシメタルニ拘ラス之カ爲ニ精神上ニ於ケル教育ヲ輕減セシメサルノミナラス之ニ併行シテ益無形の要素ヲ充實スルニアラスムハ近代戰闘ノ要求ヲ滿タス能ハサルヲ知ルヘク這次戰ニ於ケル一般ノ交戰狀態及損耗ニ徴スルモ勇邁ナル志氣及犧牲的精神ハ必スシモ吾人ノ獨擅スル所ニアラサルヲ感知スヘク此ノ方面ニ於テモ將來一段ノ發憤砥礪ヲ要スルモノト謂フヘシ

翻テ一般ノ思潮ヲ稽フルニ其ノ趨勢ハ近時益軍部ノ要求スル所ニ背馳セムトシ之ヲ驅テ前述ノ如キ崇高ナル精神力ヲ發揮セシメムトスルハ蓋シ容易ノ業ニアラス固ヨリ斯ノ如キハ國民教育ニ負フ所大ニシテ將來民性涵養上至大ノ考慮ヲ拂フヘキハ勿論ナリト雖一朝ニシテ其ノ革新ヲ期スル能ハス軍部ニ於テモ之ヲ善導扶掖シ戰闘ノ要求ヲ自覺徹底セシムルコトハ既往ニ比シ一層緊要ニシテ而モ困難ノ度ヲ加ヘ來レルモノト謂フヘク殊ニ國民教育ノ現況ト思想界變調ノ情勢ニ鑑ミ此ノ感ヲ深フセサルヲ得ス獨軍力千八百五十二年ニ至リ從來ノ二年兵役ヲ廢シ三年ニ延長セルハ一ニハ當時ニ於ケル人心ノ動搖ニ備ヘ軍人精神ノ涵養ニ資セシメムトスルニアリシカ如キモ一顧ヲ要スルコトトス

之ヲ教育上ノ見地ヨリ觀察スルモ形而上ノ教育ハ習ヒ性トナリ心手期セスシテ一致セシムルニハ長時日

ノ鍛鍊ト訓化ヲ要シ爾他ノ諸教育ニ於ケルカ如ク單純ニ其ノ目的ヲ達成スル能ハサルハ明ナリ列國軍力戰時速成教育ニ當リ無形上ノ教育ニ於テ殊ニ其ノ缺陷ヲ指摘セルヲ以テ見ルモ此ノ間ノ消息ヲ窺フヲ得ヘク軍隊教育期決定上ニハ戰闘技術ノ習得ノミナラス寧ろ精神教育ノ浸潤徹底ニ要スル期間ニ對シ深ク考慮セサルヘカラス此ノ點ニ關シ「モルトケ」曰ク「軍隊教育ハ單ニ技術者、否、言ハハ手工業者ヲ養成セムカ爲ニアラス單ニ技術者ナラハ補充豫備兵(註我カ平時ノ補充兵ニ相當ス)ノ教練ニ關シテ提議セラルル如ク僅ニ二十週間ニシテ之ヲ養成シ得ヘシ吾人ハ之ヲ必要ナル補充資源トシテ軍ノ強固ナル團結内ニ添加シ得ヘシト雖軍ノ精兵タラシムルコト能ハス吾人ノ最必要トスル所ハ道德的性質ヲ養成シ堅實ナラシムルニ在リ軍事教育ニ依リテ青年ヲ大丈夫タラシムルニ在リ彼等ヲ教練スルニハアラスシテ彼等ヲシテ體驗セシメ習熟セシムルニ在リ」ト又「クラウゼウヰツク」カ「肉體的努力ハ人ノ資質ヲシテ之ニ習熟セシムルヨリモ寧ろ其ノ悟性ヲシテ之ニ習熟セシムル様訓練セサルヘカラス」ト言ヘルモ亦其ノ軌ヲ一ニス

往々ニシテ數年間ノ軍隊教育ニ依リ社會上ニ於ケル多年ノ因襲久シキヲ破テ根本の二神氣ノ廓清ヲ期スルコト困難ナルヲ理由トシ軍隊ニ於ケル無形上ノ教育ヲ輕視セムトスル者アリ素ヨリ精神の教養ハ國民教育ニ俟ツコト大ニシテ若シ之カ完璧ヲ得ルニ於テハ軍部ハ單ニ軍事諸教育ニ全力ヲ傾注スルヲ得ヘク主義トシテハ理想トスル所ナルモ現下ニ於ケル思潮ノ廢頹、國民教育ノ實情殊ニ徵兵忌避者日ヲ追フテ増加セムトスル傾向ヲ示シ教育程度ノ進ムニ從ヒ益其ノ率ヲ累進スルカ如キ寒心スヘキ現況ニ徴シ軍部

カ不關焉ノ態度ヲ持スル能ハサルヤ論ナキノミナラス教育上益注意ヲ倍從セサルヘカラサルコトト信ス
是レ軍事上ノ要求トシテハ勿論兵營カ國民學校トシテ社會的教育ニ貢獻セムトスル所以タルヘシ

第二節 教育上ノ見地ヨリスル現役短縮問題

現制ニ於ケル兵役ヲ更ニ短縮スルモノトシテ如何ナル程度ニ止ムヘキヤハ此ノ種論者ノ間ニモ其ノ意見
ヲ區々ニシ兵科ニ依リテモ相違アルヘシト雖先ツ一年現役說ニ就キ之ヲ現制ト對照シ比較研究スルコト
トス

教育ノ内容カ形而上及形而下ニ於テ著シク膨大シ來レルハ前項ニ述フルカ如クニシテ其ノ教育手段ニ多
少ノ改善ヲ加フルモノトスルモ現制ヨリ在營期ヲ短縮スルコトハ制度ニ根本的改革ヲ加ヘサル限り軍隊
訓練ノ度ヲ低下スルニアラスムハ不可能事ニ屬ス這次戰ノ教訓及邦軍ノ立脚地ヨリシテ軍ノ精練ハ益希
望スル所ナルハ既ニ縷述セル所ナルヲ以テ本研究トシテハ爾他ノ情況已ムヲ得サル場合現在ヨリモ教育
程度ヲ低下シ果シテ戰時ノ要求ヲ充タシ得ルヤ否ヤカ判決ノ岐ルル所タリ

今二年在營制ニ於ケル教育ノ實況ヲ稽フルニ各兵科本然ノ技能ヲ一順會得セシムル爲ニ第一年度ヲ消費
シ第二年度ニ於テ之ヲ復習練熟セシメ始テ其ノ教育ヲ完成スルモノトス在役間十數年ノ久シキニ互リ
其ノ技能ヲ保持シ且劍電彈雨ノ間ニ其ノ眞價ヲ發揚セシメムトスルニハ單ニ其ノ要領ヲ修得スルノミ
ナラス克ク之ヲ徹底セシメ習ヒ性ヲ爲スニ至ラシムルコト緊要ニシテ殊ニ精神的方面ニ於テハ藉スニ相

當ノ時日ヲ以テスルニアラスムハ教育ノ浸潤ヲ期シ難ク此等ノ意味ニ於テ第二年度ニ於ケル教育ノ價值
ハ之ヲ輕視スル能ハサルモノトス將來教育事項ノ益煩多トナルニ從ヒ第一年度ニ於テ各種課目ノ一般ヲ
會得セシムルコトモ困難ニシテ就中特業手トシテ一般基礎教育ノ外特種技術ヲ習得スヘキ者ニ在リテハ
第一年度ニ於ケル教育ハ單ニ其ノ基本ヲ爲スニ止マルモノトス更ニ教育上看過スヘカラサルハ古參兵ノ
誘掖及助手トシテ教育ノ補助トス内務ニ於テ將タ教練ニ於テ新參兵ノ模範トナリ日常起居ヲ共ニシ直接
之ニ接觸シテ誘導補助スル者ハ實ニ古年次兵ニシテ且初年兵教育等ニ際シ必要ナル多數ノ助手ノ如キモ
一年現役ニ於テハ之ヲ望ム能ハサルヲ以テ編制上多クノ幹部ヲ當置セサルヘカラサルニ至ルヘシ年次別
ニ伴フ一部ノ階級的弊害ヲ見テ此ノ至大ナル價值ヲ沒却スルカ如キハ思ハサルノ甚シキモノト謂ハサル
ヘカラス

平時編制カ戰時定員ニ比シ甚タ縮小セラレアル關係上現制ニ於テモ戰時人員ヲ以テスル實際的演習ハ困
難ニシテ年々各隊ニ於テ特ニ機會ヲ設ケ次級單位ノ實員部隊ヲ編成シテ行フ數回ノ演習ヲ以テ之ヲ補ヒ
アルノ景況ナリ假ニ步兵ニ就テ論スレハ其ノ平時編制ハ戰時編制ノ約五分ノ三ニシテ之ヨリ諸勤務者、
患者等事故人員ヲ控除スル時ハ演習出場者ハ戰時編制ノ半數ニ滿タス中隊、大隊等ニ於テ固有ノ部隊ヲ
以テ行フ中隊教練、大隊教練等ニモ支障ヲ生シ其ノ眞價ヲ收ムルコト困難ナル情況ナリ抑、中隊ハ教育
ノ單位ヲ成シ下士以下ノ教育ハ中隊教練ニ於テ完全ニ任務ヲ達成スルヲ主トスヘキヲ以テ平時定員ヲ現

制ヨリモ縮小シ從テ教育ノ單位タルヘキ中隊カ戰時編制ノ數分ノ一トナルカ如キ結果トナラハ教育實施ノ根本ヲ破壞スルモノニシテ假令現役ヲ短縮シ一年次分ノ兵ヲ在營セシムルコトトスルモ其ノ人員ハ現制ニ於ケル二乃至三年次分ノ兵數ニ概ネ匹敵セサルヘカヲサルヲ以テ此ノ見地ヨリスル時ハ年々ノ徵集人員ヲ倍加スルカ若ハ平時ノ部隊數ヲ減少セサルヘカラス而シテ後者ハ常備軍トシテノ目的、動員、幹部ノ教養等ニモ支障ヲ生シ影響スル所尠カラサルヲ以テ兵役ヲ短縮シテ直ニ平時編制ノ縮小、軍費ノ節約ヲ圖リ得ルモノト考フルカ如キハ卒爾ノ判斷タルヲ免レヌ

其ノ他在營期間ノ短縮ニ伴ヒ其ノ大部ヲ擧ケテ兵卒教育ニ没頭セサルヘカヲサルニ至ル關係上現在ニ於ケルカ如キ主トシテ古年次兵ヲ利用シテ行フヘキ幹部ノ訓練或ハ必要ナル諸演習殊ニ第一年次ニ於テ養成セラレタル特業者及諸兵種等ヲ連合シテ行フ演習ノ如キ前述定員ノ關係ト相俟テ實施困難ニシテ軍隊教育上忍ビ難キ缺陷ヲ醸スニ至ルヘシ

尙下級幹部養成上ニ於テハ下士候補者教育ノ爲前述ノ如キ不備ヲ生スヘク此ノ害ハ集合教育ニ依リ補フモノトスルモ上等兵ノ養成ニハ尠クモ一年ヲ要スルヲ以テ一年現役ニ在リテハ修業後直ニ退營スルコトトナリ一般兵卒ヲ以テスル上等兵補充ノ途ナキニ至ルヘシ從テ之カ爲特別ノ編制ヲ設クルニアラサレハ平時ノ教育及諸勤務ニ支障ヲ生スルハ勿論戰時ニ於ケル下級幹部ノ補充ヲ困難ニシ且著シク其ノ技能ヲ低下スルニ至ルヘシ

右ノ外現制ニ於テハ營内ニ於ケル諸勤務及工卒等ハ主トシテ第二年兵之ニ服シ尠クモ新兵教育ノ時期ハ全然此等ノ勤務ヲ除外シ教育ニ專ラナルヲ得ルモ一年現役ニ在リテハ之カ用ニ充ツヘキ特別ノ人員ヲ準備スルニアラサレハ斯ノ如キ事ハ望ミ能ハサルヲ以テ教育及勤務上大ナル不便ヲ感スヘシ

以上ハ主トシテ一年現役ニ對照シテノ研究ナルモ現制ニ對シ一年以內數箇月ノ短縮ヲ行ハムトスルモノニ在リテハ之ニ比較シテ其ノ害ノ輕減セラルハ勿論ナルモ在營年次ノ重複ニ依ル叙上ノ利益ハ新兵教育終了後新古兵ヲ合併シテ行フ訓練ノ時期ニ於テ收ムヘキモノ多ク殊ニ教育年度末ニ近ツキ行フヘキ諸演習ノ價值大ナルモノナレハ此ノ年度末ニ於ケル數箇月ヲ短縮シ教育上ノ收穫時期ヲ逸スルカ如キハ孰レノ見地ヨリスルモ不徹底ニシテ極メテ不得策ト謂ハサルヘカラス

結言

一 平時ニ於ケル軍ノ訓練力這次戰ニ現ハレタル影響ニ關シテハ前章ニ絮説セル所ニシテ訓練上ノ重要素タル在營期間ヲ適度ナラシムルハ國軍ノ精銳ヲ維持スル上ニ於テ至緊ナルハ言ヲ俟タサル所ナルモ往々ニシテ戰時教育ニ對スル皮相ノ觀察ニ基キ或ハ境遇ヲ異ニスル一部國軍ノ趨勢ニ眩惑セラレ若ハ

一般の思潮ニ迎合セムトスル意味ヲ以テ在營期間短縮ヲ主張スル者アリ

抑、在營期間ハ國防ノ方針及建軍ノ目的ニ鑑ミ國情ニ適應スル如ク經濟的關係、國民教育、兵員及軍需諸資源等ヲ考慮シ之ヲ決定セサルヘカラス從テ國ニ依リ一律ニ之ヲ論スルコトハ固ヨリ不可能ニシテ例ヘハ戰前ニ於テ兵員資源ノ豐富ナラサル佛軍ハ質ノ向上ニ依リテ數ノ不足ヲ補ヒ且獨軍ニ對抗スル如ク所要ノ平時定員ヲ得ル爲ニ年次分ノ徵集人員ヲ以テシテハ不足ヲ訴ヘタルヲ以テ一旦短縮セルニ現役ヲ更ニ延長シ戰爭ノ前年ヨリ三年ニ復活シタルカ如キ之ニ反シ獨軍ハ限リアル軍費ヲ以テ其ノ對手國タル佛、露ノ一國ニ對シ絕對優勢ヲ占ムカ爲千九百十三年ヨリ三年現役ヲ二年ニ短縮シ平時定員ヲ變更セシテ戰時得員ノ増加ヲ圖レルカ如キ又國民ノ教育程度低ク鈍重ナル民性ヲ有スル露國ニ於テハ一般ニ長キ教育期ヲ採用シ最初ハ之ヲ六年トシ戰前漸次短縮セルモノト雖步兵及徒歩砲兵ニ在リテハ三年四箇月、其ノ他ノ兵科ニ在リテハ四年四箇月トセルカ如ク國ニ依リテ全ク其ノ情況ヲ

異ニシ特異ノ點ヲ有スルヲ以テ單純ニ判定スル能ハス

二 帝國ニ於テ兵役問題決定ノ要素タルヘキ邦軍ノ境遇、採用スヘキ練成ノ主義並方針、教育上ノ觀察等ニ關シテハ前各章ニ互リ論述セル所ニシテ孰レノ見地ヨリスルモ益軍ノ精練ヲ要求シ一方軍隊教育ハ愈煩瑣トナレルハ否定スル能ハサル所トス從テ現制ヨリモ更ニ在營期間ヲ短縮セムトスルカ如キハ

全ク軍事上ノ要求ト背馳シ國防上忍フ能ハサル缺陷ヲ招徠スルニ至ルヘシ
戰後ノ軍隊教育ニ關スル獨軍將校ノ意見中左ノ一節ハ兵役短縮論者ニ對シ頂門ノ一針タルヲ得ム即チ「在營勤務年限ニ關シテハ既ニ以前ヨリ種々ノ意見アリキ戰後此ノ點ニ關シ再ヒ論議ヲ生セムコト明ナリ而シテ一部ノ者ハ戰爭ノ經驗ヨリ推究シテ誤リタル結論ヲ爲シ現勤務年限ヲ短縮セムトスルニ傾クコトハアリ得ヘキコトナリ是等ノ者ハ戰役間ノ教育力一部短少ナリシコト及此ノ短少時間ニ教育セラルシ軍隊力戰場ニ於テ十分功ヲ奏シタルコトヲ主張スルナラム然リト雖一度獨逸軍内部ノ情況ヲ知リ其ノ勤務ノ有様ヲ一見セハ戰役ノ初ニ於テゴソ平時ニ比シ短キ教育ヲ受ケタル兵卒ヨリ成ル軍隊ヲ第一線ニ出シタリト雖獨軍統帥部ハ後ニハ之ヲ止メ教育期間ヲ延長シタルコトヲ知ラム」トテ極力在營期間短縮ノ不可ナルヲ主張セリ

三 戰前ニ於ケル短期殊ニ一年兵役ノ實施ニ關シテハ其ノ例ニ乏シク之カ成績ヲ具體的ニ引證スルノ資料ヲ得サルモ佛軍力千八百八十九年ヨリ現役ヲ三年ニ短縮スルト共ニ一部ノ兵卒ニハ在營一年ノ後歸

郷スルノ制ヲ採用シタル結果ニ依レハ是等一年現役者ハ爾他ノ者ニ比シ其ノ成績著シク不良ニシテ在郷數年後ノ演習召集ノ際ニ於ケル實驗ニ依レハ其ノ大部分ハ現役中ニ受ケタル教訓ヲ忘レ殊ニ戰闘ニ於ケル共同動作、命令ノ理解力及之ヲ實行セムトスル努力ニ於テ闕如スル所多カリシト謂フカ如キ又普埃戰爭前南獨諸國ハ經費節約ノ目的ヲ以テ現役ヲ短縮シ步兵ハ一年以內トシ騎兵、砲兵ト雖稍之ヨリ長期トセルニ過キサル制ヲ採リ平時幹部ノ練成困難ニシテ實戰的訓練不十分、大部隊ノ演習モ廢止スルノ已ムナキニ至リ六十六年戰ニ於テ其ノ不成績ヲ暴露セルカ如キヲ以テスルモ之カ實績ノ一端ヲ窺フニ足ラムカ

四 頃者說ヲ爲ス者アリ現在ニ於ケル教育法ヲ改善シ就中分業教育ヲ一層徹底セシメ且制式諸教練ヲ輕減セハ各兵卒ニ對スル教育課目ヲ縮小シ得ヘシト、其ノ論旨ニ於テハ固ヨリ傾聴ニ値スル所ニシテ教育及勤務ノ多端トナルニ從ヒ分業教育ノ主義ハ自ラ某程度ニ之ヲ採用セサルヘカラサルニ至ルト雖而モ之カ爲動員及補充ヲ著シク禦付スルハ之ヲ避ケサルヘカラス殊ニ兵科本然ノ教育ハ爾他諸教育ノ基礎ヲ爲スモノニシテ現在ノ程度ヨリ更ニ之ヲ分割スルハ困難ナルヘク又特業手ト雖諸勤務ノ互ニ關聯スルモノニ在リテハ其ノ教育課目ヲ過度ニ極限スル能ハス

教育ハ直接戰場ニ必要ナル課目ニ十分ナル力ヲ拂ヒ制式教練ハ必要ノ最少限ニ止ムヘキハ勿論ニシテ此ノ點ニ關シテハ軍隊教育ノ實狀ニ鑑ミ更ニ一段ノ考慮ヲ要スルモノアリ殊ニ近世戰闘ノ要求ト我カ

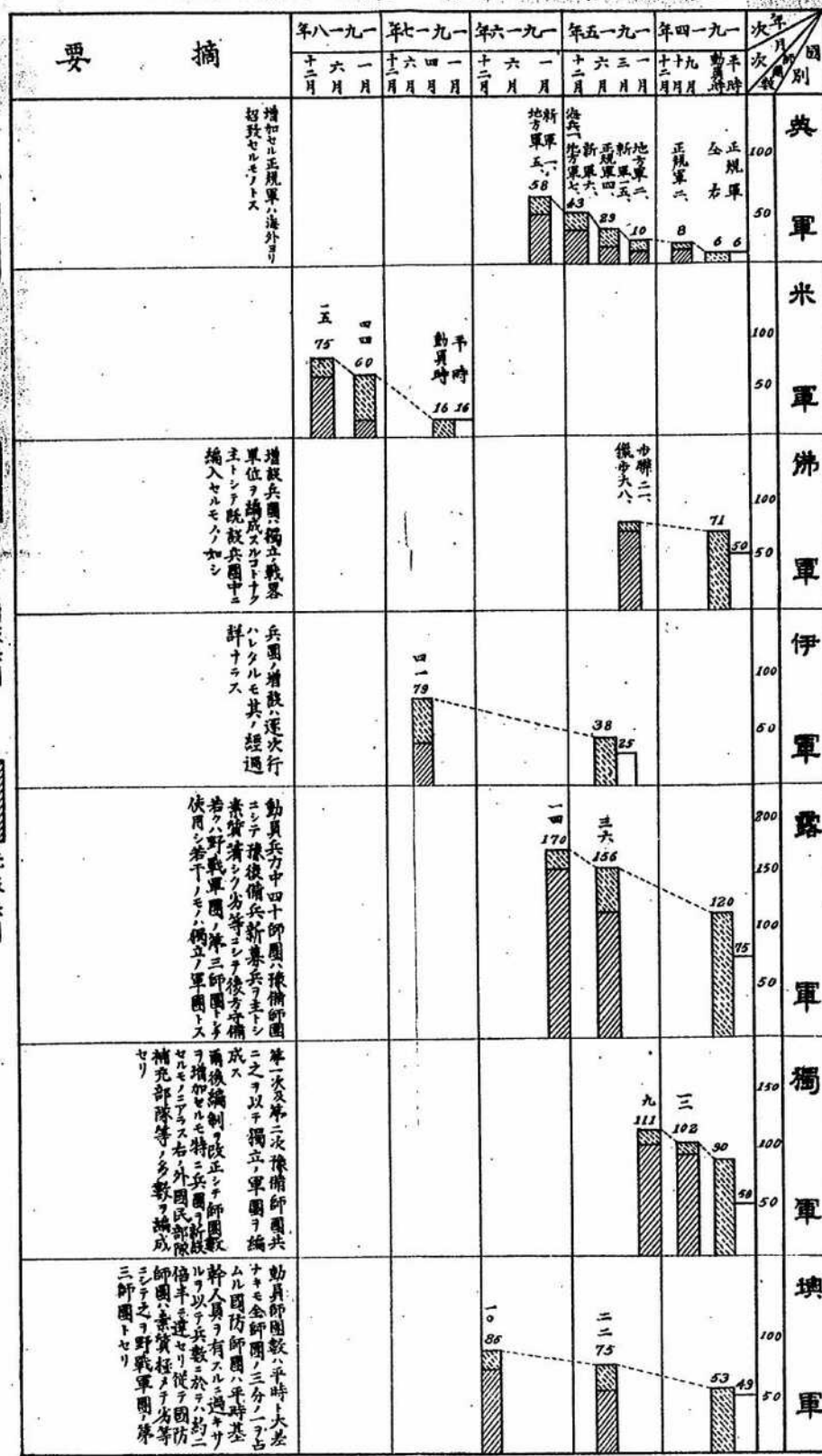
國民性ニ徴シ形態上ヨリ注入セムトスル精神教育ヨリモ内面的ニ個人ノ自覺ヲ喚起スルコトニ努力ヲ要スト雖而モ制式教練カ軍紀心涵養上ニ及ホス效果ニ關シテハ依然トシテ渝ルコトナク其ノ極端ナル弊害ヲ見テ至ク之ヲ開却セムトスルカ如キハ採ラサル所ナリ

五 以上ノ外在營教育期ハ勳員及補充、爾後ノ服役、教育召集等ニ關聯シ又國民教育殊ニ青年教育ノ影響ヲ受クルハト太ニシテ此等ニ關スル詳細ハ別ノ研究ニ讓ルモ茲ニ一言ヲ要スルハ學校及團體ニ於ケル軍事豫備教育ニシテ之ヲ以テ軍隊教育ノ補足タラシメムトスルコトハ兵役短縮論ニ伴フ交換的要件ナルカ如ク佛軍ノ一年現役案ニ於テモ之ヲ附隨條項トセリ

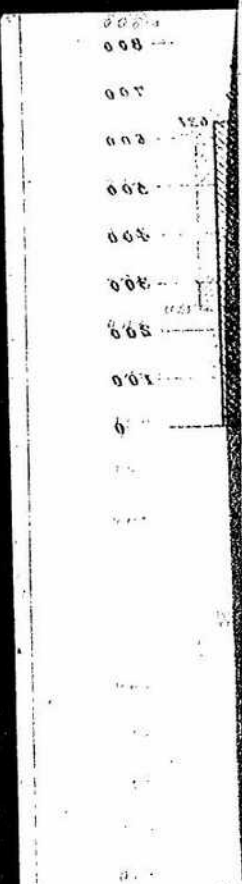
抑、軍部外ニ於テ軍事諸技藝ノ一部ヲ修習セシムルハ絕對不可能事ニアラストスルモ第五章第一節ニ於テ縷説セルガ如キ軍隊教育上最重キヲ爲ス形而上ノ練磨ハ到底企及スル能ハス從テ吾人ノ軍部外教育ニ期待スル所ハ之ヲ以テ軍隊教育ノ一部ニ換ヘムトスルニアラスシテ心身ノ健全ニシテ軍事教育ノ素地ヲ爲シ之カ享受性ノ熾盛ナルニ在リ尙一面ヨリ觀察シテ青年軍事豫備教育ヲ全國ニ互リ統一的ニ實施シ軍隊教育トノ連繫ヲ密接ナラシムルハ現下ノ情勢ト既往ノ實績ニ徴シ容易ノ業ニアラス之カ爲ノ努力ト費途ハ到底現役ノ一部短縮ニ依リ償フ能ハサルヘク其ノ目的トスル所ハ自ラ他ニ存シ在營期限ノ問題トハ別箇ニ研究スルノ要アルヘシ

附表第一

列國軍戰時兵團増設一覽表

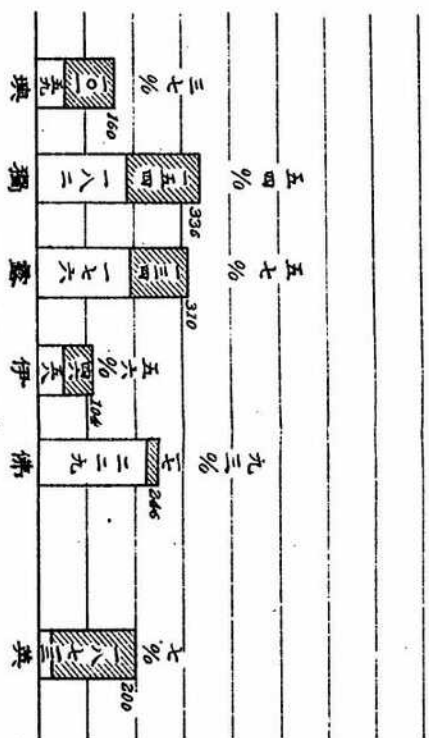


備考
一、表中ノ日本數字ハ増設師團數ニ對比並數字ハ師團總數ヲ示ス
既設兵團

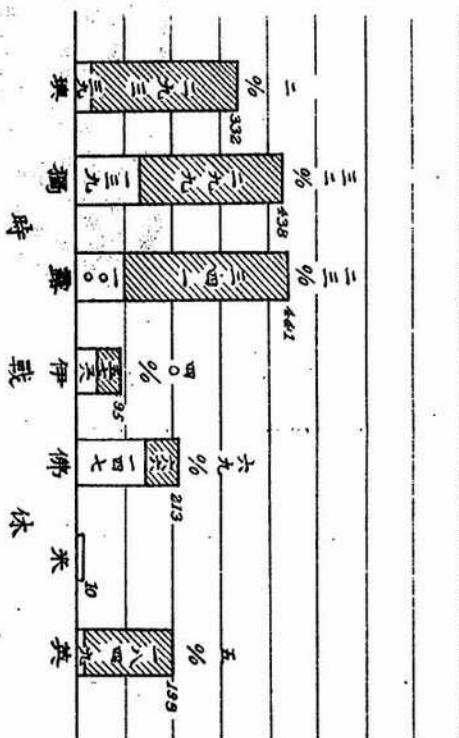


表戦比者育教既ルス對ニカ兵場戰

期末年六十百九千

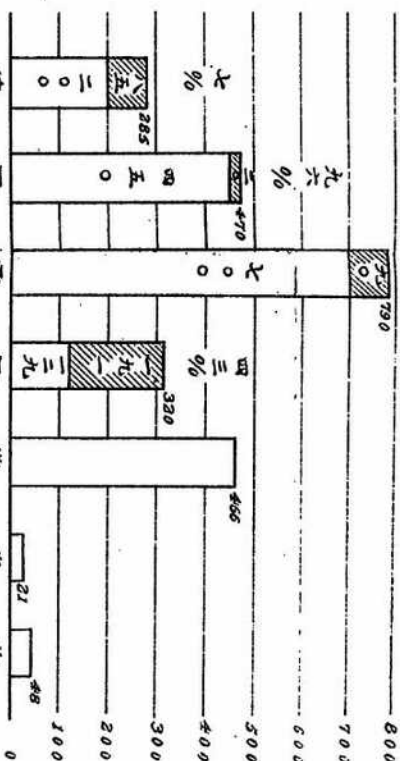


期末年七十百九千

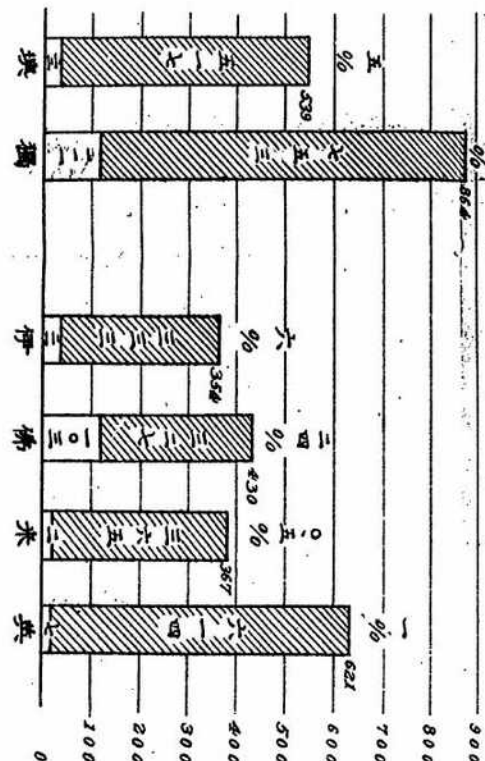
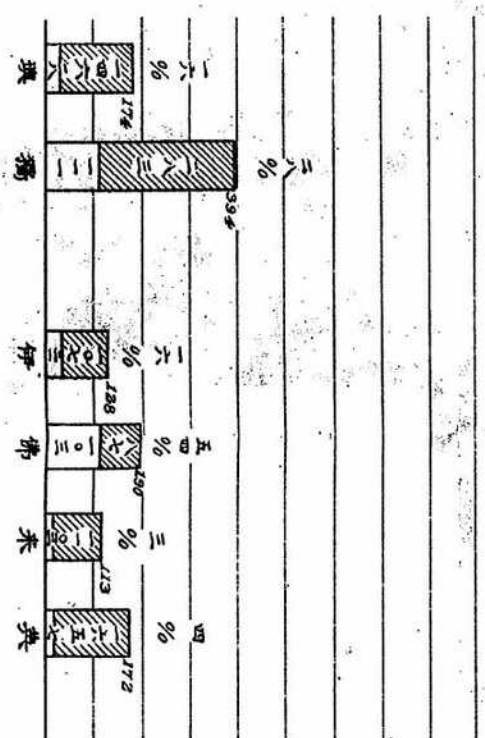
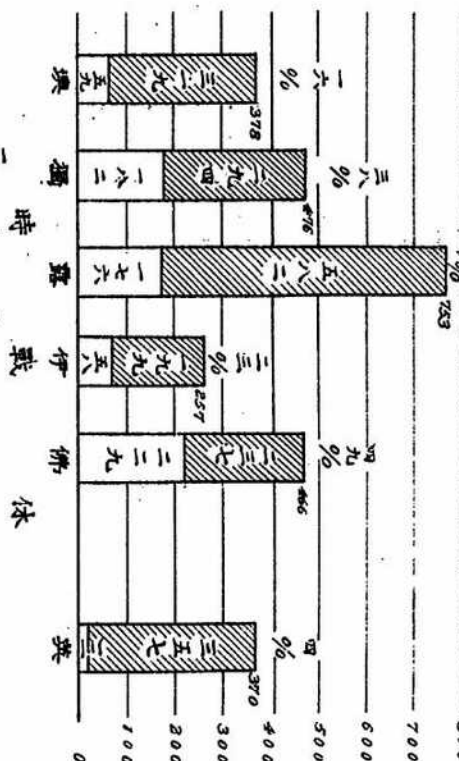


表戦比者育教既ルス對ニカ兵總

時 眞 動



(月二十年六十百九千) 期 中 争 戰



一 附記數字萬一單位ナセル人員ナ
百分率ハ總算ニ對スル既教育者ノ率ヲ示ス
二 各時期ニ於ケル既教育者數ノ絕對消耗率ヨリ
算出セル減耗ヲ控除セル後餘トス
三 戰場兵力ニ對スル既教育者比較表ハ單ニ西者
數字ヲ参照セル、ミシシ既教育者、全部ノ戰
場ニラサルヤ勿論ナリ
四 戰爭中期ニ於ケル佛軍總兵力ノ資料正確
ナラサルヲ以テ動員時ト同様、モノトセリ

備考

既教育者
未教育者及戰時養成者